北吉田遺跡群

1993

石川県立埋蔵文化財センター

北 吉 田 遺 跡 群

石川県立埋蔵文化財センター

例　言

1　本書は、石川県羽咋郡志賀町清水今江と北吉田地内に所在する北吉田遺跡群にかかる発掘調査報告書第2冊で、清水今江ニシャグチ遺跡、北吉田フルワ古墳群、北吉田フルワ遺跡、北吉田ノノメ遺跡、北吉田オモクラヤチ遺跡の調査成果を収録した。

2　発掘調査は、石川県土木部道路建設課施工の県土幹線軸道路整備事業(中核団地連絡道路)に起因し、土木部羽咋土木事務所の依頼を受けた石川県立埋蔵文化財センターが実施した。調査に係る費用は道路建設課が負担した。

3　発掘調査期間は下記の通りである。

〔昭和61年度〕	清水今江ニシャグチ遺跡	昭和61年5月2日～同年8月5日	500㎡
	北吉田フルワ古墳群	昭和61年9月4日～同年12月5日	2,100㎡
〔昭和62年度〕	北吉田フルワ遺跡	昭和62年4月16日～同年10月17日	2,100㎡
	北吉田フルワ古墳群	同　上	600㎡
〔昭和63年度〕	北吉田オモクラヤチ遺跡	昭和63年4月26日～同年6月6日	1,500㎡
	北吉田ノノメ遺跡	昭和63年6月6日～同年10月27日	1,200㎡

4　調査担当者

・清水今江ニシャグチ遺跡、北吉田フルワ遺跡、北吉田ノノメ遺跡: 垣内光次郎(石川県立埋蔵文化財センター主事)

・北吉田フルワ古墳群、北吉田ノノメ遺跡、北吉田オモクラヤチ遺跡: 伊藤雅文(石川県立埋蔵文化財センター嘱託)

5　現地調査では、石川県土木部羽咋土木事務所、志賀町教育委員会、富来町教育委員会、北吉田遺跡群周辺地区有志の協力を得ている。

6　発掘調査にあたって次の各位よりご教示、ご協力をいただいた。

石橋克美(志賀町教育委員会)、浦元英俊(石川県立輪島漆芸技術研修所研修生)、中村繁和(同)、宮下栄仁(石川考古学研究会幹事)、吉田穣(富来町教育委員会主事)

7　本書の執筆分担は下記の通りである。

第 1 章　三浦純夫

第 2 章・第 4 章　垣内光次郎

第 3 章　三浦・藤田邦雄

第 5 章・第 6 章・第 7 章　伊藤雅文

8　調査に関する記録と出土品は、石川県立埋蔵文化財センターが保管している。

目　次

第１章　調査の経緯と経過……1
第２章　位置と環境……2
第３章　清水今江ニシャグチ遺跡……5
第１節　上層の遺構と遺物……5
第２節　中層の遺構と遺物……5
第３節　地山面の遺構と遺物……7
第４章　北吉田フルワ遺跡……60
第１節　竪穴住居……60
第２節　溝……62
第３節　まとめ……64
第５章　北吉田フルワ古墳群……99
第１節　古墳の分布……99
第２節　1号墳……99
第３節　2号墳……101
第４節　3号墳……102
第５節　4号墳……103
第６節　5号墳……103
第７節　まとめ……105
第６章　北吉田ノノメ遺跡……119
第１節　検出遺構……119
第２節　出土遺物……126
第３節　まとめ……128
第７章　北吉田オモクラヤチ遺跡……152
第１節　検出遺構……152
第２節　出土遺物……152
第３節　まとめ……155

第１章　調査の経緯と経過

北吉田遺跡群発掘調査の要因は、石川県土木部による県土幹線軸道路整備事業(中核団地連絡道路）である。これにかかる分布調査依頼が、昭和61年(1986)4月9日付けで、土木部道路建設課長から石川県立埋蔵文化財センター(以下、埋文センター）所長あて提出された。依頼箇所は羽咋郡志賀町北吉田から堀松地内である。これを受けた埋文センターは同年8月5日に調査を実施し、8月11日付けで道路建設課長あて回答した。その内容は、丘陵上に古墳群が、丘陵裾部に集落が存在するというもので、事業の実施に先立って発掘調査が必要であると回答した。

発掘調査は昭和61年度から平成元年度まで4ヶ年実施した。なお本遺跡群のうち、昭和62年から平成元年に実施した北吉田ノノメ古墳群については報告を終えている(『北吉田ノノメ古墳群発掘調査報告書』石川県立埋蔵文化財センター　1992)。

第1図　遺跡の位置

清水今江ニシャグチ遺跡は、丘陵裾に営まれた集落で、平安時代後期から室町時代まで営まれている。遺構面は3面あり、平安時代後期の面では掘立柱建物や溝、土器埋納土坑などを検出した。　出土品には、土師器、須恵器、緑釉陶器、白磁などがある。

北吉田フルワ古墳群は標高36mの丘陵上に築造された古墳時代中期の円墳群で、弥生時代の集落廃絶後に築かれたものである。発掘したのは5基で、1号墳の埋葬施設(木棺）から鉄剣、須恵器のほか700個を超える臼玉が出土した。各古墳では、墳丘から破砕された須恵器が出土しており、祭祀が行われた可能性もある。

北吉田フルワ遺跡は丘陵に造られた弥生時代後期の集落で、14基の竪穴住居とこれを囲む溝が築かれている。竪穴住居は丘陵頂部に営まれており、方形の平面形が多い。周溝は、幅2m前後で、深さ1.0～1.4mを測る。

北吉田オモクラヤチ遺跡では畠の畝溝を検出した。

北吉田ノノメ遺跡は古代・中世の集落で、井戸、掘立柱建物のほか製塩炉と見られる焼土群を確認した。

第２章　位置と環境

高浜より北の海岸は沖新世火山性岩石の安山岩質の地質で岩礁が広がっている一方、高浜より南は海岸砂丘が広がり対照的な景観を呈している。砂丘は海岸砂丘が広がり、対照的な景観を呈している。砂丘は、内列砂丘、中列砂丘、外列砂丘の三つが認められ、内列砂丘が縄文時代前期末に、中列砂丘が同中期に、外列砂丘が弥生時代から古墳時代に形成されたと考えられている。また、町の北、東にはそれぞれ安部屋丘陵、西山丘陵、矢駄丘陵、雨谷丘陵が囲み、小盆地を形成している。この小盆地に旧福野潟が形成されたのである。

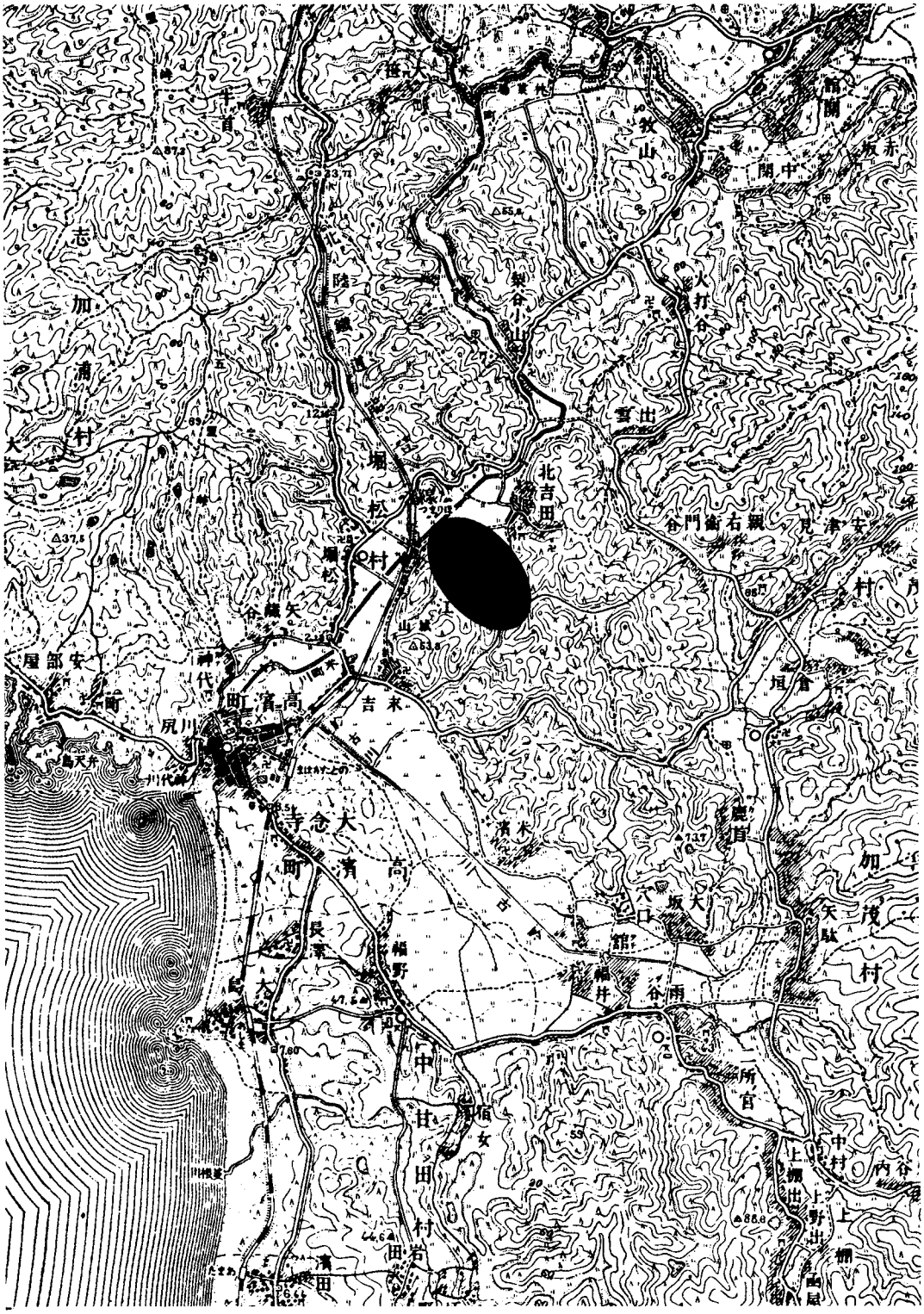
旧福野潟は、『石川県羽咋郡旧福野潟周辺総合調査報告書』（石川考古学研究会1955）が示すように、今から約8,000年前と推定されている縄文海進によって形成された。原始・古代から中世にかけて良好な港や湿原を提供していたと考えられる。つまり、客人信仰を受容すべき天然の良港をこの地域に持っていたということになる。旧福野潟は、昭和20～30年代の洪水による冠水の範囲とほぼ同面積と考えられている。それによると、本調査地域は潟にかかるかかからないかの境界近くになる。そして、古墳群あるいは集落の眼前に広がっていた風景が想像される。現在でも、北吉田ノノメ古墳群あるいはフルワ古墳群の真下に広がる北吉田の水田は深い田で、当時も生産する場と生活する場がはっきりと分かれていたと推測できる。現在の田鶴浜町大津に通じる道は七尾湾と結ぶ主要な道の一つであったと考えられ、梨谷小山にある大穴持美代神社の存在がある。これは式内社である大穴持神像神社に比定できるか疑問であるが、かなり古くからの神社として注目できる。大津古墳群の調査成果とも併せてこれからの調査の進展に期待したい。

本書に収録した北吉田遺跡群は、志賀町を東西に流れる米町川の中流域で盆地を形成する開析丘陵の西半部に分布する。遺跡群はその立地から、丘陵裾に営まれた集落、開析谷に広がる畠地、突出した丘陵に占地する集落と古墳群の5遺跡で構成される。

清水今江ニシャグチ遺跡と北吉田ノノメ遺跡は、古墳時代から室町時代にかけて丘陵裾に営まれた集落で、清水今江ニシャグチ遺跡は11世紀後半の大型掘立柱建物と土器埋納土坑、北吉田ノノメ遺跡は9世紀の製塩関連遺構と土器が注目される。北吉田オモクラヤチ遺跡の畠地は、ノノメ集落の食料生産構造を探る資料となる。そして、丘陵に築造された北吉田フルワ古墳群は、5世紀後半の円墳5基で、北吉田ノノメ古墳群は5世紀前半から6世紀後半の円墳6基からなる支群で、各埋葬施設からは鉄製品や玉類、墳丘からは須恵器が出土している。また、北吉田フルワ古墳群築造に先立つ、弥生時代後期後半の集落は、狭い尾根に構築された竪穴住居跡14基が、上下2段の環濠に囲まれていた。

〈参考文献〉

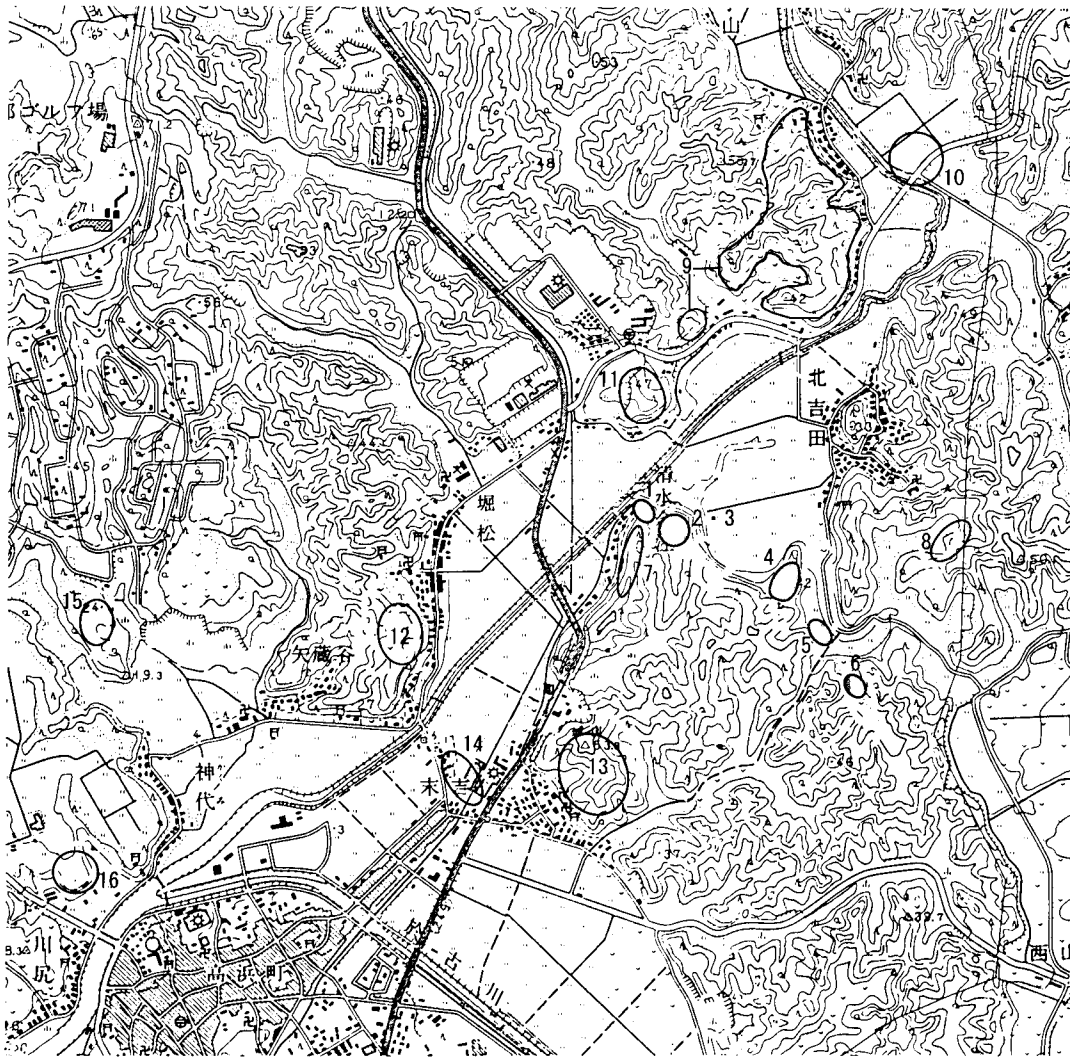
志賀町教育委員会『志賀町史 資料篇』第１巻　1974
志賀町教育委員会『倉垣遺跡』1985
石川県立埋蔵文化財センター『能登海浜道関係埋蔵文化財調査報告書 Ⅰ』1982



第２図　北吉田遺跡群の位置　　1/50,000

第１表　遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	番号	遺跡名	所在地
1	清水今江ニシャグチ遺跡	羽咋郡志賀町清水	9	北吉田古墳群	羽咋郡志賀町北吉田
2	北吉田フルワ遺跡	羽咋郡志賀町北吉田	10	米町川遺跡	羽咋郡志賀町北吉田
3	北吉田フルワ古墳群	羽咋郡志賀町北吉田	11	堀松古墳群	羽咋郡志賀町堀松
4	北吉田ノノメ古墳群	羽咋郡志賀町北吉田	12	堀松貝塚	羽咋郡志賀町堀松
5	北吉田ノノメ遺跡	羽咋郡志賀町北吉田	13	末吉城跡	羽咋郡志賀町末吉
6	北吉田オモクラヤチ遺跡	羽咋郡志賀町北吉田	14	末吉館畑遺跡	羽咋郡志賀町末吉
7	清水古墳群	羽咋郡志賀町清水	15	神代貝塚	羽咋郡志賀町神代
8	北吉田縄文遺跡	羽咋郡志賀町北吉田	16	川尻ナベンタカ遺跡	羽咋郡志賀町川尻



第３図　北吉田遺跡群と周辺の遺跡　　1/25,000

第３章　清水今江ニシャグチ遺跡

丘陵裾に営まれた集落で、地表の標高は2.2～3.3mを測る。調査区は第5図で示した通り、10m四方のグリッドを設定し、A1～A4区、B2～B4区と命名した。
遺構面は上層、中層、地山面の3面で確認した。以下、面ごとに説明する。

第１節　上層の遺構と遺物

掘立柱建物1基と溝4条を検出した(第7・8図)。第4号掘立柱建物は、東西、南北とも3間(7.8m)以上の総柱建物である。柱間は、東西、南北とも2.6mを測る。主軸はN7°Wである。柱穴は径50～80cmで、深さは30～70cmである(第14図)。第1号溝はこの建物の西にあって並走していることから、建物域の区画溝の可能性がある。最大幅90cm、深さ10cmである。

遺物は、土師器皿と砥石がある。土師器皿はいずれも手づくねで、12世紀後半以降の製作であろう。8は中砥石で両端を欠く。厚さ2.8cmである(第29図)。

第3号溝は幅40cm、深さ8cmで、この溝に直交しており、この西に第4号溝、第2号溝が存在する。第4号溝は不整形で、最大幅376cm、深さ10cmである。第2号溝は、幅153cm、深さ16cmである。

第２節　中層の遺構と遺物

掘立柱建物4基、土器を内蔵する土坑13基、溝5条を検出した。掘立柱建物はすべて総柱建物である(第9・10図)。

第1号掘立柱建物は、東西6間以上、南北4間以上で、主軸はN10°Eである。梁行、桁行とも柱間は2.7mを測り、現状で桁行(東西) 16.2m、梁行(南北) 10.8mである。柱穴径は50～90cmで、深さは40～80cmである。大半の柱穴で柱根が遺存しており、太いものは径30cmを測る。11世紀前半の築造と見られ、12世紀初めまでに2度の建て替えが行われている(第11図)。

遺物は、須恵器・土師器、白磁のほか、釘、砥石、鞴羽口がある。土師器は有台の内黒埦・埦・皿、柱状高台皿がある。11世紀中頃から後半の所産とみられる。40は角釘である。41は中砥石か。42・43は鞴羽口である(第24・25図)。

第2号掘立柱建物は、東西、南北いずれも3間以上で、主軸はN12°Eである。梁行柱間は2.6m、桁行柱間は3.0mで、桁行(東西) 9.0m、梁行(南北) 7.8mである。柱穴径は50～90cmで深さは30～60cmである。大半の柱穴で柱根が遺存している(第12図)。

遺物には、須恵器・土師器・石器・砥石がある。土師器の器種構成は第1号掘立柱建物と同じで、同時期の所産であろう。21は打欠石錘で長さ6.2cmである。41は石皿で19.6×18.2cm、厚さ4.4cmを測る。62は須恵器甕の体部を打ち欠いて作った「円盤状陶製品」である。69は中砥石で越前浄教寺産と見られる。現存長12.0cm、幅5.7cm、厚さ3.1cmで、四面および端面を使用している(第26～28図)。

第3号掘立柱建物は、東西5間以上、南北2間の東西棟で、主軸はN15° Eである。梁行柱間は2.7m、桁行柱間は2.4mで、桁行(東西) 12.0m、梁行(南北) 5.4mを測る。柱穴径は50～90cmで深さは40～60cmである(第13図)。

遺物には、須恵器・土師器・土錘・石器がある。土師器は有台埦と皿があり、11世紀中頃から後半とみられる。9は管状土錘で径4.9cmである。10は敲石で、長さ8.4×7.3cm、厚さ4.4cmである(第29図)。

第5号掘立柱建物は、東西3間以上、南北2間以上で、主軸はN6° Wである。梁行柱間は2.2m、桁行柱間は2.6mで、桁行(東西) 6.6m、梁行(南北) 5.2mを測る。柱穴径は30～50cmで深さは30～50cmである。遺物は出土していない(第15図)。

第1号土坑、第1号～第4号土器埋納穴、第1号～第8号土器群は掘立柱建物の周囲で確認した。呼称は異なるが、いずれも土師器を主体とする土器を内蔵する土坑で、同じ性格とみることができる(第10図)。

第1号土坑は、径70cmで、70点以上の土師器が充填された状態で出土した。大半が皿で、埋納された状態ではなく、一括して廃棄された状態と判断できる。正位に置かれたものが多い(第16図)。第1号土器埋納穴は幅60cm、長さ110cm、深さ25cmの土坑である。本来は30cm以上の深さがあったと見られる。出土したのはすべて土師器で、70点を超える。大半が皿である(第17図)。第2号土器埋納穴は、長さ90cm、深さ45cmで、30点近い土師器皿が出土した(第18図)。第3号土器埋納穴は、長さ62cm、深さ15cmで、土師器埦のみ出した。出土した埦は五つのブロックに分けることが可能で、Aブロックは5枚組にして横位に置き、その上に4枚組の椀を重ねている。Bでは、8個を逆位に重ねている。Cでは、逆位に3枚重ねる。Dでは4枚が正位に置かれていた。Eはもとの状態が失われている(第19図)。第4号土器埋納穴は平面楕円形で、長径73cm、深さ15cmを測る。土師器のみ出土した(第19図)。第1号土器群では須恵器が1点、残りは土師器である(第20図)。第2号土器群は全て土師器で36点出ており、正位で出たものが大半である(第20図)。第3号土器群では須恵器が1点、残りは土師器である。第4号から第8号土器群はいずれも土師器のみ出ている。

これらの遺構はいずれも、土器を使用後に廃棄したものと考えられ、器種別に廃棄された可能性が高い。

以下、遺物について報告する。

第1号土坑では、径約8cmの無台小皿が50点をこえている。柱状高台が3点、径10cmをこえる無台中埦6点、径14cm以上の無台大埦は11点出ている。11世紀中葉から12世紀後半の時期とみられる(第30～32図)。

第1号土器埋納穴では、無台の小皿、中皿ともに30点前後と多い。有台大皿、無台中埦も少量ある。11世紀初頭から中葉の所産とみられる(第33～35図)。

第2号土器埋納穴は無台中皿のみみえる。時期は第1号土器埋納穴と同じである(第36図)。

第3号土器埋納穴は無台中埦のみで、第1号土器埋納穴と同じである(第37図)。

第4号土器埋納穴では点数が少ない。無台小皿、有台小皿、有台内黒、有台小埦、無台中埦がある。

これらも第１号土器埋納穴と同時期であろう(第38図)。

第1号土器群では、無台・有台小皿、無台・有台中皿、有台内黒、無台・有台小埦、無台・有台中埦が各１～3点出ている。11世紀前半から12世紀後半の時期に収まるものであろう(第39図)。

第2号土器群では出土土師器の大半が無台小皿である。第１号土器群と同じ時期であろう(第40図)。

第3号土器群から第8号土器群からの出土点数は少ない。土師器は無台小皿のほか内黒、無台中埦などがみえる。第1号土器群と同じ時期とみられる(第41・42図)。

第1号溝～第5溝はいずれも不整形で浅い。深さは第1号溝が25cm、第2号～第4号溝が10cm、第5号溝が22cmである(第9図)。

第1号溝の土師器では、無台・有台・柱状高台の小皿、無台中皿、手づくね皿、有台内黒埦、無台・有台の中埦が出ている。珠洲焼鉢、ふいご羽口もある。14世紀代の所産とみたい(第43・44図)。

第2号溝からは須恵器甕のみである(第44図)。

第3号溝では土師器有台埦、須恵器鉢・甕などが出ている(第44図)。

第4号溝では土師器に無台小皿、有台内黒、無台・有台中埦、有台大埦などがある。19は鉄製片口で、平面形は不整である。径6.8cm、高さ2.0cm、厚さ4mmである。20は板状の銅製品で、4.7×3.4cm、厚さ1.8mmである。21は鉄釘で先端を欠く(第44図)。

第5号溝では無台・有台・柱状小皿、有台内黒埦、有台小埦、無台中埦、有台・無台大埦などがある。このほか須恵器瓶、緑釉・灰釉陶器、白磁碗などが出ている(第45・46図)。

第2号溝から第5号溝は11世紀初頭から末葉の時期とみられる。

第３節　地山面の遺構と遺物

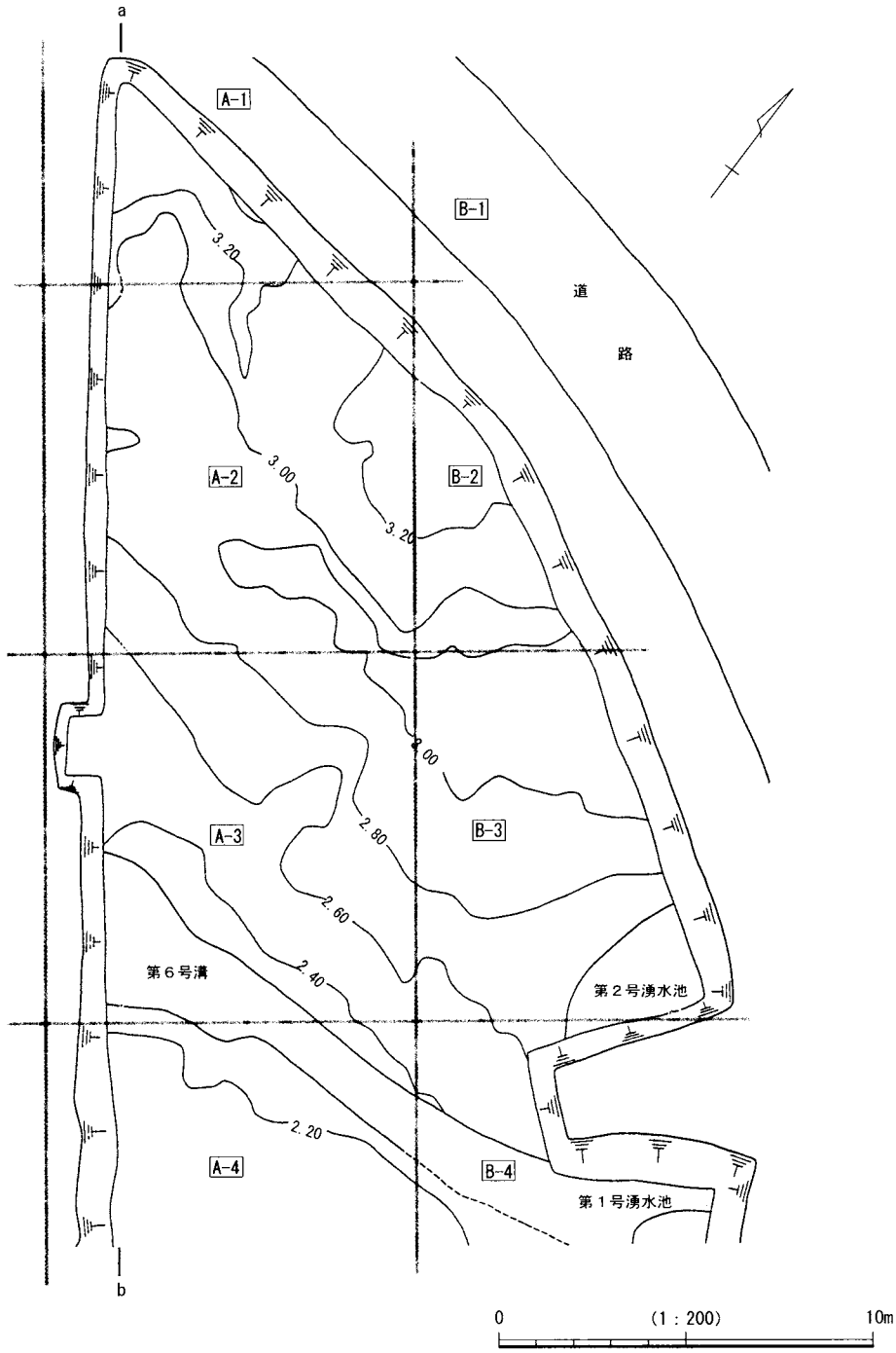
第6号溝、土器集中地点、湧水池2ヶ所を検出した(第21図)。

第6号溝では土師器無台小皿、有台中皿、有台内黒埦、無台小埦、有台・無台中埦がある。ほかに緑釉・灰釉陶器、白磁碗が出ている。第6号溝は、東西方向に走る溝で、西側で幅が広くなる。最大幅310cm、深さ25cmを測る。この溝の西半では、溝底に厚さ3～7cmの籾殻を含む泥炭層を確認した。この層は長さ10.5mにわたって確認でき、西は調査区の外に延びている。この層は単一の泥炭層で、東に行くほど厚みを増している。第24図A－B断面では、籾殻層の下に暗灰色砂層を間層として、稲ワラとみられる単一泥炭層が広がっている。稲ワラ層の中には、種子と認められるものが含まれている。また、この層が切れた東に筵状のワラ製品を検出した(第23図)。

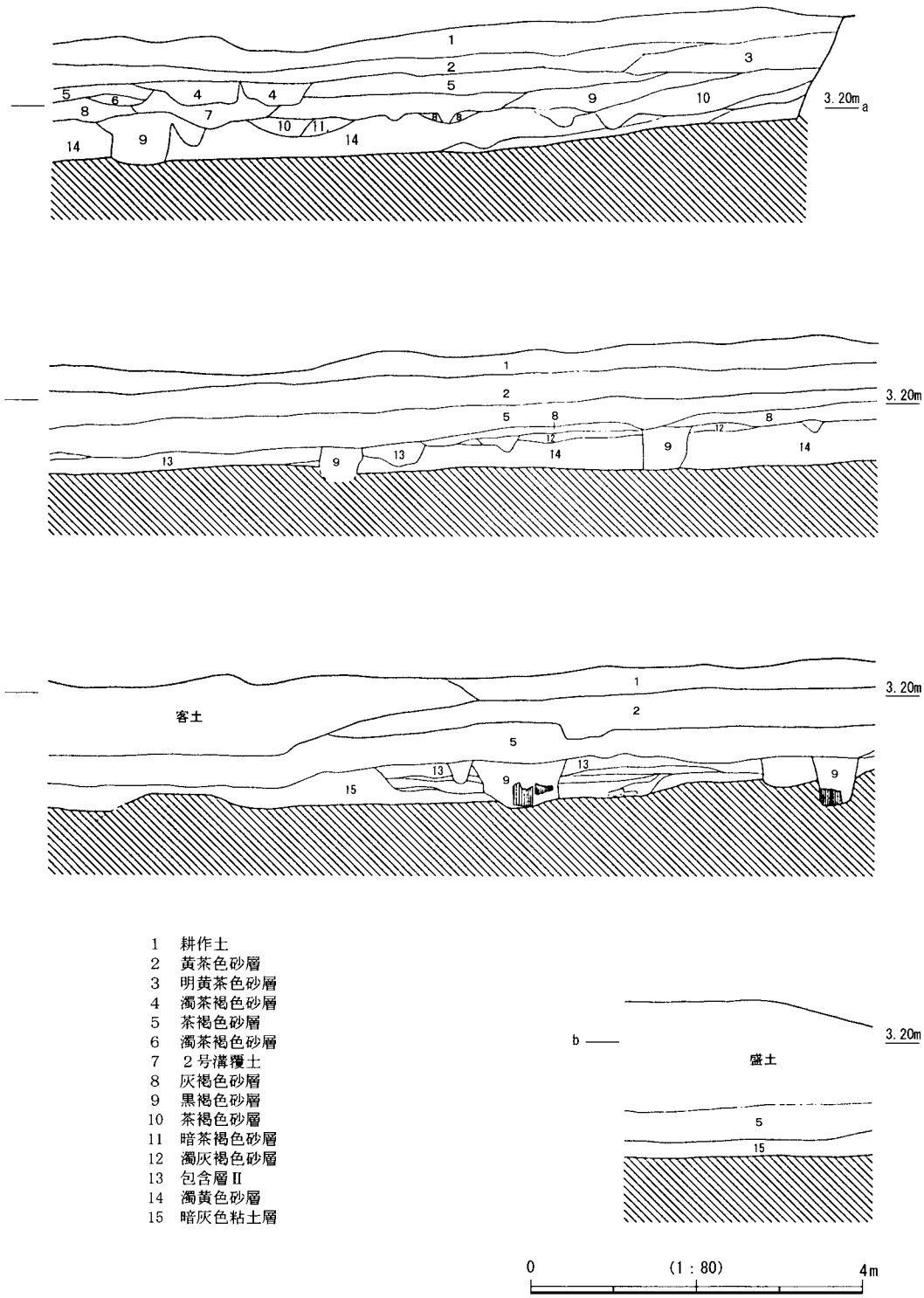
遺物には、土師器無台小皿、有台中皿、有台内黒埦、無台小埦、有台・無台中埦がある。ほかに緑釉・灰釉陶器、白磁碗が出ている。11世紀初頭から末葉の時期とみられる(第47・48図)。

土器集中地点は、長さ260cm、幅90cmの範囲で、須恵器のほか土師器、製塩土器が出土した(第49～52図)。1～26は須恵器で、8世紀を主体としている。１は杯身で5世紀末の所産であろう。2～10は無台の杯である。2・3・5～10は8世紀前葉の所産とみられる。4は8世紀中頃であろう。11～16は有台杯である。11・12・14・15は8世紀前半であろう。13・16は8世紀中頃である。17～20は蓋で、

第４図　清水今江ニシャグチ遺跡調査区位置図

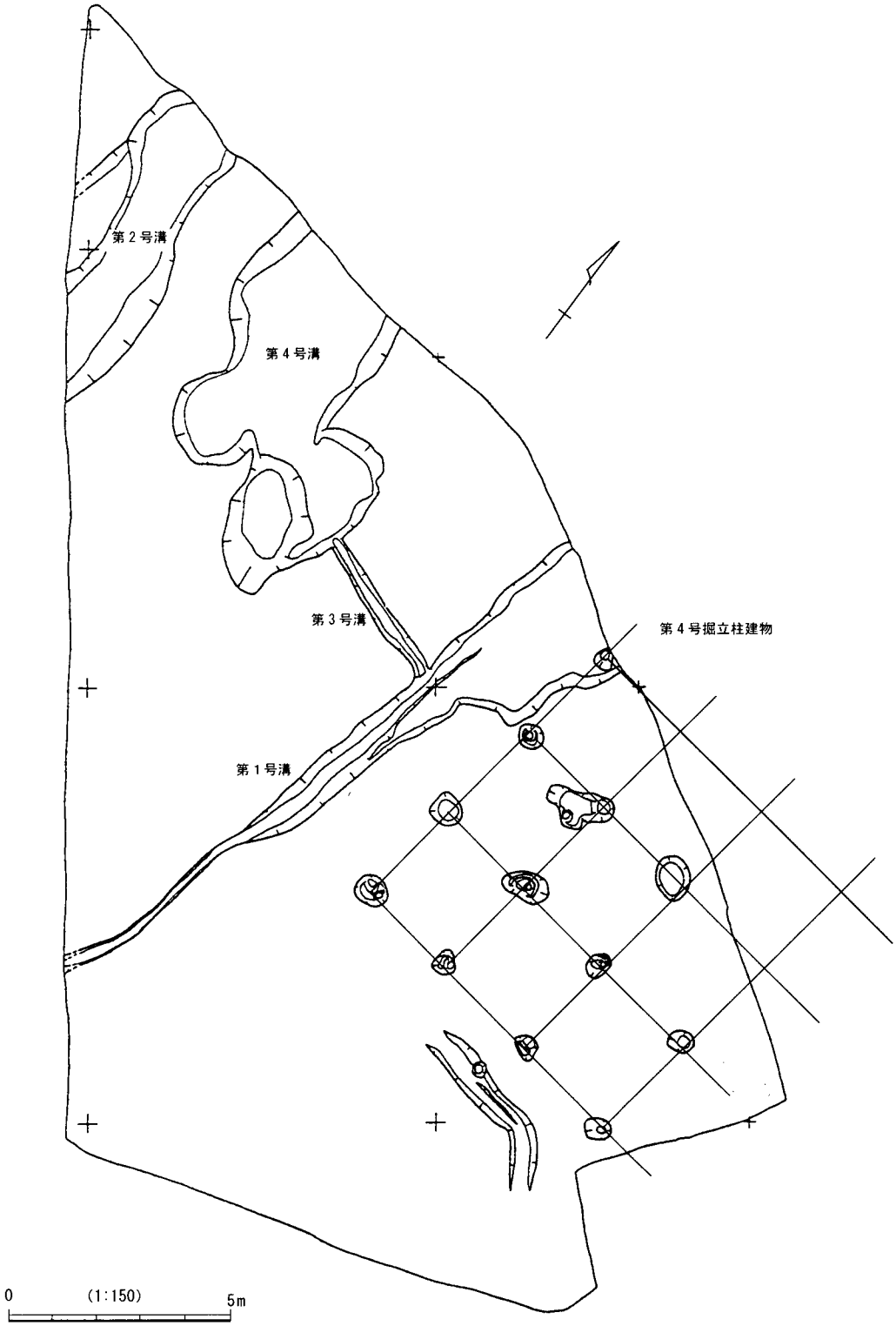


第５図　清水今江ニシャグチ遺跡調査区区割図

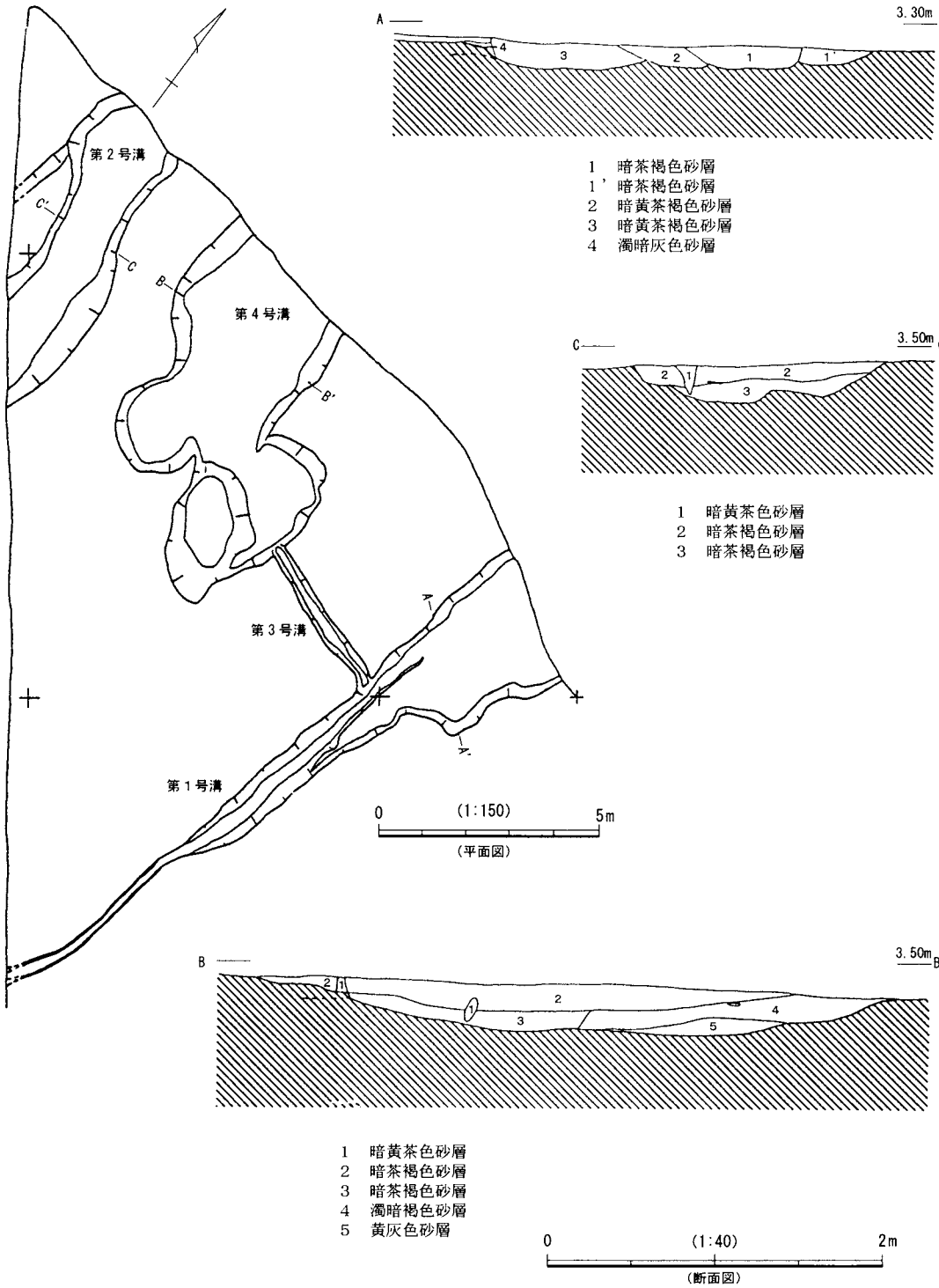


1　耕作土
2　黄茶色砂層
3　明黄茶色砂層
4　濁茶褐色砂層
5　茶褐色砂層
6　濁茶褐色砂層
7　２号溝覆土
8　灰褐色砂層
9　黒褐色砂層
10　茶褐色砂層
11　暗茶褐色砂層
12　濁灰褐色砂層
13　包含層Ⅱ
14　濁黄色砂層
15　暗灰色粘土層

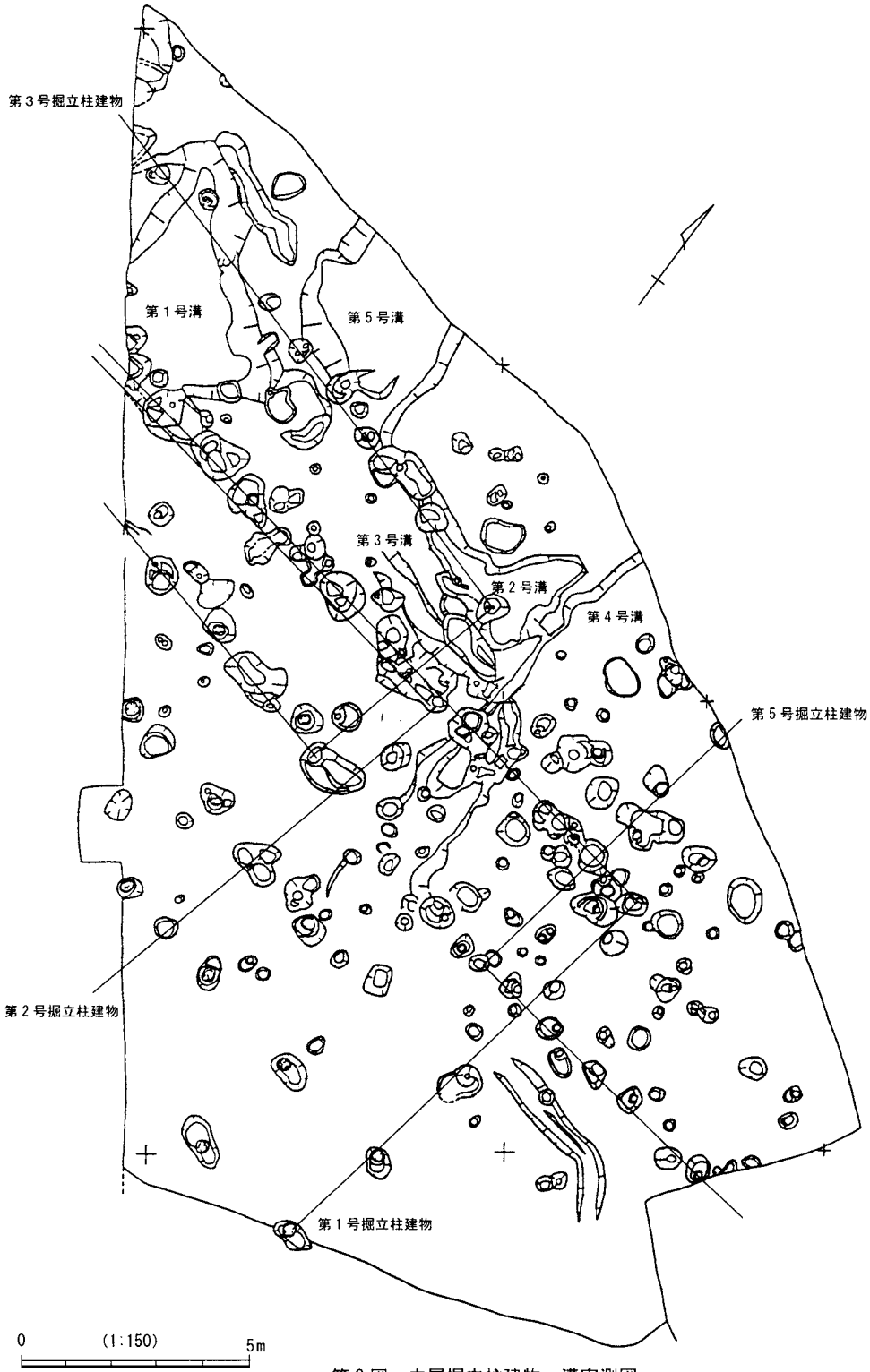
第６図　調査区土層断面図（西壁）



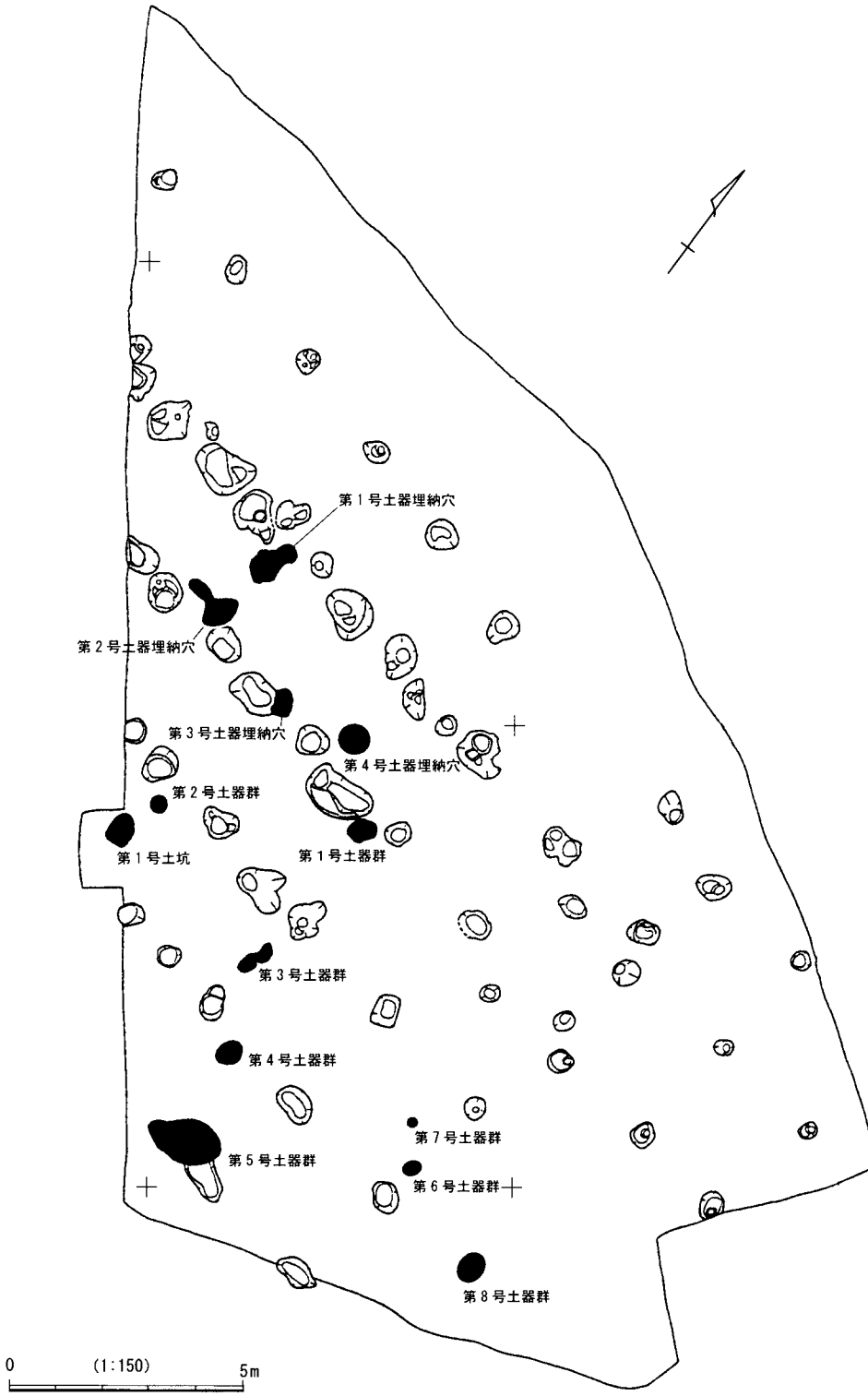
第７図　上層遺構実測図



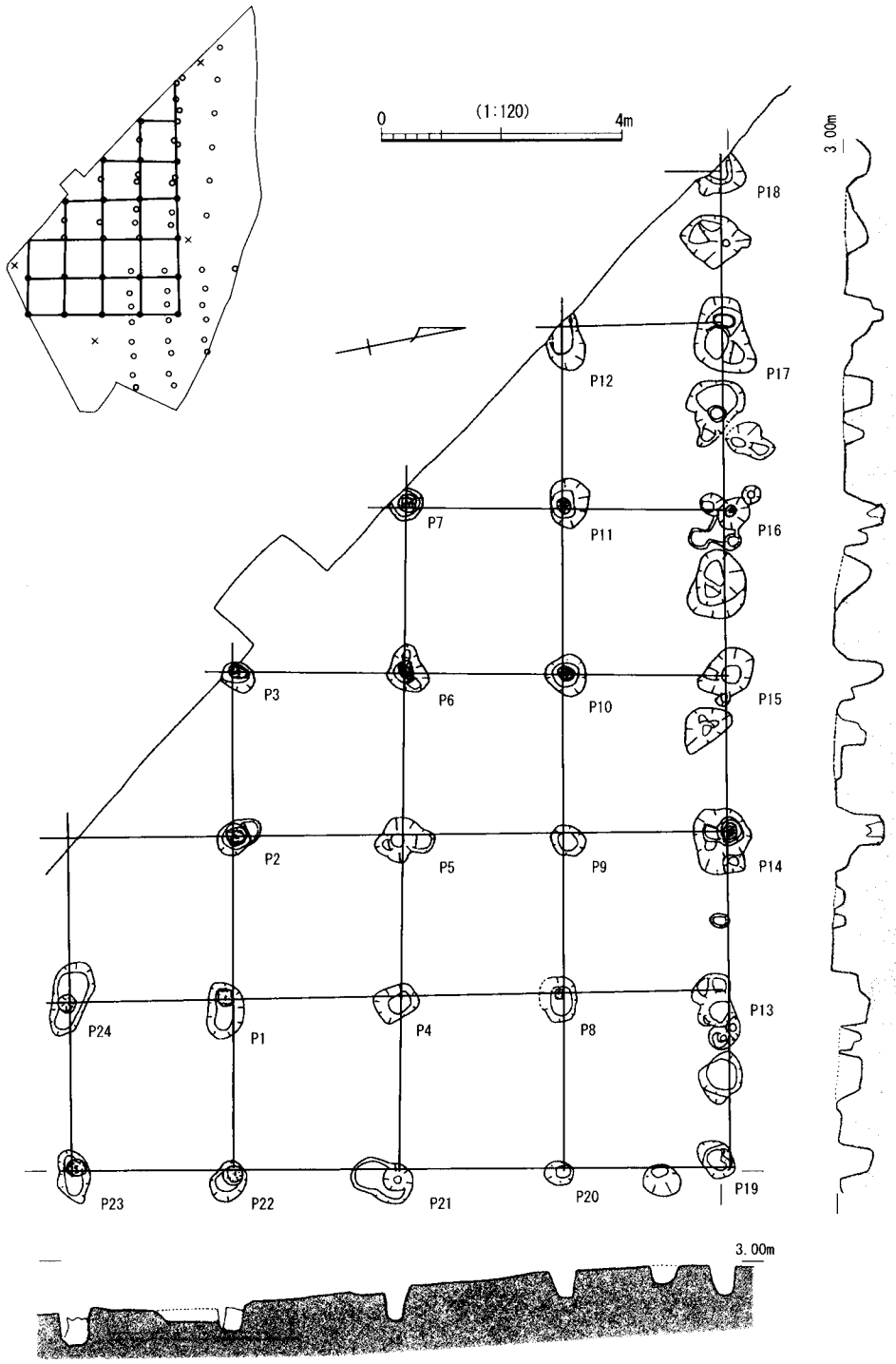
第8図　上層第1号溝～第4号溝実測図



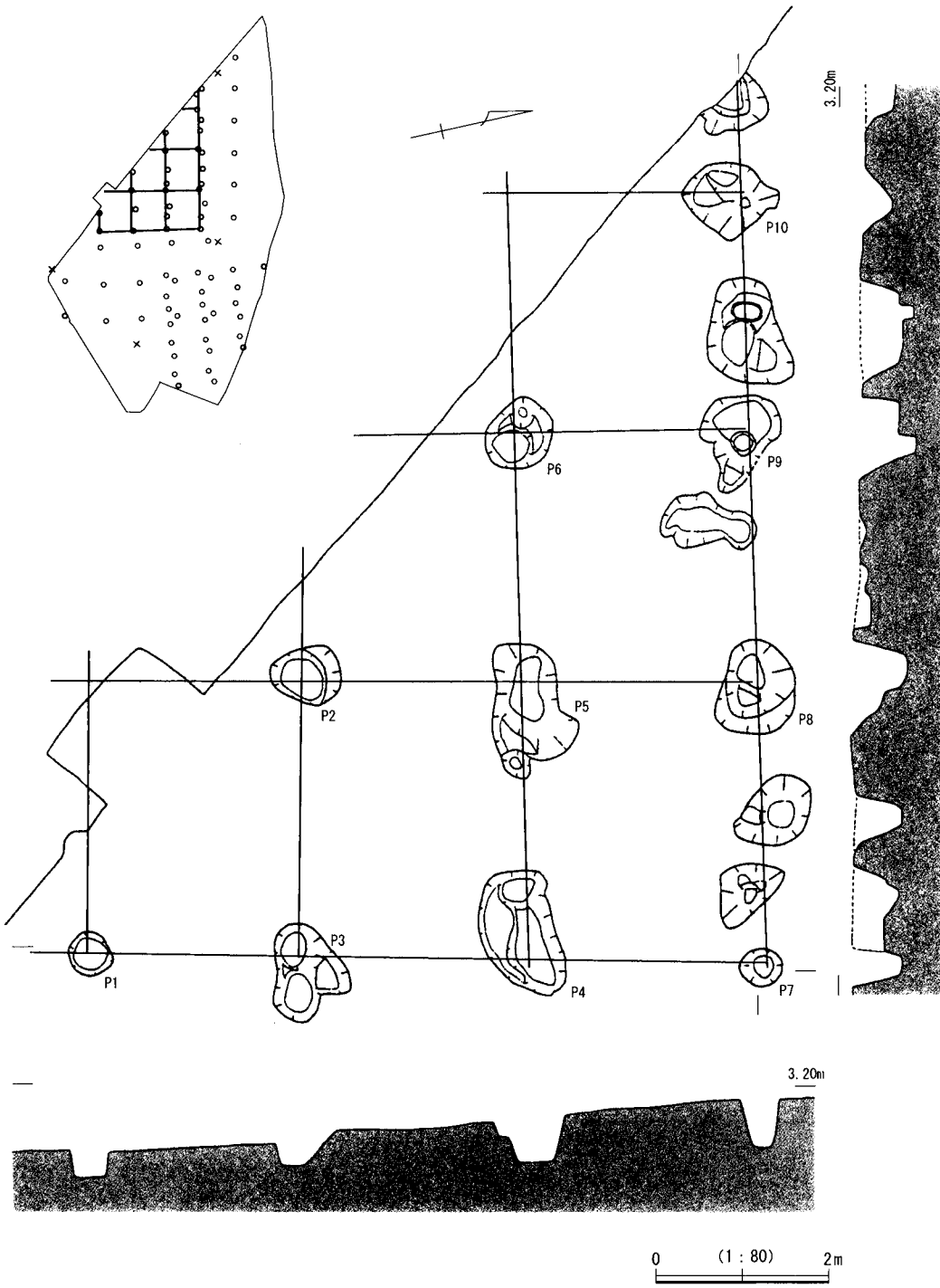
第９図　中層掘立柱建物・溝実測図



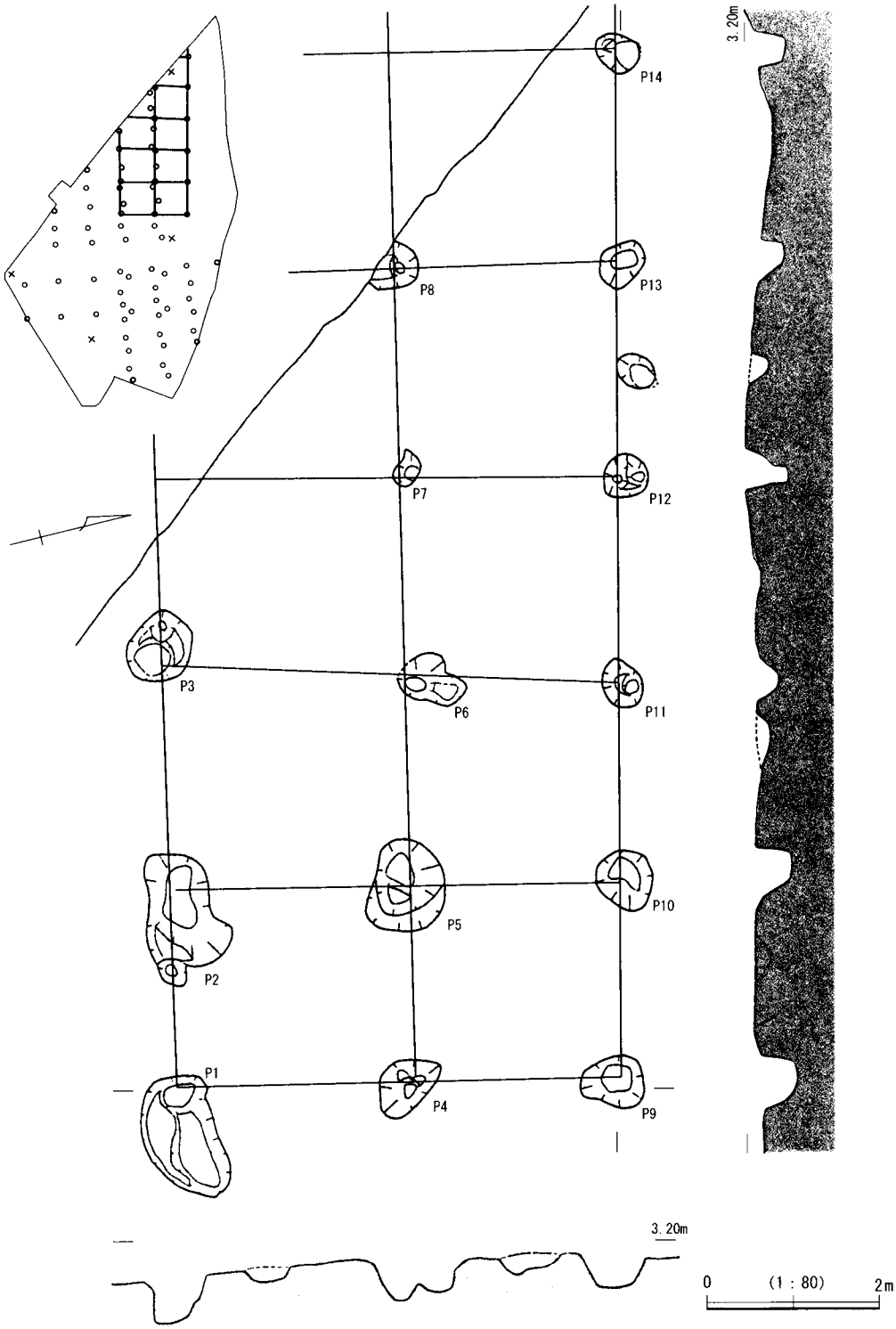
第 10 図　土坑・土器埋納穴・土器群分布図



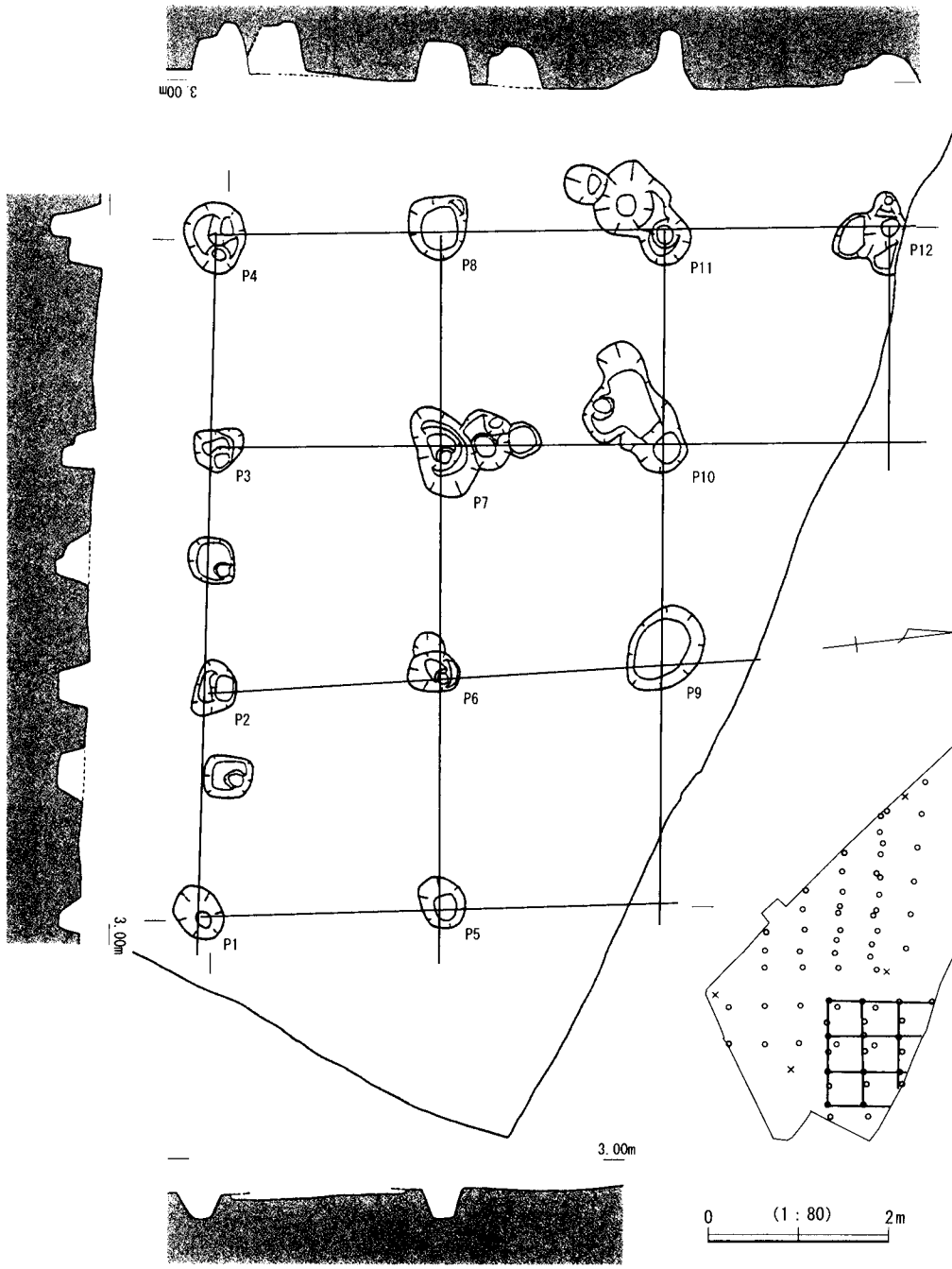
第11図　第1号掘立柱建物実測図



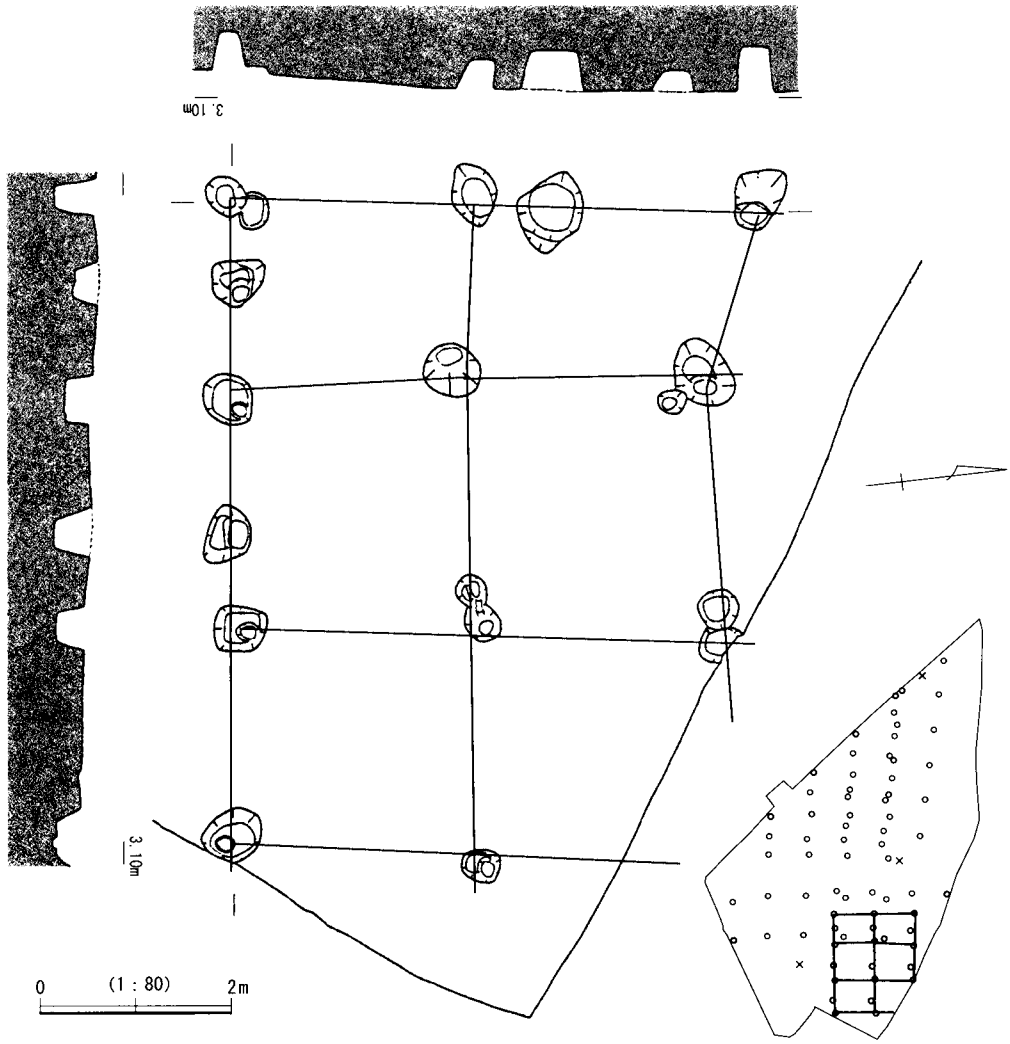
第 12 図　第 2 号掘立柱建物実測図



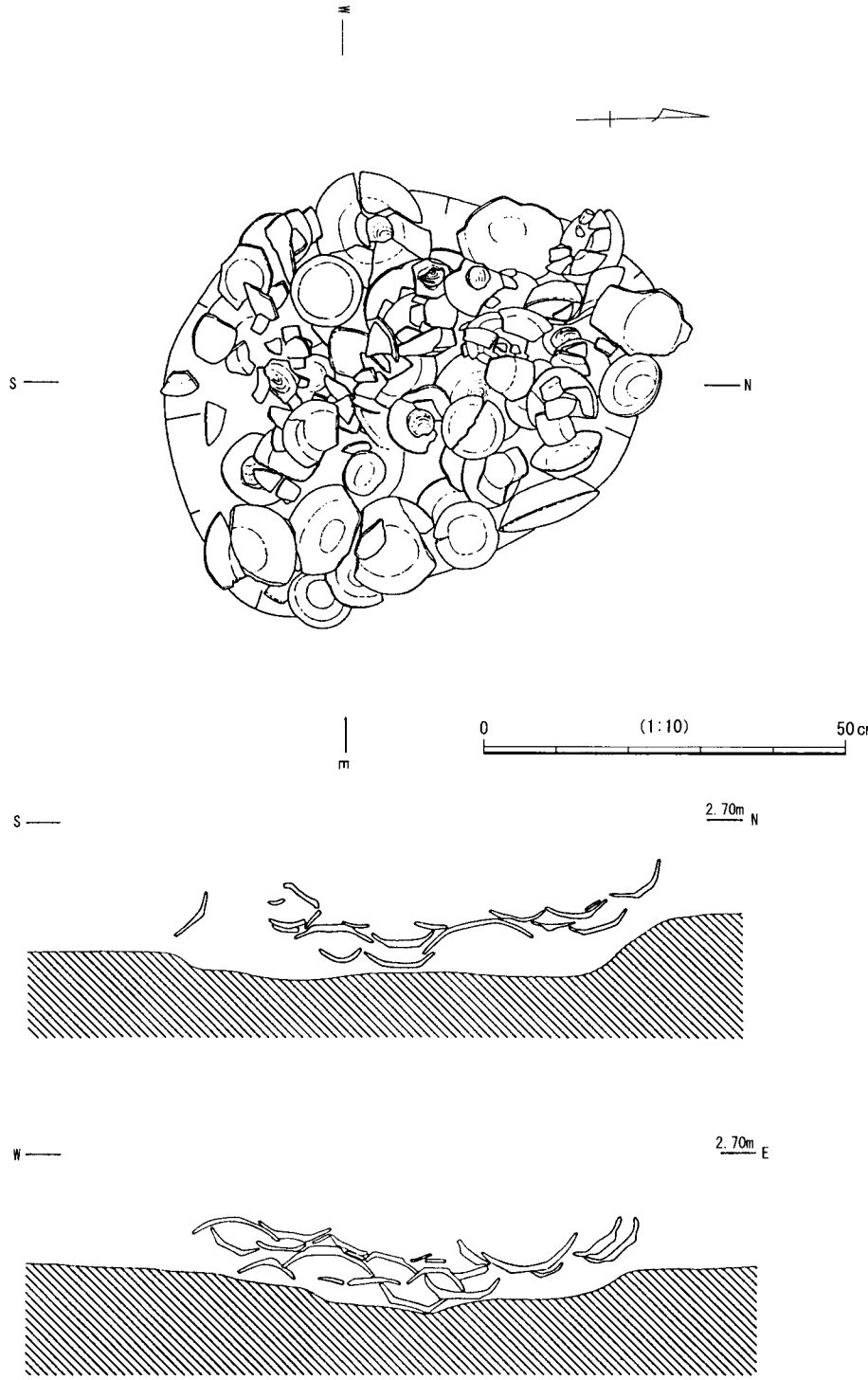
第 13 図　第 3 号掘立柱建物実測図



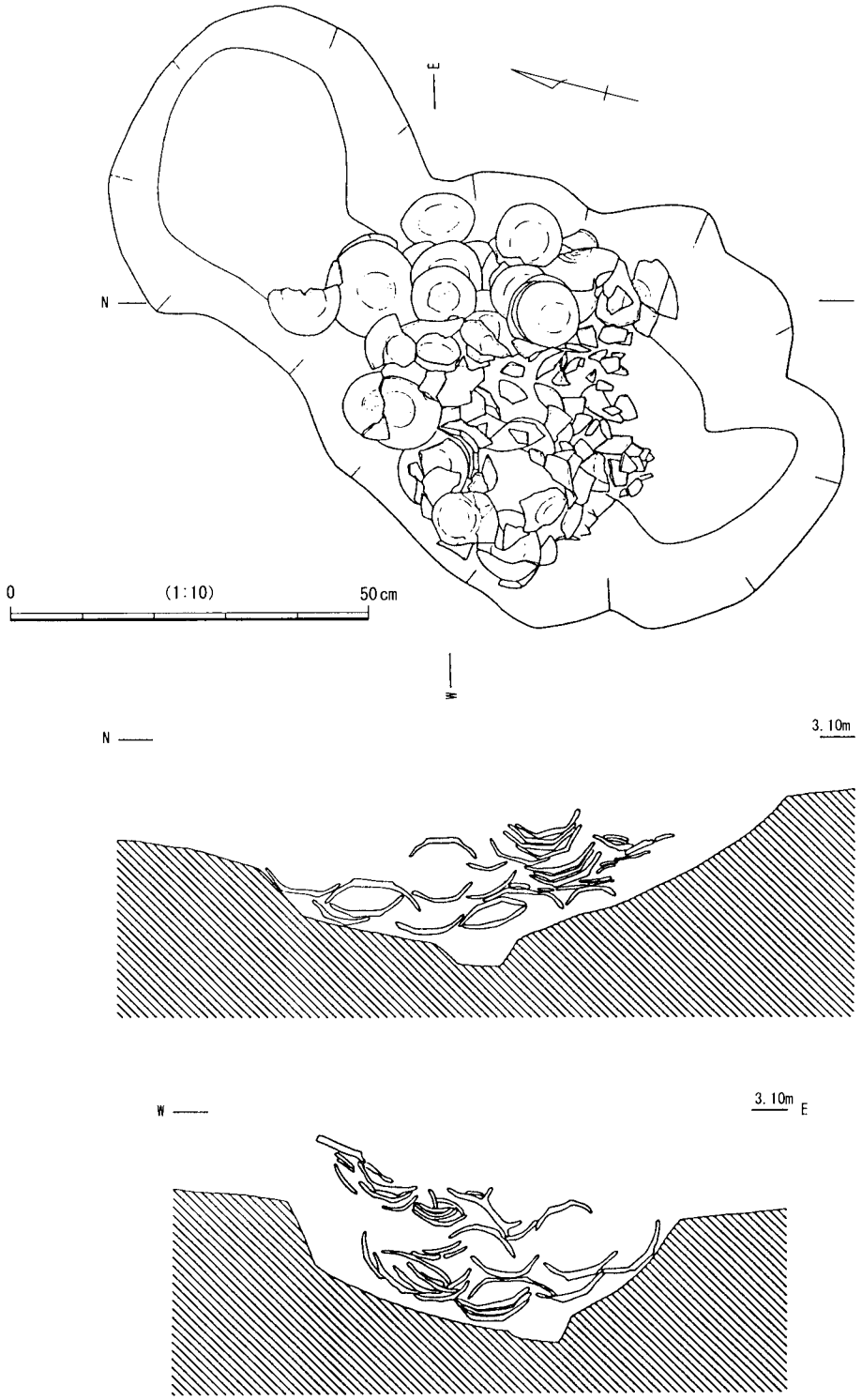
第 14 図　第 4 号掘立柱建物実測図



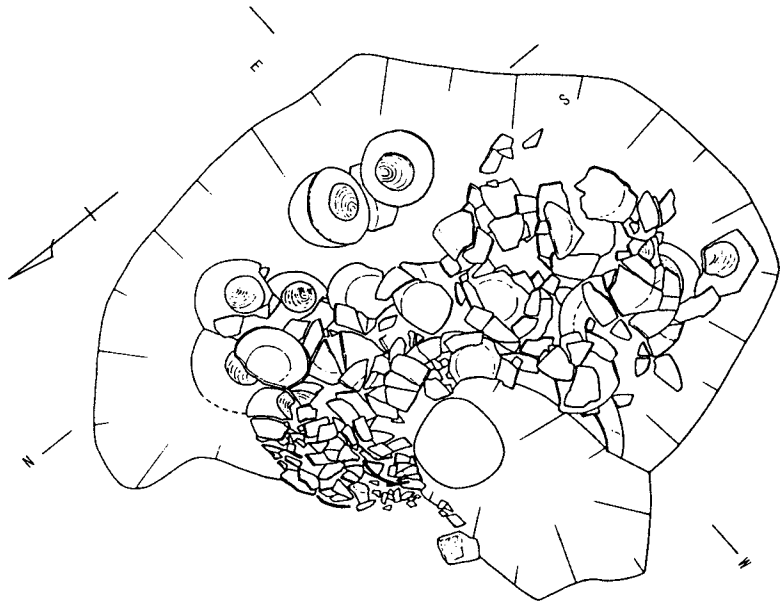
第 15 図　第 5 号掘立柱建物実測図

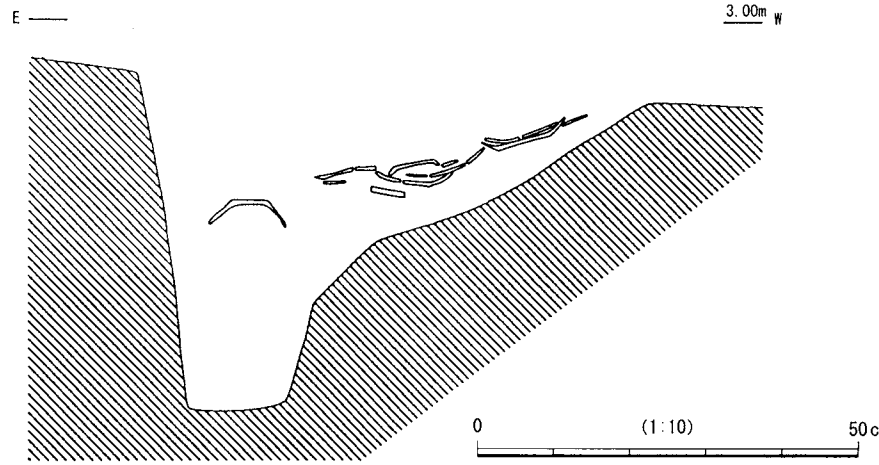


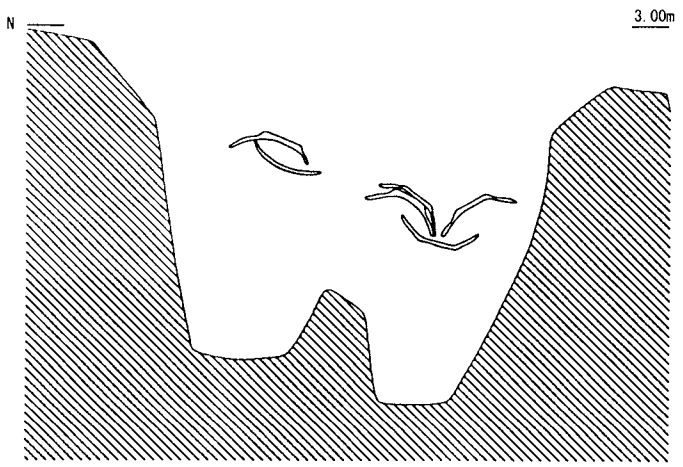
第16図　第1号土坑実測図



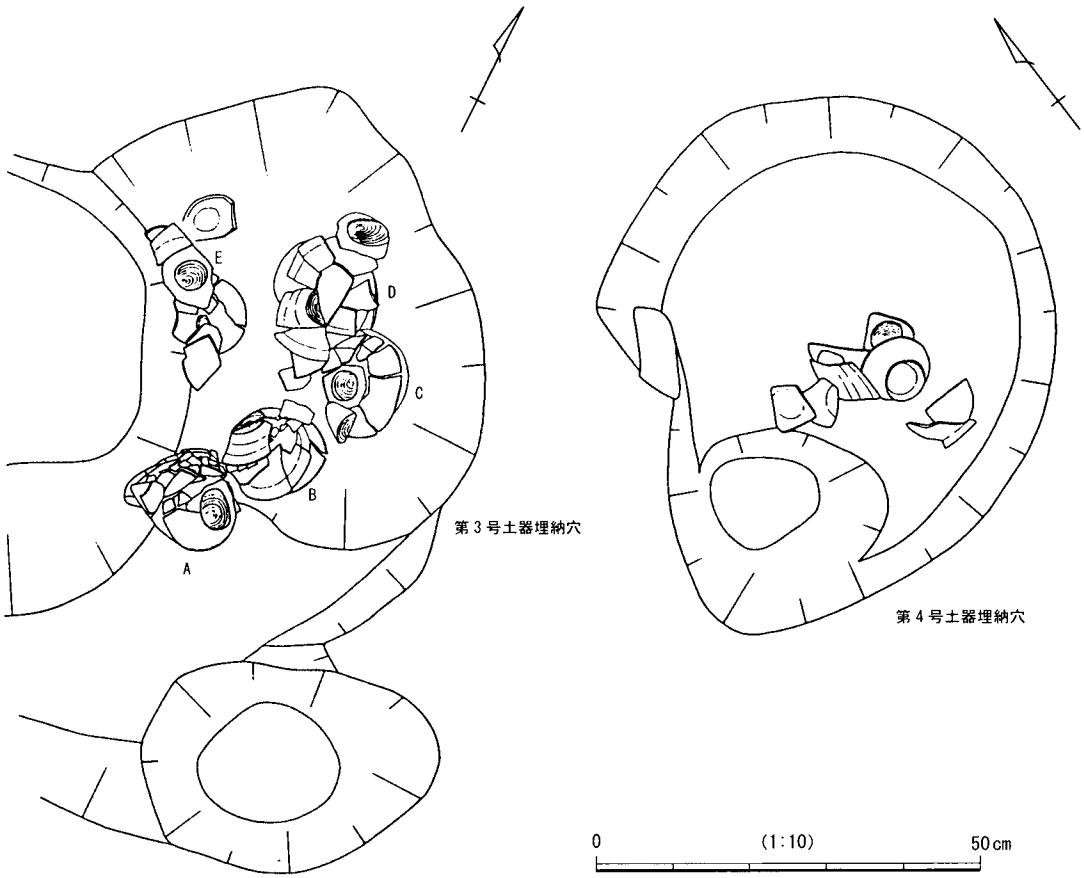
第17図　第1号土器埋納穴実測図







第 18 図　第 2 号土器埋納穴実測図

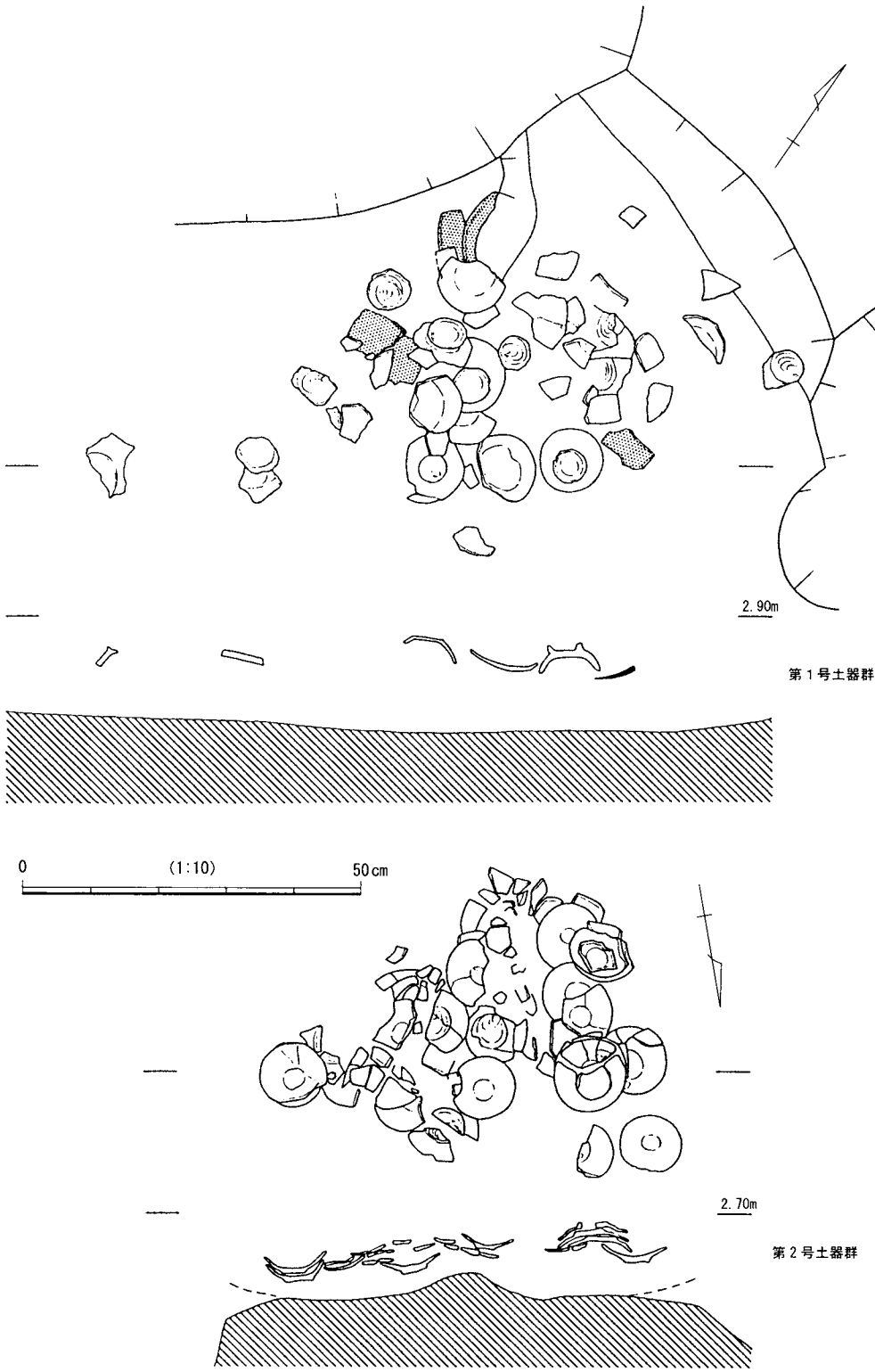


第19図　第３号・第４号土器埋納穴実測図

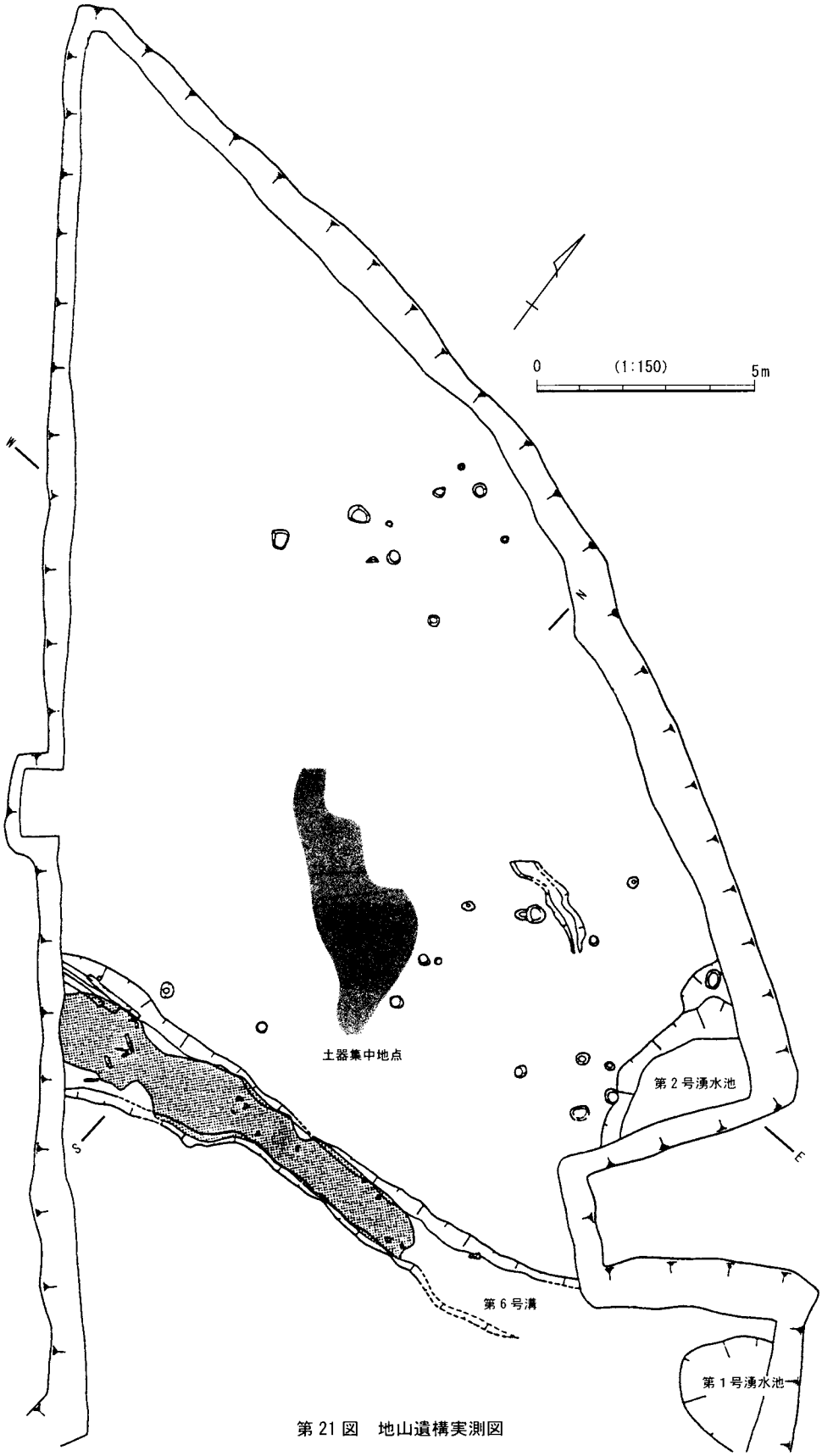
いずれも8世紀前半の所産であろう。27～29は土師器甕で、27・28は長胴である。30～34は製塩土器である。いずれも平底型で、口径は、30が27.4cm、32が28.7cmである。34の底径は15.5cmを測る。
いずれれも8世紀前半の所産であろう。27～29は土師器甕で、27・28は長胴である。30～34は製塩土器である。いずれも平底型で、口径は、30が27.4cm、32が28.7cmである。34の底径は15.5cmを測る。
いずれも外面には粘土紐積み上げ痕が2～3cm幅で明瞭に残る。内面はヨコハケである。8世紀の所産であろう。

湧水池は、調査区の東で確認した。第1号は、幅200cm、第2号は300cm以上ある。地山面の遺構にともなうものであろう。

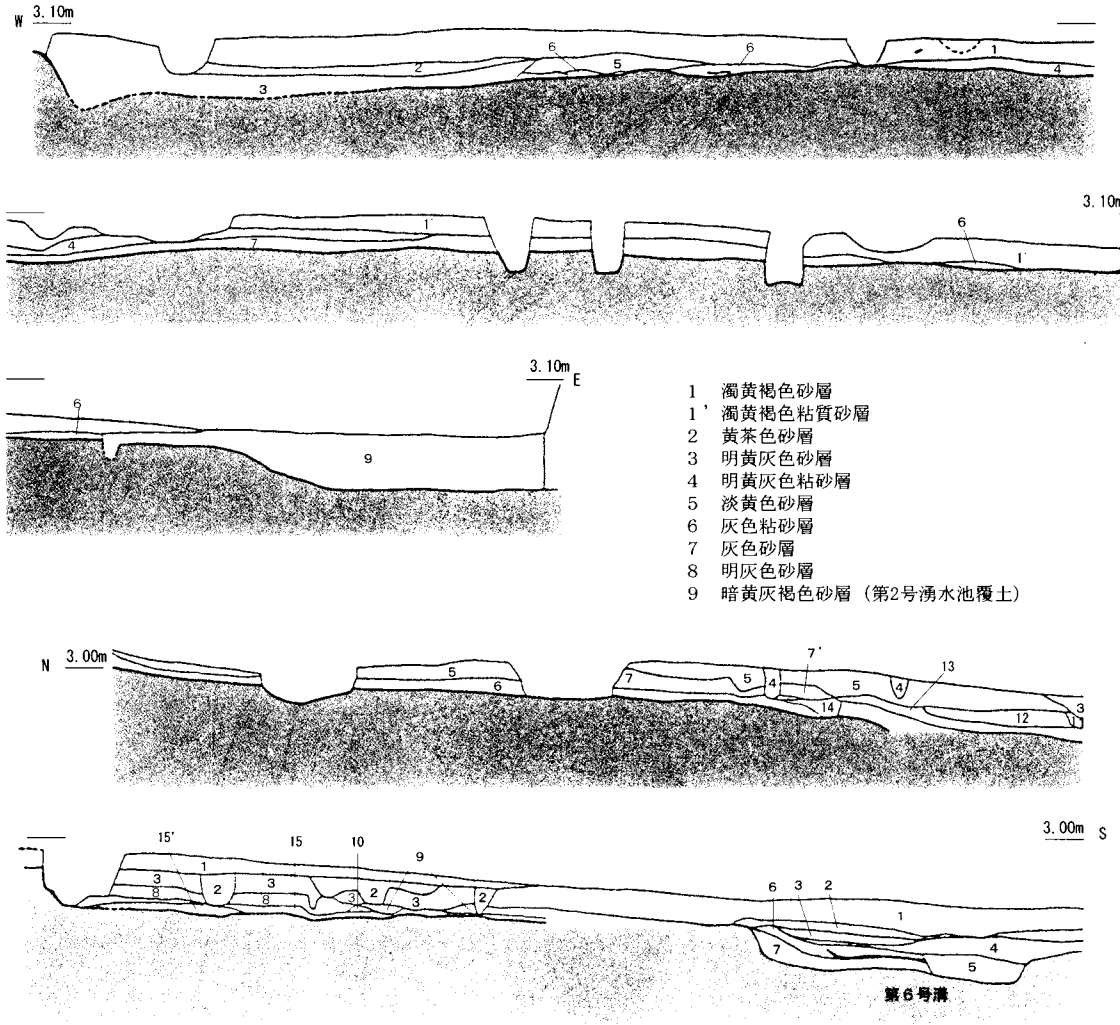
遺物は図化してないが、第2号湧水池から、古墳時代中期の土師器、奈良時代の須恵器・土師器、平安時代後期の土師器が出土している。



第20図　第1号・第2号土器群実測図



第21図　地山遺構実測図



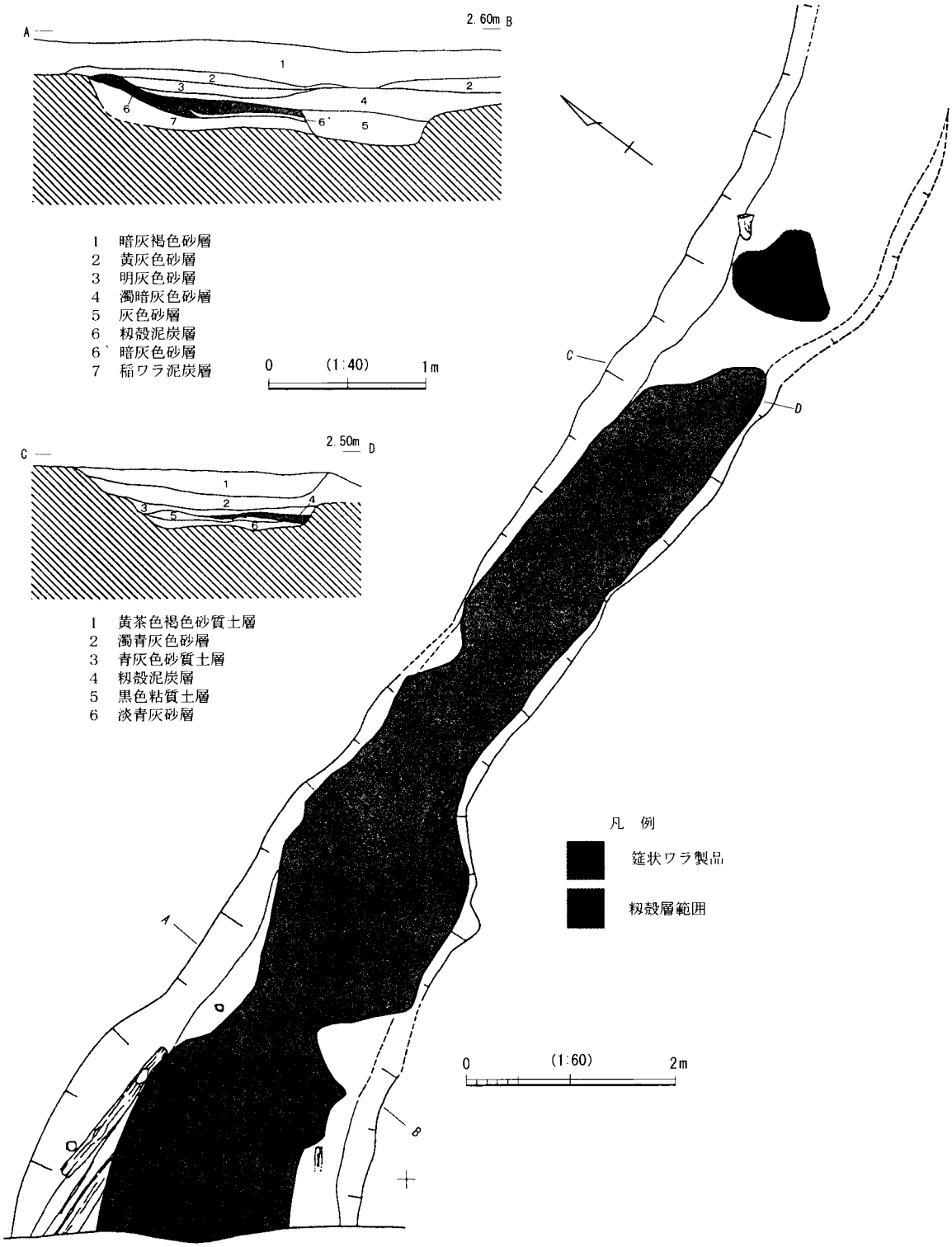
1　濁黄褐色砂層
1'　濁黄褐色粘質砂層
2　黄茶色砂層
3　明黄灰色砂層
4　明黄灰色粘砂層
5　淡黄色砂層
6　灰色粘砂層
7　灰色砂層
8　明灰色砂層
9　暗黄灰褐色砂層（第2号湧水池覆土）

1　暗茶色砂層
2　濁灰褐色砂質土層
3　灰褐色砂質土層
4　明黄灰色砂質土層
5　濁黄橙粘質土層
6　濁灰オリーブ砂層
7　濁黄オリーブ砂層
7'　濁明黄灰色砂層
8　黄灰色砂層
9　濁黄色砂層
10　濁灰白色粘土層
11　濁灰白色粘土層
12　黄オリーブ色粘土層
13　濁青灰色粘土層
14　明灰色砂層
15　鉄分沈着層
15'　濁灰色粘土層

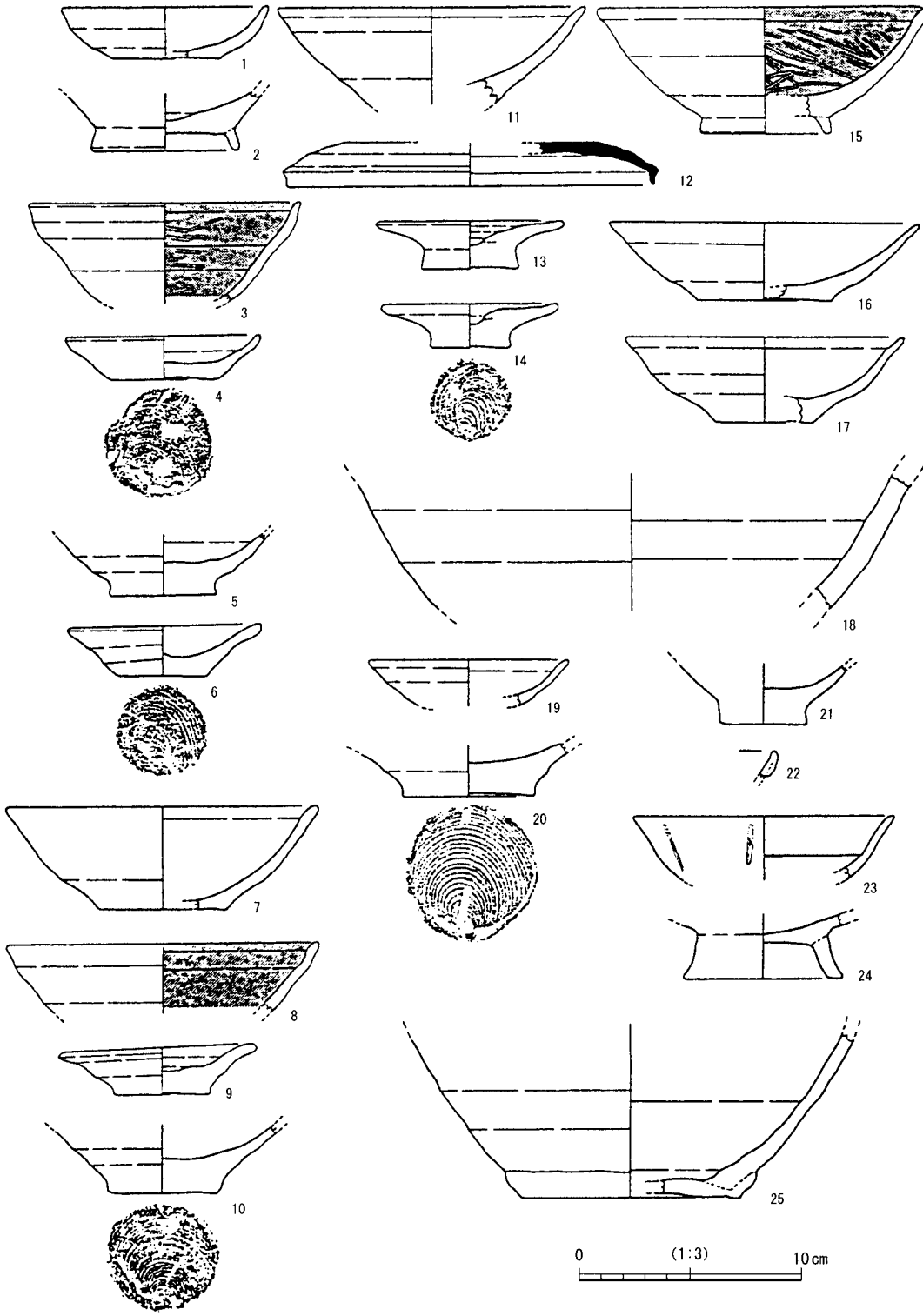
1　濁黄褐色砂層
2　黄茶色砂層
3　明黄灰色砂層
4　明黄灰色粘砂層
5　淡黄色砂層
6　灰色粘砂層
7　灰色砂層
8　明灰色砂層
9　暗黄灰褐色砂層

0　(1:60)　2m

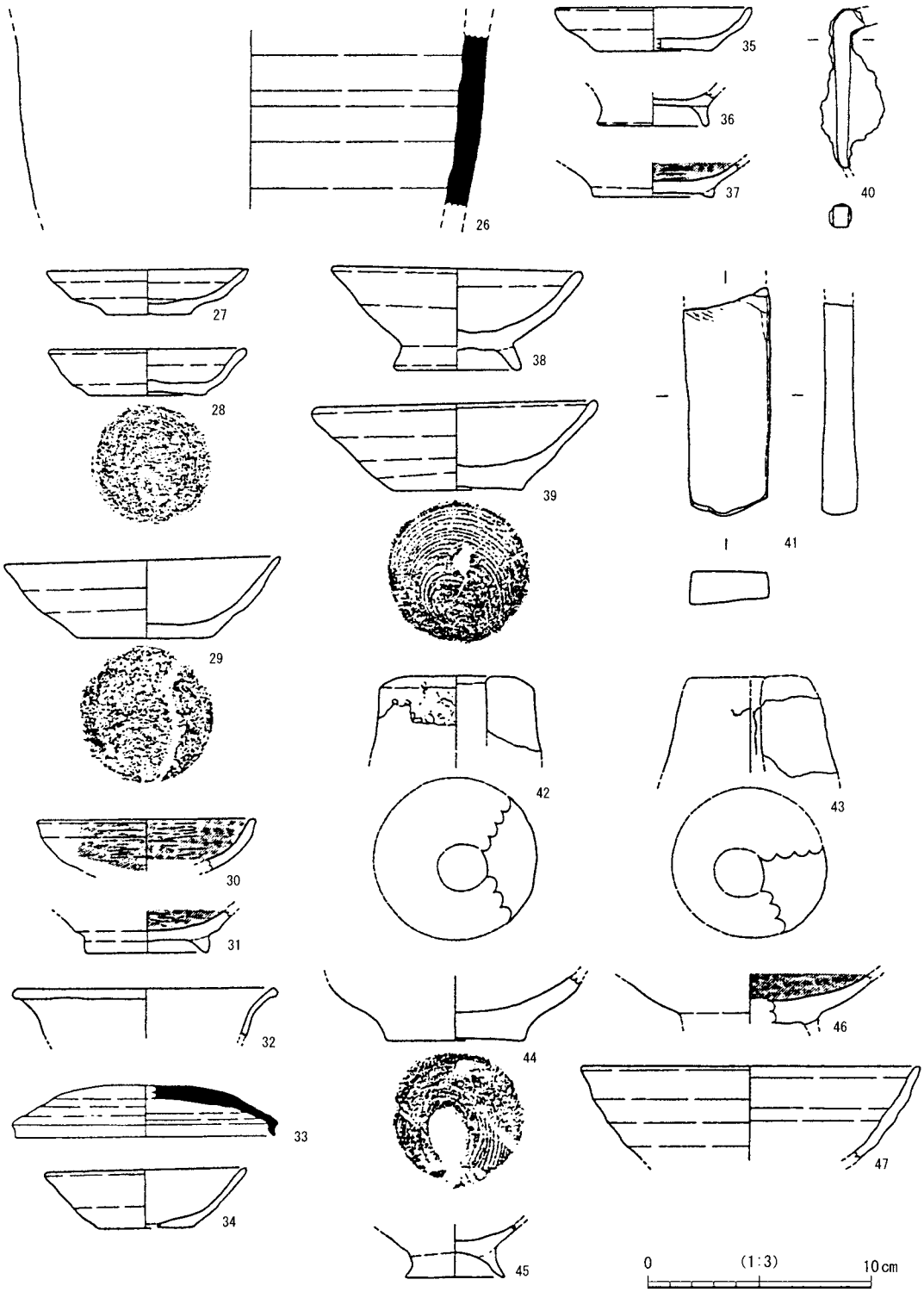
第22図　調査区土層断面図



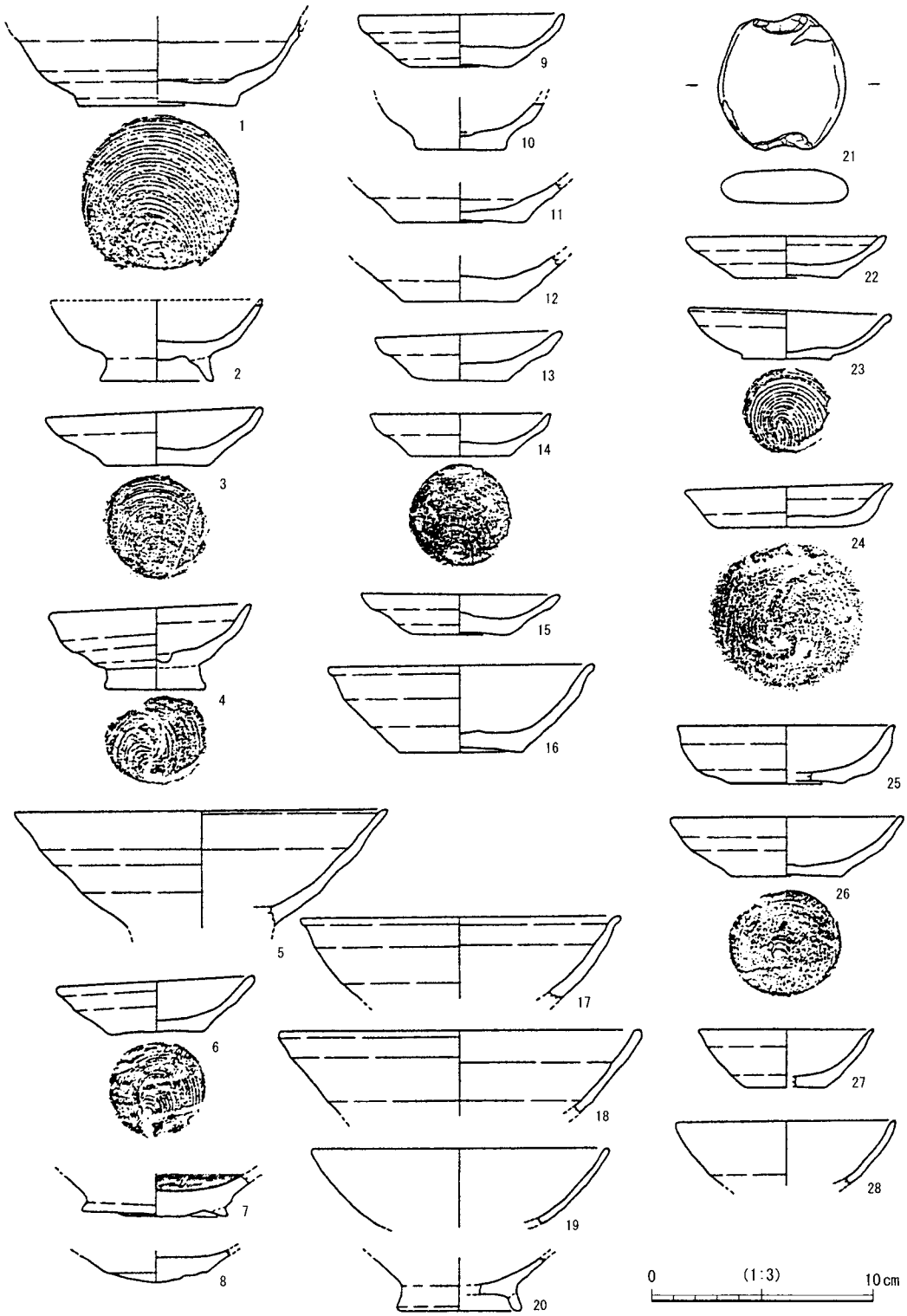
第 23 図　第 6 号溝実測図



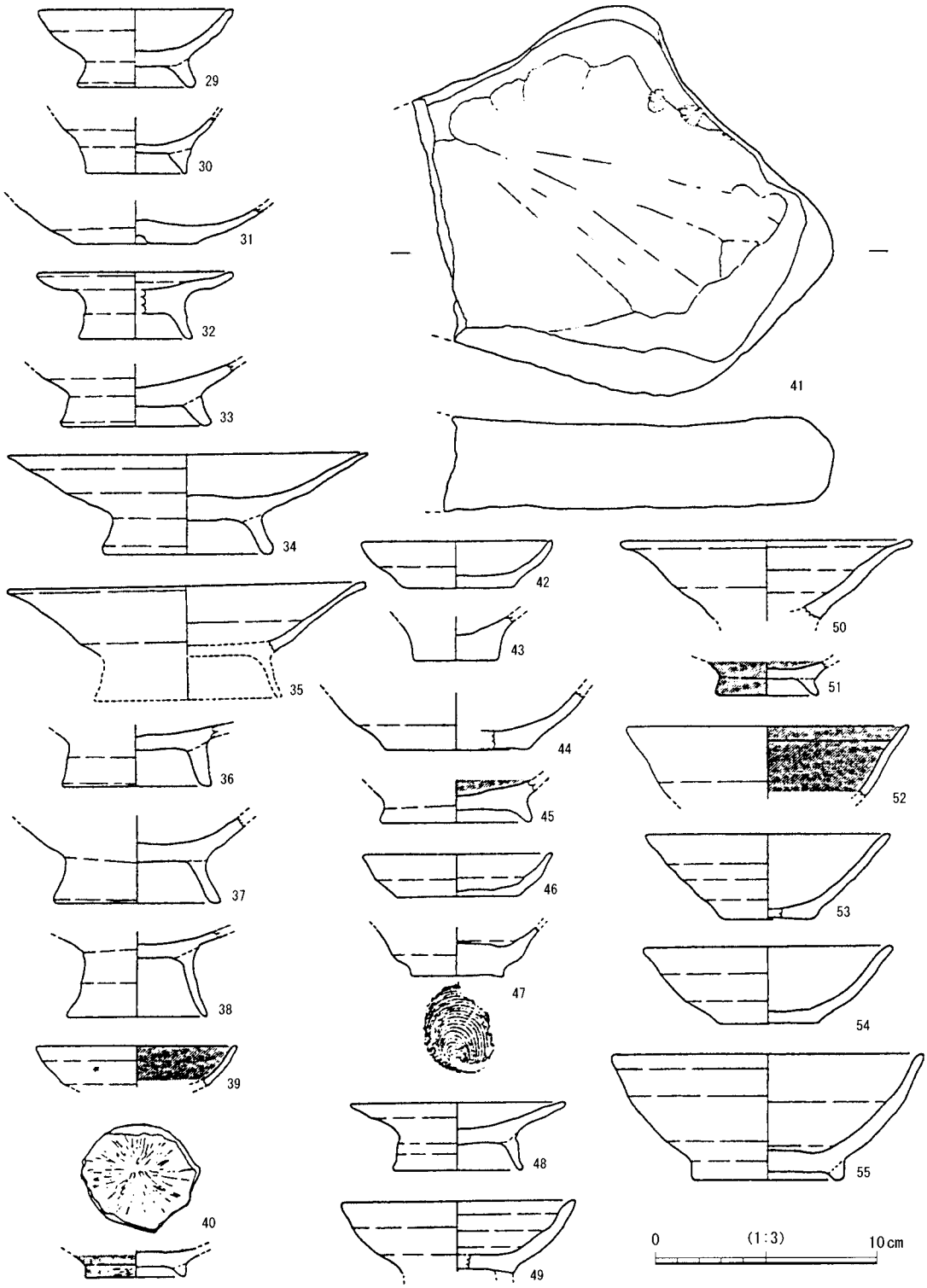
第 24 図　第 1 号掘立柱建物出土遺物実測図 (1)



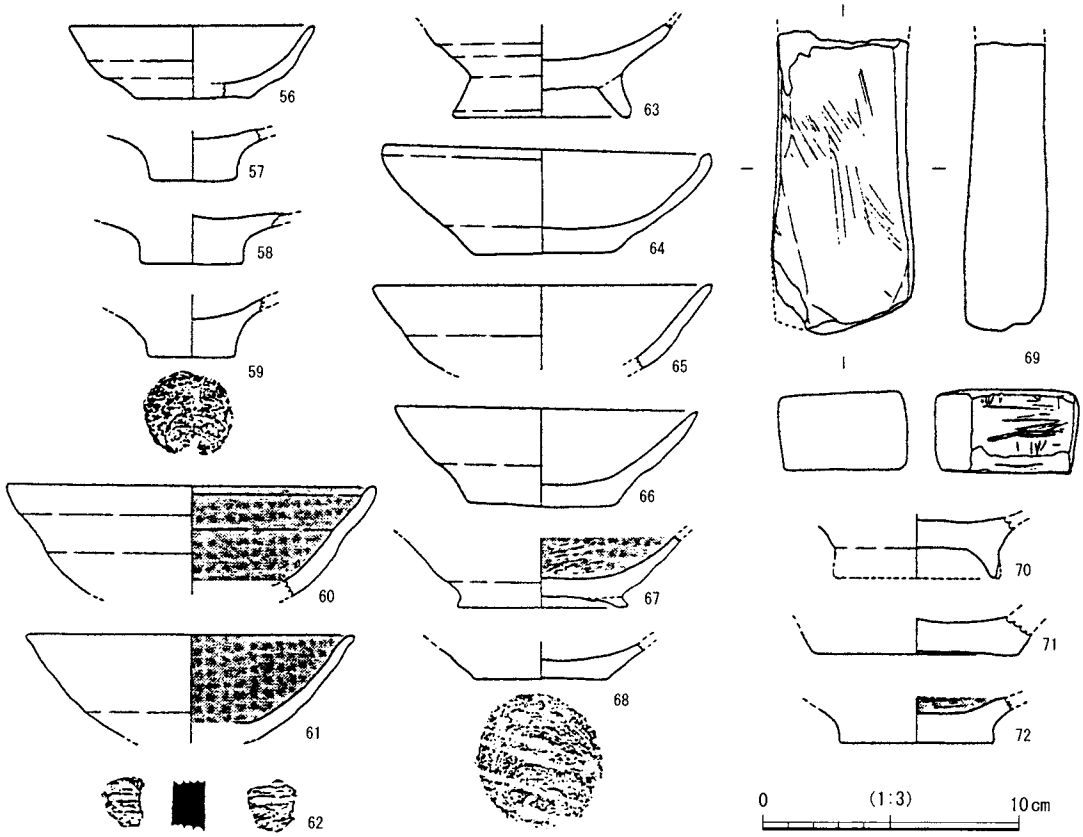
第 25 図　第 1 号掘立柱建物出土遺物実測図 (2)



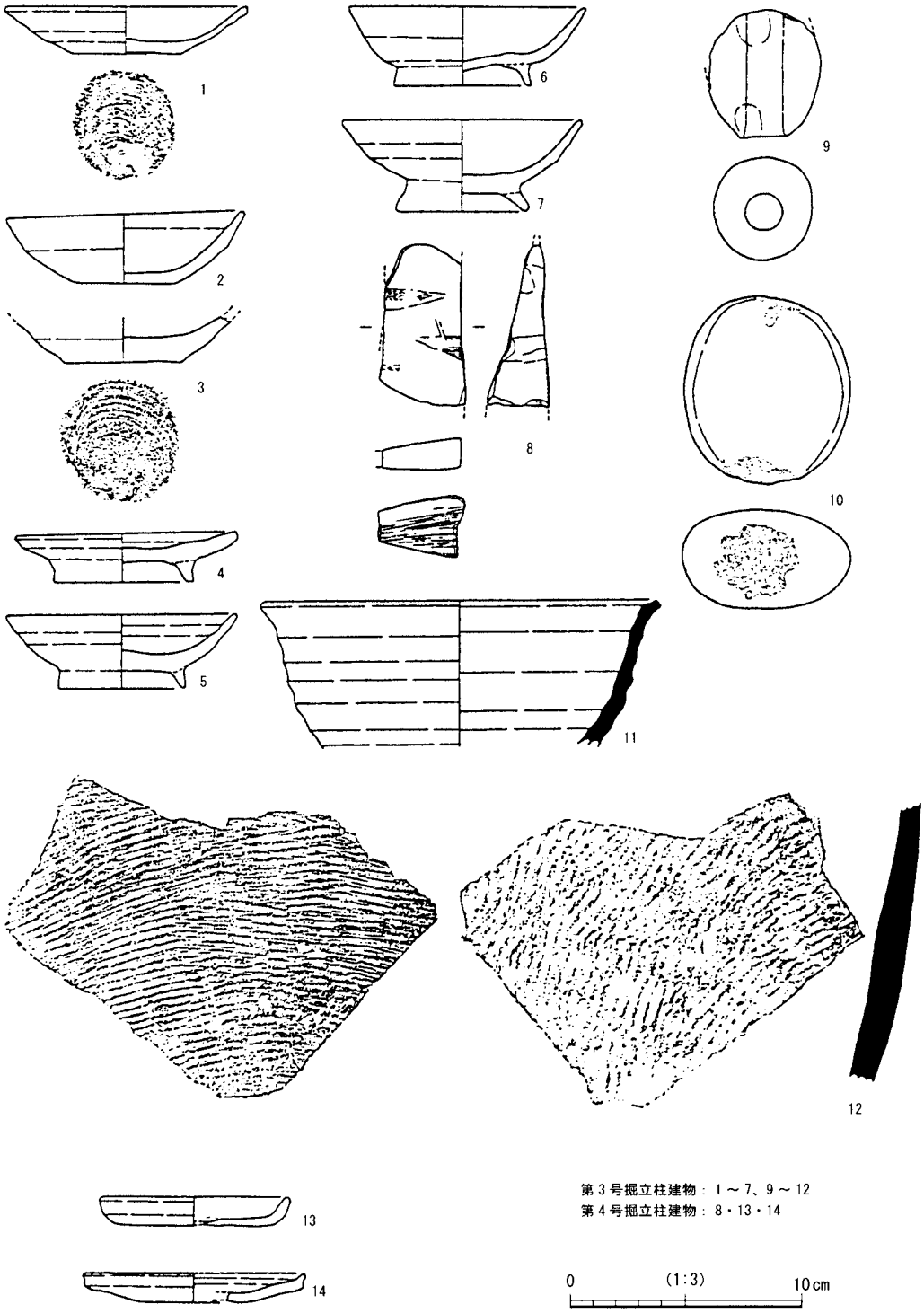
第 26 図　第 2 号掘立柱建物出土遺物実測図 (1)



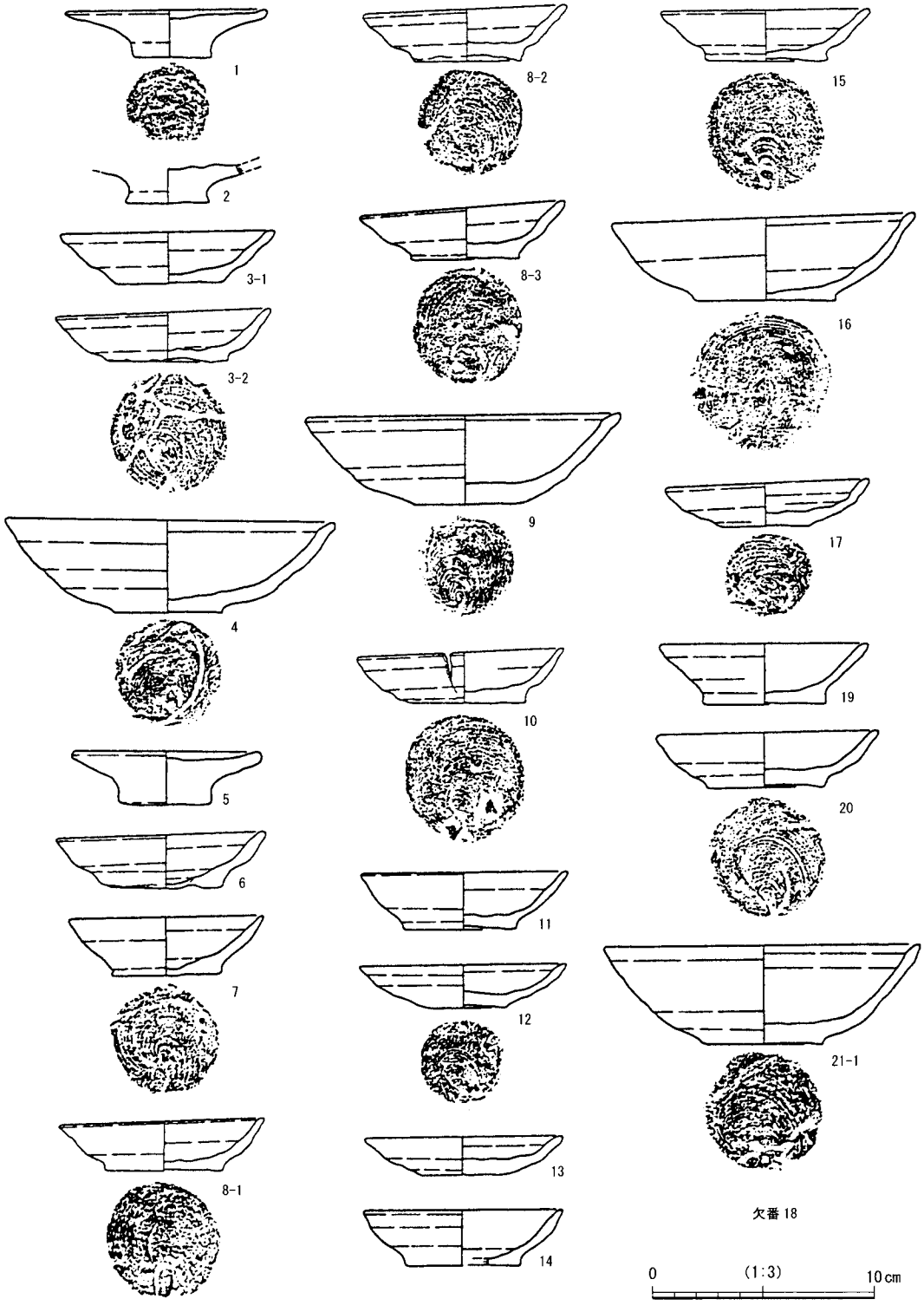
第27図　第2号掘立柱建物出土遺物実測図 (2)



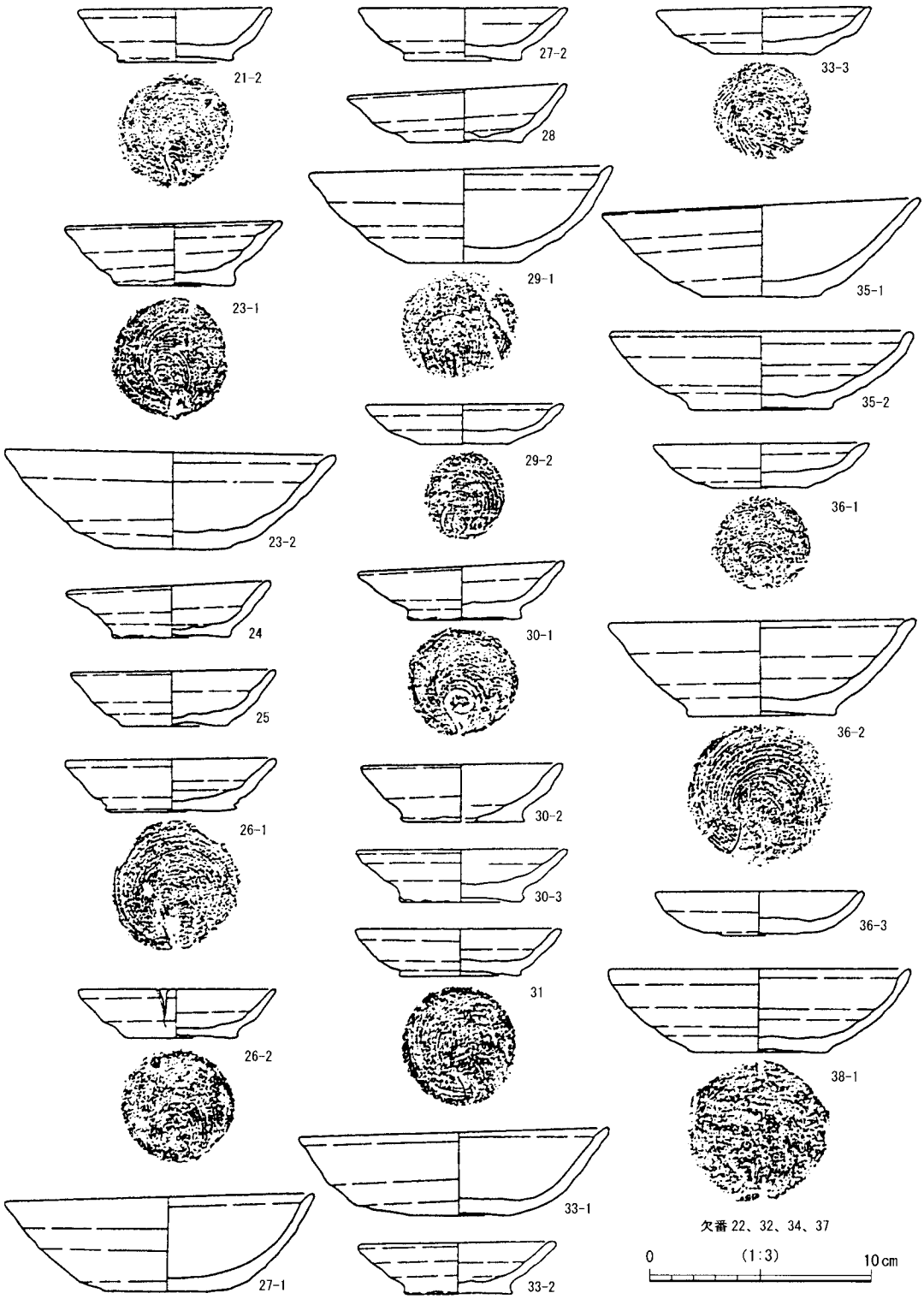
第 28 図　第 2 号掘立柱建物出土遺物実測図 (3)



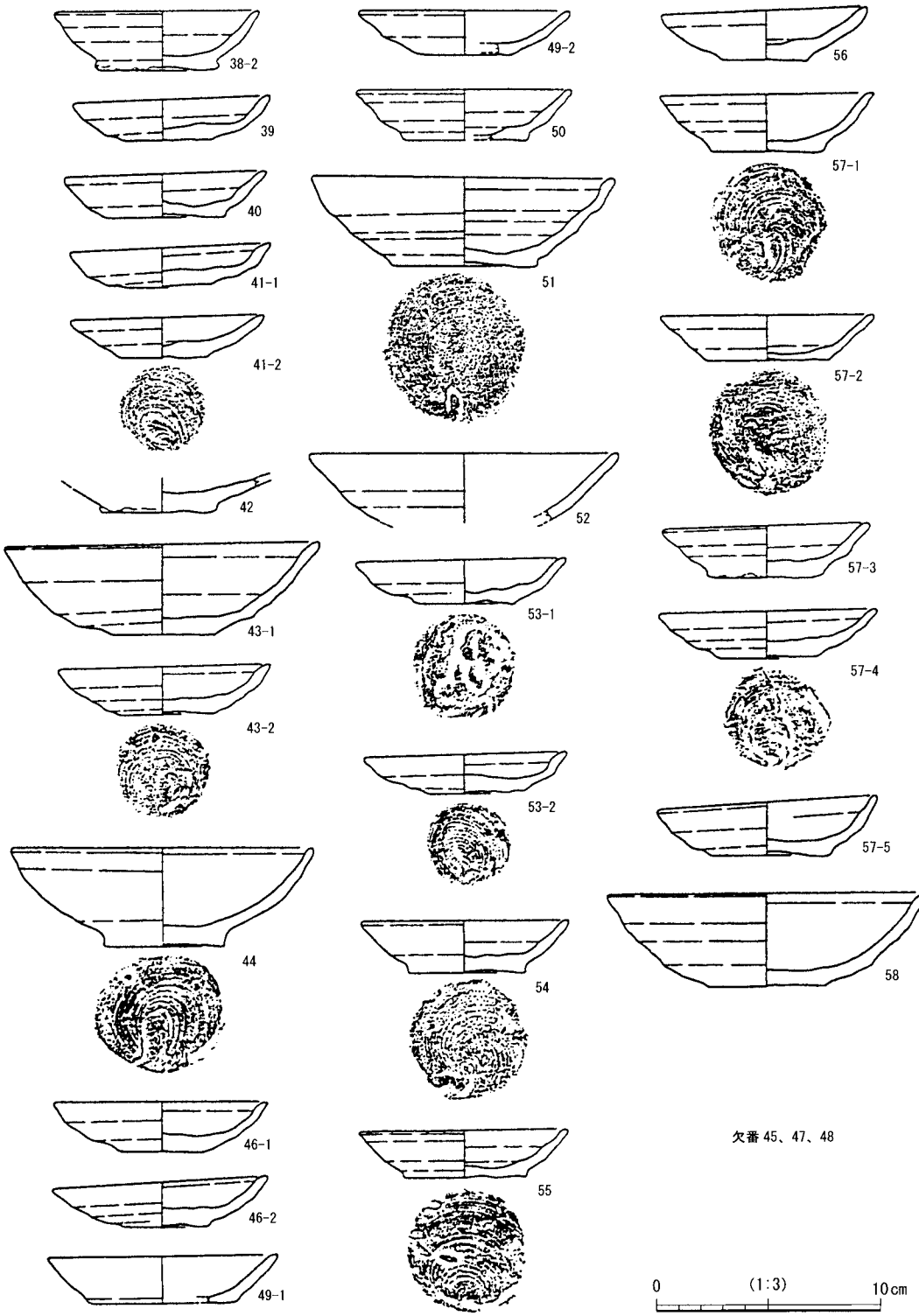
第29図　第３号・第４号掘立柱建物出土遺物実測図



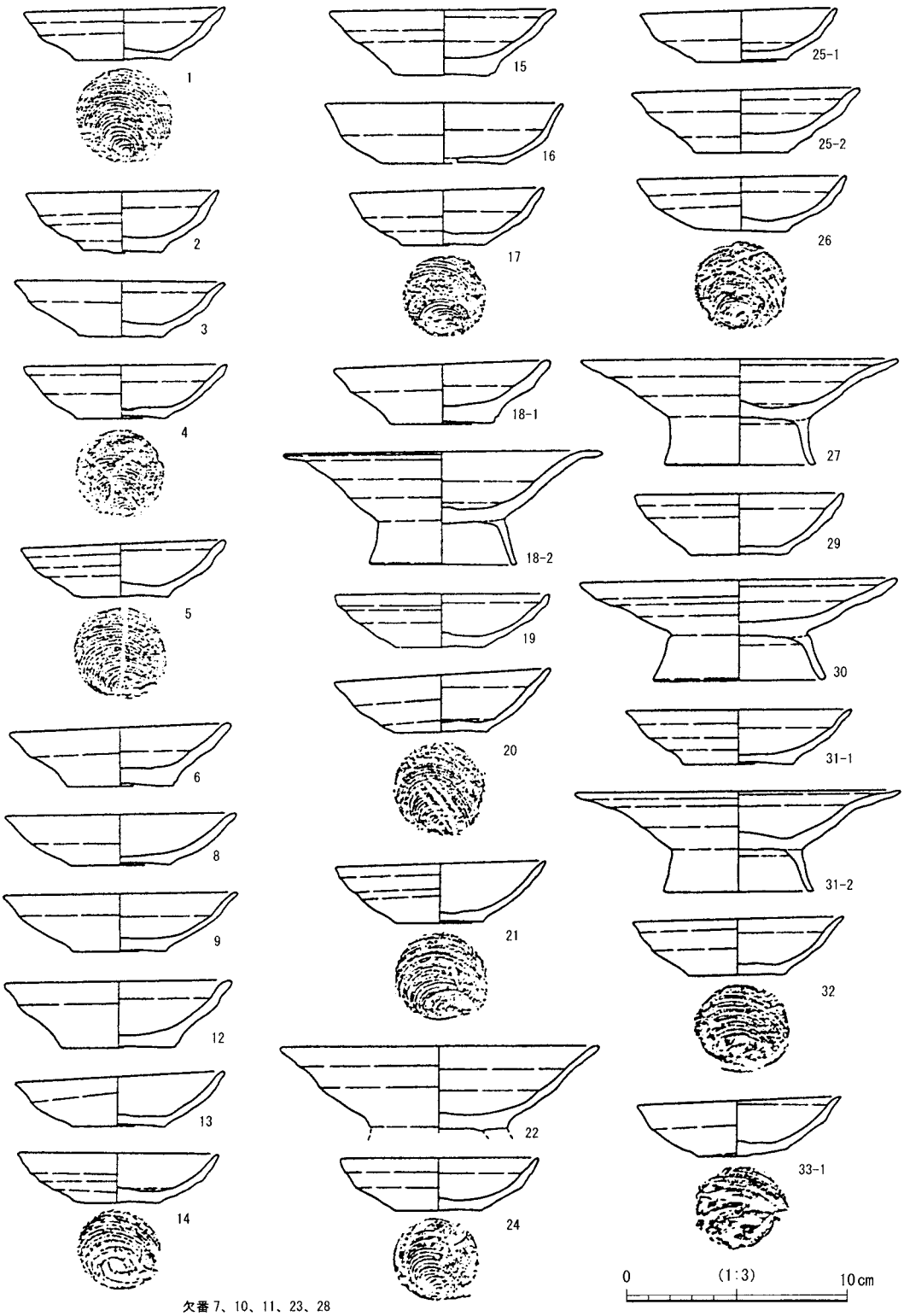
第 30 図　第 1 号土坑出土遺物実測図 (1)



第 31 図　第 1 号土坑出土遺物実測図 (2)

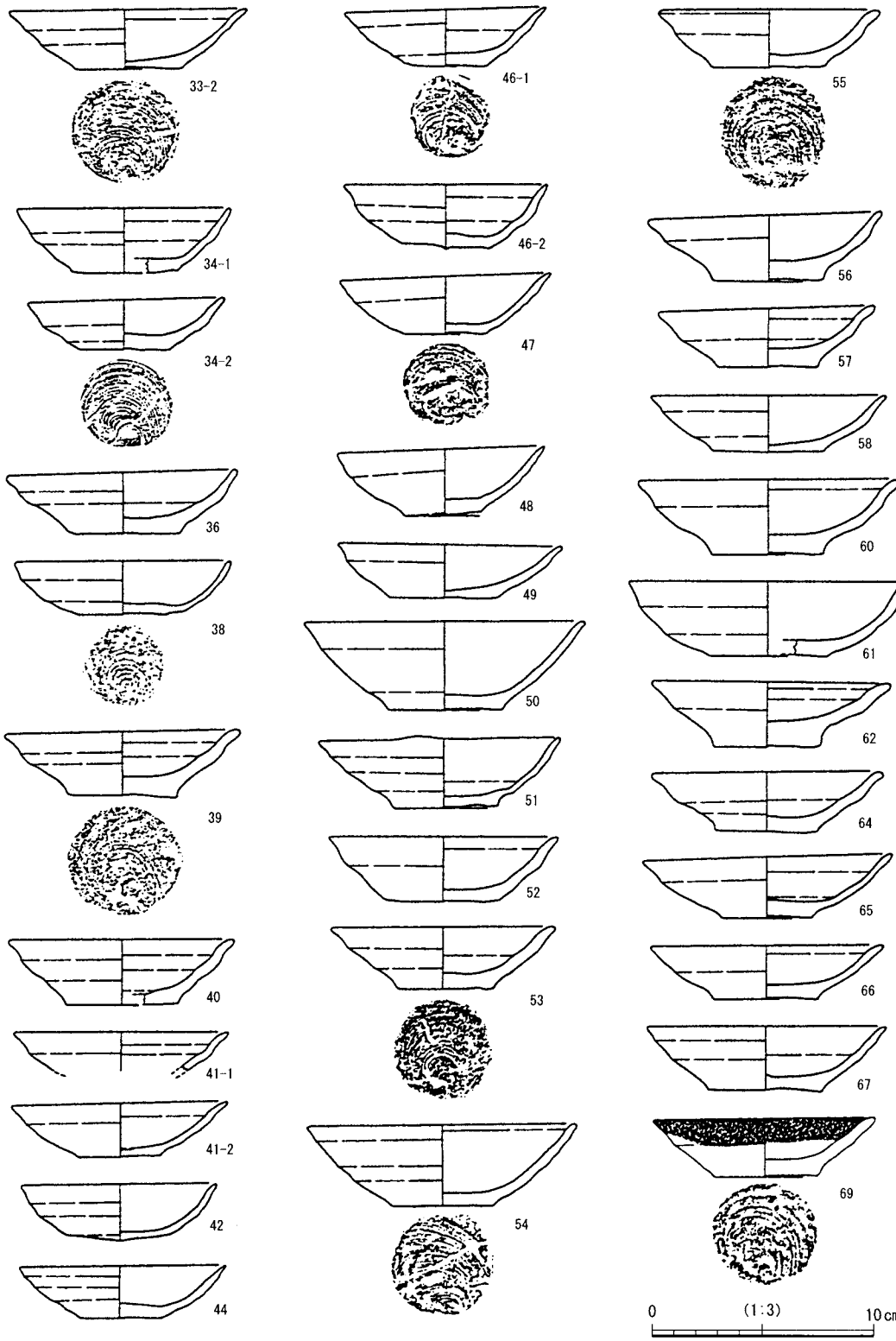


第 32 図　第 1 号土坑出土遺物実測図 (3)

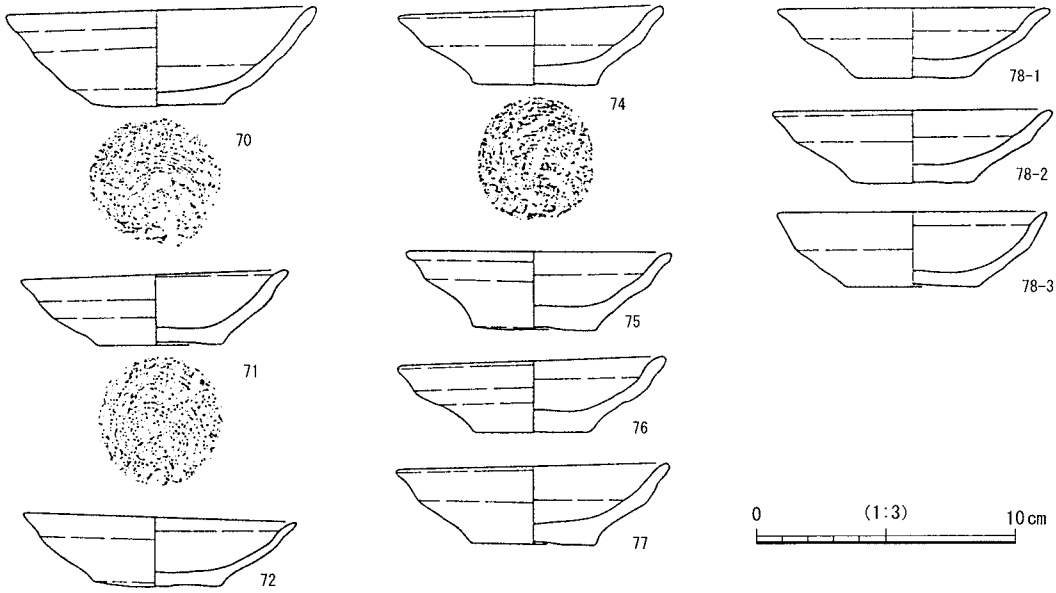


欠番 7、10、11、23、28

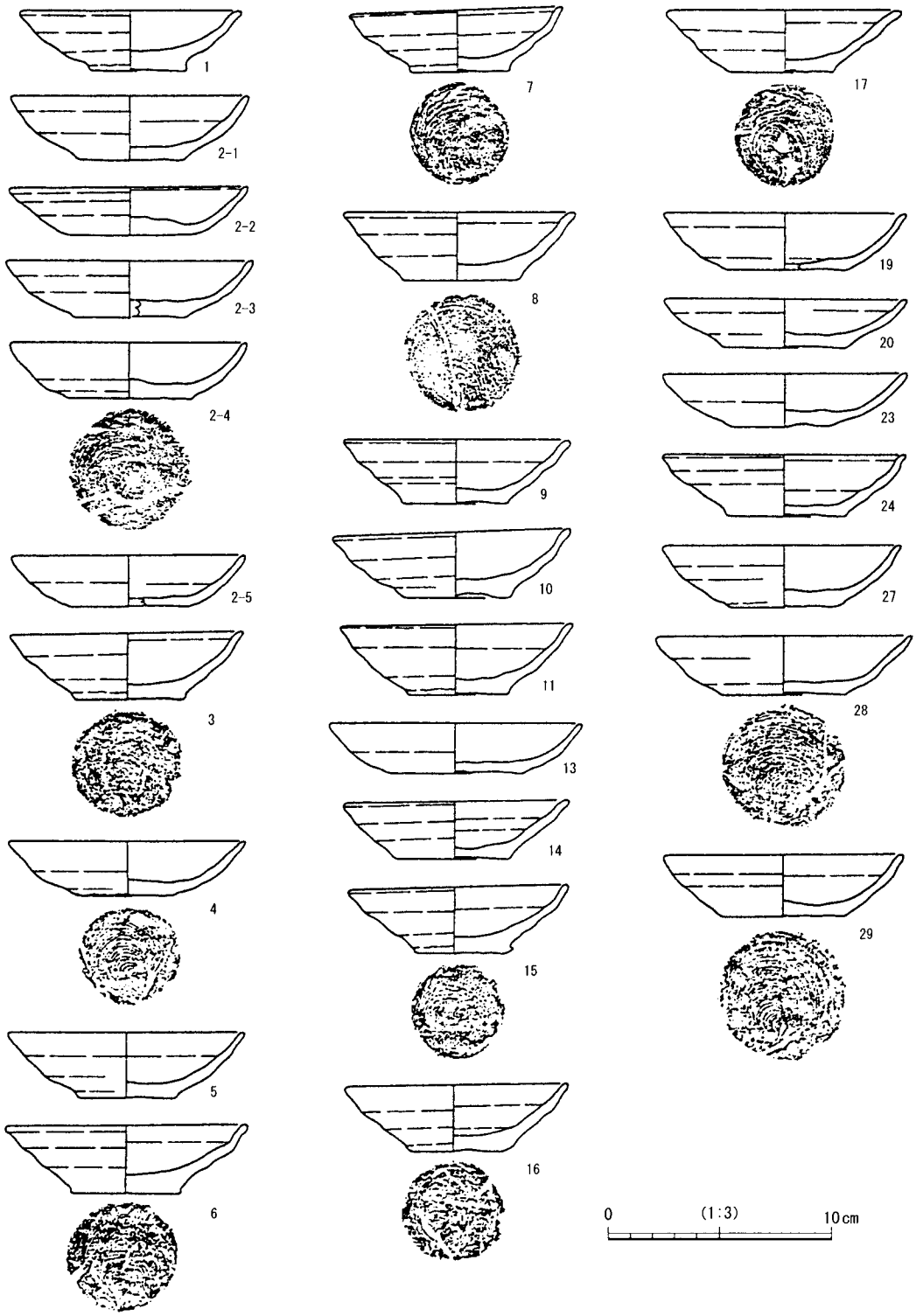
第 33 図　第 1 号土器埋納穴出土遺物実測図 (1)



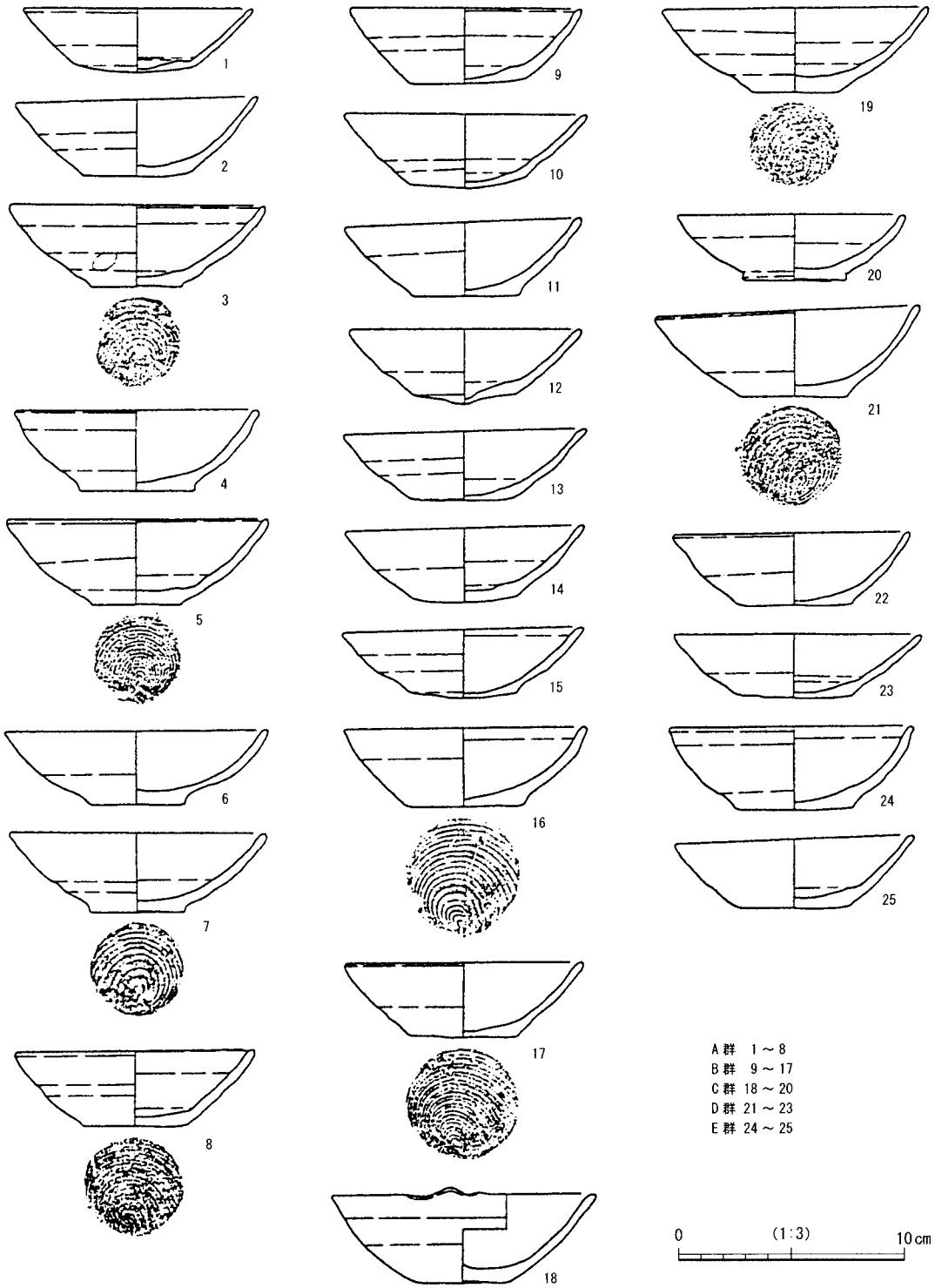
第 34 図　第 1 号土器埋納穴出土遺物実測図 (2)



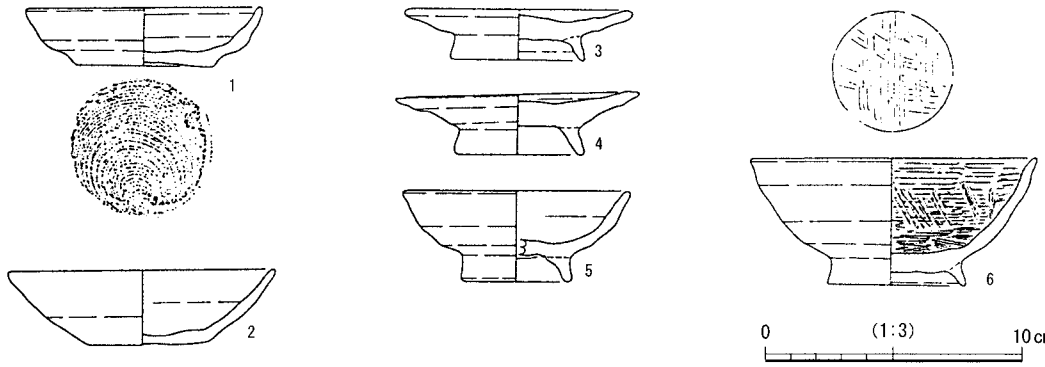
第 35 図　第 1 号土器埋納穴出土遺物実測図 (3)



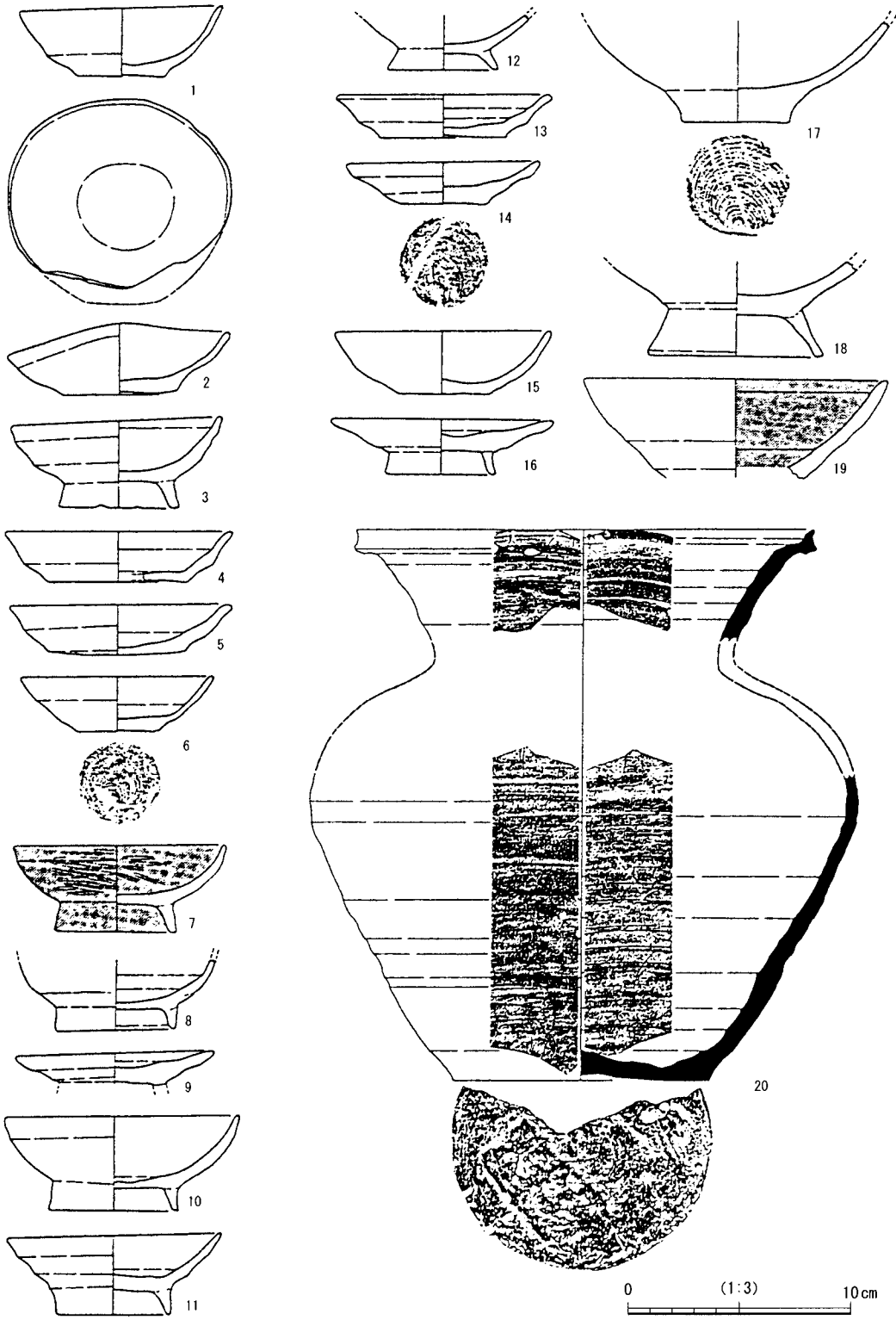
第 36 図　第 2 号土器埋納穴出土遺物実測図



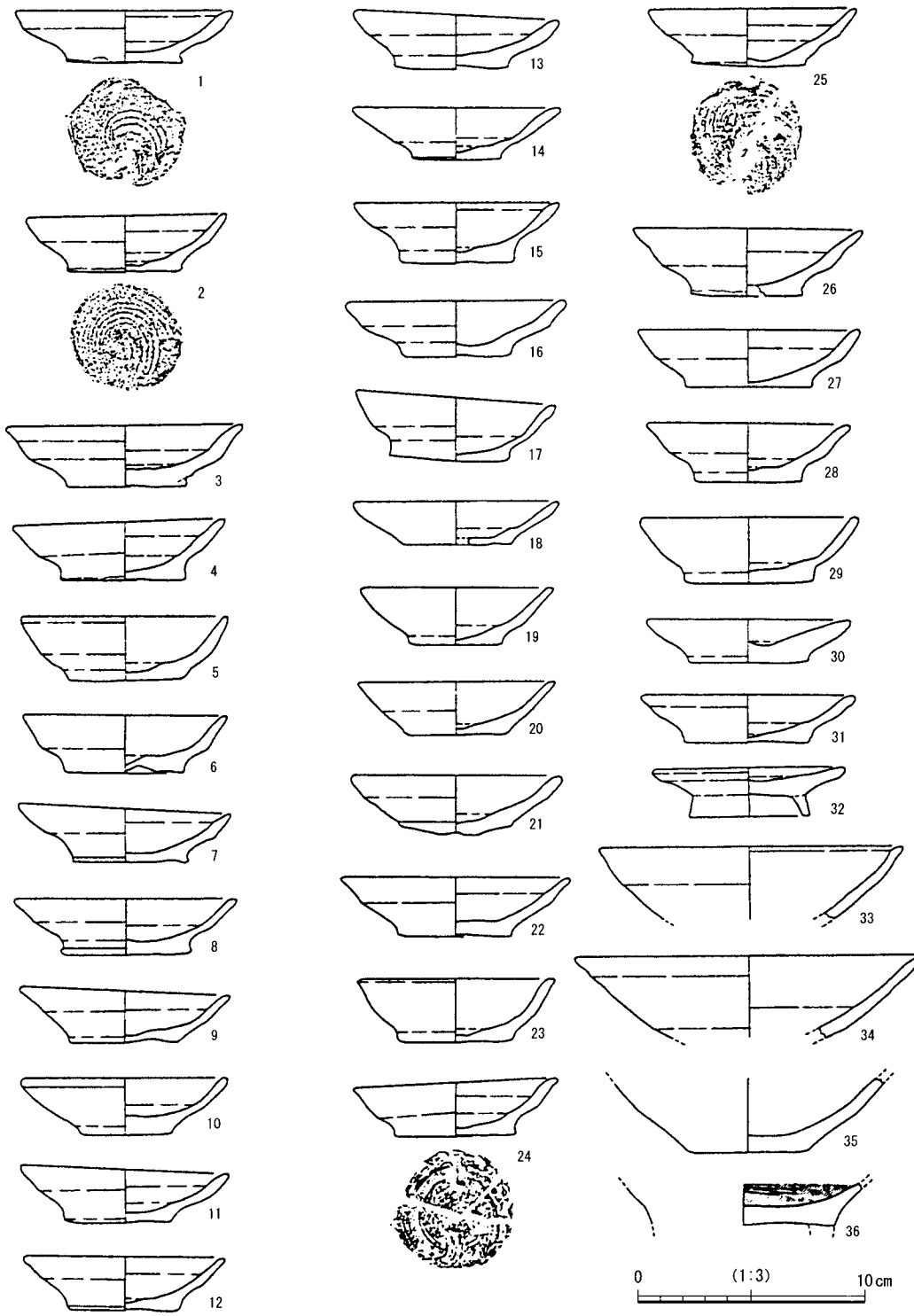
第37図　第3号土器埋納穴出土遺物実測図



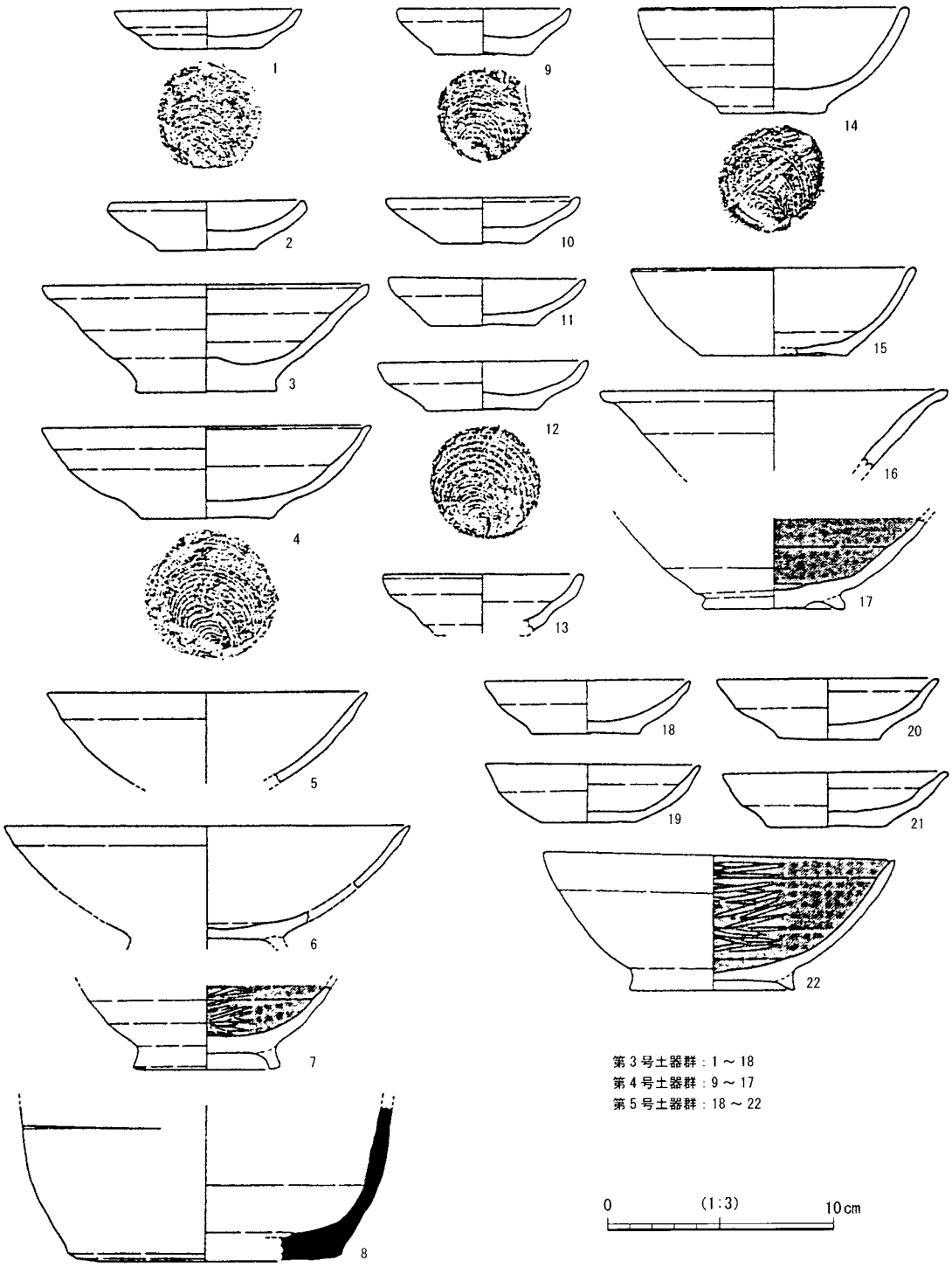
第 38 図　第 4 号土器埋納穴出土遺物実測図



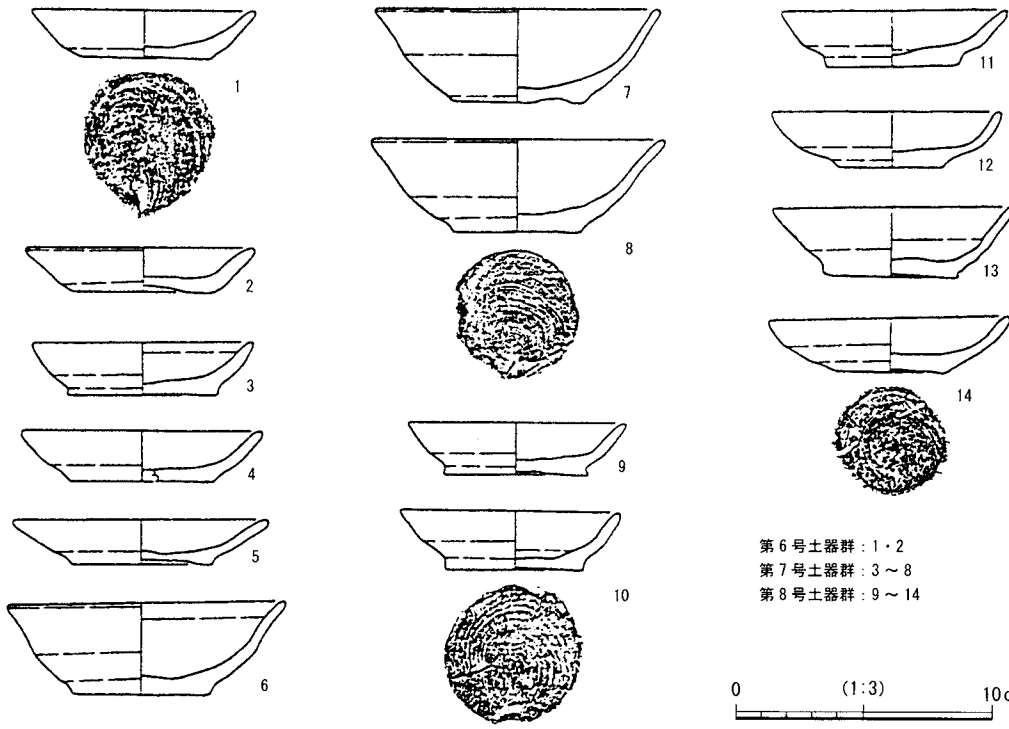
第 39 図　第 1 号土器群出土遺物実測図



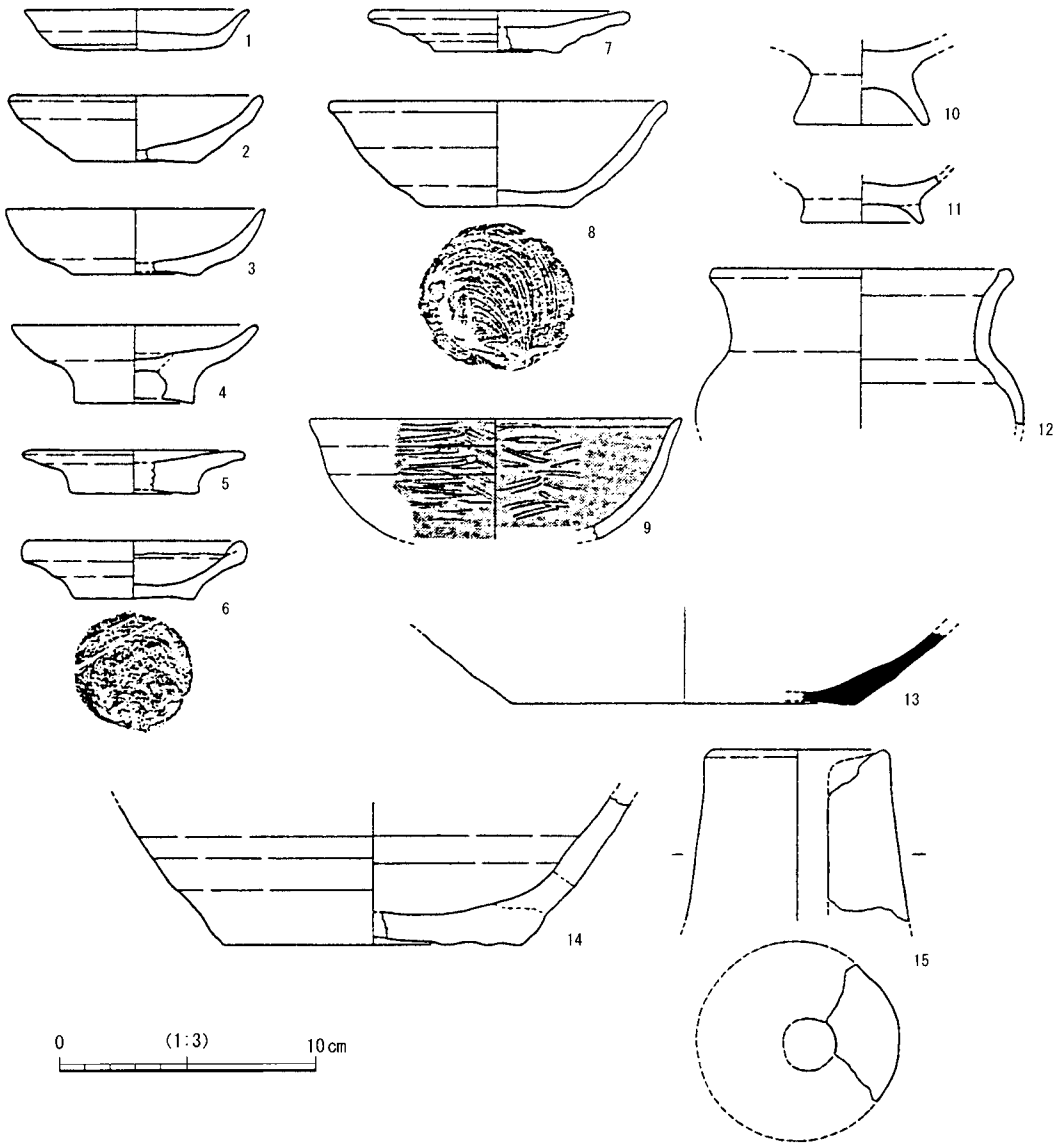
第 40 図　第 2 号土器群出土遺物実測図



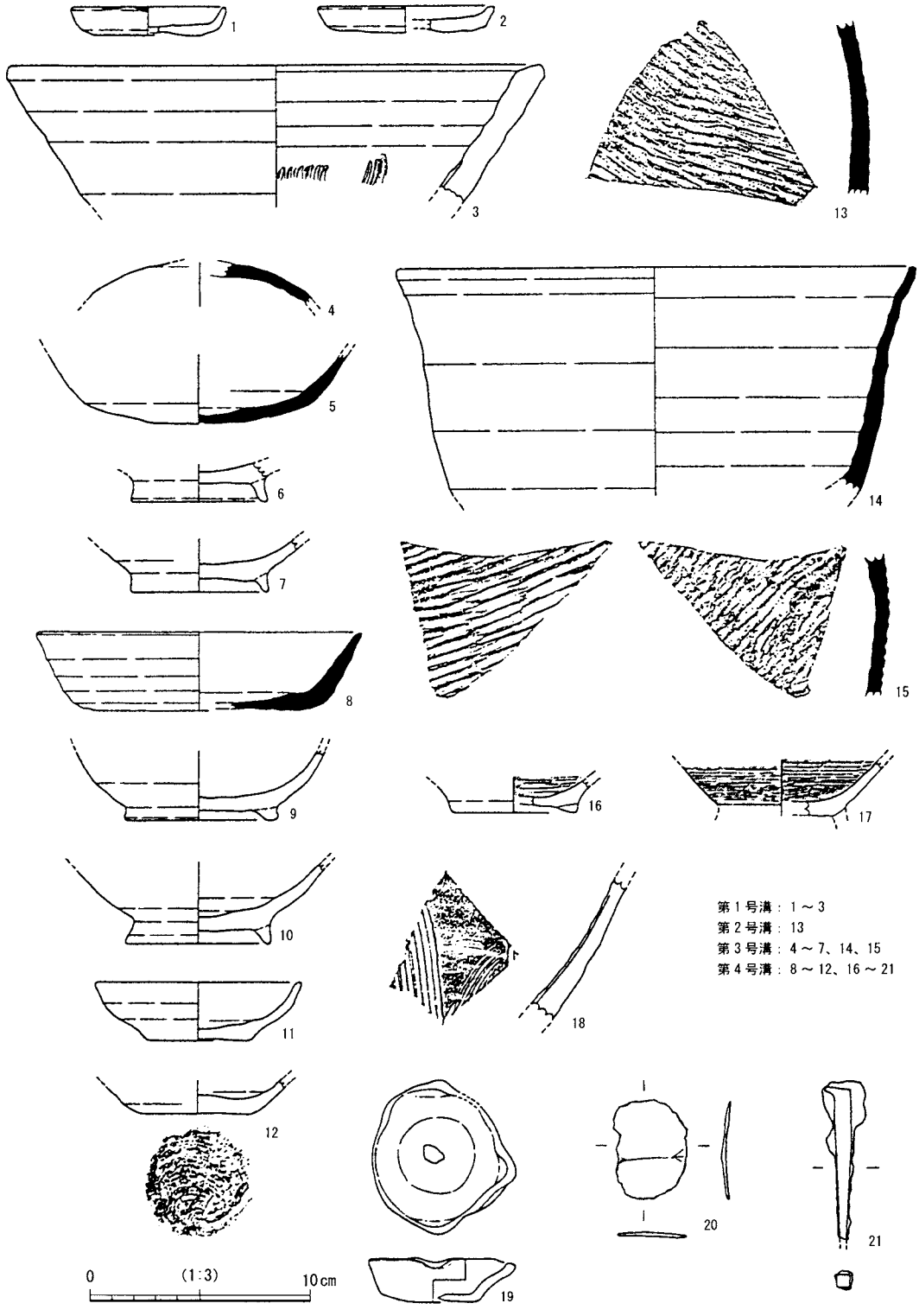
第41図　第3号～第5号土器群出土遺物実測図



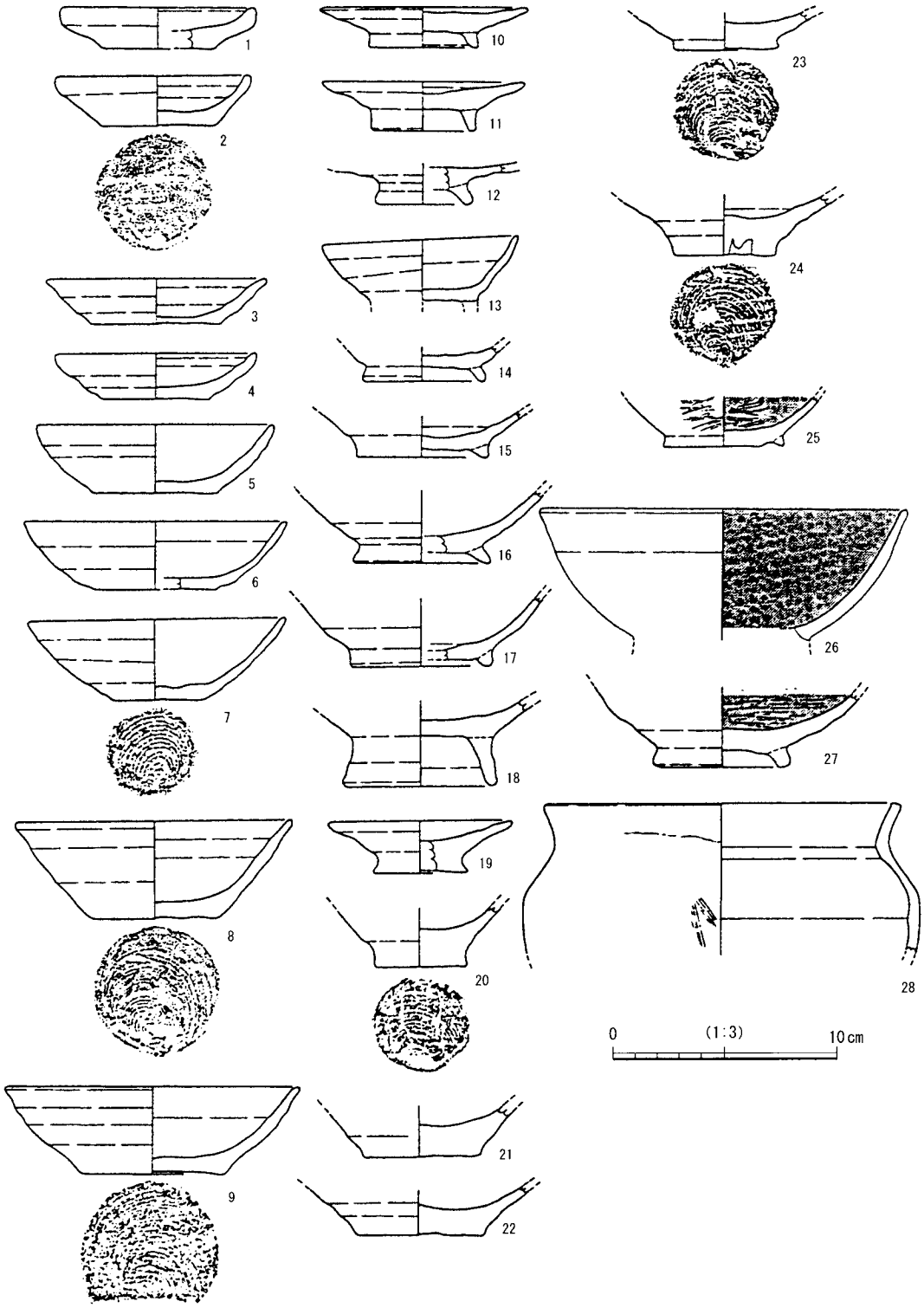
第42図　第6号～第8号土器群出土遺物実測図



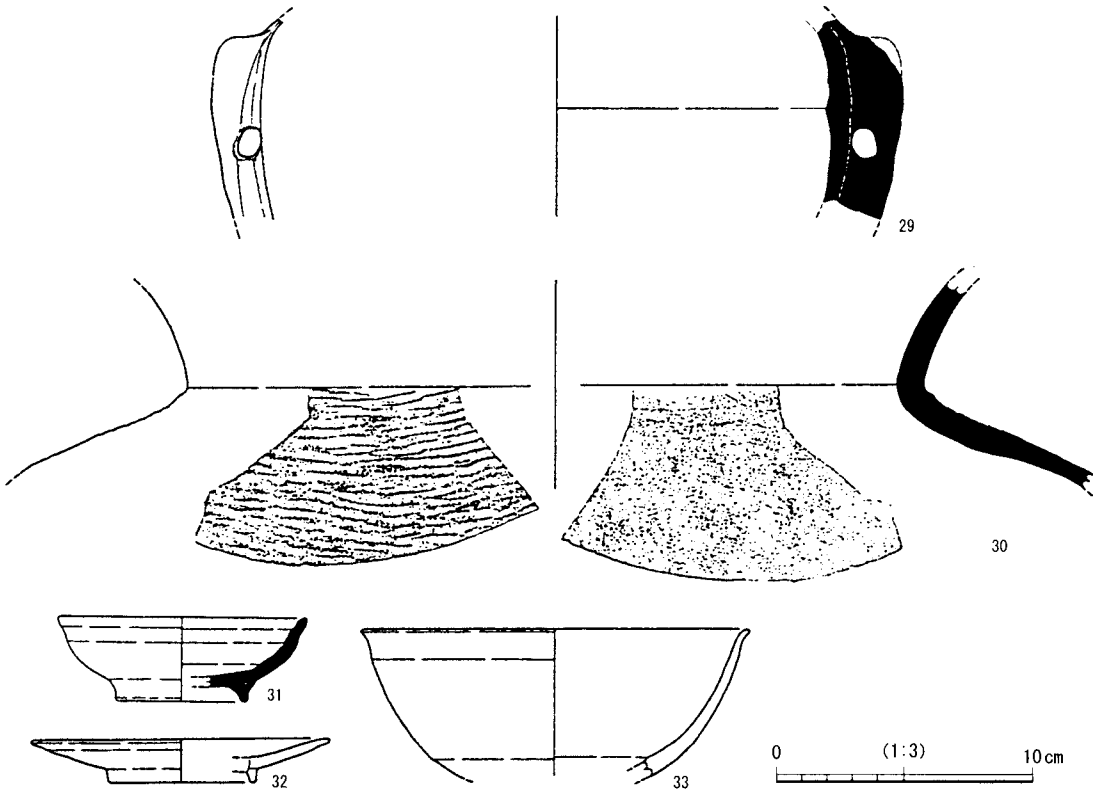
第43図　第1号溝出土遺物実測図



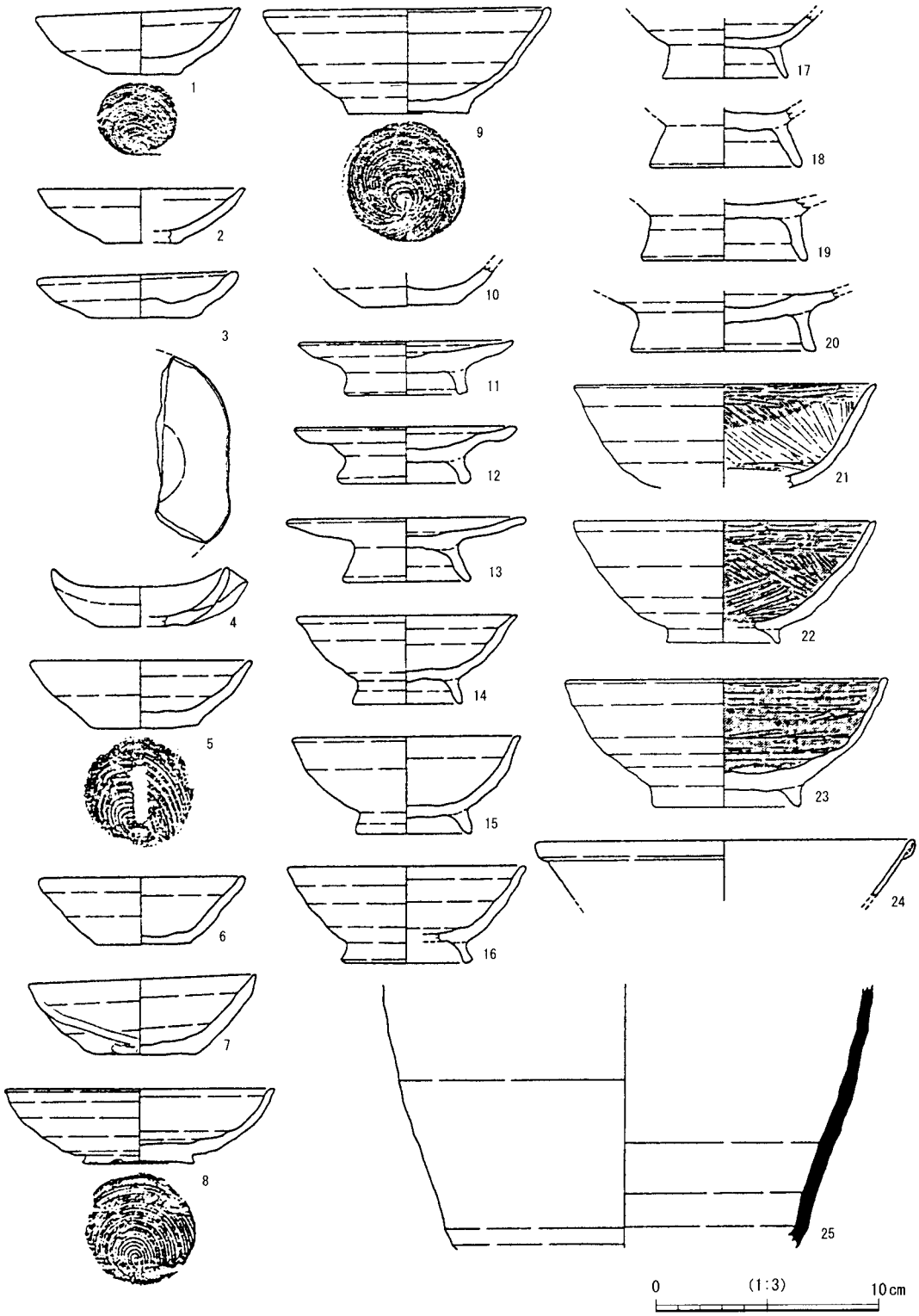
第44図　第1号～第4号溝出土遺物実測図



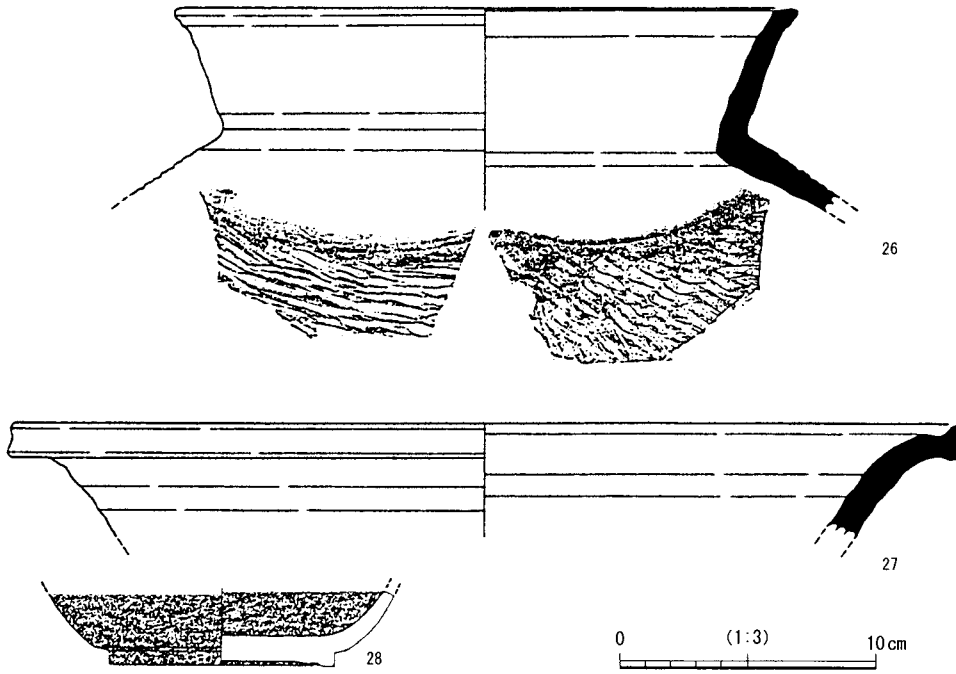
第 45 図　第 5 号溝出土遺物実測図 (1)



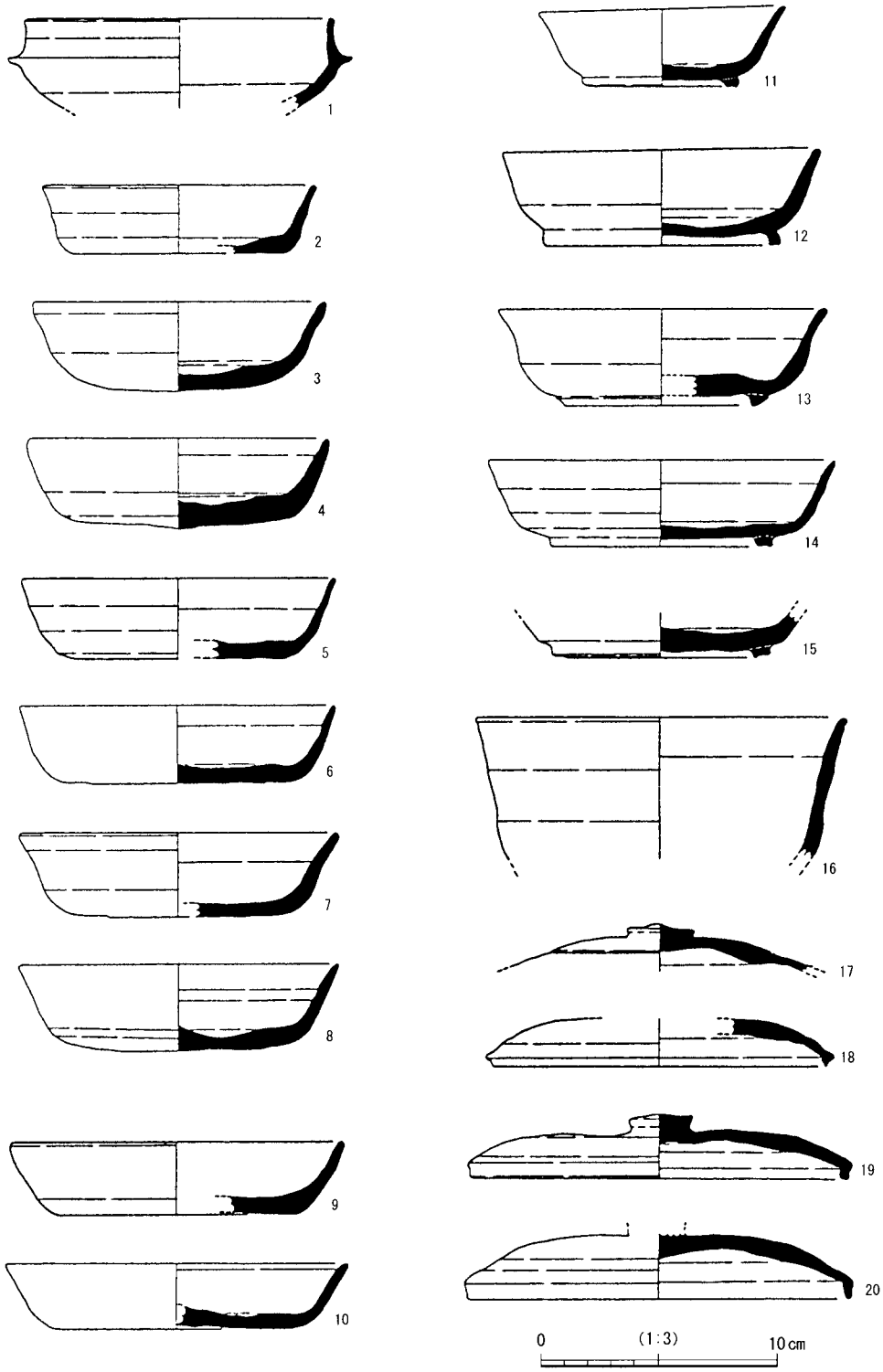
第 46 図　第 5 号溝出土遺物実測図 (2)



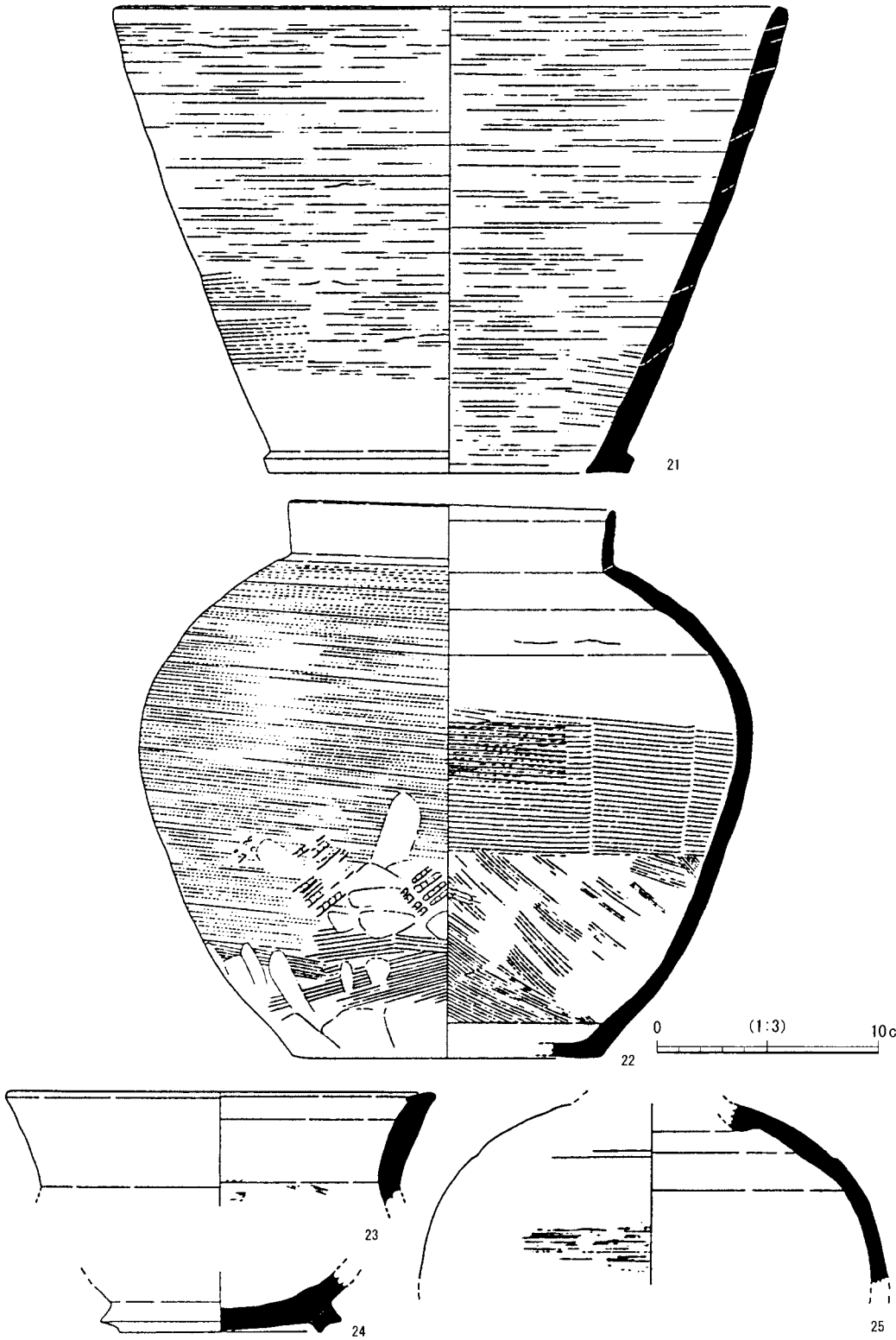
第47図　第6号溝出土遺物実測図 (1)



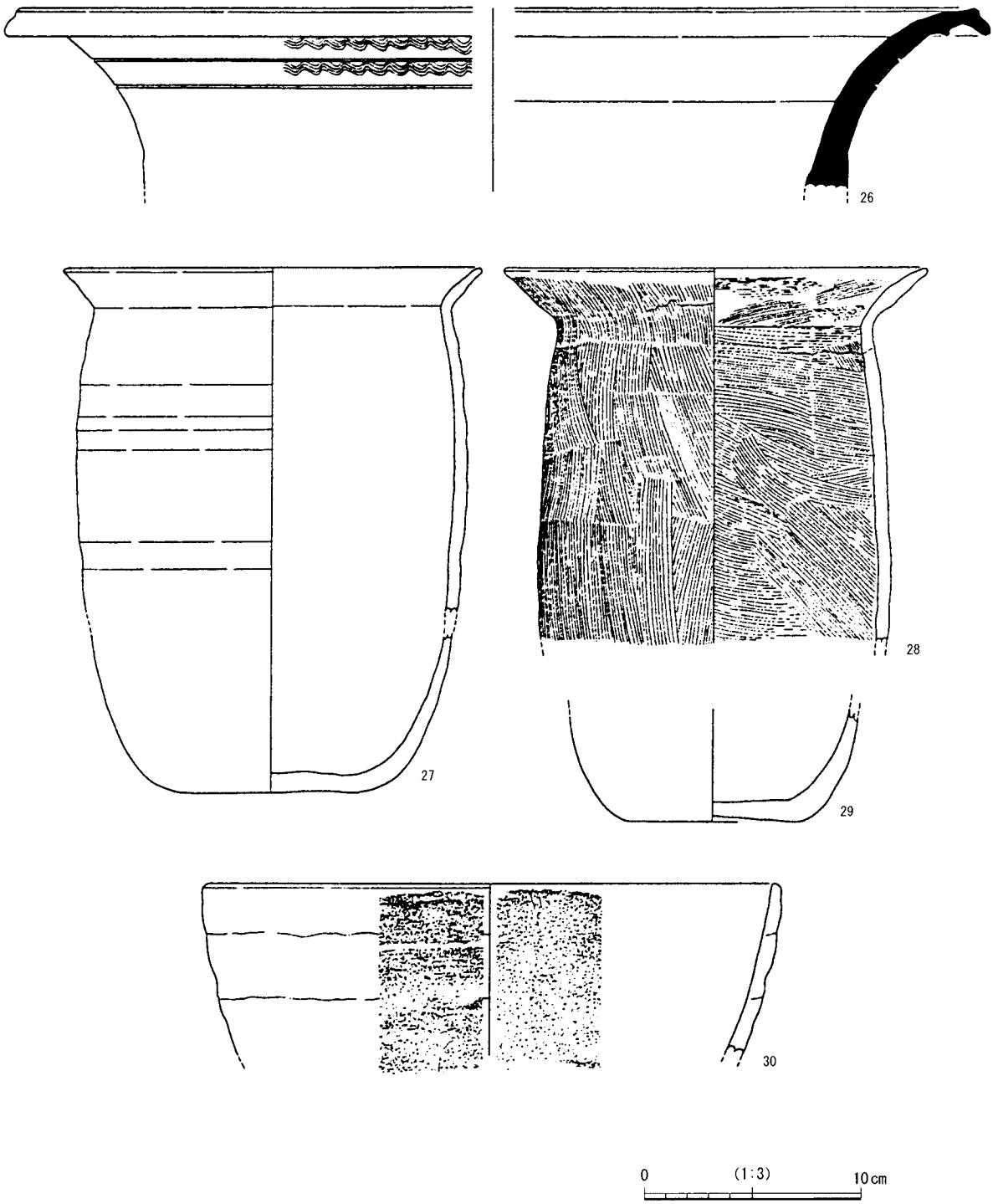
第 48 図　第 6 号溝出土遺物実測図 (2)



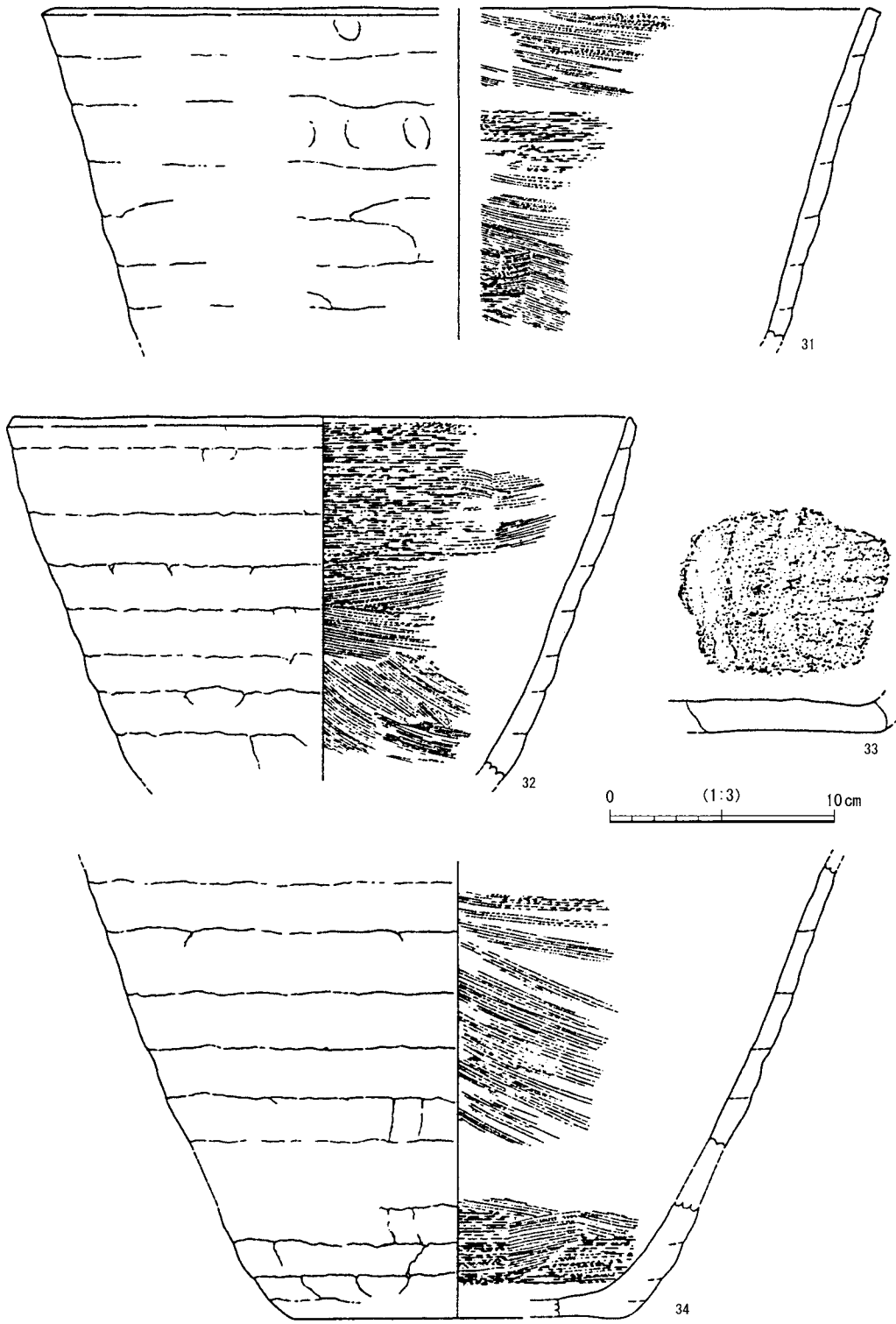
第 49 図　土器集中地点出土遺物実測図 (1)



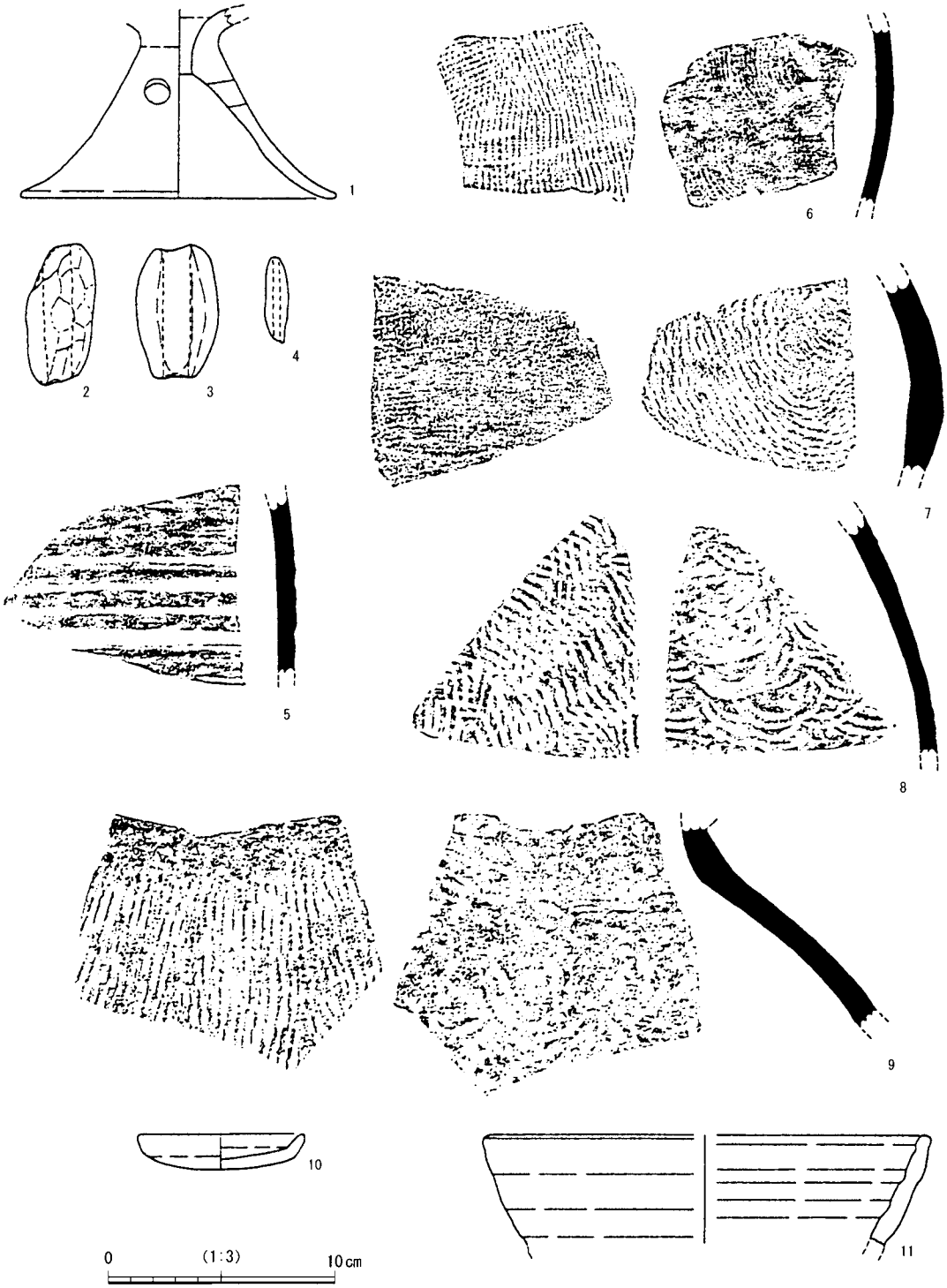
第 50 図　土器集中地点出土遺物実測図 (2)



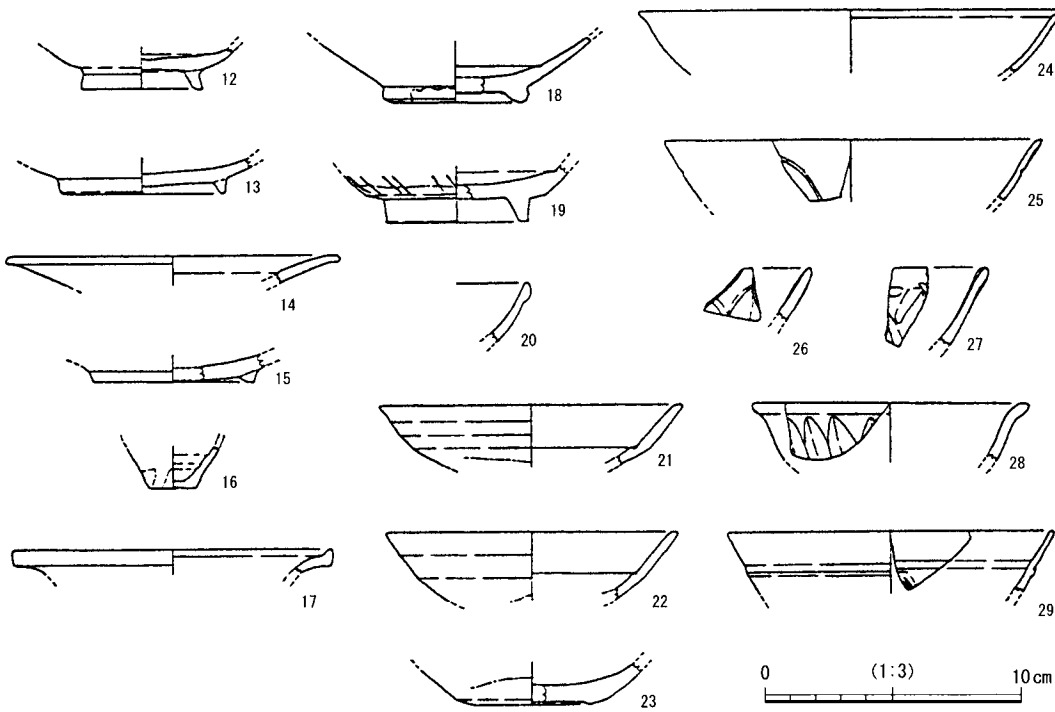
第 51 図　土器集中地点出土遺物実測図 (3)



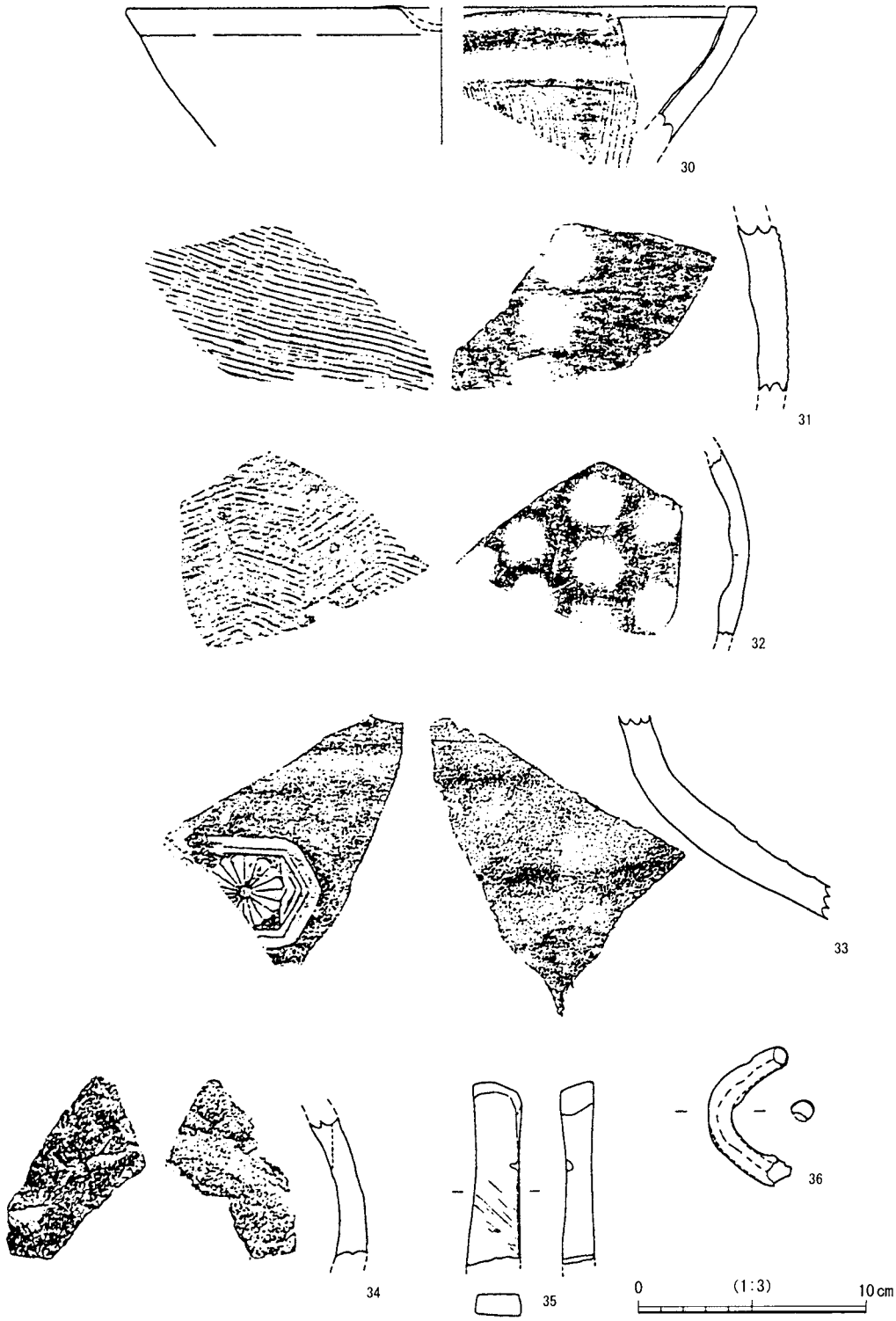
第 52 図　土器集中地点出土遺物実測図 (4)



第 53 図　包含層出土遺物実測図 (1)



第 54 図　包含層出土遺物実測図 (2)



第55図　包含層出土遺物実測図 (3)

第４章　北吉田フルワ遺跡

丘陵に立地する本遺跡は最高所が標高36mで、水田部との比高は34mを測る。米町川下流の沖積低地が三方に広がる小丘陵に集落と古墳が複合して存在する。

本遺跡は、昭和61年度の古墳群調査中に新たに確認されたものである。丘陵上半部の全域を占めており、古墳群の構築に先立って営まれた弥生時代後期の集落である。竪穴住居と溝で構成される集落は、丘陵頂部を中心として、東西約48m、南北約42mの範囲に展開する。

竪穴住居は14基確認しており、狭い丘陵上から北側斜面上方にかけて密に分布する。また、溝は、急峻な斜面上方に位置して竪穴住居群を挟むもので、南斜面で1条、北斜面で2条検出した。丘陵における遺構の動きは次の通りである。

第 1 段階　第4号～第14号竪穴住居の構築、北方溝Ⅰの開削。

第 2 段階　北方溝Ⅰの廃止・第1号～第3号竪穴住居の構築、南方溝と北方溝Ⅱの開削。

第 3 段階　北吉田フルワ遺跡の廃絶。北吉田フルワ古墳群の築造。

第１節　竪穴住居(第59図～第73図)

丘陵頂部を中心に14基確認したが全形が遺存するのは第2号・第7号竪穴住居の2基のみである。平面形は方形が大半であるが、第4号・第10号のように円形と見られるものも存在する。また、主柱穴は2個で、地床炉、土坑を備えたものが通用の形状である。構築時期は弥生時代後期で、出土遺物には弥生土器のほか、該期の石製品がある。以下、構築順とは異なるが、第1号竪穴住居から説明する。

第1号竪穴住居

第2号・第3号竪穴住居とともに、北方溝Ⅰを埋めたあとに構築されたものである。第2号竪穴住居に切られている。地形は北西方向が低い。平面形は方形で、西側が失われている。420cm以上×390cm以上である。遺存する一辺には幅12cmの壁溝が確認できる。床面には炉とみられる焼土があり、長径44cmを測る。

出土遺物には土器がある。1は甕、2・3は高坏である。

第2号竪穴住居

全形を知ることができる。北西方向が低い地形である。隅円方形の平面で、400cm×340cm、三方に壁溝がある。P１とP2からなる２本柱である。P1は二段掘りで、径42cm、深さ34cm、P2は径30cm、深さ26cmを測る。P1・P2の芯々距離は150cmである。東側に長さ140cmの土坑P4がある。炉と見られる焼土は40×30cmである。壁溝は北で幅12cm、深さ5cm、南で幅18cm、深さ5cmである。

出土遺物には土器、石器がある。4～7は甕で、4・5は受口状口縁をもつ近江系である。8・9は高坏で、9は棒状脚である。10・11は器台で、10は裾部径19.1cm、内面に指オサエが見える。12は磨石で、長さ15.1cm、幅8.9cm、厚さ7.4cmである。

第3号竪穴住居

立地は北側が低い。隅円方形で、南西隅のみ残る。現状で東西280、南北200cm残る。床面には炉の焼土が残る。径60cm。壁溝は、隅で幅30cm、深さ7cmである。

出土遺物は、1～3が甕で、1は近江系の受口状口縁をもつ。4は高坏で、棒状脚である。

第4号竪穴住居

地形は北西が低くなる。平面は円形と見られる。南半部が残る。400×260cm。床面には柱穴も焼土も確認できない。壁溝は幅30cm、深さ8cmである。

出土遺物は、5～7の甕である。5は受口状の有段口縁で、列点文を口縁部と肩部に施す。口径16.0cmである。

第5号竪穴住居

地形は北が低くなる。南の一辺のみ残る。平面方形で、幅360cm、長さ240cm。柱穴、炉などは見えない。建て替えられたようで、西の壁溝が二重になっている。東側の壁溝は幅40cm、深さ10cmである。出土遺物には、1の鉢と2の甕がある。

第6号竪穴住居

地形は北北西方向に低い。平面方形、南の一辺のみ残る。柱穴などは見えない。幅400cm。壁溝は幅26cm、深さ6cmである。出土遺物には、3の甕が１点ある。

第7号竪穴住居

尾根頂部に営まれており、西に第8号竪穴住居が接している。平面方形で、四周に壁溝があり、東辺に土坑(P3)がつくられている。東西420cm、南北514cmを測る。柱は2箇所で、P1は径36cm、深さ36cm、P2は径36cm、深さ38cmを測る。P1、P2の芯々距離は200cmである。土坑P3は平面方形で、二段掘りである。東西90cm、南北116cmで、深さは62cmある。一段目テラスまでの深さは12cmである。壁溝は、東辺で上端59cm、下端10cm、深さ15cm、西辺で上端50cm、下端16cm、深さ９cm、南辺で上端58cm、下端12cm、北辺で上端52cm、下端20cmを測る。床面は東西310cm、南北400cmである。P1とP2の間に炉がある。70×50cm。焼土はこのほか北辺で３か所、東辺で１か所見られる。

出土遺物には、土器と砥石がある。3～5は甕である。4は近江系である。1・2は鉢である。1は口径15.4cmで、外面に煤が付着する。2は口径17.5cm、高さ12.7cmで、外面に煤が付く。6は砥石で、四面を使っている。厚さ3.0cmである。

第8号竪穴住居

地形は北西が低い。平面方形で、二辺が残る。410cm×410cm。中央に炉があり(42×34cm)、これに接して柱穴がある。径30cm、深さ53cmである。一辺には平面が不整円形の土坑があり、径80cm、深さ13cmを測る。壁溝は最大幅32cm、深さ13cmである。

出土遺物には1の甕、2の壺がある。甕は口径16.8cmで、口縁部に刺突文、頸部に櫛描直線文、肩部に櫛描波状文を施す。近江系で、口縁端部はフラットである。2の壺は直口で口径9.2cmである。内外面ともタテにミガキを施す。

第9号竪穴住居

南南東が低い地形に占地する。平面方形である。北辺のみ遺存しており、幅544cmを測る。壁溝は、幅40cm、深さ8cm、床面に柱穴や炉は確認できない。出土遺物に、棒状脚をもつ高坏がある。

第10号竪穴住居

ほぼ南が低い地形にある。9号竪穴の西に接する。平面円形である。北側の一部が遺存しており、径510cmを測る。壁溝に接して76cm×70cm、平面方形の土坑がある。深さは60cmである。壁溝は、最大幅44cm、深さ15cmである。本竪穴の南には、これを切った最大幅190cmの溝があるが、近代以降の所産である。

出土遺物は、1～3が甕、4～7・10が壺である。6は口径15.4cm。10は直口壺で、口径19.0cm、頸部の高さ16.0cmである。8～12は高坏である。11は裾部径16.2cm。12は柱状有段脚で、段部に綾杉状の刻みを施し、その下は全周に小さな円孔を配置する。

第11号竪穴住居

地形は南西が低い。平面方形で東半部が遺存する。東辺360cm、遺存幅240cmである。床面中央には64cm×40cmの炉が見える。柱穴、土坑、壁溝は確認できない。出土遺物はない。

第12号竪穴住居

竪穴住居群の東端にある。南が低い地形にある。平面方形でほぼ全形を窺うことができる。東西440cm、南北360cmを測る。2本柱で北辺に土坑(P3)をつくる。床面は東西360cm、南北310cmである。中央部には炉がある。柱穴P1は径34cm、深さ68cm、P2は径34cm、深さ68cmである。P1・P2の芯々距離は140cmである。P3は北辺中央にあり、平面方形である。2段掘、60cm四方で、深さは43cmある。下段は東西42cm、南北46cmで、深さ27cmである。炉は二つの柱穴の中程にあり、36cm×34cm。壁溝は、東で上端40cm、下端6cm、深さ12cm、南で上端22cm、下端8cm、北で上端46cm、下端8cmである。

出土遺物は、1～5が甕、6が壺である。1の口縁部には凹線、2には列点文が見える。5の甕は頸部にしまりがない。6は口径18.9cmである。

第13号竪穴住居

立地は南西が低い。壁溝が一部残るのみで、平面形、規模は不明である。出土遺物はない。

第14号竪穴住居

立地は南南東が低い。平面方形であるが、隅が鈍角をなしている。遺存する最大幅42cmで壁溝幅は16cmを測る。出土遺物はない。

第2節　溝(第74図～第92図)

溝と呼称するが、環濠とすべき遺構で、竪穴住居群を囲むものとして一体的に構築されたものであろう。竪穴住居群との先後関係は前述の通りで、はじめに南方溝と北方溝Ⅰが尾根上の竪穴住居を囲んで開削されたものである。

出土遺物には、弥生時代後期の土器と該期の土製品がある。出土量は南方溝と北方溝Ⅱに多く、北方溝Ⅰは少ない。

なお、北方溝Ⅱの覆土に切り込んだ連続する8基の土坑は、「シカの落とし穴」と伝えられるものである。いずれも開口しており、径約120cm、深さ約300cmを測る。近代以降の所産であろう。

南方溝

標高29～30mを走行する。延長70m検出した。規模を三ヶ所の断面で見よう。a－b断面、c－d断面とも下端を狭くつくるV字形を呈している。a－b断面では上端230cm、下端36cm、下方の肩部からの深さ(以下同じ)は138cmである。c－d断面は、上端220cm、下端25cm、深さ120cmを測る。e－f断面は逆台形で、上端230cm、下端90cm、深さ90cmを測る。このように断面の形状は東がV字、西が逆台形となっているが、上端の規模は220～230cmと一定している。

出土遺物は、第9・10・12・14号竪穴住居など、尾根の南側にある竪穴住居から廃棄されたものが大半であろう。

1～21は甕である。4～8は、くの字口縁、1～3、9～14、16～21は有段口縁で、うち1～3、9・10・12が受口状口縁をもつ。受口状口縁甕は口縁部や肩部に連続刺突文を施す近江系のものが目立つ。6は口径15.6cm、8は口径12.8cm、高さ8.5cm、底径3.3cmの小形甕である。12は口径19.8cm、高さ34.5cm、胴部最大径27.2cm、底径4.7cmを測る。19は口縁下端を引き出すもので、口径23.6cm、高さ29.5cm、底径6.3cmである。22は鉢、23～34は壺である。23・26・27・28・32は有段口縁、24・25・31は有段ではないが、口縁端部をつまむ。29・30は直口で、30は口頸部が短く、外面に赤彩を施している。31は長頸の広口壺である。31・32は口縁部に円形浮文を付けており、32は2個一対で全周に8ヶ所見える。口径30.5cm。33は小形品で外面に赤彩が見える。口縁部を欠いており、現存高6.3cmである。34は水差形土器で、肩部に半環状把手をつける。36～45は高坏で、36～42は柱状脚である。36は口径29.5cm、高さ23.7cm、裾部径21.0cmで、裾部に円孔を置く。37は、坏部に把手をもち、端部内外面に赤彩がある。口径29.0cm、高さ22.3cm、裾部径22.7cmである。裾部に透孔が4か所にある。38も把手がある。40は裾部径19.6cm、41は外面赤彩で裾部径18.0cmを測る。43から45は脚部が開く。44は外面赤彩である。46～50は器台で、46・47は鼓胴形を呈する。46は、口径20.8cm、高さ16.5cm、底径16.8cmで、口径が底径より大きい。裾部に全周で4か所に円孔を置く。47は口径17.0cm、48は底径17.6cm、50は底部端部の内外面に赤彩を施している。51は把手付注口土器の注口部である。現存長11.2cmで、先端に向かって幅を減じており、体部側の径2.8cm、先端側の径は2.5cmである。体部側の内径は2.0cmある。3ヶ所に沈線が見られ、先端側には沈線間に斜行刻文が入っている。赤彩が施されていた可能性がある。

北方溝Ⅰ

標高32～33mで延長約45m確認した。断面形は、a－b断面、g－h断面では下端を広くとる逆台形を呈し、c－d断面、e－f断面ではV字形を呈する。a－b断面では上端192cm、下端30cm、深さ90cm、c－d断面では上端210cm、下端24cm、深さ90cm、e－f断面では上端120cm、下端は狭く20cm、深さ110cm、g－h断面では上端180cm、下端36cm、深さ120cmである。北側に土塁を確認した(第82図g－h断面)が、第1号竪穴住居により上半は削平されている。

出土遺物、1～7が甕である。1～4は近江系であろう。5は口縁部に擬凹線、肩部に列点文が見える。10は壺で頸部に2ヶ所円孔が見える。底径3.5cm。8は高坏である。9は鉢で、体部上半にミガキ調整を施す。口縁部に刺突文が見える。体部外面には黒斑がある。11・12は器台である。11は口径16.7cmである。

北方溝Ⅱ

標高29m付近に延長約50m確認した。北方溝Ⅰより3～4m低い位置に、近似する形状で構築されているが、東側には続いていない。a－b断面では、上端160cm、下端は20cm、深さ90cm、c－d断面では、上端180cm、下端42cm、深さ130cm、e－f断面では上端190cm、下端は80cmと広い。深さ60cmである。

出土遺物はすべて土器である。1～38・82は甕で、大半が有段口縁である。1～8は口縁部が開くもので、口縁部外面や肩部に列点文を施すものも見える。14～21・24・25は口縁部が垂直に立ち上がる。22・23はやや外開きの口縁部で端部を平坦につくる。27～34は擬凹線をもつ。9～13はくの字口縁である。3は口径18.1cm、外面口縁部と体部下半に煤が付着する。4・6・7も口縁部に煤が見える。10は口径17.0cm。10～13は体部外面に煤が見える。39は底部に孔が見える。甑であろうか。40～49は壺である。40は有段口縁、40・41の外面および口縁部内面に赤彩が見える。42は体部下半に最大径をもつ。44は口径16.0cm、46は口径15.2cmである。49は胴張りの体部で、中位に最大径がある。口径16.7cm、体部最大径34.7cmを測る。82は小型甕である。有段口縁で、口径12.8cm、高さ14.1cm、底径4.2cmである。50～67、70～72、77～79は高坏である。51は坏部が浅い。50～57は柱状脚である。51は口径28.7cmで、外面と坏部内面に赤彩が見える。54は裾部に2個一対の孔を4か所配置する。55は底径19.5cmを測る。57は裾部全周に5か所の円孔を置く。58～67、70は裾部が開く。61は口縁部内外に赤彩を施す。63は口径30.6cm、64は口径27.1cmである。65は裾部径17.0cmで透孔が4か所にある。66・67も透孔4個である。68・69、73～81は器台である。68は底径16.0cm、69は裾部端に赤彩がある。73は内外面赤彩で、口径21.5cm。75は口径19.4cm、77は底径16.3cm、外面に赤彩が見える。80は底径15.3cm、81は底径21.0cmである。83～89は鉢である。85は外面に赤彩がある。86は口径19.3cmで外面全体に煤が付く。87は短い頸部をもち、頸部に円孔が見える。口径13.9cm、胴部最大径16.8cmで、体部下半に煤が付着する。88・89は台脚で、88の底径10.0cm、89の底径7.2cmを測る。90・91は小壺で、90の底径3.2cm、91は2.5cmである。92は蓋である。

このほか、北方溝Ⅱの覆土に切り込んだ9基の土坑を検出した。いずれも開口しており、地元で「鹿の落とし穴」と伝えられるものである。径約120cm、深さ約300cmを測る。近代以降の所産であろう

第3節　まとめ

本遺跡は、弥生時代後期に営まれた環濠をもつ丘陵性集落である。造営時期は、後期前半の猫橋式期を中心とするものである。丘陵に営まれ、かつ環濠をもつ集落は、能登では、杉谷チャノ

バタケ遺跡(鹿島郡鹿西町杉谷)、加賀では大海西山遺跡(河北郡高松町字瀬戸町・八野・黒川)、鉢伏茶臼山遺跡(河北郡宇ノ気町鉢伏) がある。

杉谷チャノバタケ遺跡は眉丈山系に営まれたもので、集落分布は3区に分けられる。このうち環濠をもつ集落は東と西にあり、東の集落は標高70mで中期後葉、後期後葉～末葉の竪穴住居が確認されている。環濠の規模は東西約100m、南北50mである。西の集落は標高104mで、中期末の竪穴住居のほか、中期後葉～後期後葉の貯蔵穴16基が検出されている。環濠は最大幅4m、深さ2mで、規模は東西150mに及ぶ可能性がある。谷部では土橋も築かれている。この二つの環濠集落に挟まれて環濠のない集落がある。中期末葉、後期末葉の竪穴住居が検出されており、中期の竪穴からチマキ状炭化米の塊が出土した。

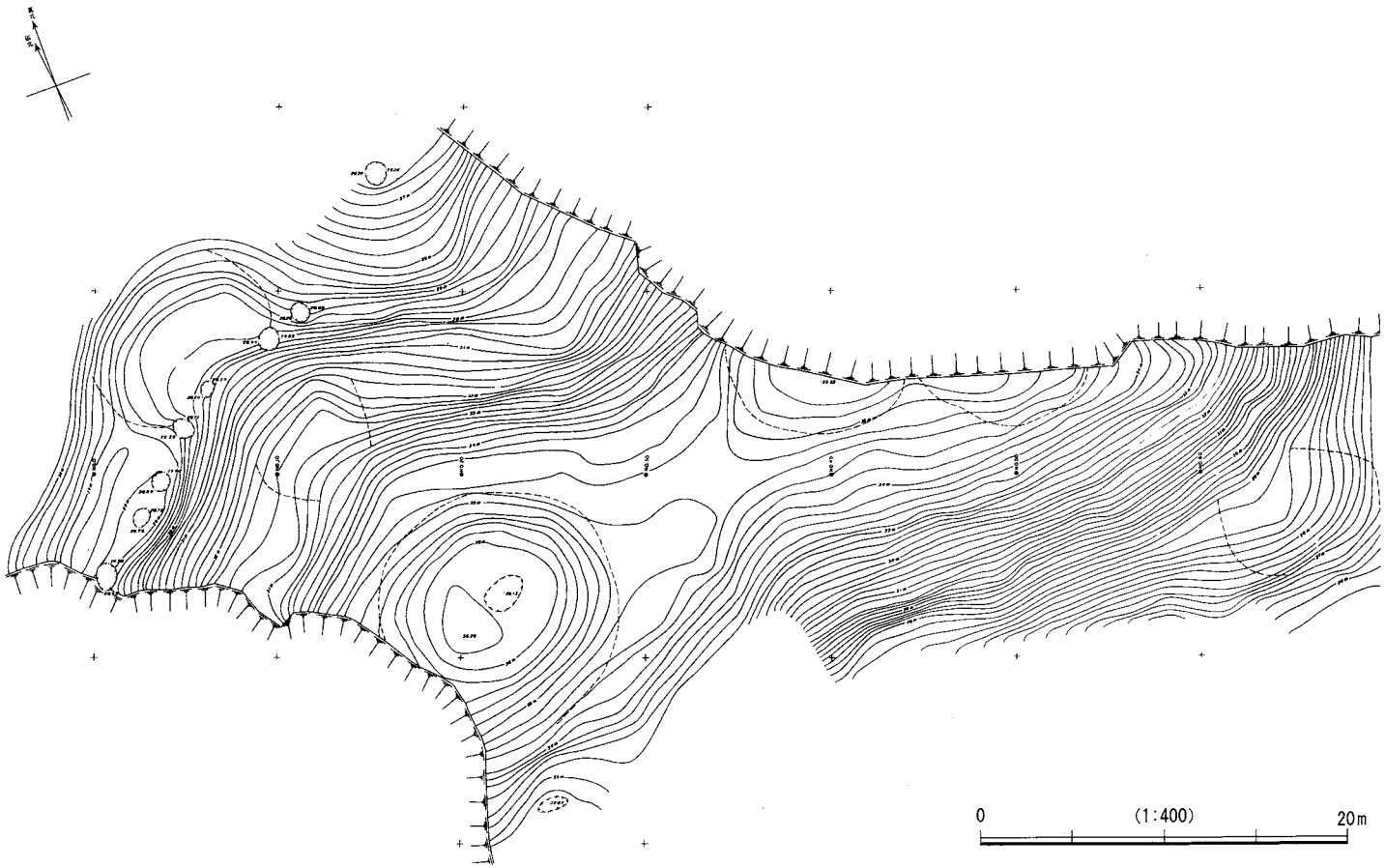
大海西山遺跡は、標高70～78m、比高50～60mで、集落は北と南の2ブロックに分かれる。環濠をもつのはN区と呼ばれる北ブロックで、南北120m、東西85mに竪穴住居が10基検出された。環濠のないS区では竪穴住居9基が散在する。北、南とも集落の造営時期は後期後半である。

鉢伏茶臼山遺跡は、最高所58mの丘陵にあって、比高50mを測る。環濠は東西180m、南北76mである。範囲確認調査のため一部しか掘っていないが、15基の竪穴住居が確認されている。造営時期は、後期後半から末、法仏式期から月影式期である。

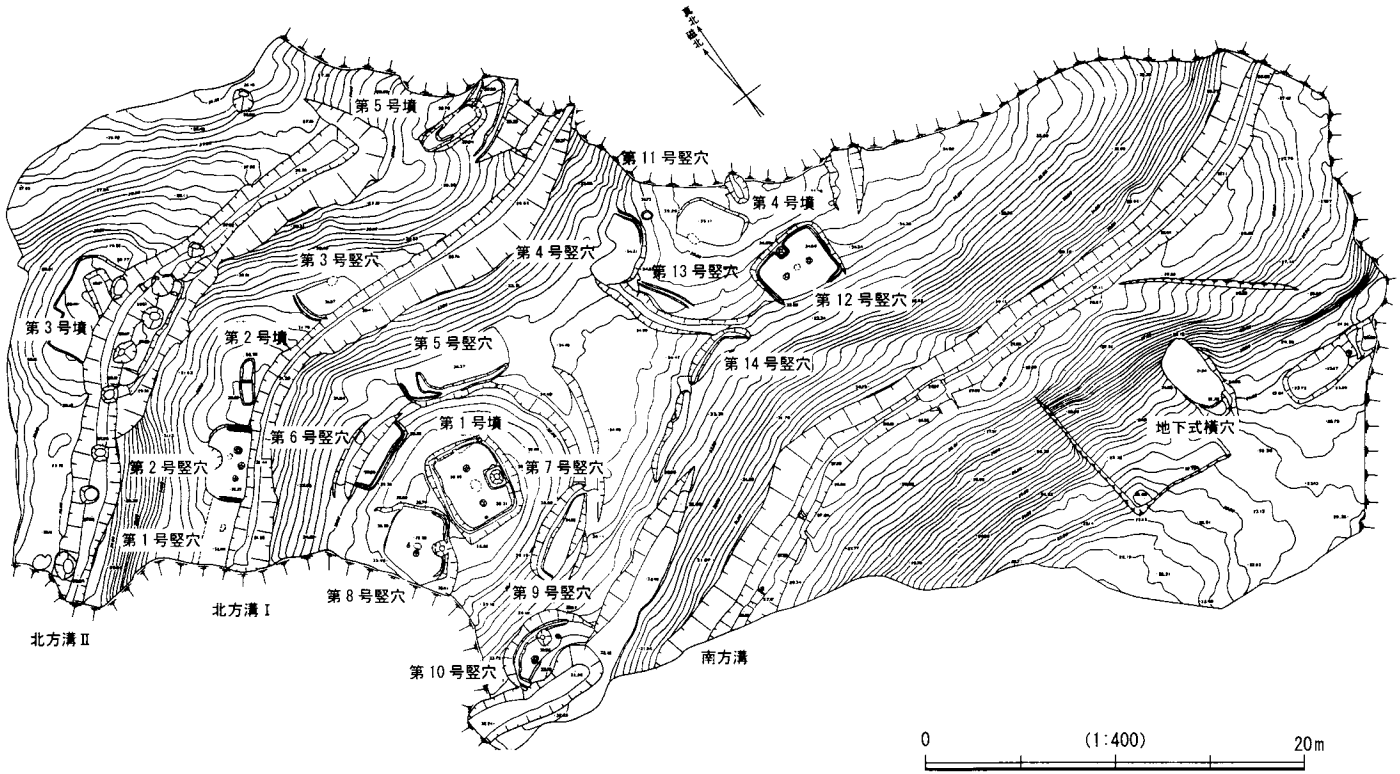
これら丘陵性集落の性格については、環濠をもつことにより「防御性」が指摘されるが、環濠の第一の機能は、集落を区画することにあったと考えたい。

〈参考文献〉

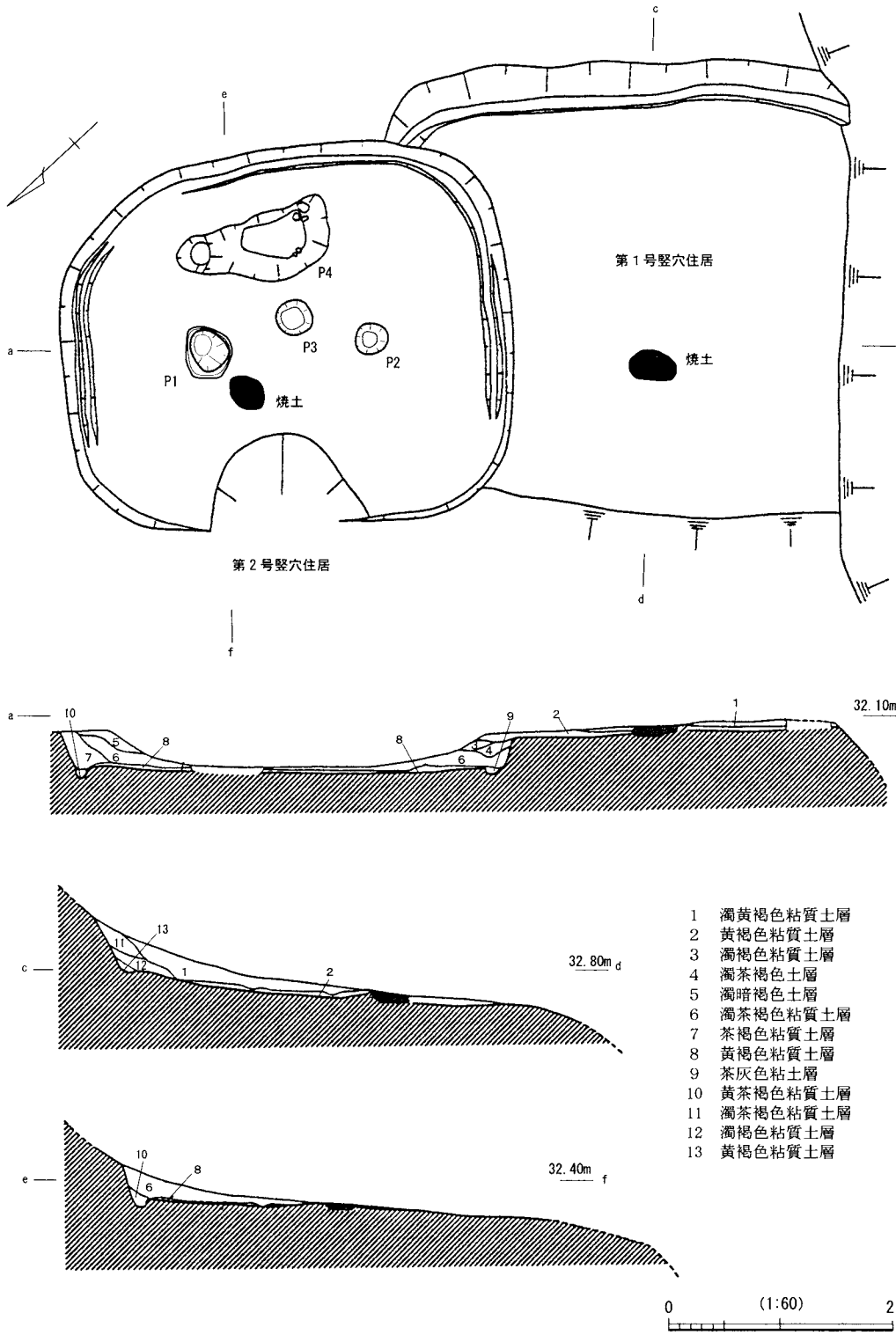
米澤義光・栃木英道ほか『宇ノ気町鉢伏茶臼山遺跡』宇ノ気町教育委員会　1987。
栃木英道「鹿島郡鹿西町杉谷チャノバタケ遺跡A地区」『拓影　第25号』石川県立埋蔵文化財センター　1988。
栃木英道「北陸最古の高地性集落」『拓影　第28号』石川県立埋蔵文化財センター　1988。
折戸靖幸『高松町大海西山遺跡』石川県高松町教育委員会　1992。



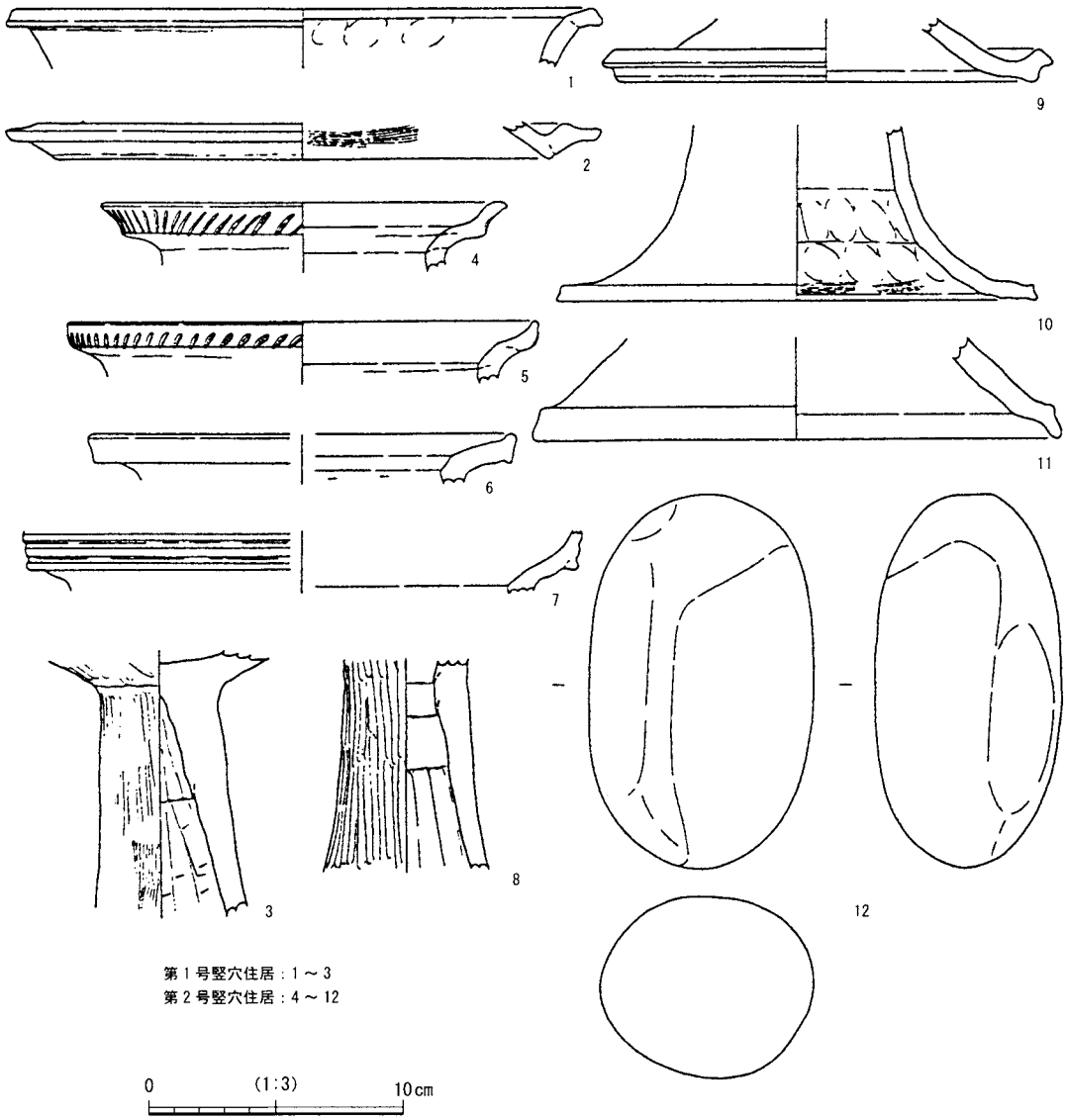
第 56 図　北吉田フルワ遺跡・フルワ古墳群地形測量図



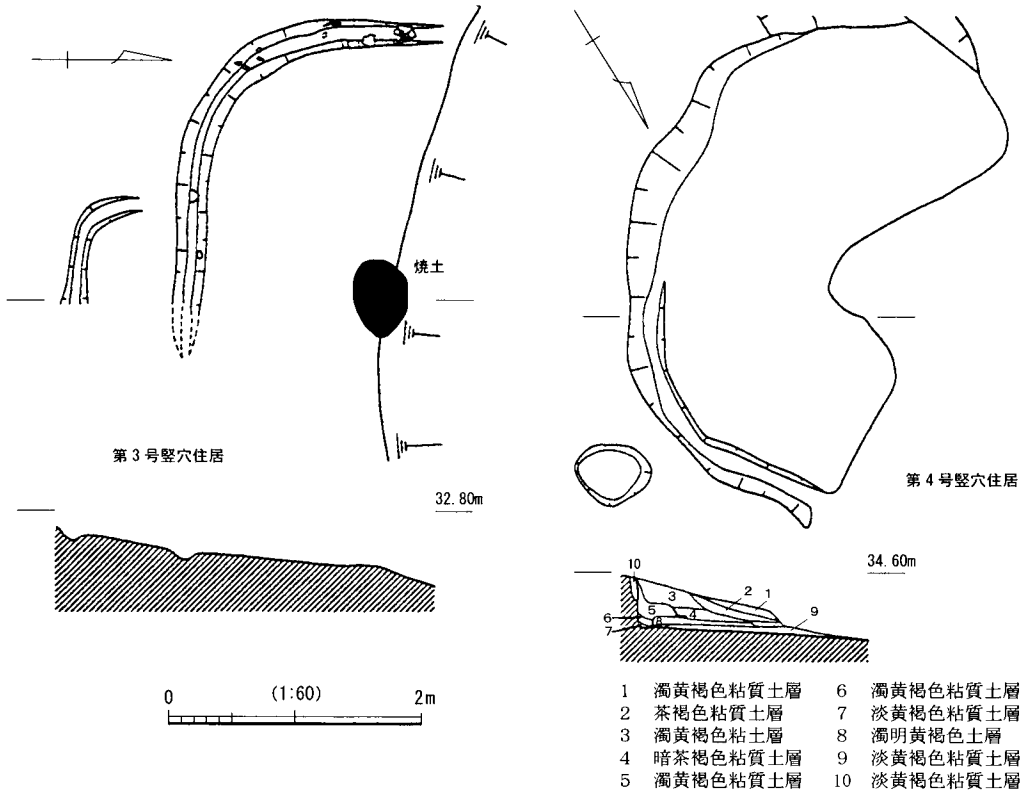
第57図　北吉田フルワ遺跡・フルワ古墳群全体図



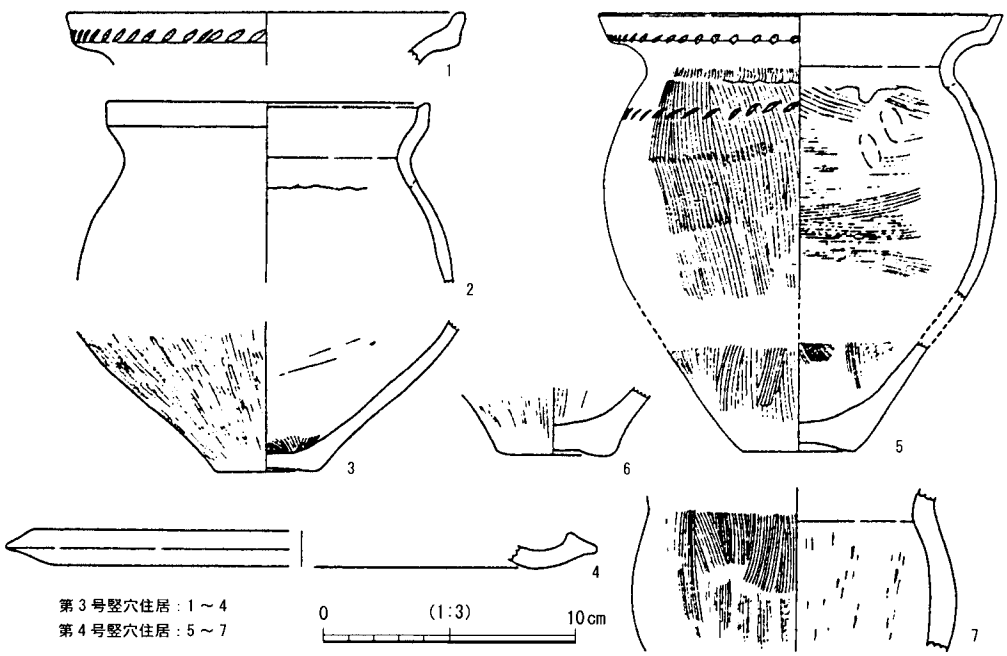
第58図　第１号・第２号竪穴住居実測図



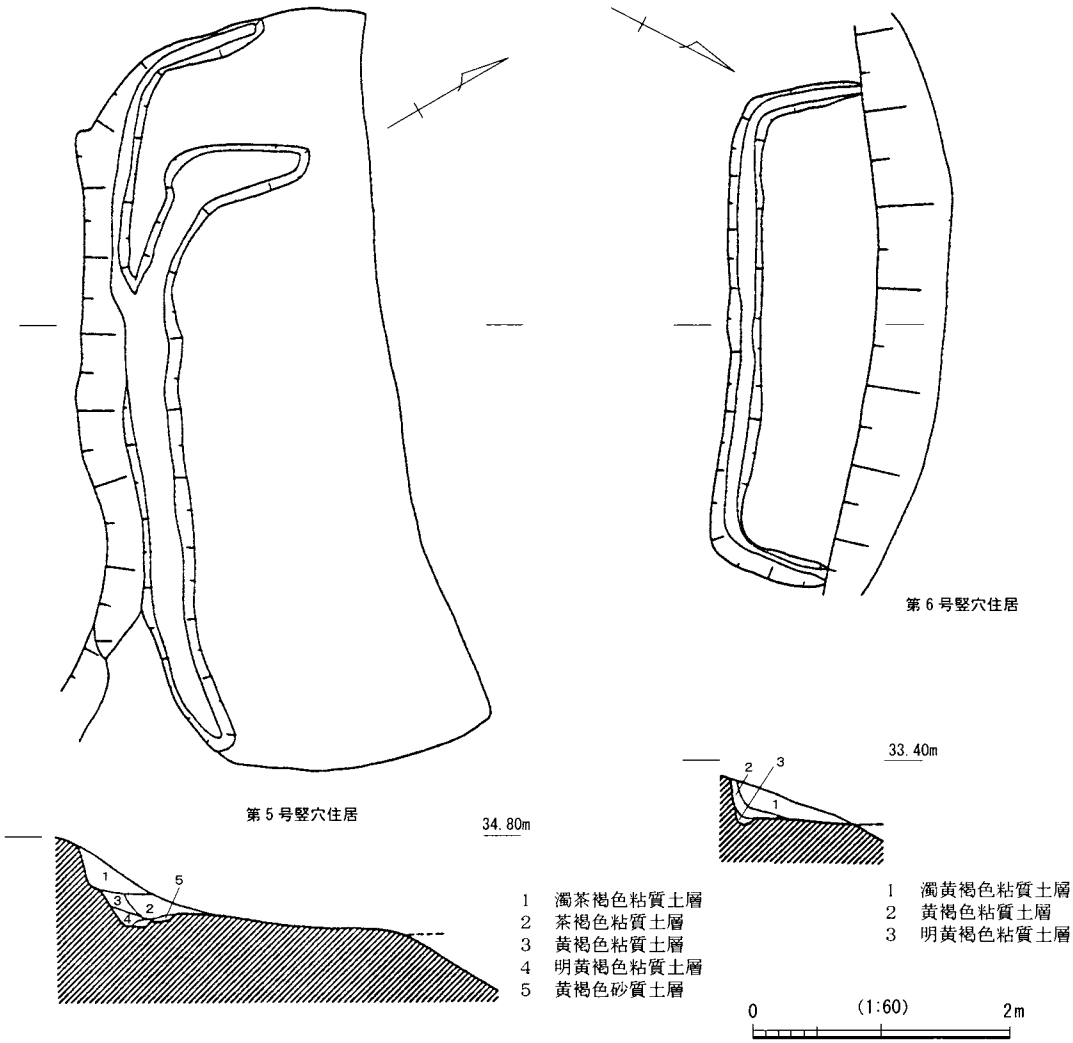
第 59 図　第１号・第２号竪穴住居出土遺物実測図



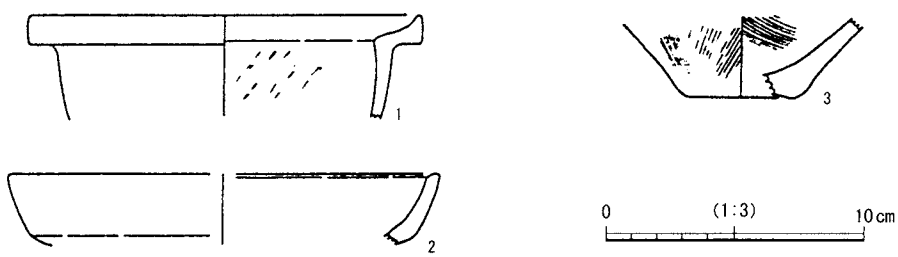
第60図　第3号・第4号竪穴住居実測図



第61図　第3号・第4号竪穴住居出土遺物実測図

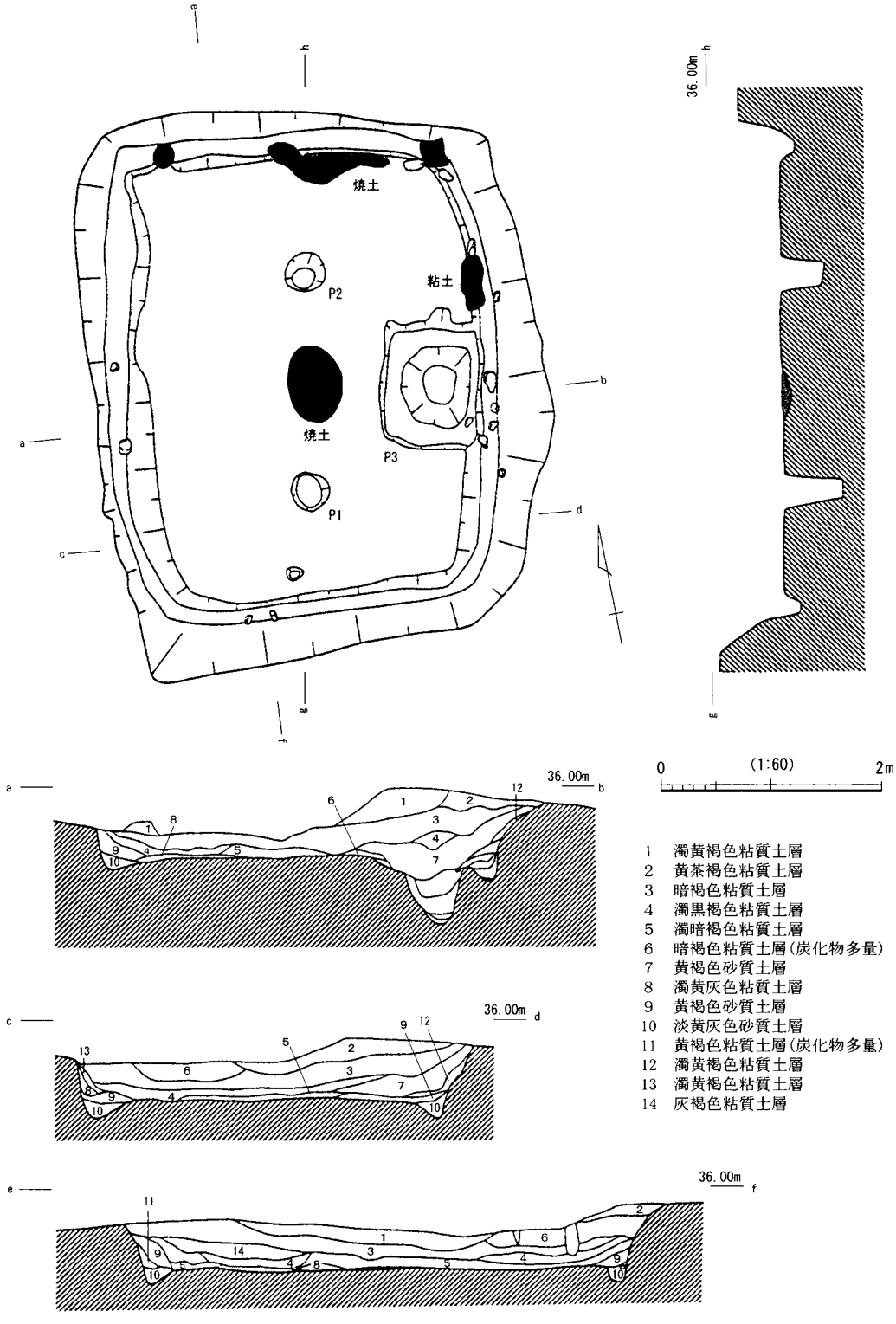


第62図　第5号・第6号竪穴住居実測図

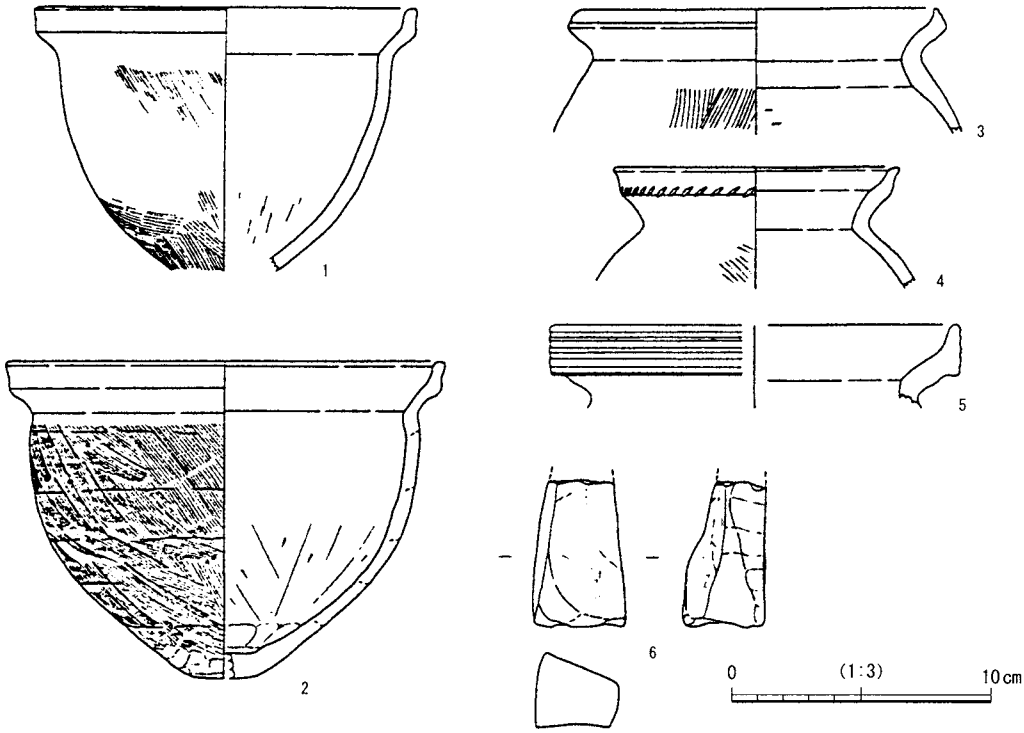


第5号竪穴住居：1・2
第6号竪穴住居：3

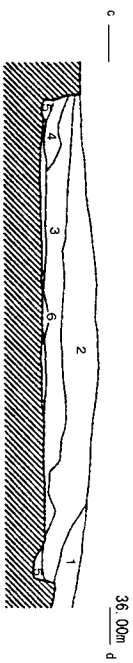
第63図　第5号・第6号竪穴住居出土遺物実測図

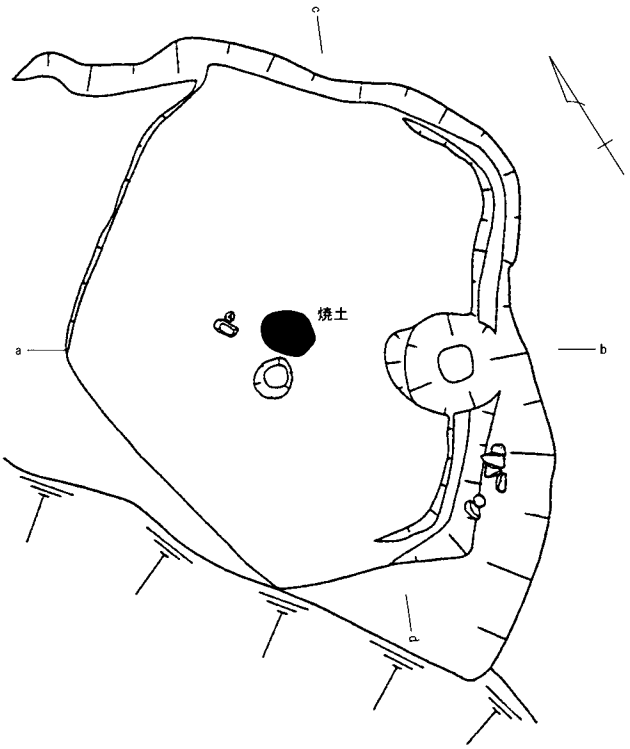


第 64 図　第 7 号竪穴住居実測図

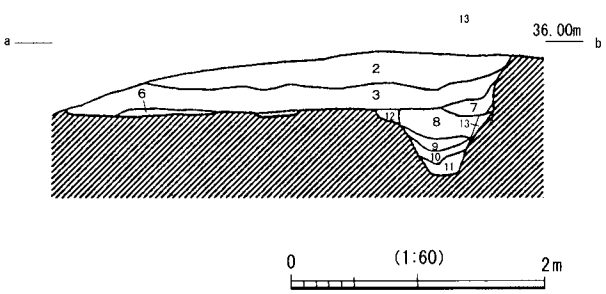


第 65 図　第 7 号竪穴住居出土遺物実測図

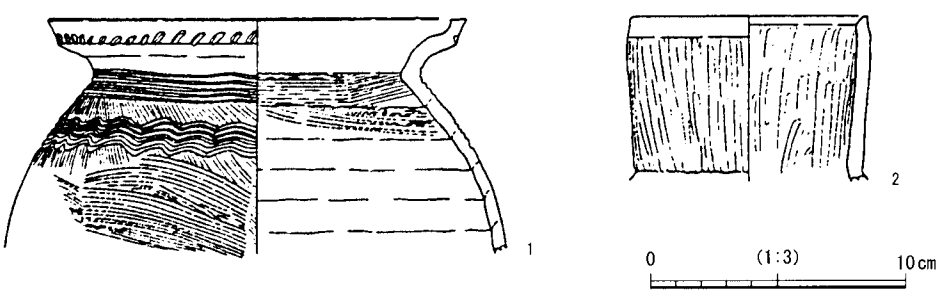




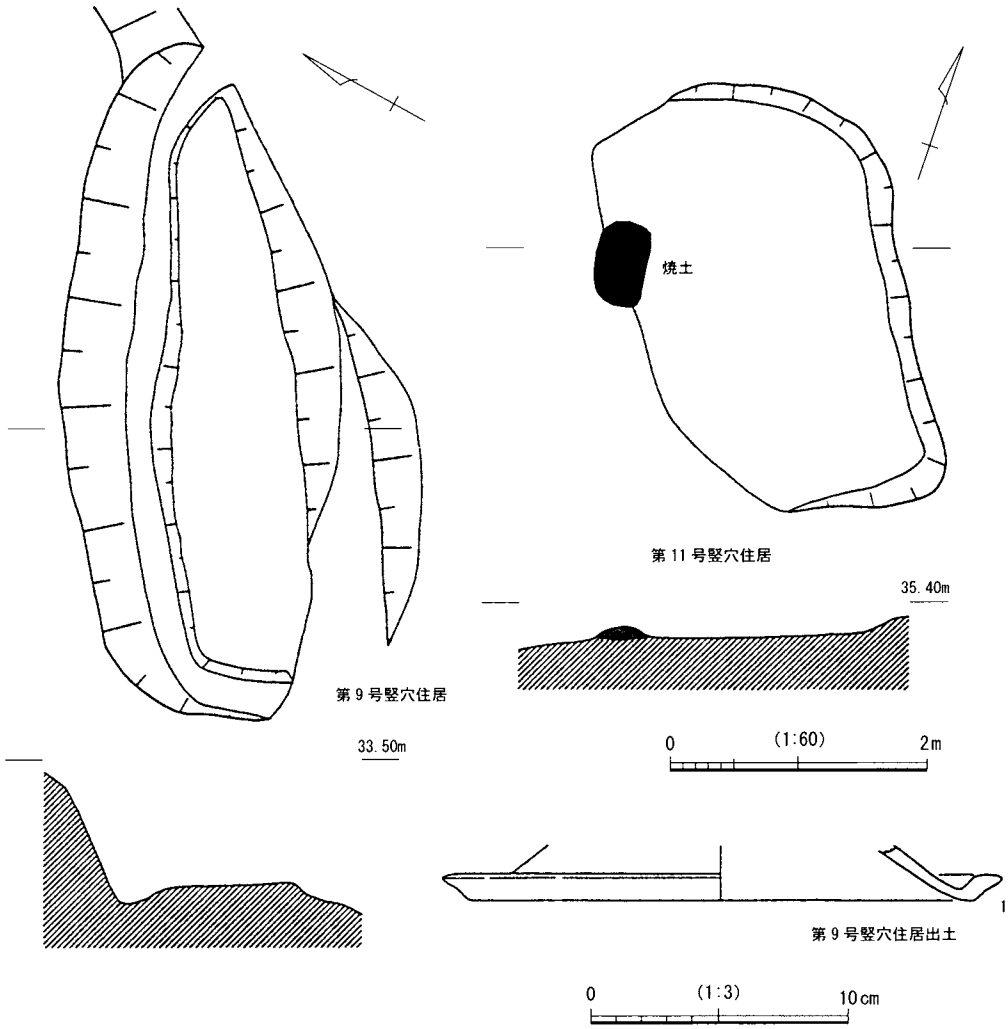
1　濁茶褐色粘質土層
2　茶褐粘質土層
3　黄茶褐色粘質土層
4　濁黄褐色粘質土層
5　明黄褐色粘質土層
6　浅黄茶褐色砂質土層
7　明黄茶褐色砂質土層
8　浅黄褐色砂質土層
9　明茶褐色砂質土層
10　濁明茶褐色砂質土層
11　濁浅黄褐色砂層
12　浅黄茶褐色粘質土層
13　浅黄褐色砂層



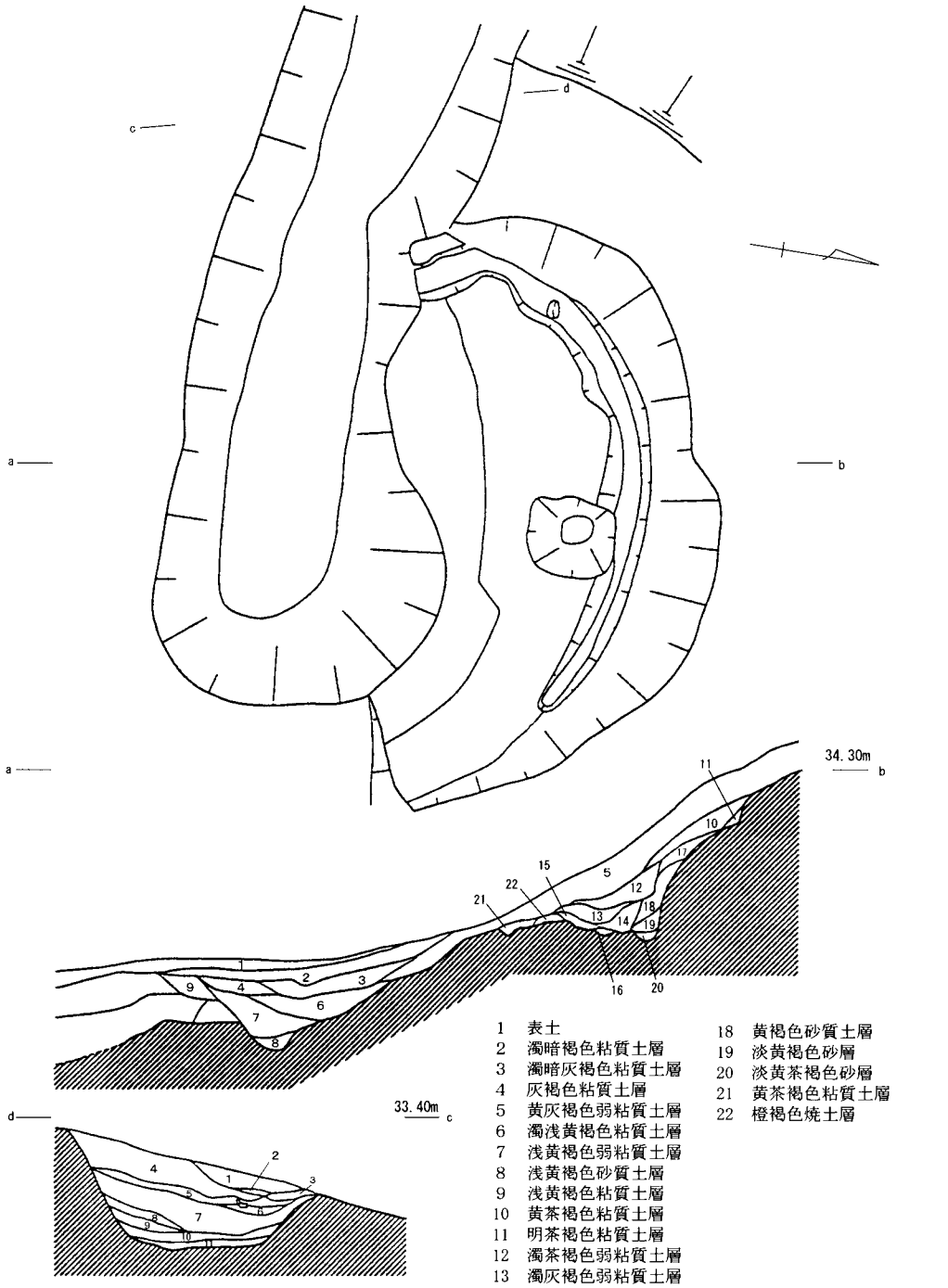
第 66 図　第 8 号竪穴住居実測図



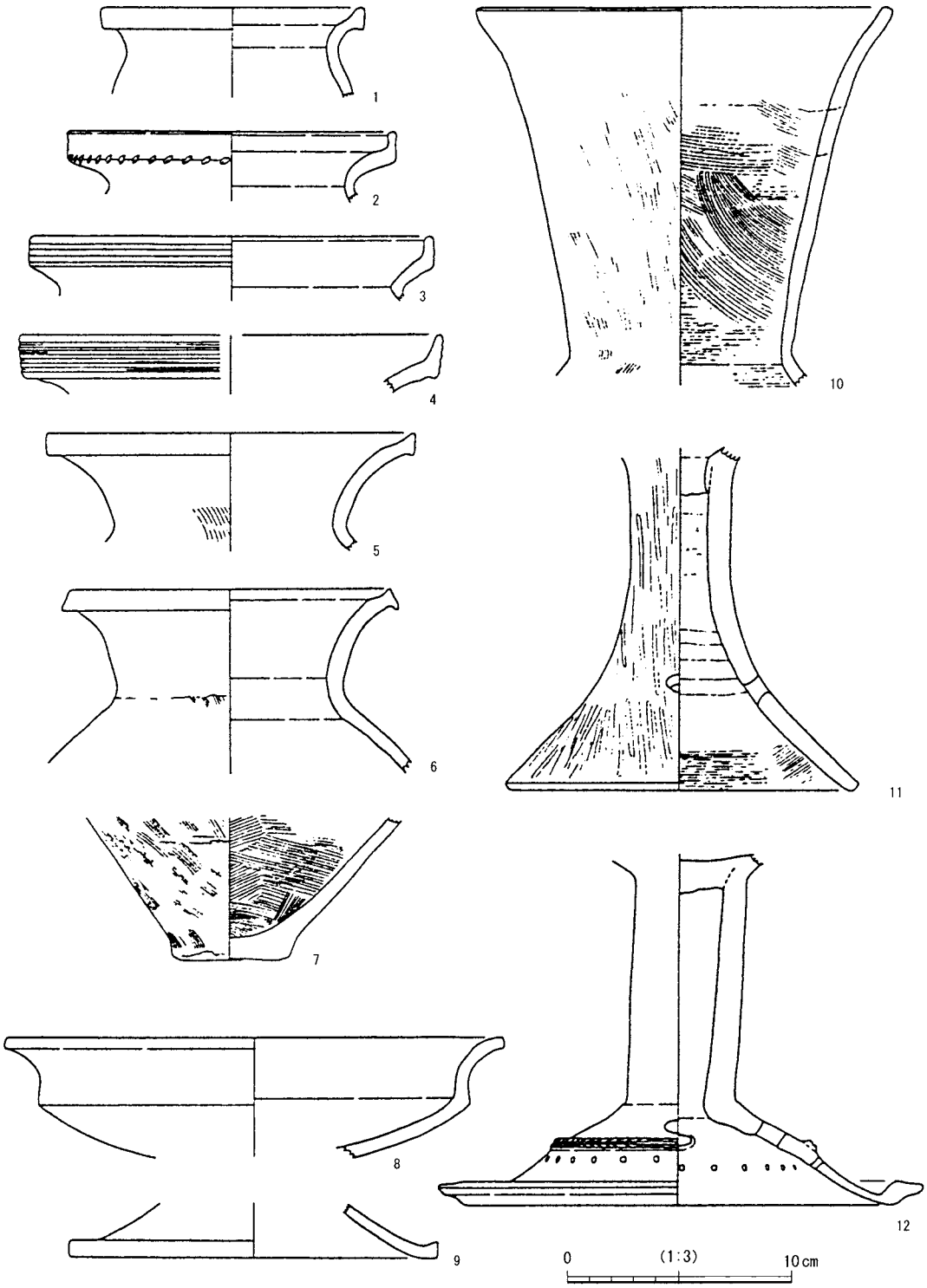
第 67 図　第 8 号竪穴住居出土遺物実測図



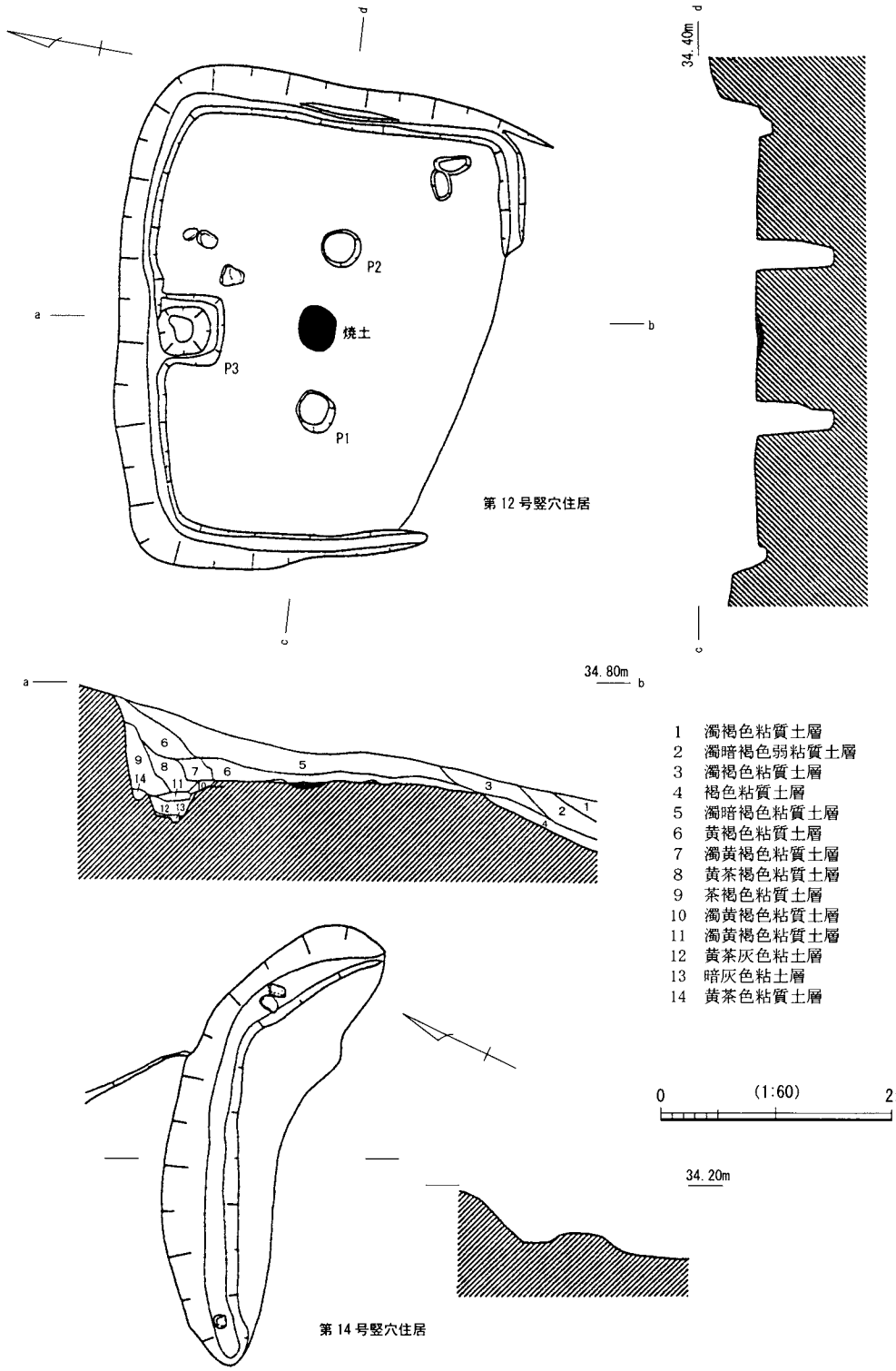
第68図　第9号・第11号竪穴住居実測図、第9号竪穴住居出土遺物実測図



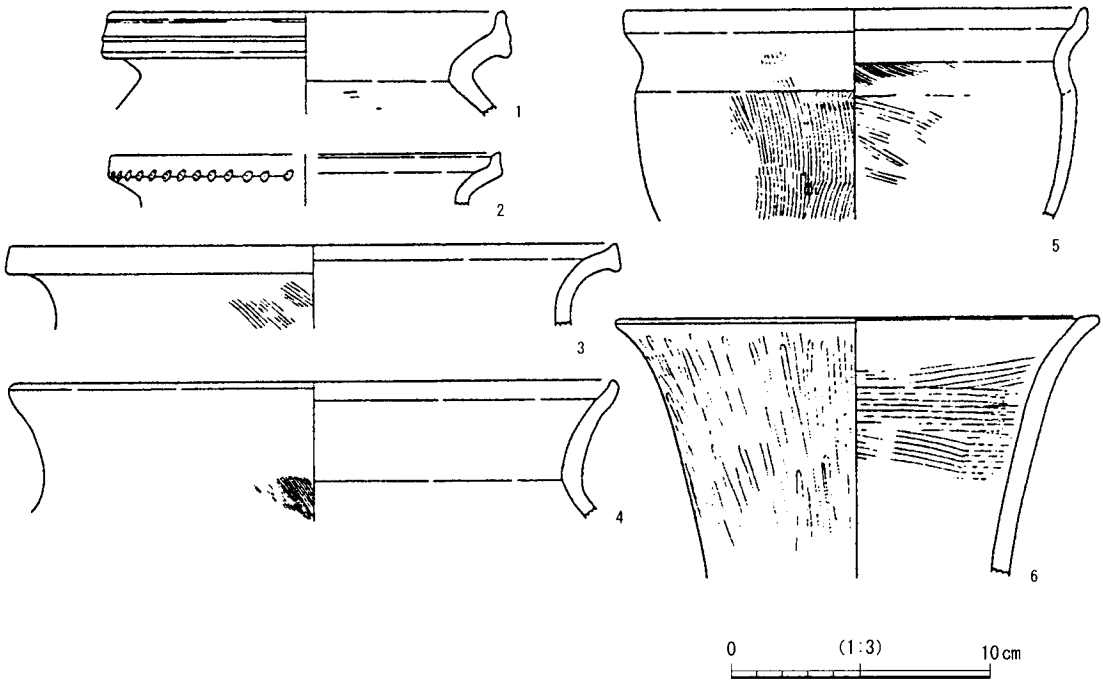
第 69 図　第 10 号竪穴住居実測図



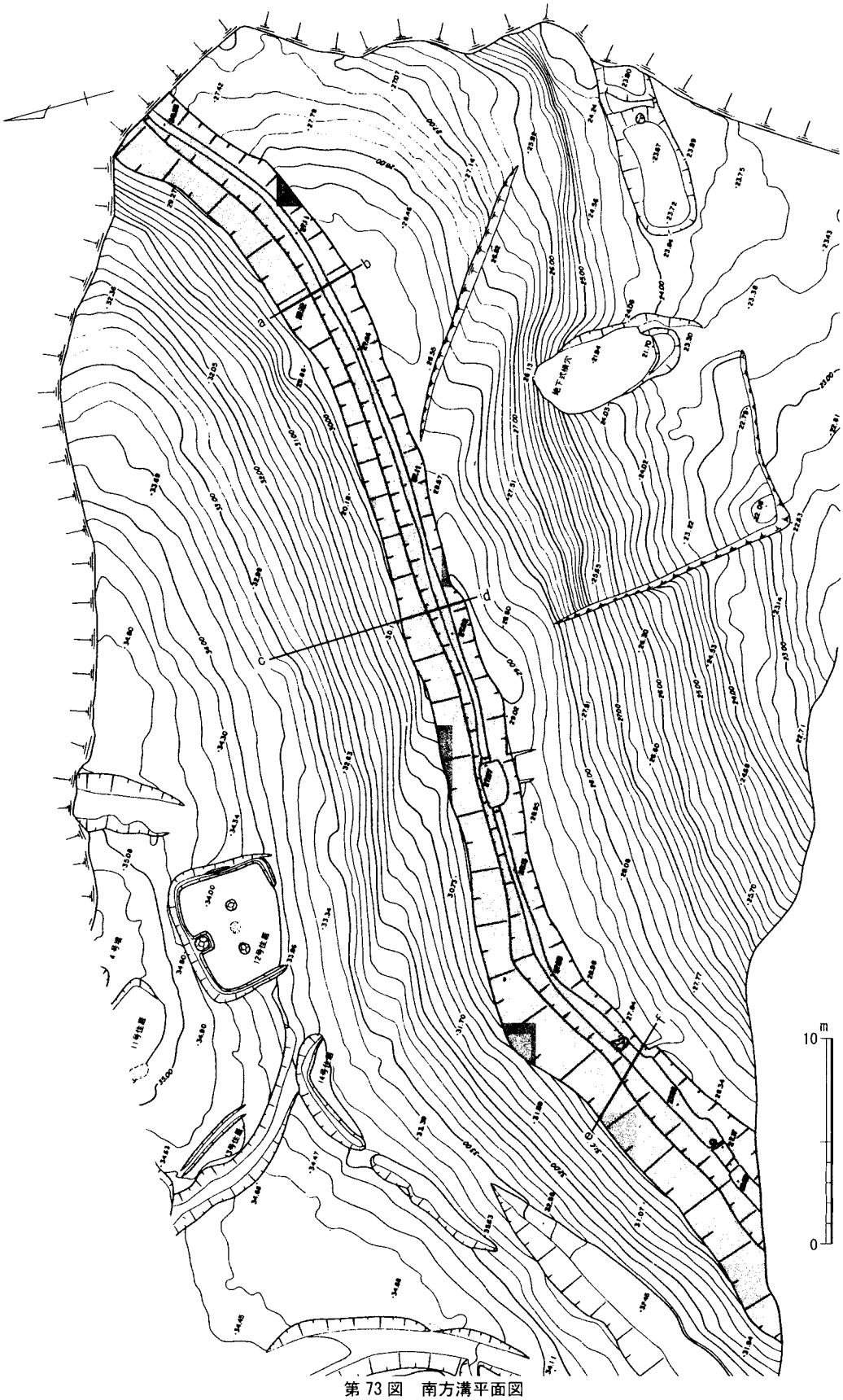
第70図　第10号竪穴住居出土遺物実測図



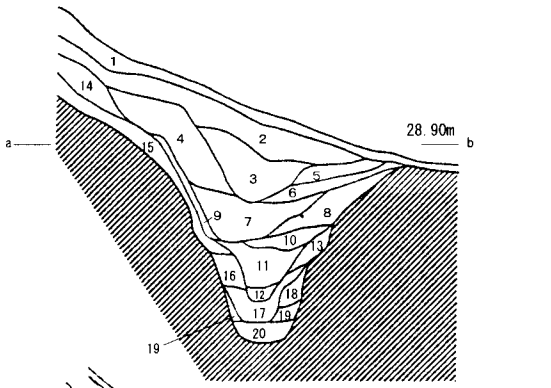
第 71 図　第 12 号・第 14 号竪穴住居実測図



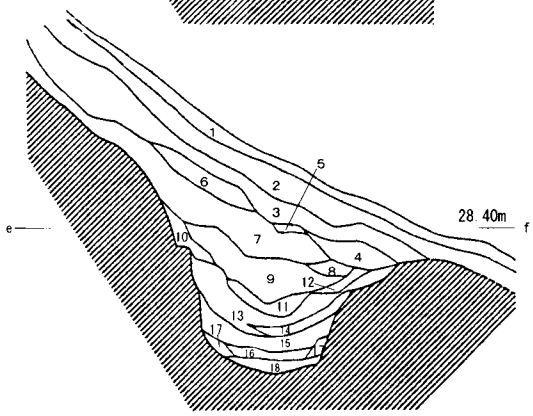
第 72 図　第 12 号竪穴住居出土遺物実測図



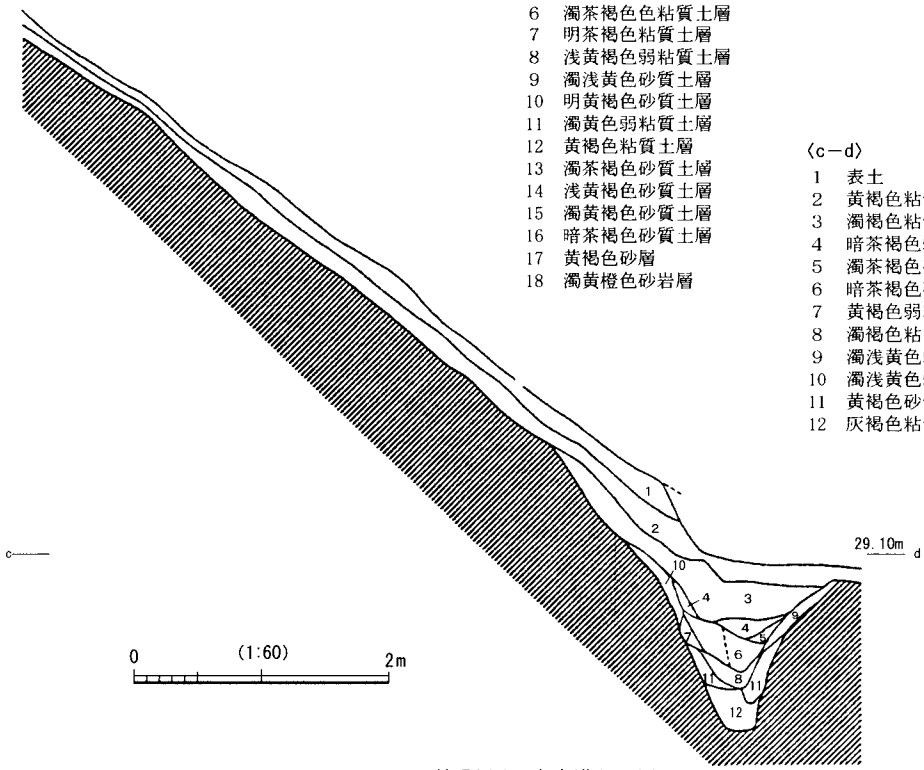
第 73 図　南方溝平面図



〈a－b〉
1　表土
2　濁黄褐色粘質土層
3　濁暗褐色粘質土層
4　濁褐色粘質土層
5　暗茶褐色粘質土層
6　茶褐色粘質土層
7　明茶褐粘質土層
8　濁浅黄色弱粘質土層
9　明黄褐色粘質土層
10　濁茶褐色砂質土層
11　暗茶褐色砂質土層
12　濁褐色粘土層
13　濁褐色砂質土層
14　明黄褐色粘土層
15　濁黄褐色砂質土層
16　明灰褐粘質土層
17　黄褐色砂質土層
18　浅黄褐色砂層
19　黄褐色砂質土層
20　灰褐色粘質土層

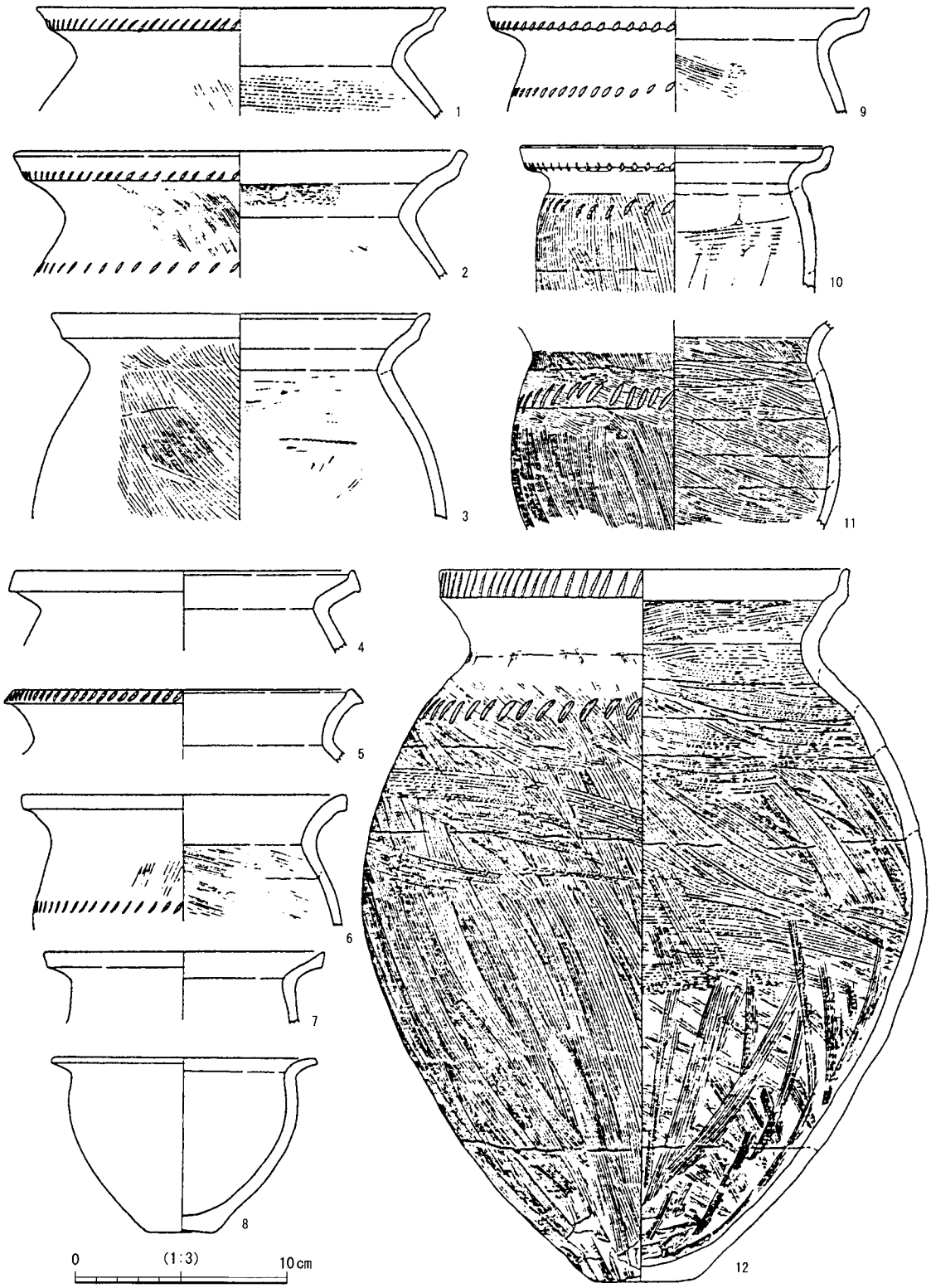


〈e－f〉
1　表土
2　濁黄褐色粘質土層
3　黄褐色粘質土層
4　濁黄茶褐色弱粘質土層
5　茶褐色粘質土層
6　濁茶褐色色粘質土層
7　明茶褐色粘質土層
8　浅黄褐色弱粘質土層
9　濁浅黄色砂質土層
10　明黄褐色砂質土層
11　濁黄色弱粘質土層
12　黄褐色粘質土層
13　濁茶褐色砂質土層
14　浅黄褐色砂質土層
15　濁黄褐色砂質土層
16　暗茶褐色砂質土層
17　黄褐色砂層
18　濁黄橙色砂岩層

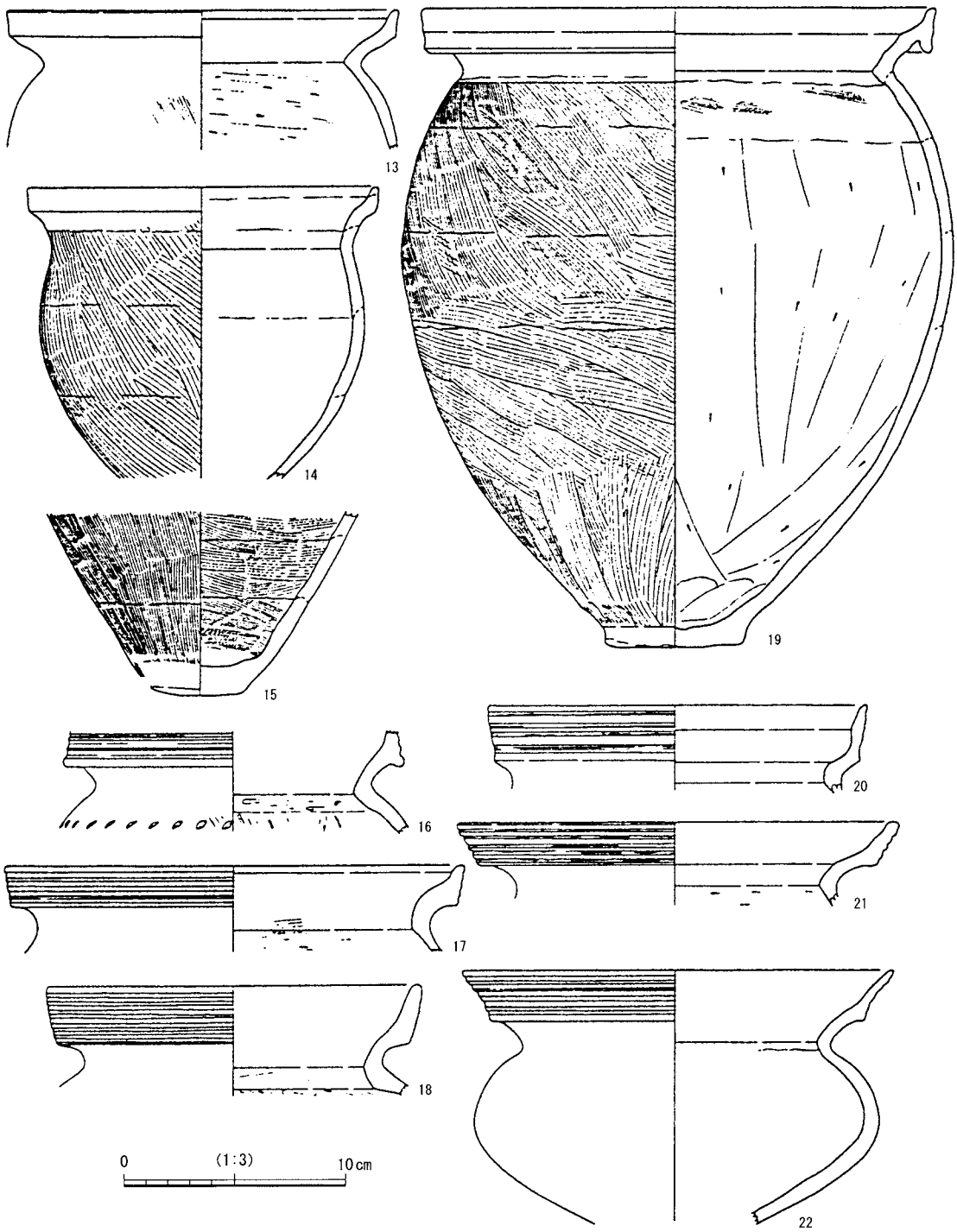


〈c－d〉
1　表土
2　黄褐色粘質土層
3　濁褐色粘質土層
4　暗茶褐色弱粘土層
5　濁茶褐色砂質土層
6　暗茶褐色砂質土層
7　黄褐色弱粘質土層
8　濁褐色粘土層
9　濁浅黄色弱粘質土層
10　濁浅黄色弱粘質土層
11　黄褐色砂質土層
12　灰褐色粘質土層

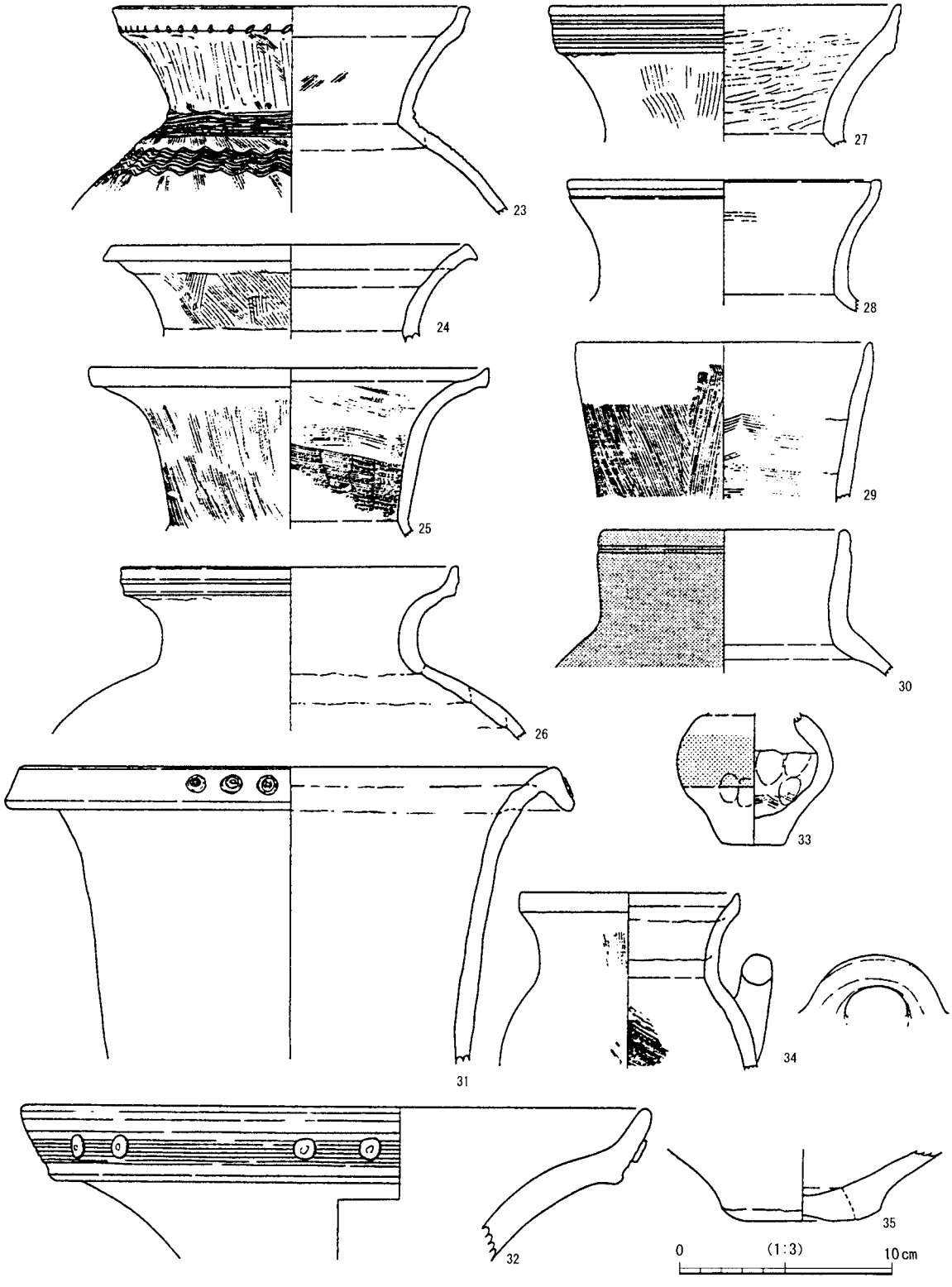
第 74 図　南方溝断面図



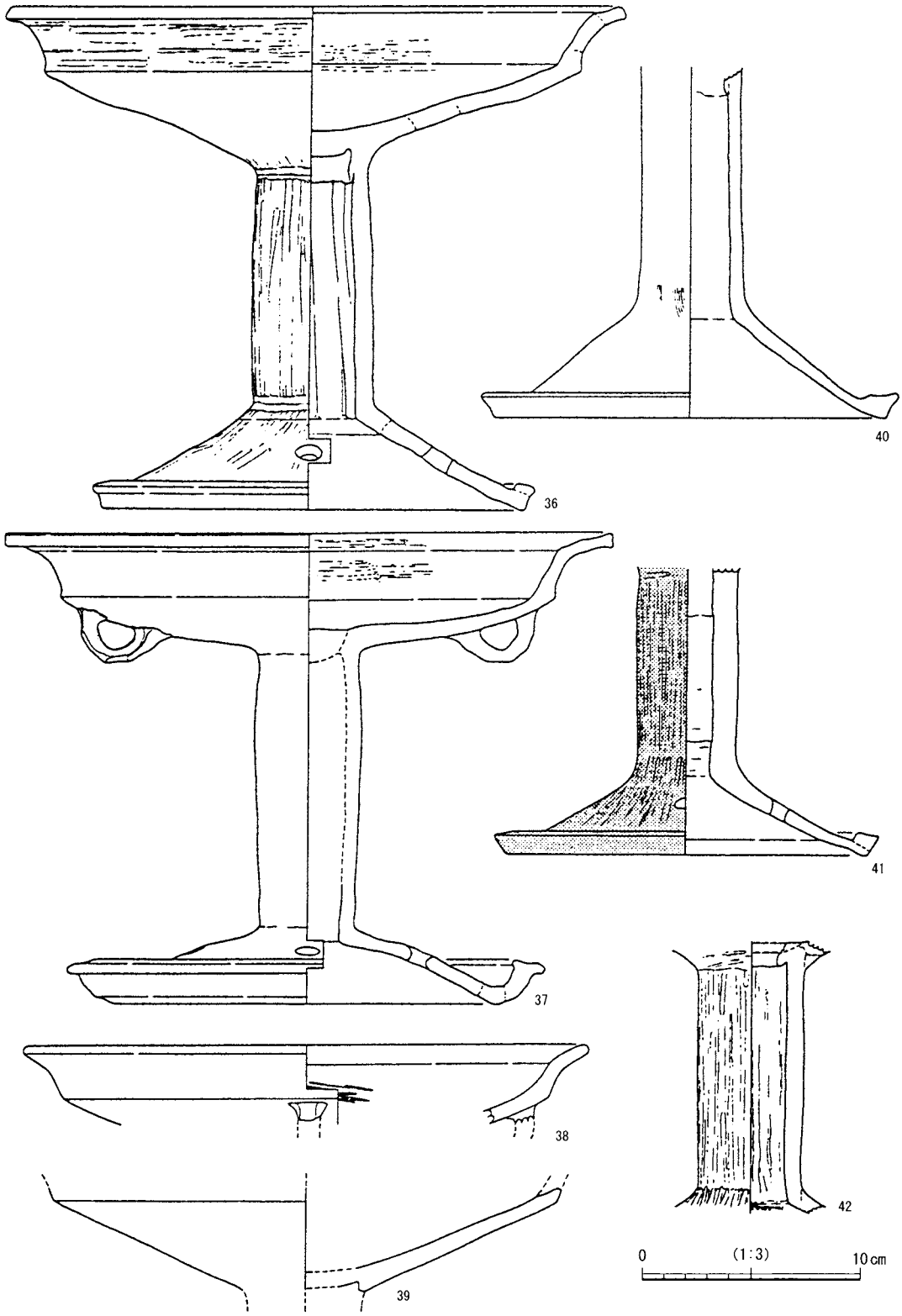
第 75 図　南方溝出土遺物実測図 (1)



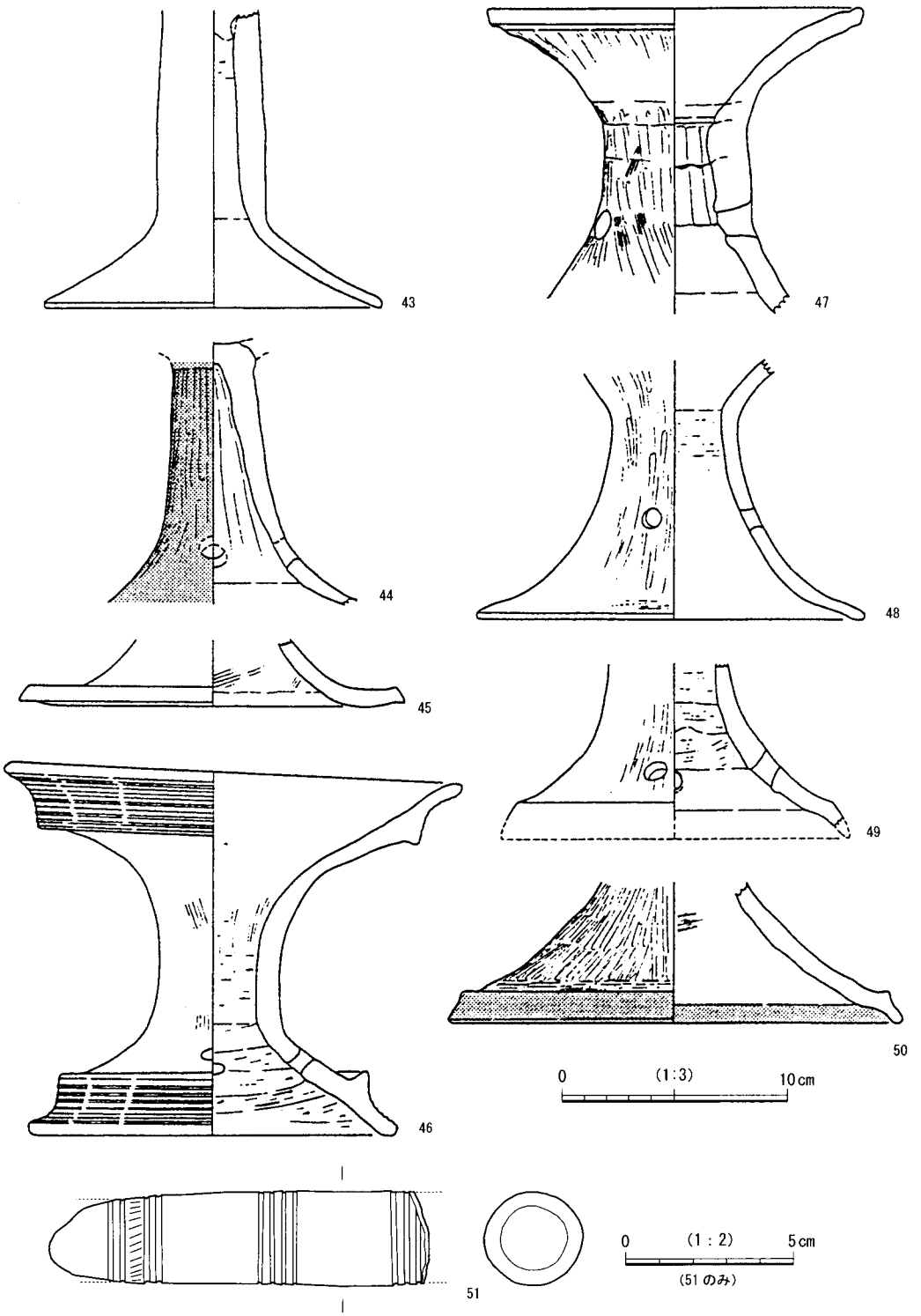
第 76 図　南方溝出土遺物実測図 (2)



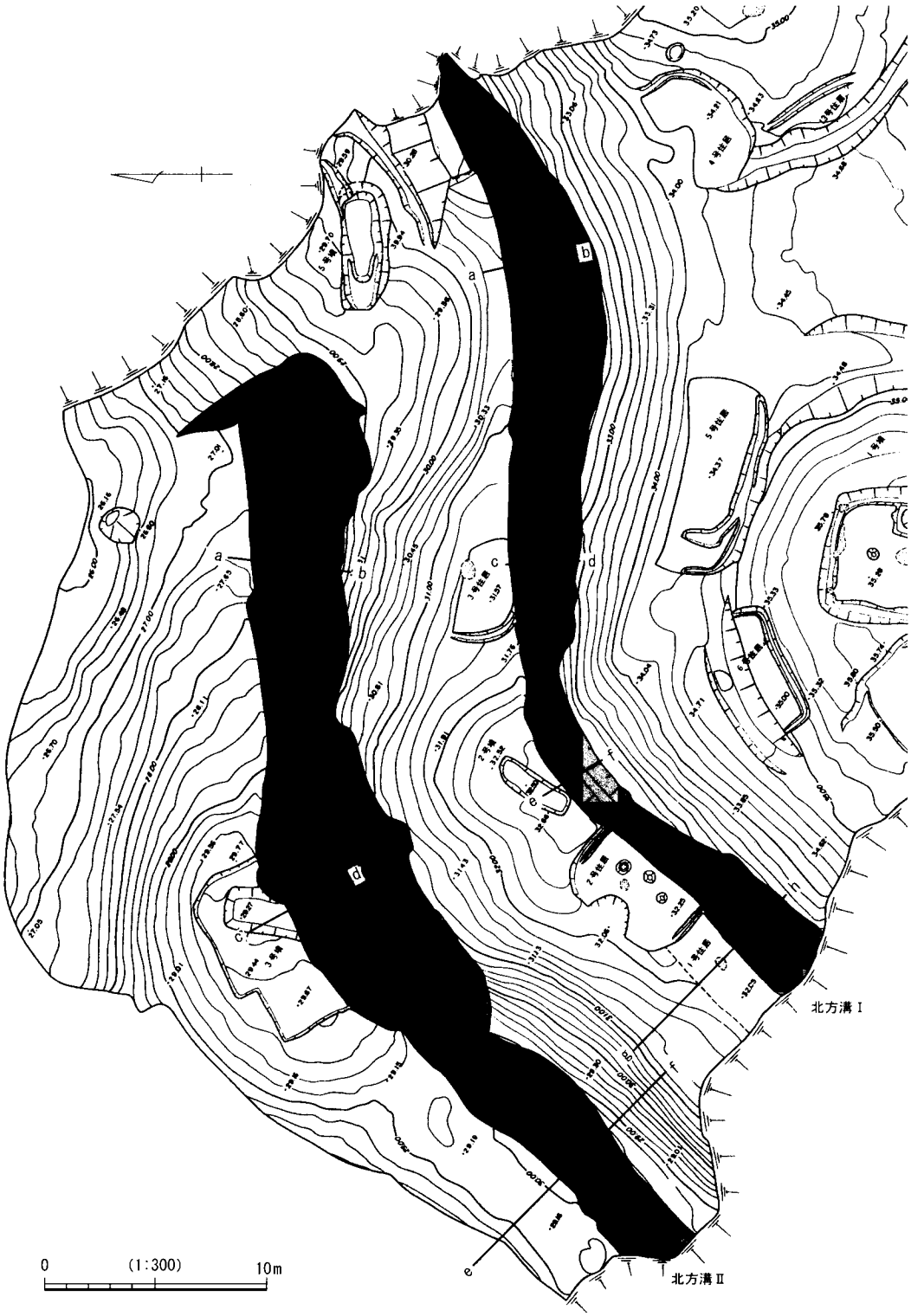
第 77 図　南方溝出土遺物実測図 (3)



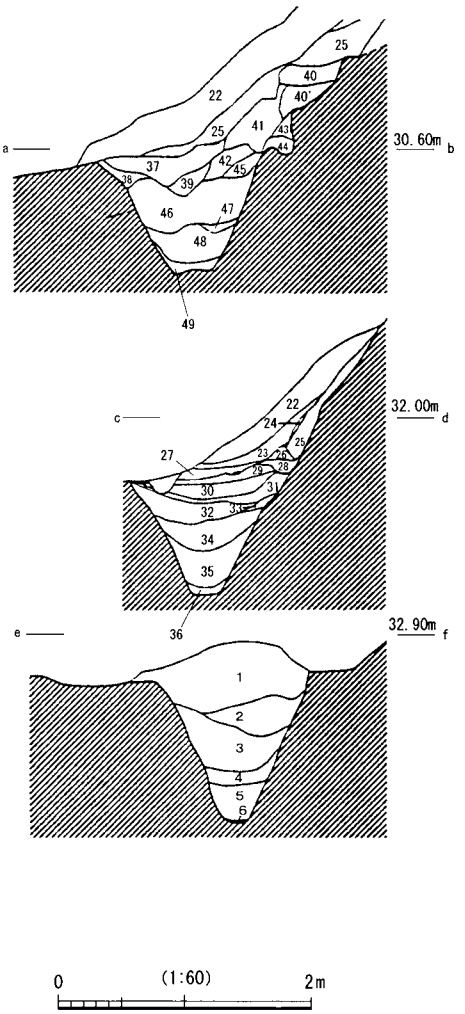
第 78 図　南方溝出土遺物実測図 (4)



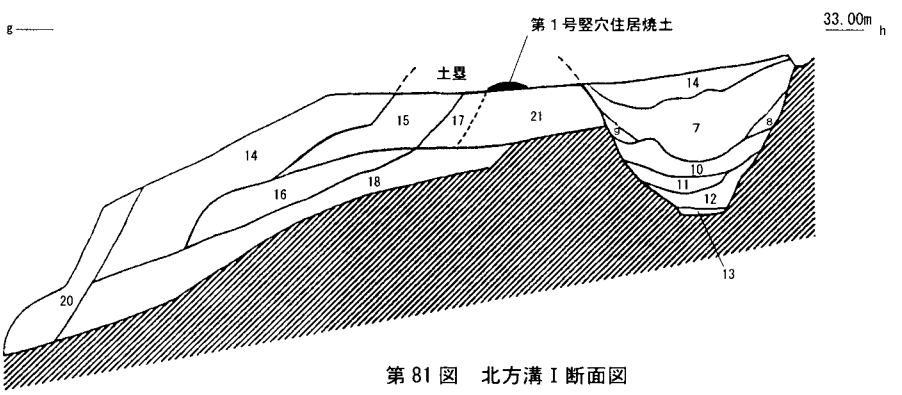
第 79 図　南方溝出土遺物実測図 (5)



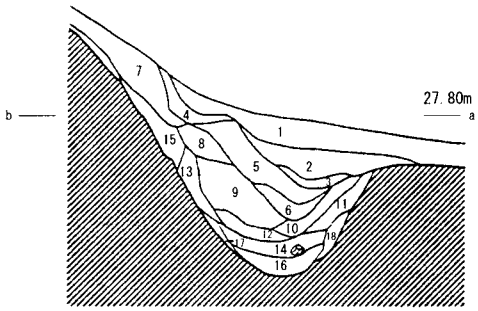
第 80 図　北方溝Ⅰ・Ⅱ平面図



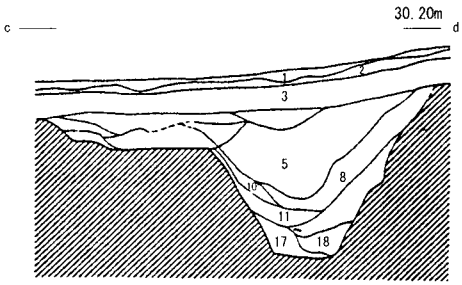
1　茶褐色粘質土層
2　茶褐色粘土層
3　淡黄褐色細砂層
4　淡黄褐色細砂層
5　濁茶褐色粘土層
6　淡黄茶褐色粘質土層
7　茶褐色粘質土層
8　茶褐色粘土層
9　茶褐色粘土層
10　茶褐色粘土層（炭化物含）
11　茶褐色粘土層（炭化物含）
12　茶褐色粘質土層
13　茶褐色粘土層
14　茶褐色粘質土層
15　濁茶褐色粘土層
16　淡茶灰色粘土層
17　淡茶灰色粘土層
18　淡茶灰色粘質土層
19　茶褐色粘土層（地山）
20　茶褐色粘質土層
21　淡茶灰色粘質土層
22　濁茶褐色粘質土層
23　濁茶褐色粘質土層
24　濁茶褐色粘質土層
25　茶褐色粘土層
26　濁茶褐色粘土層
27　濁茶褐色細砂層
28　茶褐色粘土層
29　淡黄褐色細砂層
30　黄茶褐色粘質土層
31　明黄茶褐色細砂層
32　黄茶褐色粘質土層
33　茶褐色粘土層
34　茶褐色粘土層
35　茶褐色粘土層
36　茶褐色粘土層
37　灰褐色粘質土層
38　暗茶褐色粘質土層
39　茶褐色砂質土層
40　黄褐色砂質土層
40’　黄褐色砂質土層
41　淡茶褐色粘質土層
42　淡茶褐色粘土層
43　淡茶褐色砂質土層
44　明茶褐色粘土層
45　茶褐色砂質土層
46　黄褐色粘土層
47　暗黄灰色粘土層
48　明黄灰色粘土層
49　淡黄灰色粘土層



第 81 図　北方溝Ｉ断面図



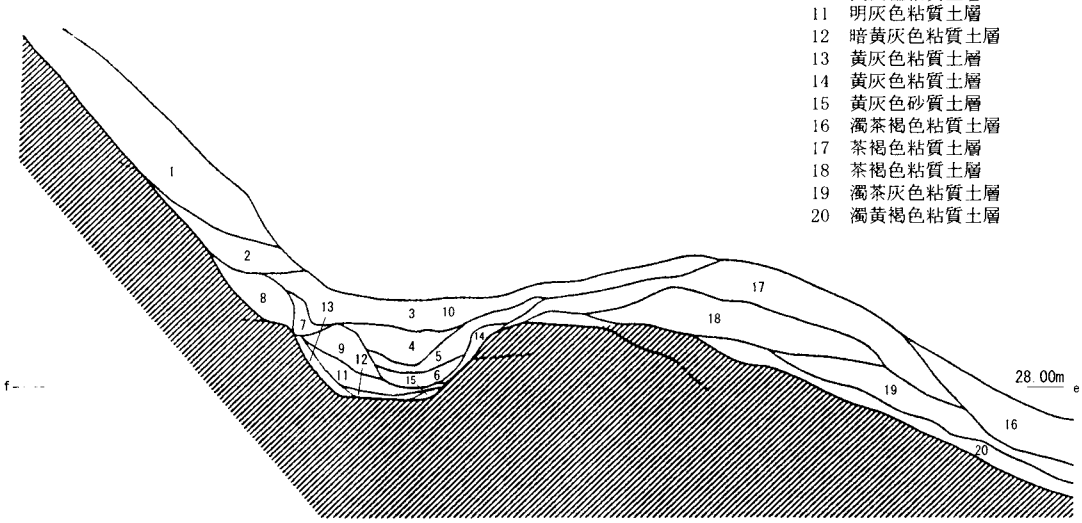
1　黄灰色粘質土層
2　濁黄灰色粘質土層
3　暗黄灰色粘質土層
4　濁黄灰色粘質土層
5　暗黄灰色粘質土層
6　明黄灰色粘質土層
7　濁黄褐色砂質土層
8　明黄灰色粘土層
9　暗黄褐色粘土層
10　濁黄褐色砂質土層
11　黄褐色砂質土層
12　暗黄灰色粘質土層
13　黄灰色砂質土層
14　明黄灰色砂質土層
15　濁黄褐色砂質土層
16　濁黄灰色粘土層
17　黄灰色砂層
18　明黄灰色砂層



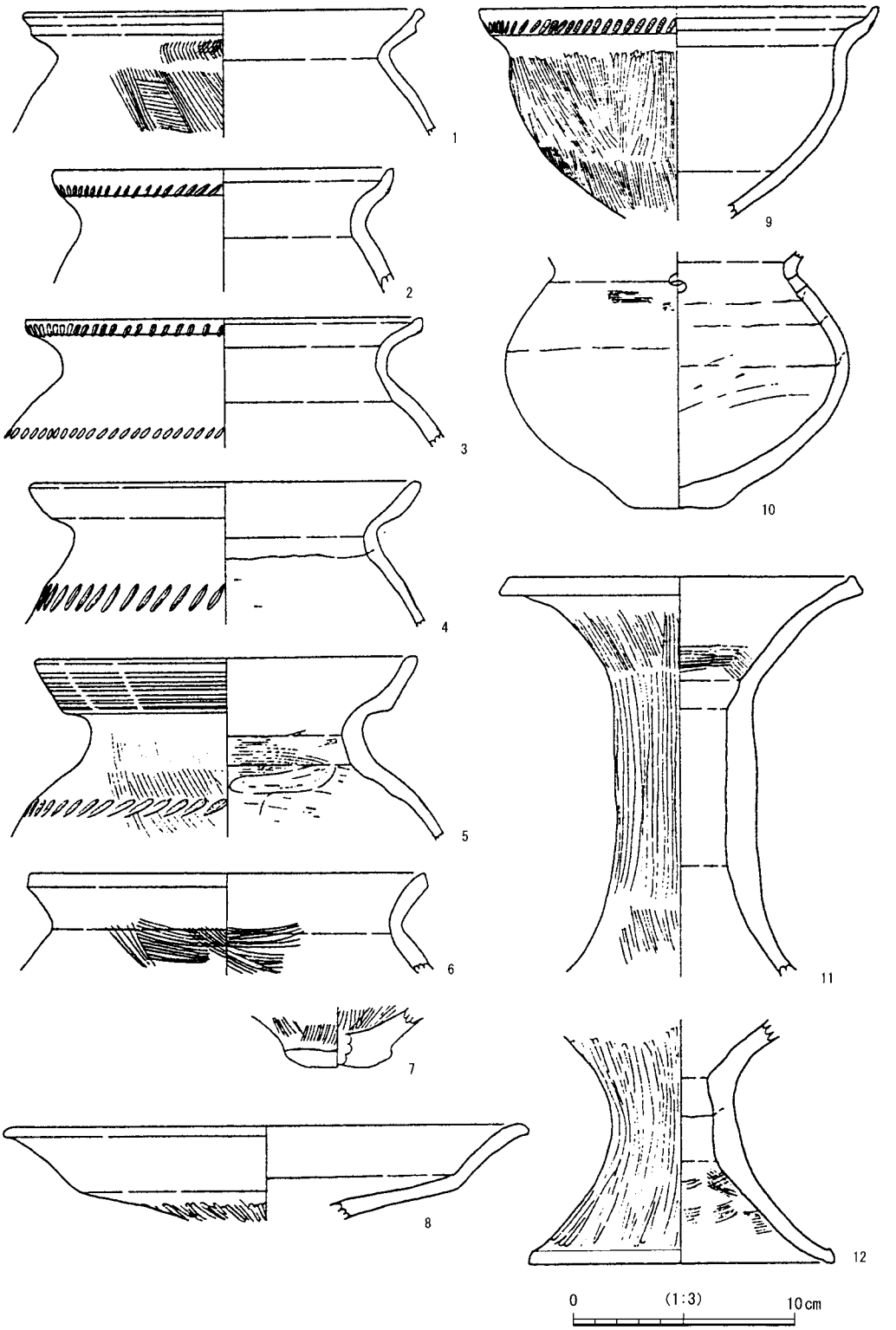
1　表土
2　流土
3　盛土
5　暗黄褐色粘質土層
8　明黄褐色粘質土層
10　濁黄褐色砂質土層
11　黄褐色砂質土層
17　黄灰色砂質土層
18　明黄灰色砂層

0　(1:60)　2m

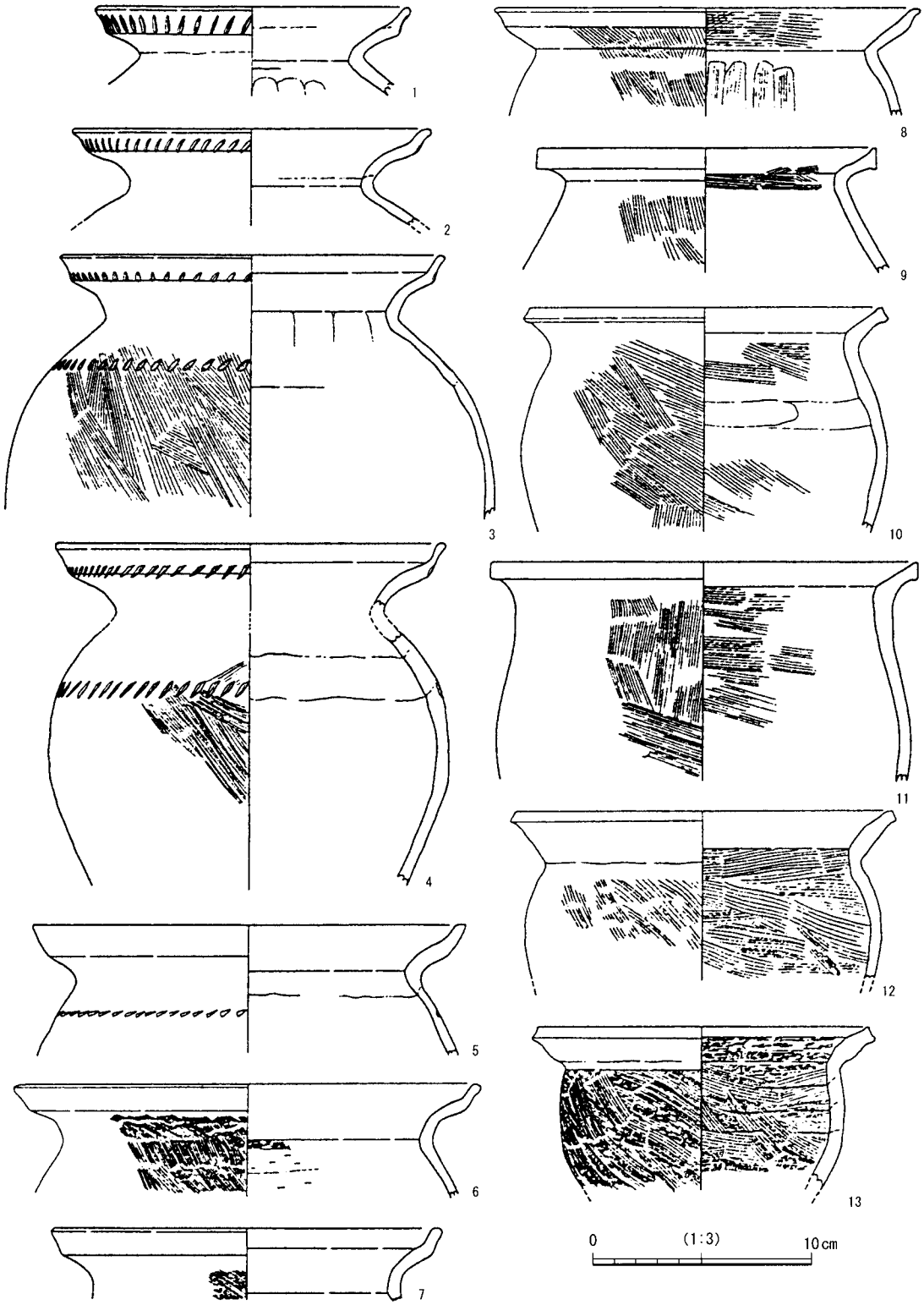
1　流土
2　流土
3　淡黄褐色粘質土層
4　淡黄灰色粘質土層
5　明黄灰色粘質土層
6　明黄灰色粘質土層
7　淡黄灰色粘質土層
8　黄灰色粘質土層
9　黄灰色粘質土層
10　黄灰色粘質土層
11　明灰色粘質土層
12　暗黄灰色粘質土層
13　黄灰色粘質土層
14　黄灰色粘質土層
15　黄灰色砂質土層
16　濁茶褐色粘質土層
17　茶褐色粘質土層
18　茶褐色粘質土層
19　濁茶灰色粘質土層
20　濁黄褐色粘質土層



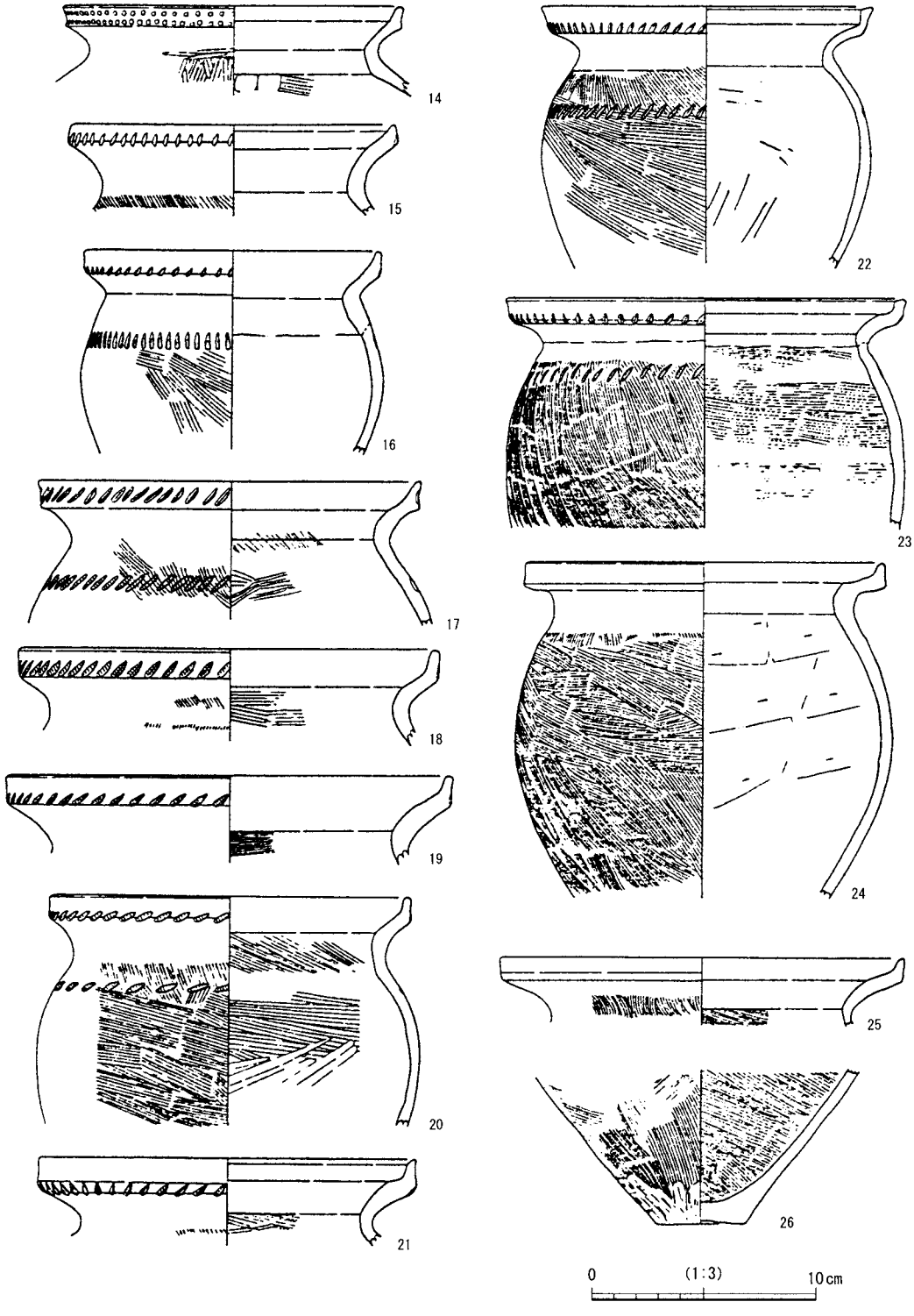
第 82 図　北方溝Ⅱ断面図



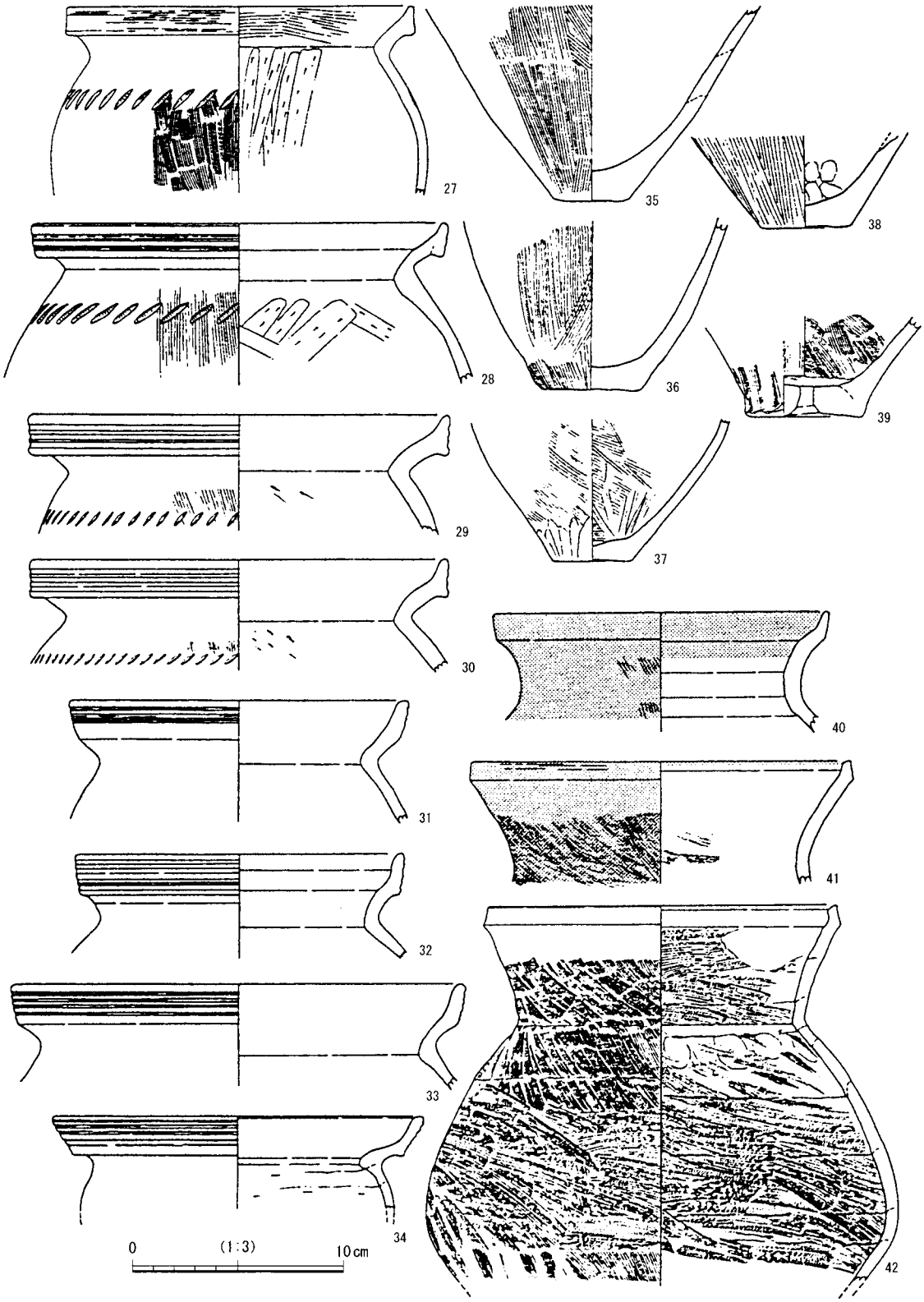
第83図　北方溝Ⅰ出土遺物実測図



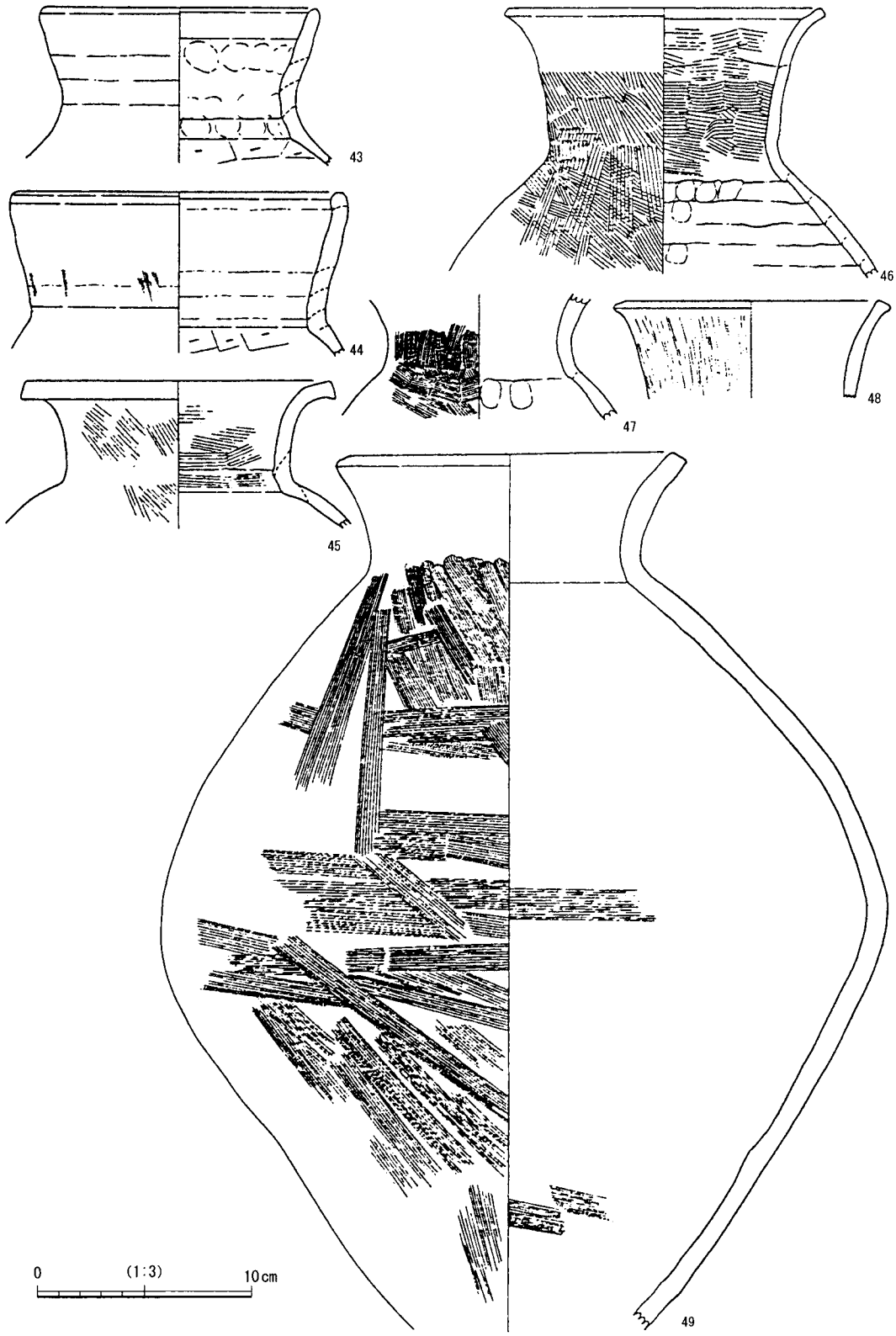
第 84 図　北方溝Ⅱ出土遺物実測図 (1)



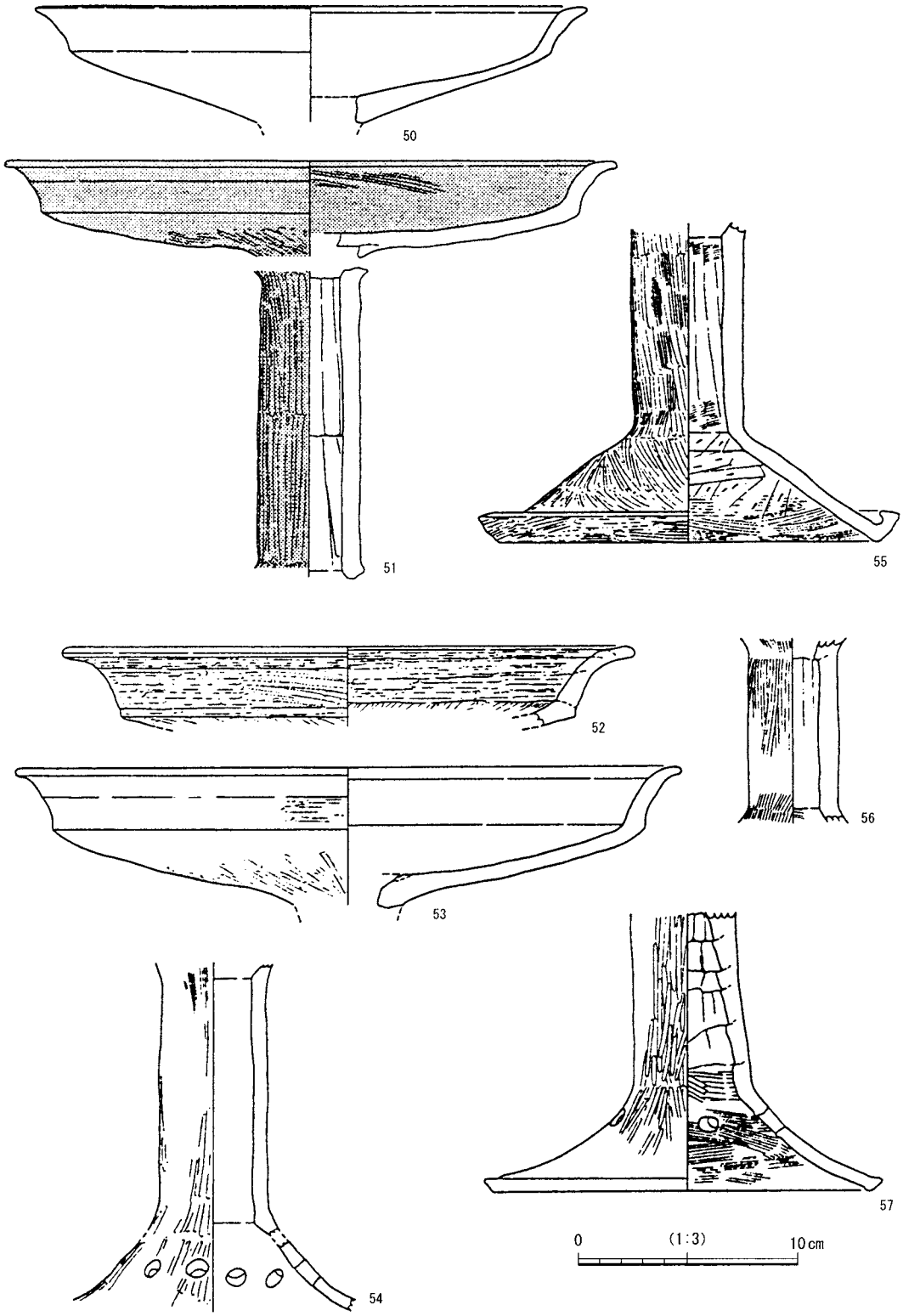
第 85 図　北方溝Ⅱ出土遺物実測図 (2)



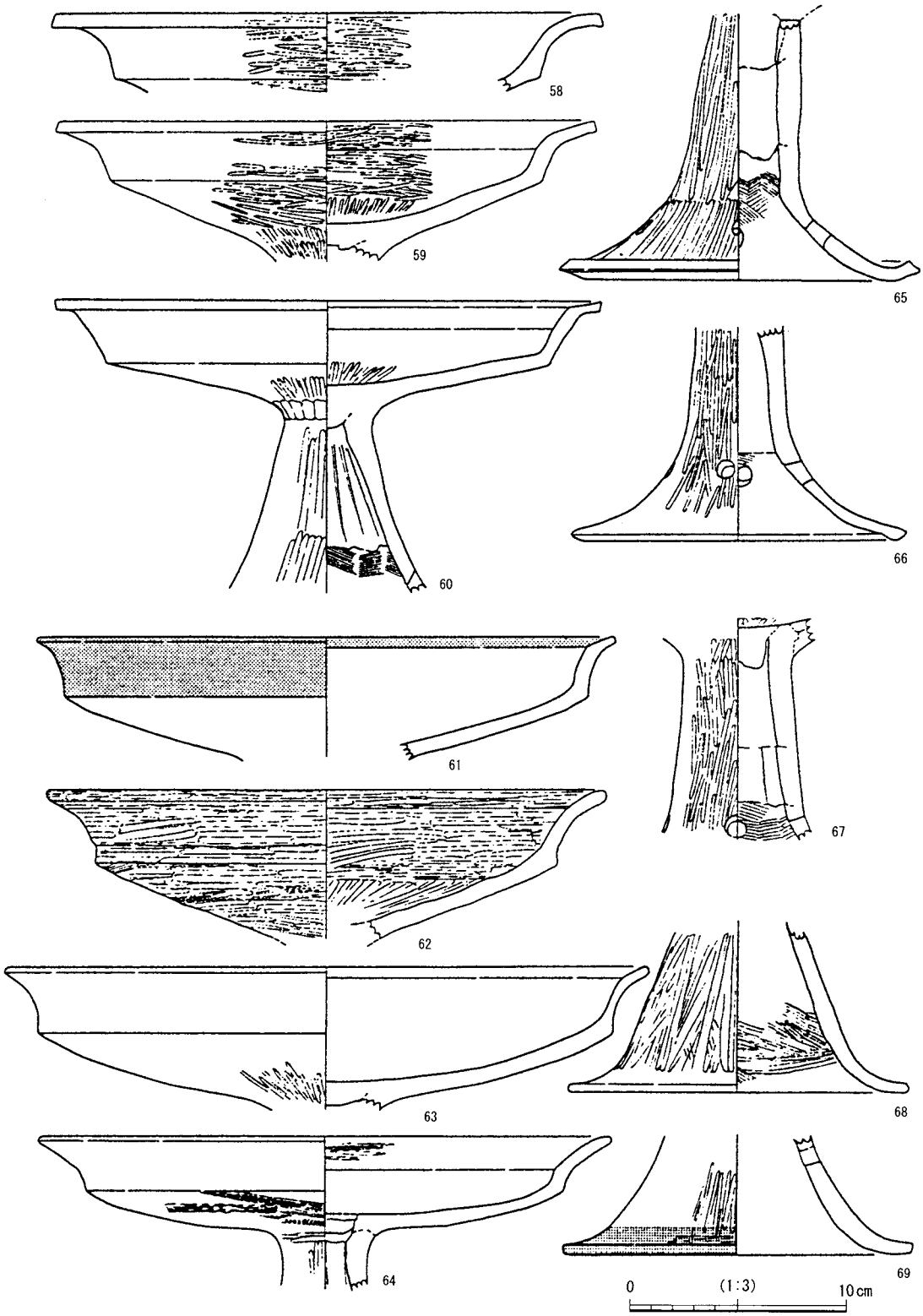
第86図　北方溝Ⅱ出土遺物実測図 (3)



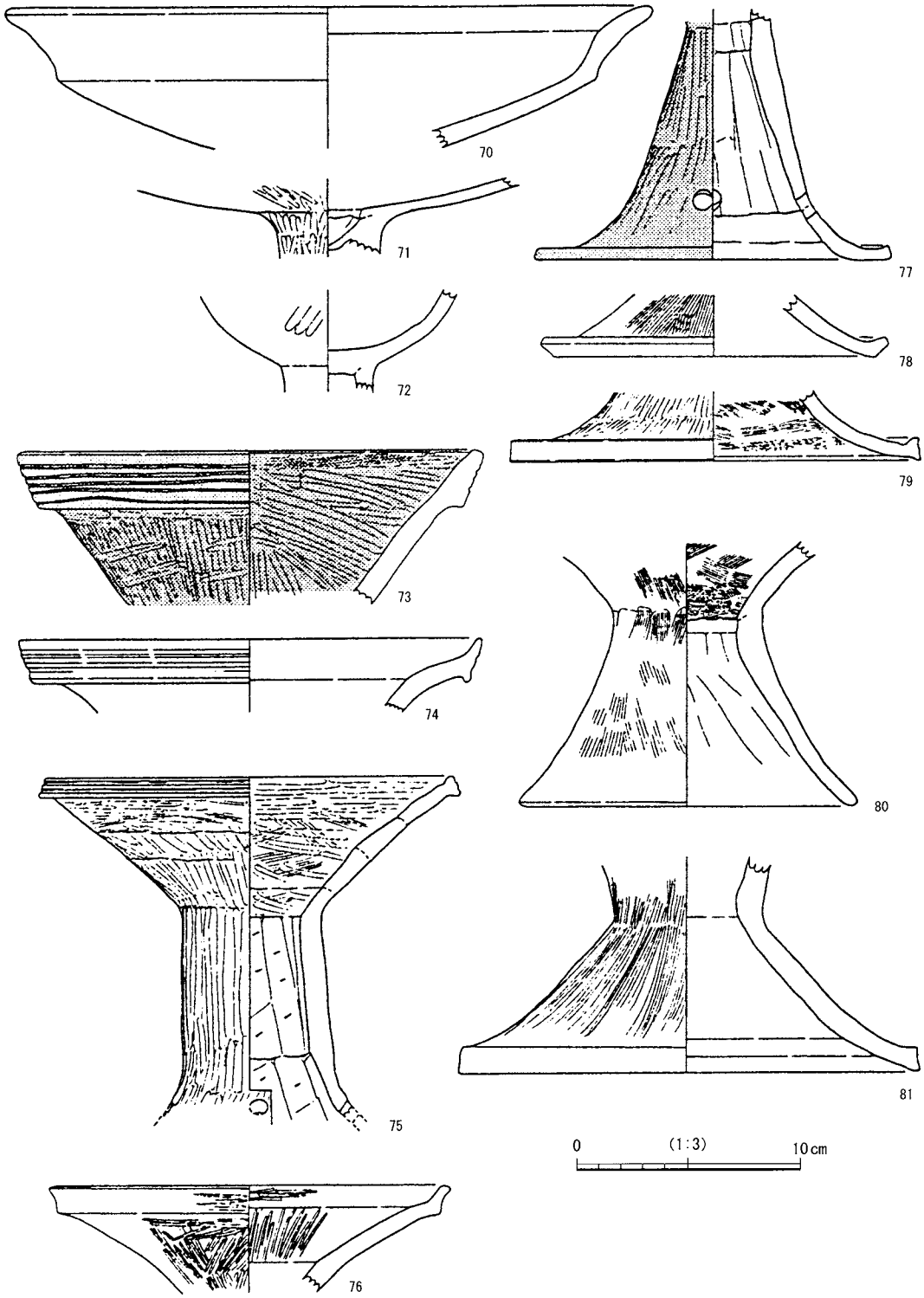
第 87 図　北方溝Ⅱ出土遺物実測図 (4)



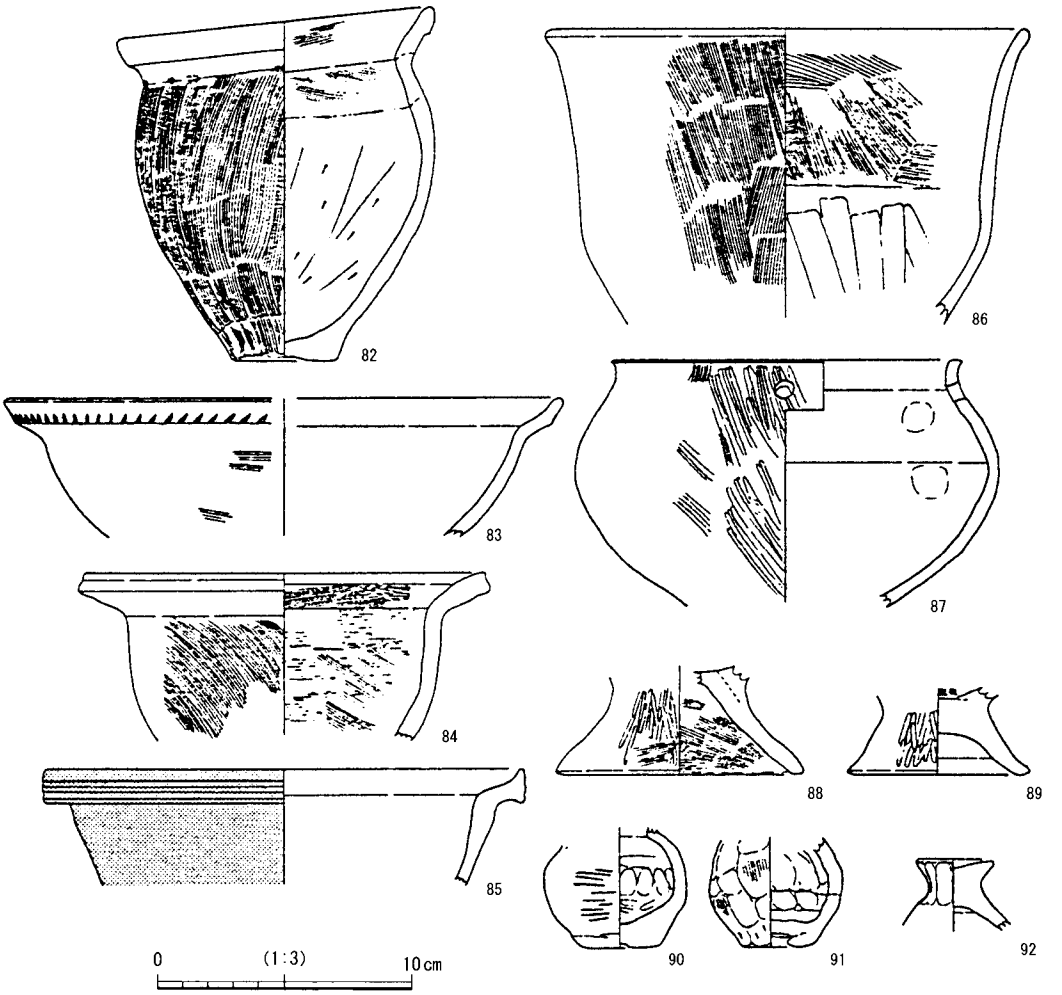
第 88 図　北方溝Ⅱ出土遺物実測図 (5)



第 89 図　北方溝Ⅱ出土遺物実測図 (6)



第 90 図　北方溝Ⅱ出土遺物実測図 (7)



第91図　北方溝Ⅱ出土遺物実測図(8)

第５章　北吉田フルワ古墳群

第１節　古墳の分布

内陸の土田盆地から流れ出る米町川の低地部に接する位置に北吉田の集落が立地する。四周を山麓に囲まれている上に、米町川の出口が狭く、北吉田フルワ古墳群はその南に位置する。古墳群が立地する丘陵尾根は、北西から南東方に尾根筋を形成し、その頂部と平野に面する尾根斜面に古墳が造られている。北吉田フルワ古墳群は、5基の古墳から構成される。

尾根筋に南から1号墳、4号墳が築かれている。1号墳の北側斜面に上から2号墳、3号墳が、4号墳の北側斜面に5号墳が段を形成するように作られている。1・4号墳は尾根筋に周溝を設けることで墳丘を画している。北側斜面にある古墳は、地形の高い方にのみ周溝を築くことで墳丘を作るものの、必ずしも明確にしないものもあり、弥生時代的、言い換えれば方形台状墓的などこから古墳なのか明確でない墳丘といえる。

第２節　１号墳

墳丘

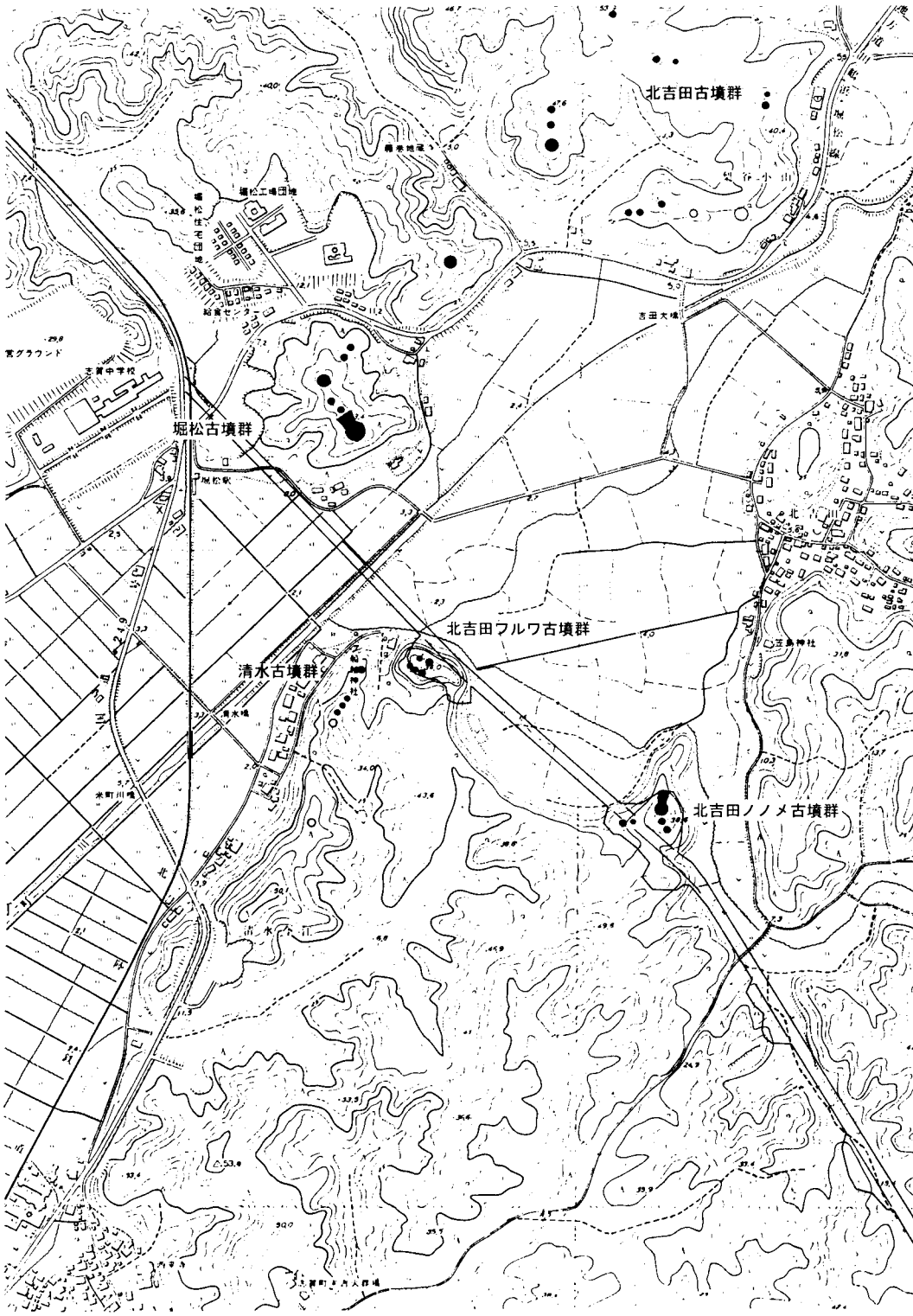
直径約13m、高さ約2mの円墳である。南西部分が採土によって破壊されている。尾根頂部に作られた古墳で、墳丘はやや幅広くなった尾根筋につくられている。周溝は尾根筋側にあたる東西方向に作られ、南北の丘陵斜面では周溝はみられない。地山削り出しで作っているようで、墳丘頂部を中心に明黄褐色砂質土の盛土(第93図の土層№8) が約20cm程度認められる。墳頂部は攪乱的な土層が広範囲に認められ、埋葬施設を確認できなかった。

埋葬施設

墳丘頂部に不定形な土坑を確認した。長さ約3m、幅約1.5mだが、その全形を把握できていない。この土坑は、前述の攪乱的土層にあり、掘り込み位置も明確でないことや、深さ約50cmもあることから、盗掘坑であろうか。土坑内部から鹿角装剣が鋒先を西に向けて出土したほか、剣の鞘口周辺に709個の滑石臼玉が出土した。剣の破損が限定的であることや滑石臼玉の中には連の状態のものがあること、および鉄鏃も同レベルから出土していることから、埋葬時に置かれた位置からそれほど大きく動いていないと思われる。この他に、剣身の断片がほぼ同じ高さで出土し、攪乱が埋蔵施設に及んでいることがわかる。これら遺物群から約40cm高い位置、すなわち土坑外側で、剣身の断片と須恵器杯蓋が出土した。これらは攪乱による2次的な移動によるものであろう。以上より、埋葬施設は木棺を直葬したものである。

出土遺物

1は須恵器杯身である。口径12.5cm、器高4.9cmを測り、天井部は平坦でその3分の2に回転ヘラケズリが及んでいる。口縁端部は小さな段を持つ。長石や黒色粒を含み、堅緻で良好な焼成であ



第 92 図　路線と北吉田周辺の古墳群　　1/10,000

る。陶邑産でTK23型式である。

2は2本の鉄鏃が銹着している。1本が透かしのある小さな茎部を持つ平根鉄鏃で、刃部に矢柄の木質が遺存する。大きな逆利には小さな段がある。鏃身長8.1cm、同幅4.8cmの大型である。もう1本は、箆被のある尖根柳葉鉄鏃で茎部には木質が遺存する。鏃身長8.2cm、刃部幅約3cmをはかる大型鉄鏃である。大きな腸抉である。図上では鎬の表現があるが、両丸作りで鎬はない。3・4は剣身部の断片である。鞘の木質は遺存していない。5は柄装具をのこす剣である。刃部と茎部先端を欠損し、部品の接合面も微妙な違和感がある。全長39.5cm、推定刃部長32cm、刃部幅約3cmで、短剣の部類に入る。刃部には鞘の木質が全面に残る。鞘口には幅3cmの別部材が認められ、ハバキのようなものであろう。柄装具はこの部材から柄方向の幅4.5cmで認められ、ちょうど関部にあたる。表面に厚く錆が及んでいることからその素材を明確にできないが、おそらく木装のようである。X線調査を行っていないので、関の形状は不明である。

臼玉は全て滑石製品で、709個出土した。直径3.05～4.5ミリ、厚さ0.8ミリ～4.3ミリの大きさで、主体となるのは直径3.5ミリ前後、厚さが2ミリ前後である。どちらかというと、薄い臼玉の部類である。総延長は127cmである。連になっていることや剣脇にまとまっていることから、首飾りのような紐に通された状態でまとめられたものである。

小結

直径13mの円墳で周溝をめぐらす。木棺直葬が推定され、少なくとも剣2本、鉄鏃2本以上、臼玉709個以上を副葬していた。盗掘坑外から須恵器杯身が出土しており、本墳に伴う副葬品と思われるが、木棺との位置関係はわからない。時期造時期は5世紀後葉のTK23型式期である。

第3節　2号墳

墳丘

2号墳は1号墳から北に伸びる支尾根に作られており、下方には3号墳が作られている。墳丘は尾根筋の両側にあたる東西の斜面を削ることによって方形の墳丘を作り出している。地形的に高い南側は弥生時代後期高地性集落環濠の北方溝Ⅰと重複している。南の周溝は0.9mを測り、細いV字状を呈するが、周溝の墳丘外側ラインが直線的に伸びるのに対し、墳丘側が丸く描くようになっている。すなわち、周溝掘削には、山側を「コ」字状とするのに対し墳丘側を墳丘相似形に掘削しているのである。北側の墳丘は尾根斜面と一体となっており、墳丘端を明確にできない。以上より、東西直径7.5m前後、南北は第3号墳周溝と切り合いがあるが、6.7m前後の規模の円墳と思われる。西側周溝から須恵器甕が出土しており、本墳に伴うものであろう。

埋葬施設

墳頂の南によった位置で、長方形の土坑を検出した。長さ2.46m、幅0.82mで、横断面土層からすると幅0.5～0.6mの木棺状の落ち込みを検出している。しかし、長軸方向の断面図で確認できなかったことや、横断面で想定される墓坑埋土(第97図土層№1) が長軸方向で想定する木棺埋土に覆うようにあることや、副葬品がないことから、積極的に埋葬施設と考えることに躊躇を覚

える。墓坑底も長軸方向で15cmも高低差があることも気にかかる。以上より、本報告では、この土坑を埋葬施設とは考えない。

出土遺物

第98図1は須恵器大型瓶である。体部最大径16.2cm、器高15.2cmをはかる。頸部は細く締まり、短い口頸部に波状文が施される。体部高中程に最大径がくるので、つぶれた球状を呈する。体部中央に2条の沈線とその内側に波状文を施す。陶邑産で、TK23型式に属する。

小結

直径8m程度の円墳で、山側を「コ」字に掘削して墳丘を作っている。埋葬施設は確認できないが、木棺直葬であろう。墳丘の築造位置関係から1号墳よりも後出すると思われる。

第4節　3号墳

墳丘

3号墳は2号墳の下方にある。本古墳群で最も低い位置に造られた古墳である。弥生時代後期高地性集落の北方溝Ⅱと山側周溝が重複している。墳丘にともなう周溝は、2号墳同様「コ」字形に掘削され、墳丘側はその相似形に削り込まれている。この点においては、2号墳と同じ築造方法で作られている。墳丘東西側は地山削り出しによってつくられている。墳丘は東西直径10.5m前後、南北が約8mと推定できるものの、発掘調査で墳丘南北規模を示すデーターをとっていない。墳丘南にあたる山側は、北方溝Ⅱと重複しており、なおかつ調査時に埋葬施設と考えた土坑が北方溝Ⅱと重複している。やや複雑な土層状況で正確に記録されているとは言いがたく、第96図から古墳と周溝および環濠溝の状況を復元するのは難しい。少なくとも平面的に確認できた前述の周溝状況が古墳に伴うものとして評価できる程度である。土器は墳丘流土から出土している。

埋葬施設

墳頂部で埋葬施設と考えた長方形の土坑を検出した。土坑は、推定長約2.8m、幅約1.5mで深さ約30cmを測る。土坑横断面で木棺の痕跡は確認できず、埋葬施設かどうかわからない。

出土遺物

すべて須恵器である。第98図2は杯蓋で杯天井部ヘラケズリが破片で認められないので、3よりもその範囲が狭い。3は杯蓋で口径11.8cm、器高3.9cmと腰高で、ヘラケズリは稜近くまで及んでいる。2・3とも口縁端部は四角形に仕上げられる。4は杯身で、口径10.5cm、器高4.7cmをはかる。口縁端部は丸く仕上げられ、回転ヘラケズリが天井部の3分の2の範囲に及んでいる。5は直口壺で潰れ気味の球形の体部に直線的にひろがる口縁部である。体部下半外面に平行叩きがあり、体部と口縁に波状文をめぐらす。これらは、すべて陶邑産で、おおむねTK23型式である。

小結

直径10m程度の円墳で、山側を「コ」字に周溝を掘削して墳丘を作っており、2号墳よりも若干規模が大きいようだ。埋葬施設は不明だが、木棺直葬であろう。墳丘の位置関係から1・2号墳よりも後出すると思われる。

第５節　４号墳

墳丘

4号墳は1号墳周溝から5m東隣につくられ、墳丘北東側の大部分が削られている。尾根筋にあたる墳丘東西に幅1～2mの周溝をめぐらす。東側の周溝が直線的であるのに対し、西側が円弧を描いているが、周溝が一部しか残っていない状況からであろう。以上より、直径13m程度の円墳であったと推定される。

埋葬施設

墳丘ほぼ中央に、墓坑状の土坑を確認した。幅0.75m、長さ1.5mで、北側が失われている。土坑は隅の丸い長方形を呈し、南端でU字鋤鍬先、30cm離れて刀子が出土している。土坑幅からすれば、木棺腐朽に伴う落ち込み土を掘削した可能性が高く、横断面の土層状況もそれを示しており、埋葬施設を全掘できたとは考えられない。しかし、鉄製品の出土位置は埋葬時原位置であり、おおむねこの位置に埋葬施設が作られたことには間違いなく、木棺を直葬する埋葬施設と判断できる。また、須恵器壺が破片の状態で埋葬施設南側に広がっている。埋葬儀礼に伴う所作の結果と理解できよう。

出土遺物

第102図1はU字鋤鍬先である。全長15.0cm、幅14.6cmである。土圧によりゆがみがある。実測図裏面に木質が付着しており、木棺材と思われる。柄の木質はない。2は刀子で木製柄が残っている。刃部長10.2cm、関部幅2.7cmをはかり、鞘の痕跡はない。柄は刃部まで約8ミリ程度入り込んでいる。茎部と関の位置からすれば、両関の可能性が高い。

3は須恵器壺で、外面に平行タタキがみられ、内面の当具痕の多くはナデ消されている。底面に破片が見られないのは、意図的な穿孔によるものかもしれない。頸部は小さく締まり、小さな段を持つ口縁で、装飾はない。底部は平底気味である。時期的な帰属が難しいものの、内面の当具痕をナデ消していることからすれば、2・3号墳のTK23系型式期よりも遡る可能性が高い。

小結

直径13mの円墳で1号墳とほぼ同規模である。須恵器から明確な時期を確定できないが、古墳の位置関係から、1号墳と相前後する時期に造られたと考えられる。

第６節　５号墳

墳丘

4号墳の北西斜面に位置する。2・3号墳のようなやや幅広い地形につくられているわけではなく、かなり傾斜の強い斜面にある。高地性集落環濠である北方溝Ⅰは5号墳のある尾根を横断するが、より下位に位置する北方溝Ⅱは、5号墳のある尾根で止まっていることから、5号墳が作られた尾根は、本来張り出しの強い地形であったと理解できる。

5号墳の墳丘は明確でない。2・3号墳のように山側に周溝がつくられず、北西側の下がり地形の斜面は築造当初の地形が失われているために、墳丘裾を明確にできない。埋葬施設から約3m下方に墳丘裾となるような土層の下がりがあるが、土色等の記録はなく不明といわざるを得ない。また、地形の高い方の斜面には、埋葬施設から約1m離れて幅40cmほどの溝が確認できた。土層状況からすると、埋葬施設の上面に溝埋土が及んでいることから、5号墳よりも後出であるので周溝ではない。したがって、墳丘の形状及び規模を知ることはできない。古墳に先行する環濠や地形からすれば、2・3号墳とそれほど違わない規模と考えられる。

埋葬施設

木棺直葬を1基確認した。墓坑長3.9m、同幅1.5mである。木棺痕跡を意識的に調査していないようなので断定できないが、長さ約2.6m、幅0.7m程度の箱形木棺ではないかと推測している。これは、木棺状の下端の痕跡からの推定である。その一方で木棺腐朽に伴って落ち凹む土層状況が平面的に確認されており、墓坑底から数cm程度の上で擂鉢状の落ちがある。埋葬施設内から鋒先を西に向けた剣が木棺中程の南端から出土し、被葬者の左側の体側に位置する。剣身中程に鉄鏃2本が出土し、被葬者の脚付近に位置する。鉄鏃は並んだような状態でなく、柳葉尖根鉄鏃が木棺に直行するように出土していることから、2次的に移動がないとすれば、矢柄を折った状態で副葬されたようである。なお、遺物図では鉄剣のほかに刀剣類の茎部片(第105図5) を載せているが、報告する剣の一部である。なお、須恵器が出土しているが、出土ラベルでは「北方中段溝状遺構」とあり、5号墳周辺に位置するようで、本墳に伴うものか断定できない。

出土遺物

1、2は須恵器杯身である。口縁端部が欠損しているが、復原できる口径は11～12cmである。3号墳出土須恵器よりも天井部ヘラケズリの範囲が狭く、厚く作られている。陶邑産で、概ねTK23型式の範囲に収まると思われる。

3は尖根腸抉柳葉鏃で箆被をもつ。鏃身長9.2cm、刃部長5.0cm、同幅2.7cm、箆被長5.2cmを測る。全長12.7cmで茎部には矢柄の木質が残っている。左右の逆利の大きさ(幅) が微妙に異なる。1号墳のように逆利が広がることはなく、1号墳よりも稚拙な感がある。4は無茎三角形鏃で鏃身中軸に根挟みが残っている。全長4.2cm、幅3.6cmを測る。刃部平面形は五角形気味である。

5・6は剣で、同一個体である。出土状況図では茎部が遺存しているものの、実測段階ですでに鋒先および茎部の多くが失われていた。したがって、全長は分からず目釘についても不明である。出土状況図から見ると、全長96cm、刃部長78cmである。現存する刃部長は68cm、復元刃長72cmで鎬の無い平造である。(実測で稜線が表現されているが間違いである)。全面に木質が残っている。鞘口部分に鞘の木質と直交する別部材があり、鞘口の装具になろう。

小結

現状ではきわめて劣悪な位置にある古墳である。山側の周溝が本来なかっとは思えず、おそらく、北方溝Ｉと重複しており、古墳周溝の存在に気づかず調査を行なったからであろう。しかし、本古墳群で唯一埋葬施設らしい構造を確認できた。それを積極的に評価すれば、長方形墓坑に収

本古墳群で唯一埋葬施設らしい構造を確認できた。それを積極的に評価すれば、長方形墓坑に収められた箱形木棺である。本文でも記したが、調査者がその構造の基本的な理解しないままに調査を行ったために基本構造の細部が明らかにできなかった。この点からも、5号墳埋葬施設の調査も、木棺の落ち込み土の掘削で終わった可能性が高い。

第7節　まとめ

発掘調査で5基の古墳を調査した。調査時には丘陵尾根の東西が削り込まれており、あと数基存在した可能性がある。古墳は尾根筋から米町川に面する側につくられている。尾根上に位置する1・4号墳は周囲に周溝をめぐらすが、斜面にある古墳は山側を「コ」字に周溝を掘削することで墳丘を作っている。1号墳下方には2、3号墳があり、4号墳下方には5号墳があるように、それぞれで小支群を形成する。そうすれば、尾根筋にあと1から2基の古墳が存在したとすれば、3～4の小支群からなる合計10基程度の古墳群であったと復原できる。

1～3号墳の小支群は、1→2→3号墳という築造の流れである。1号墳は須恵器を副葬せず、副葬する古墳よりも先行すると考えられるので、中期中頃に時期比定できよう。そうすれば、TK23型式の中期後葉の中期後半という短時間に造営されたこととなる。4→5号墳という築造についても、ほぼ同様の時間幅が想定され、二つの小支群が並行して古墳を築造していく様子が見てとれる。そして、築造契機となった1・4号墳と順次造られた古墳との墳丘面から来る格差は非常に大きく、劣悪な場所でしか古墳を造れない事情が見られる。

副葬品から見れば、1号墳で鉄鏃と剣と臼玉、4号墳で農工具がある。斜面にある5号墳からは剣と鉄鏃があり、一見、副葬品種類の点で優劣がないかのようだが、1号墳では複数の剣の副葬が想定されるように、数の面に優劣を見ることができる。また、2・3号墳には鉄製品等が副葬されず須恵器のみであることも、格差として認識できる。

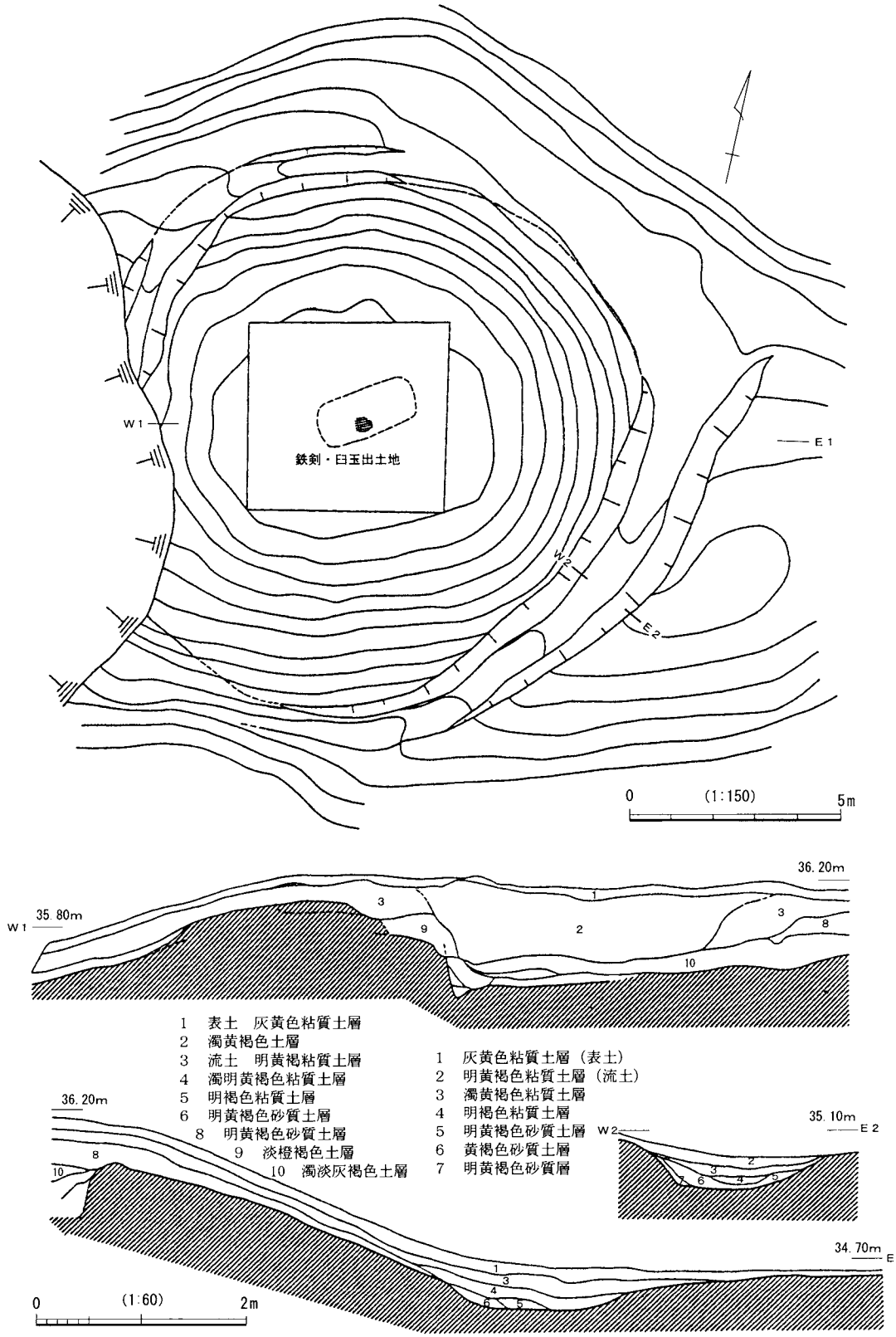
築造時期からすれば、いわゆる初期群集墳(古式群集墳とも言われている）と評価できるものだが、畿内などで出土する銅鏡や甲冑などを副葬する特徴はない。これを地方的な姿としてとらえると、初期群集墳論あるいは古式群集墳論を地方にあてはめることには、慎重でありたい。

先に報告した北吉田ノノメ古墳群[註]は、本古墳群よりもやや後出するようで、中期後半末葉から後期初頭にかけて5基の古墳が造られた。また米町川北側には33基からなる北吉田古墳群があり、小型前方後円墳を含み、かつ時期的に並行するようである。つまり中期後葉段階にこの地域にとって古墳を築く社会に入る大きな画期となったのである。

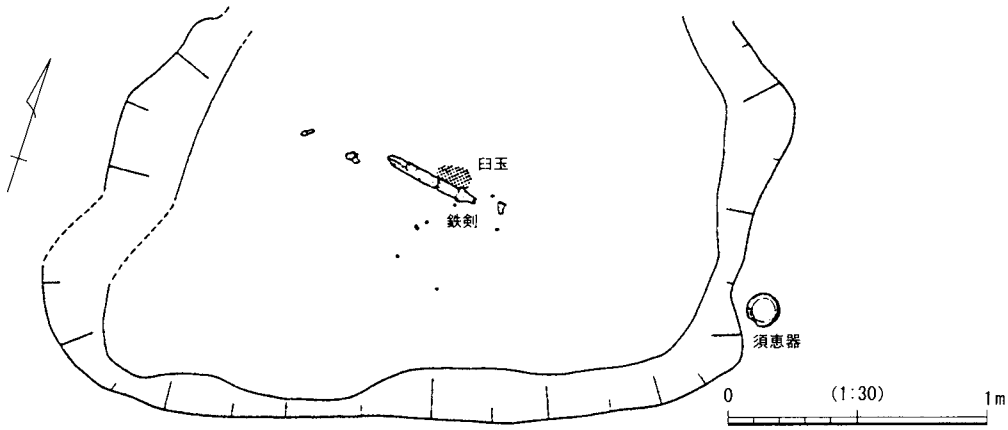
古墳群眼下に広がる米町川流域は、福野潟に連続する潟湖的な状況となって河口から遡上可能であったと思われる。これら古墳群は、海から招来する外部世界と中能登地域をつなぐ機能を持っていただろう。米町川上流は土田盆地となり、能登半島中央に位置する能登最大前方後円墳である徳田燈明山古墳が位置する。この古墳との有機的な関連性を評価したい。

註

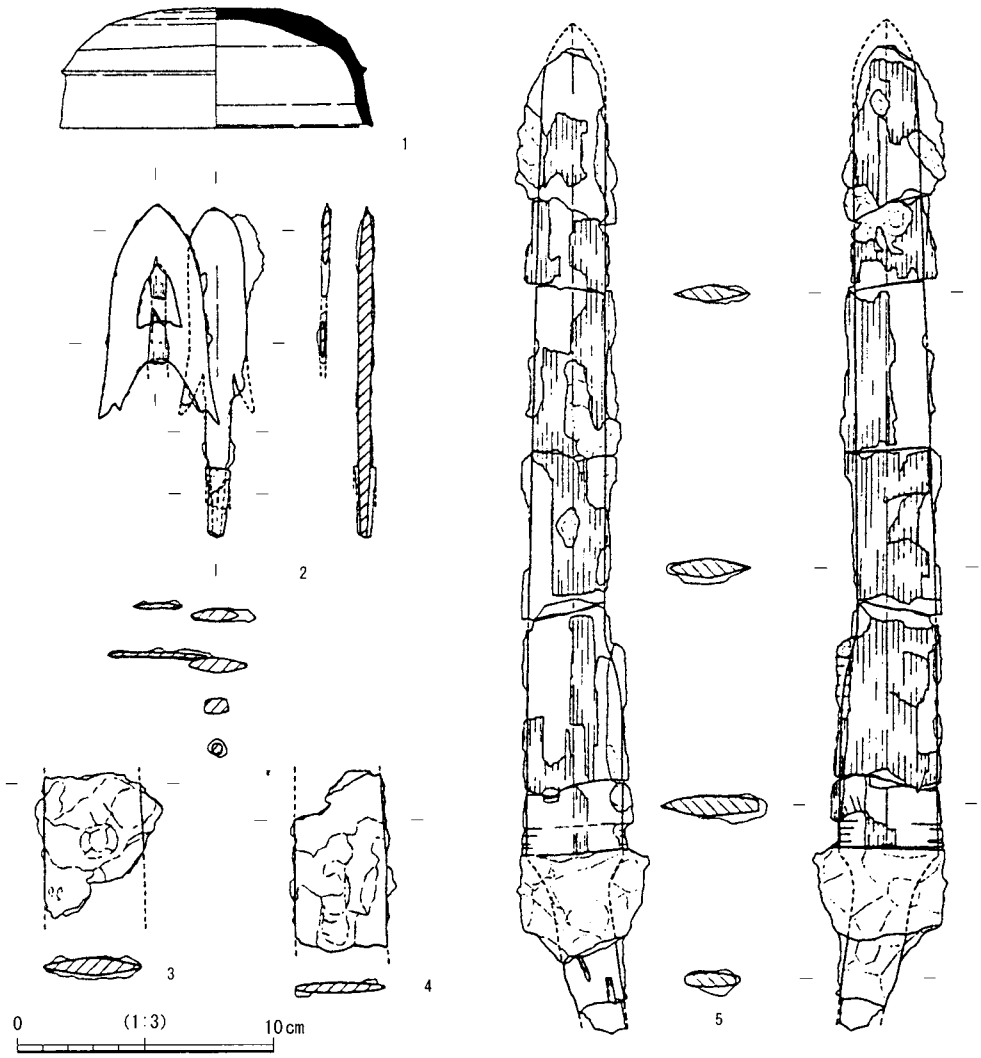
石川県立埋蔵文化財センター1992『北吉田ノノメ古墳群発掘調査報告書』



第 93 図　1 号墳墳丘実測図

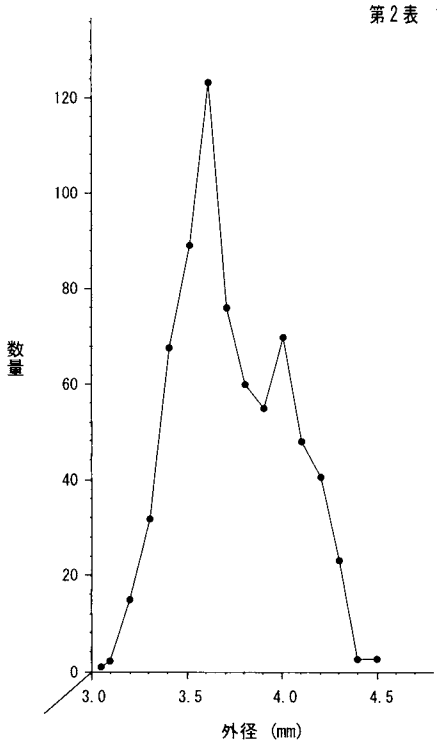


第 94 図　1 号墳埋葬施設実測図



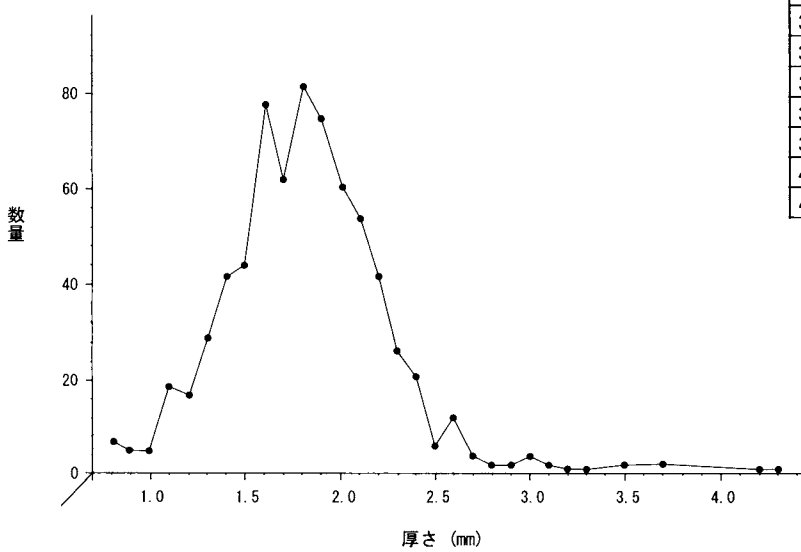
第 95 図　1 号墳出土遺物実測図

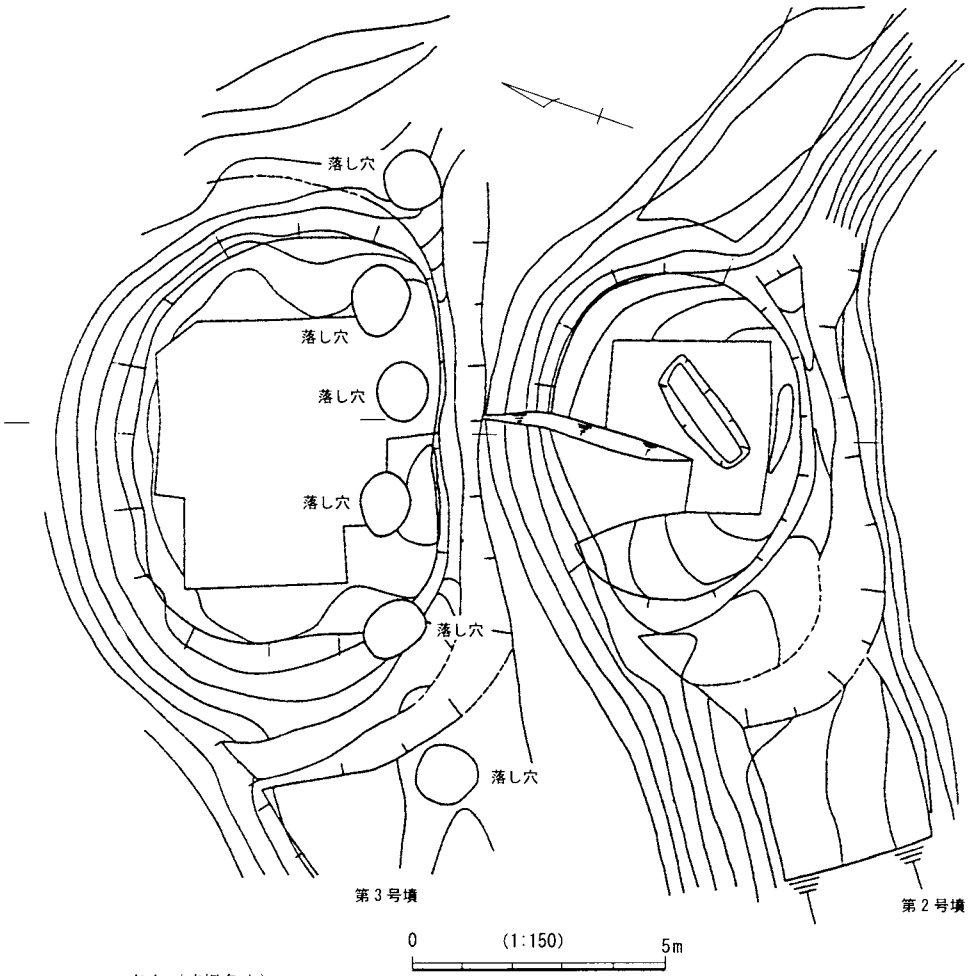
第2表　第1号墳出土臼玉集計表



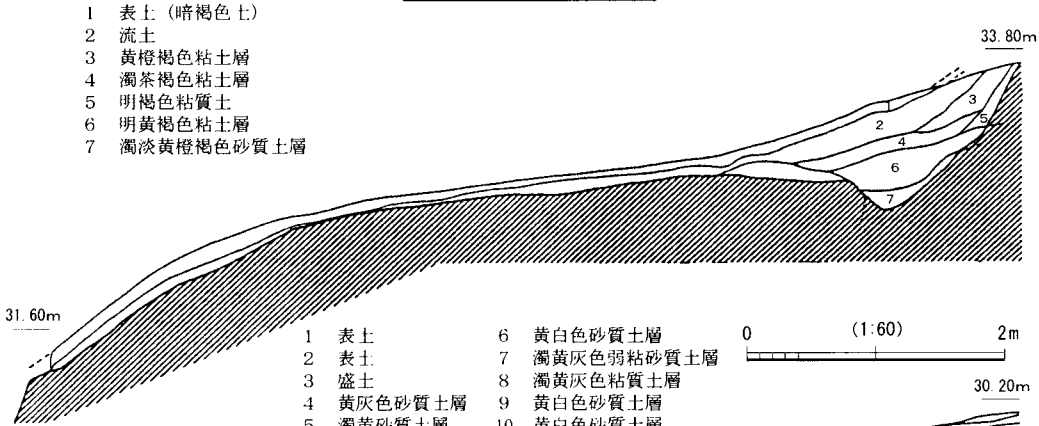
外径 (mm)	数量
3.05	1
3.10 ～	2
3.20 ～	15
3.30 ～	32
3.40 ～	68
3.50 ～	89
3.60 ～	123
3.70 ～	76
3.80 ～	60
3.90 ～	55
4.00 ～	70
4.10 ～	48
4.20 ～	41
4.30 ～	23
4.40 ～	3
4.50 ～	3

厚さ (mm)	数量
0.80 ～	7
0.90 ～	5
1.00 ～	5
1.10 ～	19
1.20 ～	17
1.30 ～	29
1.40 ～	42
1.50 ～	44
1.60 ～	78
1.70 ～	62
1.80 ～	82
1.90 ～	75
2.00 ～	61
2.10 ～	54
2.20 ～	42
2.30 ～	26
2.40 ～	21
2.50 ～	6
2.60 ～	12
2.70 ～	4
2.80 ～	2
2.90 ～	2
3.00 ～	4
3.10 ～	2
3.20 ～	1
3.30 ～	1
3.50 ～	2
3.70 ～	2
4.20 ～	1
4.30 ～	1



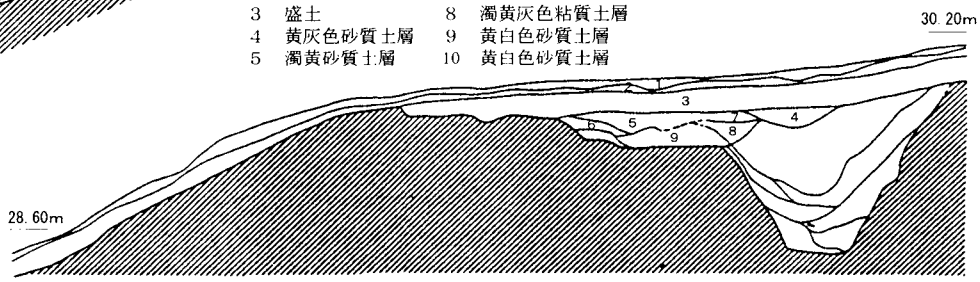


1　表土（暗褐色土）
2　流土
3　黄橙褐色粘土層
4　濁茶褐色粘土層
5　明褐色粘質土
6　明黄褐色粘土層
7　濁淡黄橙褐色砂質土層

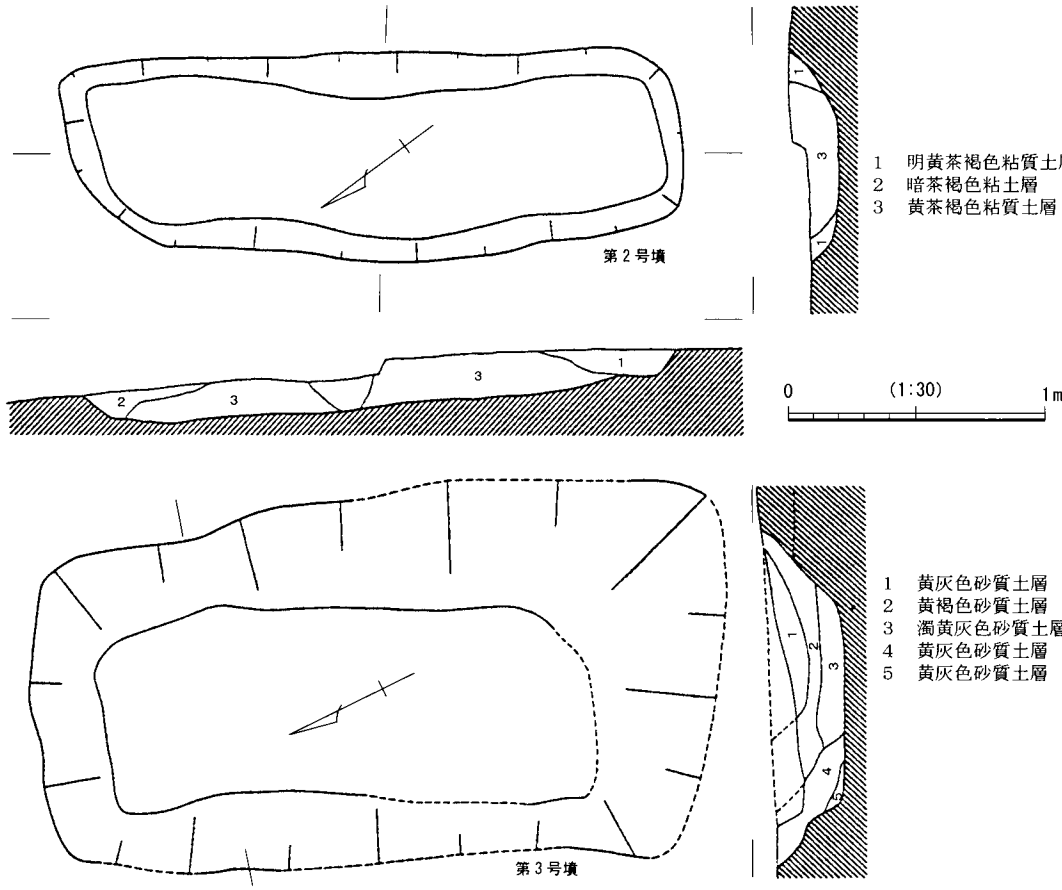


1　表土
2　表土
3　盛土
4　黄灰色砂質土層
5　濁黄砂質土層
6　黄白色砂質土層
7　濁黄灰色弱粘砂質土層
8　濁黄灰色粘質土層
9　黄白色砂質土層
10　黄白色砂質土層

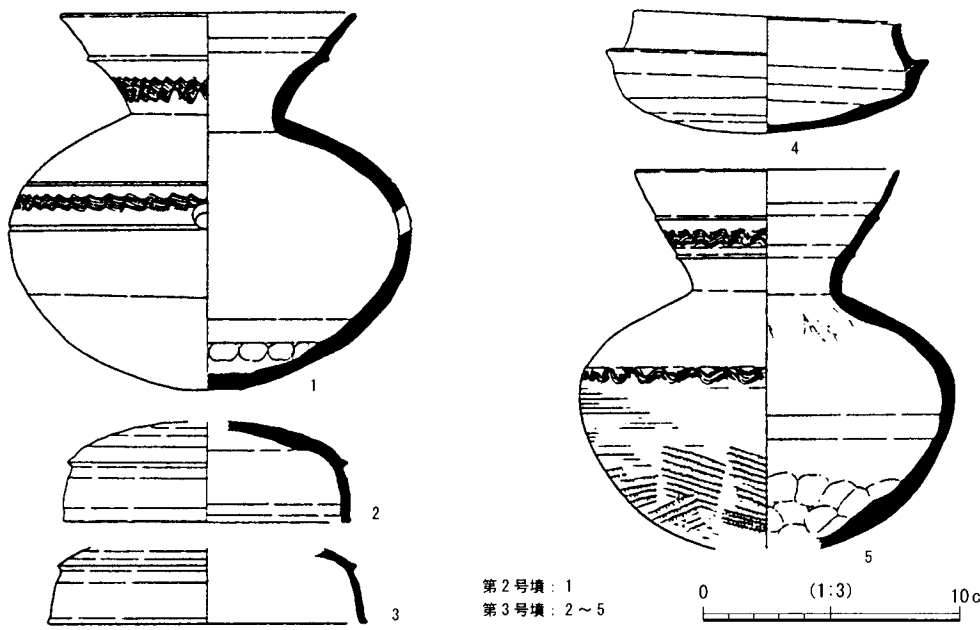
0　(1:60)　2m



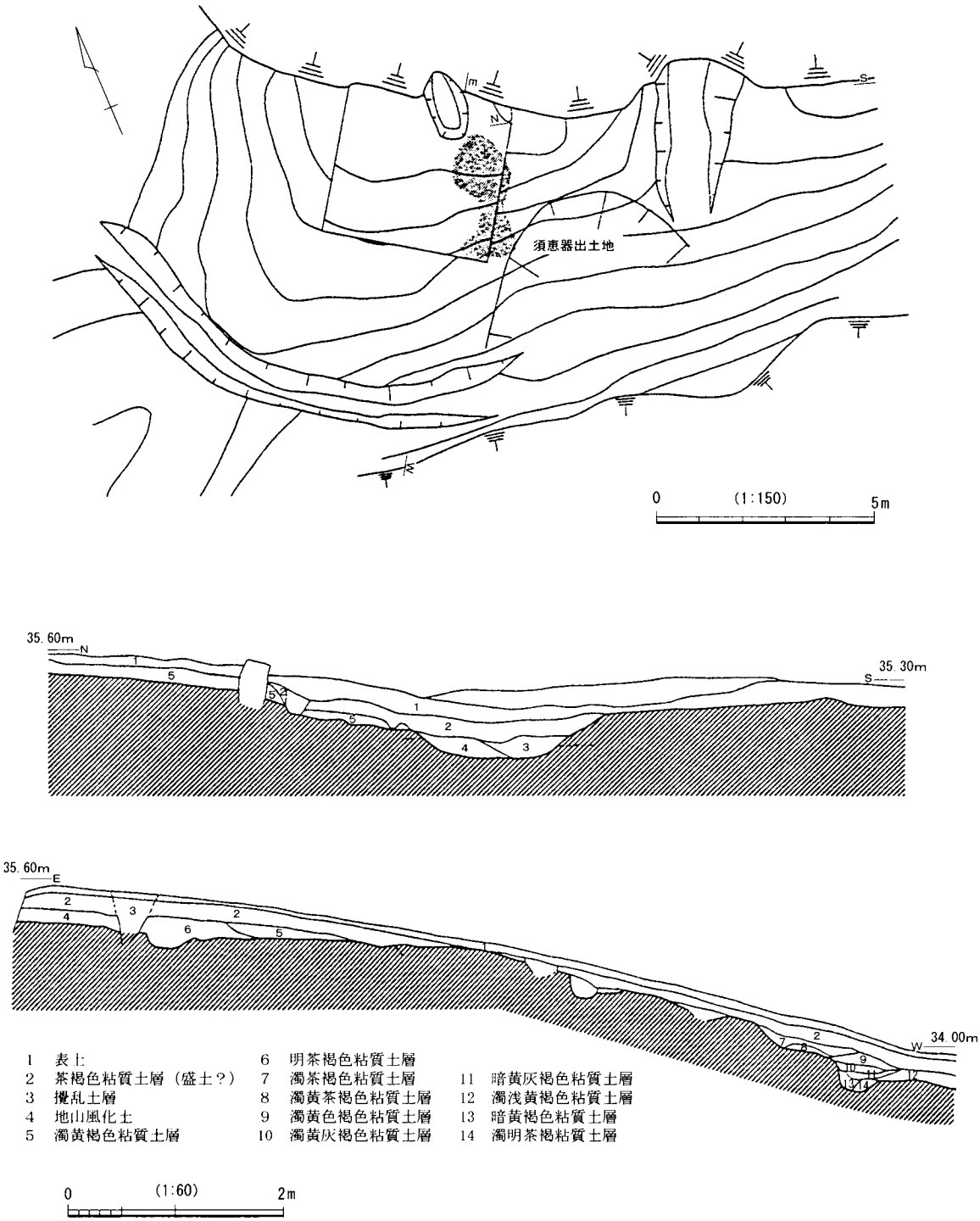
第96図　2号墳・3号墳墳丘実測図



第97図　2号墳・3号墳埋葬施設実測図　1/30

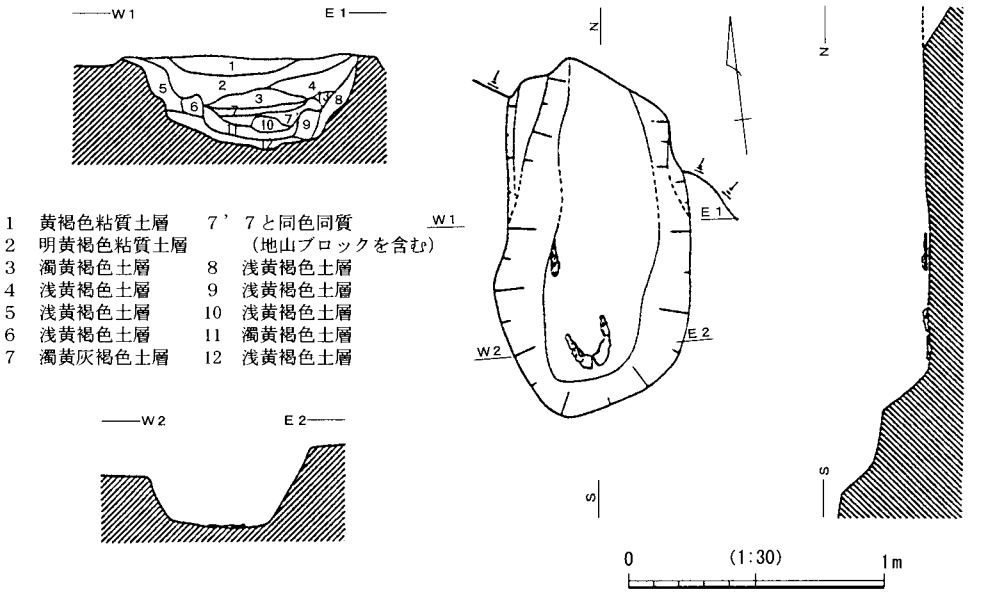


第98図　2号墳・3号墳出土遺物実測図

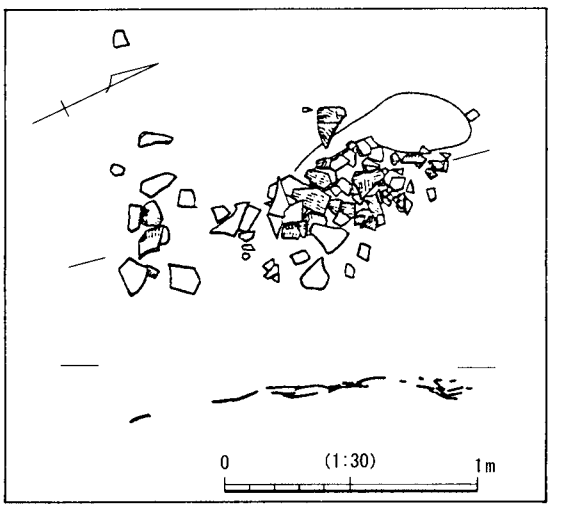


1 表土
2 茶褐色粘質土層（盛土？）
3 攪乱土層
4 地山風化土
5 濁黄褐色粘質土層
6 明茶褐色粘質土層
7 濁茶褐色粘質土層
8 濁黄茶褐色粘質土層
9 濁黄色褐色粘質土層
10 濁黄灰褐色粘質土層
11 暗黄灰褐色粘質土層
12 濁浅黄褐色粘質土層
13 暗黄褐色粘質土層
14 濁明茶褐粘質土層

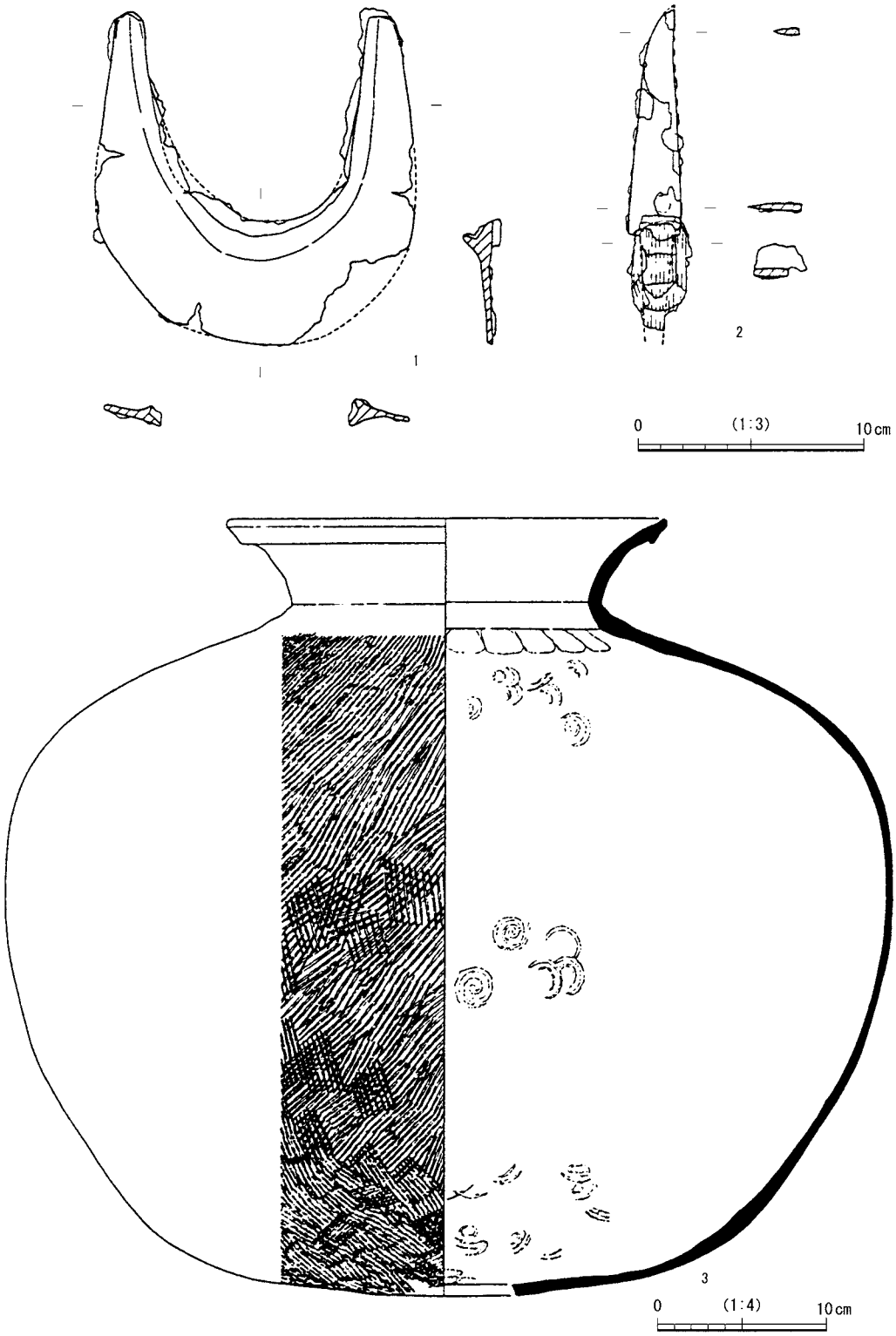
第 99 図　4 号墳墳丘実測図



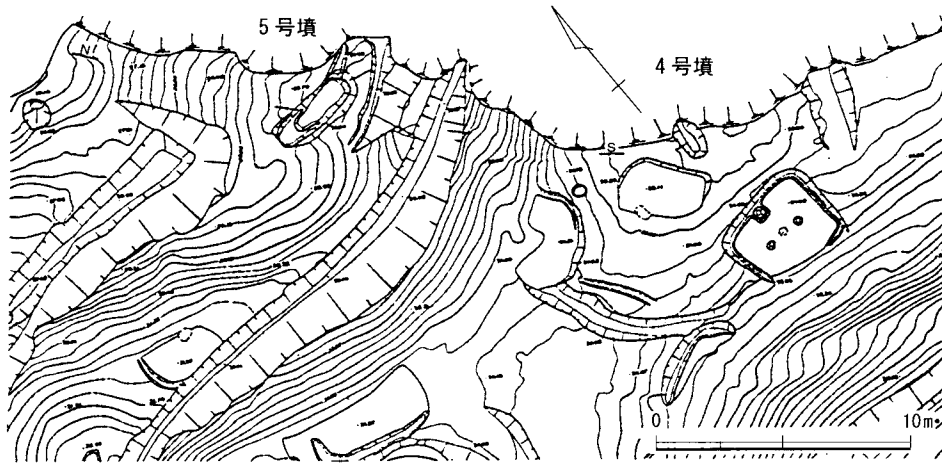
第 100 図　4 号墳埋葬施設実測図

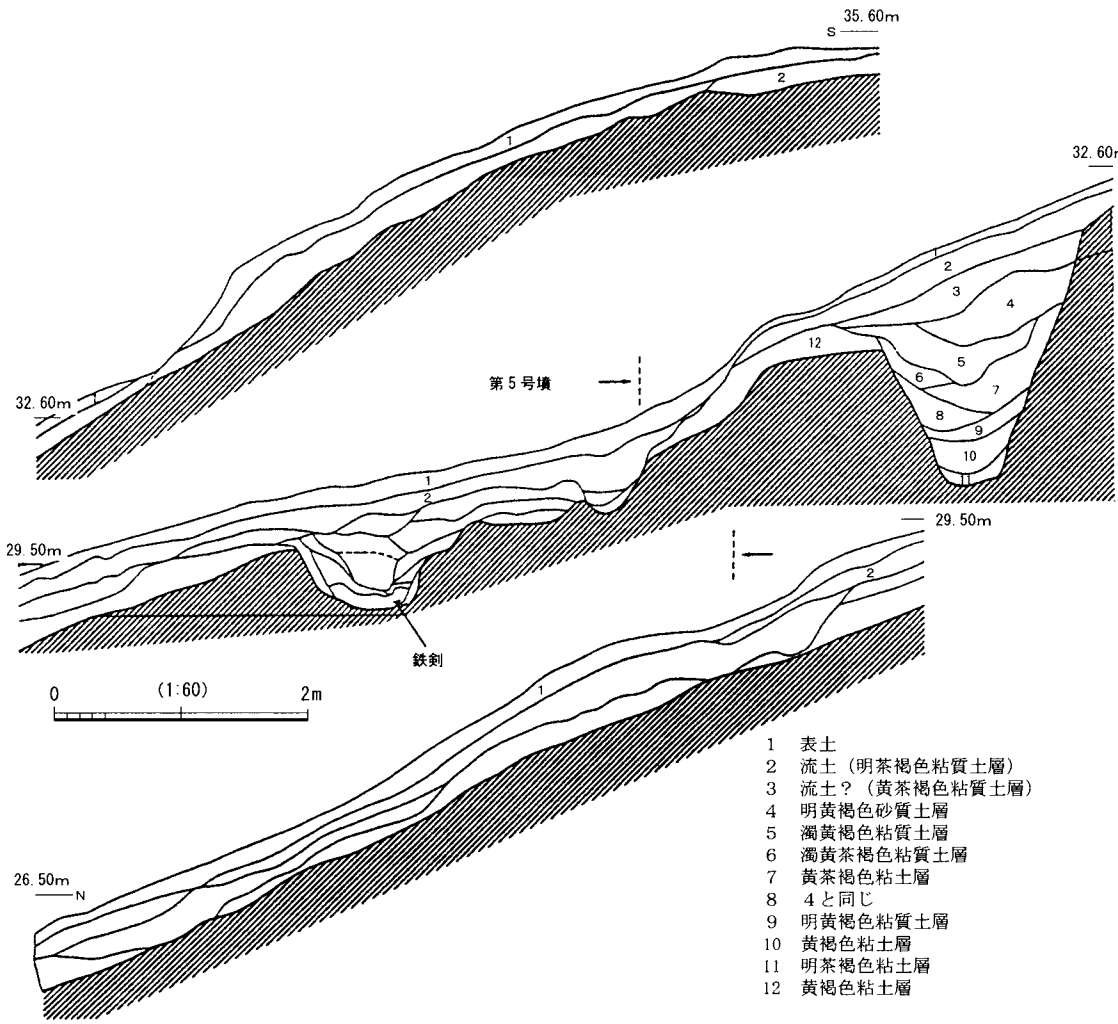


第 101 図　須恵器甕出土状況

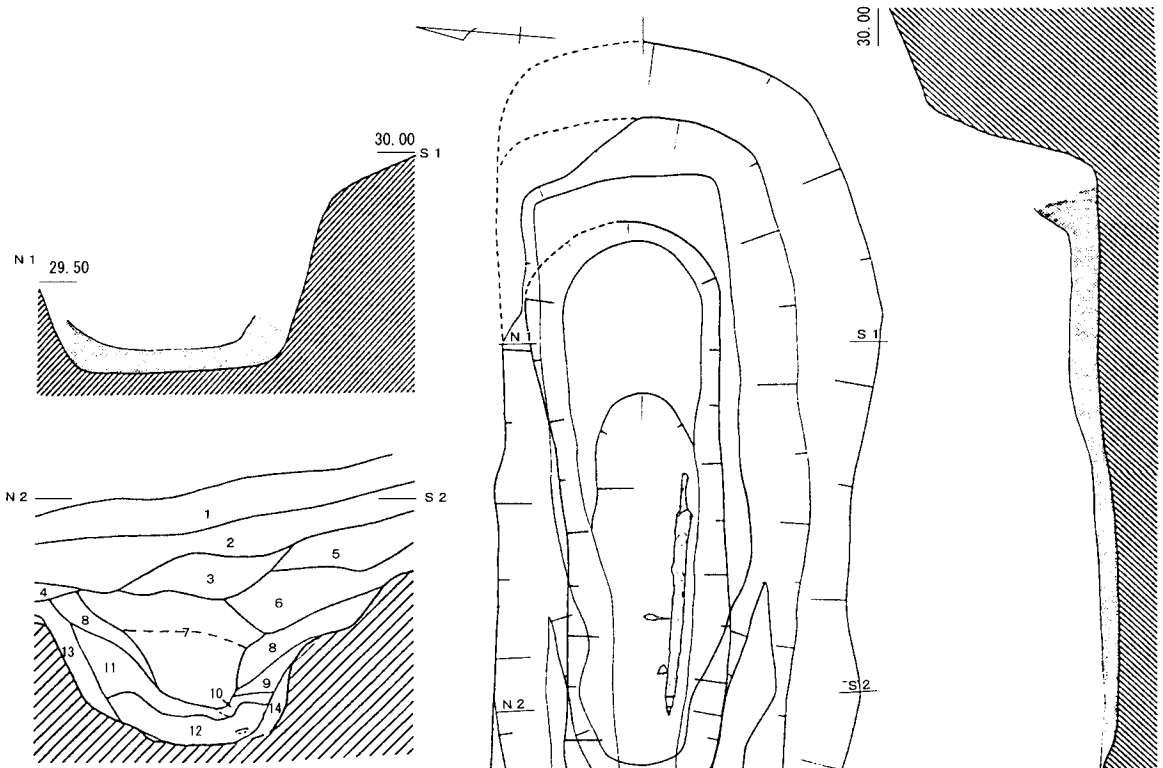


第 102 図　4 号墳出土遺物実測図





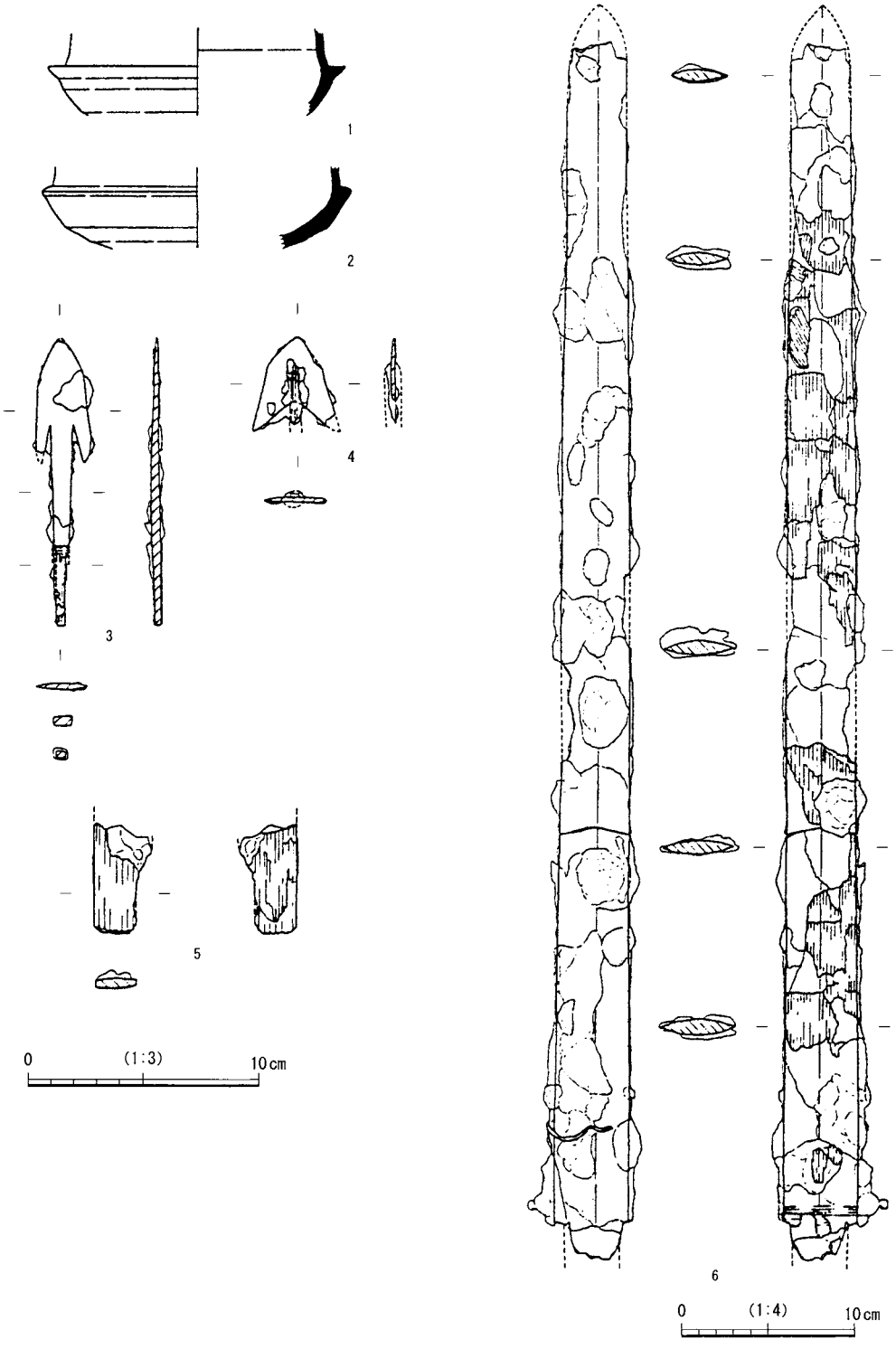
第103図　4号墳・5号墳墳丘実測図



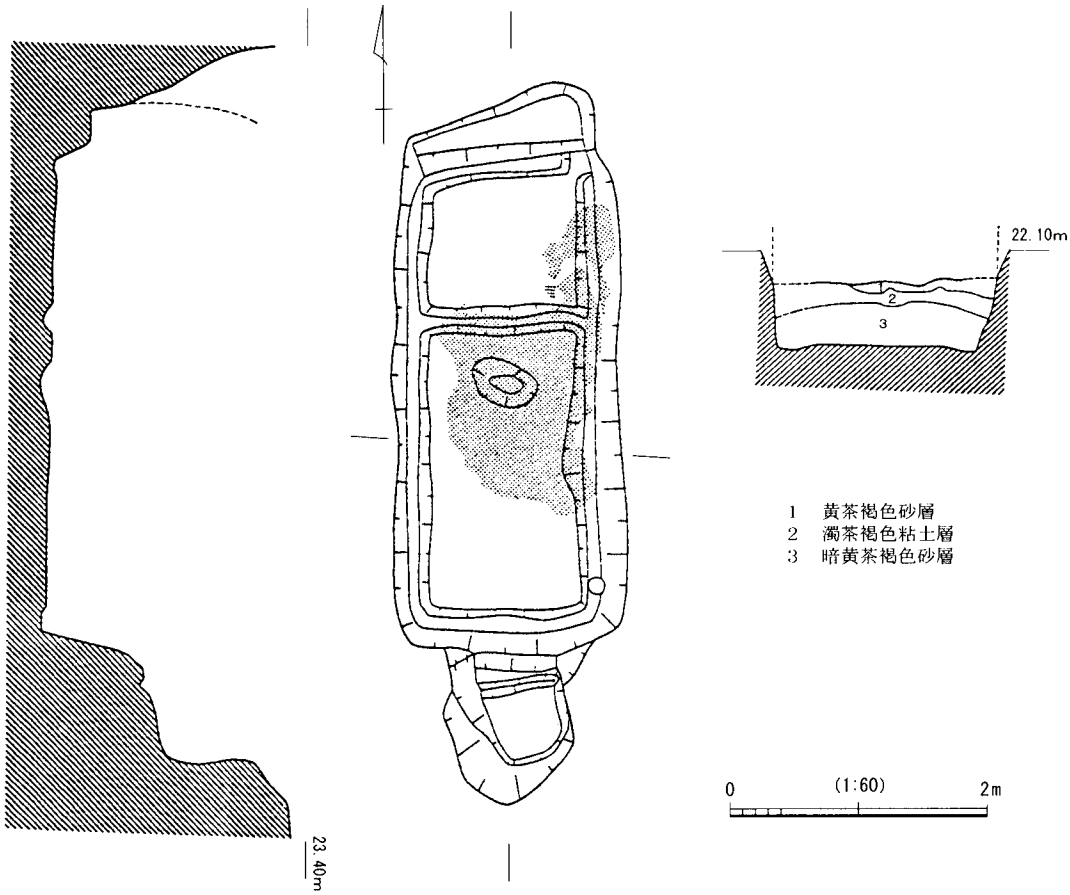
1　表土
2　流土（明茶褐色粘質土層）
3　茶褐色粘質土層
4　濁黄褐色粘質土層
5　黄茶褐色粘質土層
6　黄灰褐色粘質土層
7　濁黄灰褐色粘質土層
8　濁灰褐色粘質土層
9　黄茶褐色粘質土層
　（黄橙色の地山砂の含みが多い）
10　黄茶褐色粘質土層
　（9より暗く灰色の弱粘土を含む）
11　黄茶褐色粘質土層
　（茶褐色の地山粘土の含みが多い）
12　濁黄灰色粘質土層
13　濁茶褐色粘質土層
14　黄橙色砂質土層
15　濁黄橙色弱粘質土層

0　(1:30)　1m

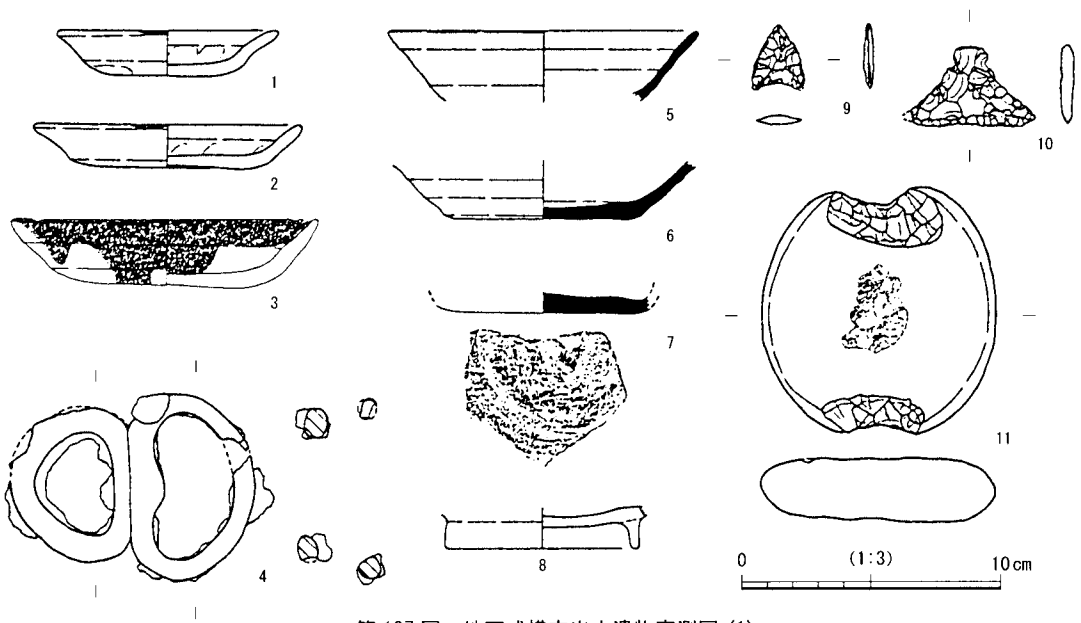
第104図　5号墳埋葬施設実測図



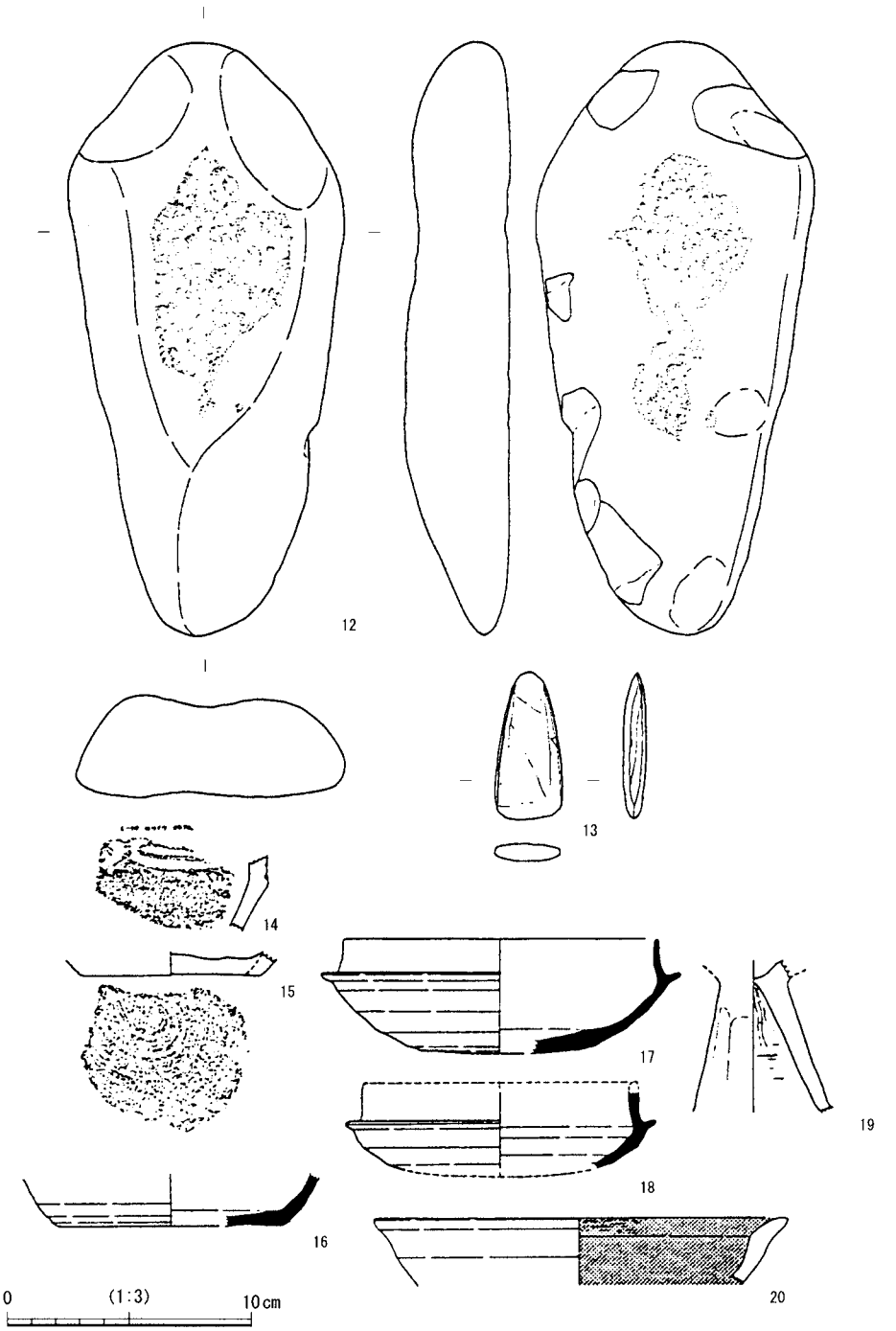
第 105 図　5 号墳出土遺物実測図



第 106 図　地下式横穴実測図



第 107 図　地下式横穴出土遺物実測図 (1)



第 108 図　地下式横穴出土遺物実測図 (2)

第６章　北吉田ノノメ遺跡

第１節　検出遺構

北吉田ノノメ遺跡は、北吉田ノノメ古墳群の南に展開する幅100m前後の狭隘な谷筋に位置する。現在、谷の中央に安津見からの小河川が流れ、遺跡はおそらくこの河川を媒体として形成されたことと思われる。昭和59年に本調査区ちょうど対面の町道工事による発掘調査が実施された。詳細は不明ながら、谷筋全体にわたって、何らかの人間活動が行なわれた。

発掘調査は、大きく三つの調査区域にわかれ、排土の関係から北の主要な第1調査区及び、南の重機搬入側の第2調査区、及び東西山道の南側にトレンチの調査区である。第1・2調査区は共通するグリッドとした。グリッドは、第1調査区の中心に原点を決め、調査区の長軸を南北の0ラインとし、東西でＥＷの基準線とした。原点から南北に10mずつ基準を決め、方眼を作った。グリッド名称は、北西杭の名称とした。

基本層序は、表土－床土－中間層－遺物包含層－遺構面（地山；明灰色砂質土）である。中間層は30cm前後の厚さがあり、大きく2層に分かれ、上層の灰色砂質土は粘性がないものの、床土を介さずに耕土直下に位置する部分もあり、耕作地造成にかかる土と思われる。遺物包含層は、粘性の強い暗～黒褐色砂質土で、その上面から切り込んでいる遺構もある。

調査区西には尾根が迫り、幅数十メートルの狭い範囲に遺構が存在する。地山は谷筋に向かって傾斜し、東西で約50cmの高低差が存在する。包含層は20～30cmもの厚みが存在し、このような場所にあって安定した人間活動であったことがわかる。検出できた主な遺構は、古代から中世前半に属する、建物５棟、製塩炉の可能性のある焼土面４ヶ所および上屋遺構、井戸4ヶ所である。SB01・03・04はおなじ建物軸であるが、SB02はこれらより若干東に傾きが強くなっている。

SB01

第1調査区と第2調査区にまたがって検出した。桁行2×梁行4間で4.4m×8.4mの規模である。東の桁筋が失われているが、地形の傾斜により検出できなかったと思われる。確認できた柱穴からすれば、総柱建物であった可能性が高い。南2間が北2間よりも柱間隔が狭い。この部分が床構造であったのであろうか。

SB02

SB01南に隣接する。現状で1間×3間で2.7m×9mの規模である。柱間隔が広く、梁が2間以上いくとは思えない。東柱筋がSB01中柱に合うことから、関連を持った建物と考えられる。

SB03

SB02南約25mに位置し、3間×3間で6.1m×6.5mの規模の総柱建物である。地形の傾斜により東側がさらに伸びる可能性もある。

SB04

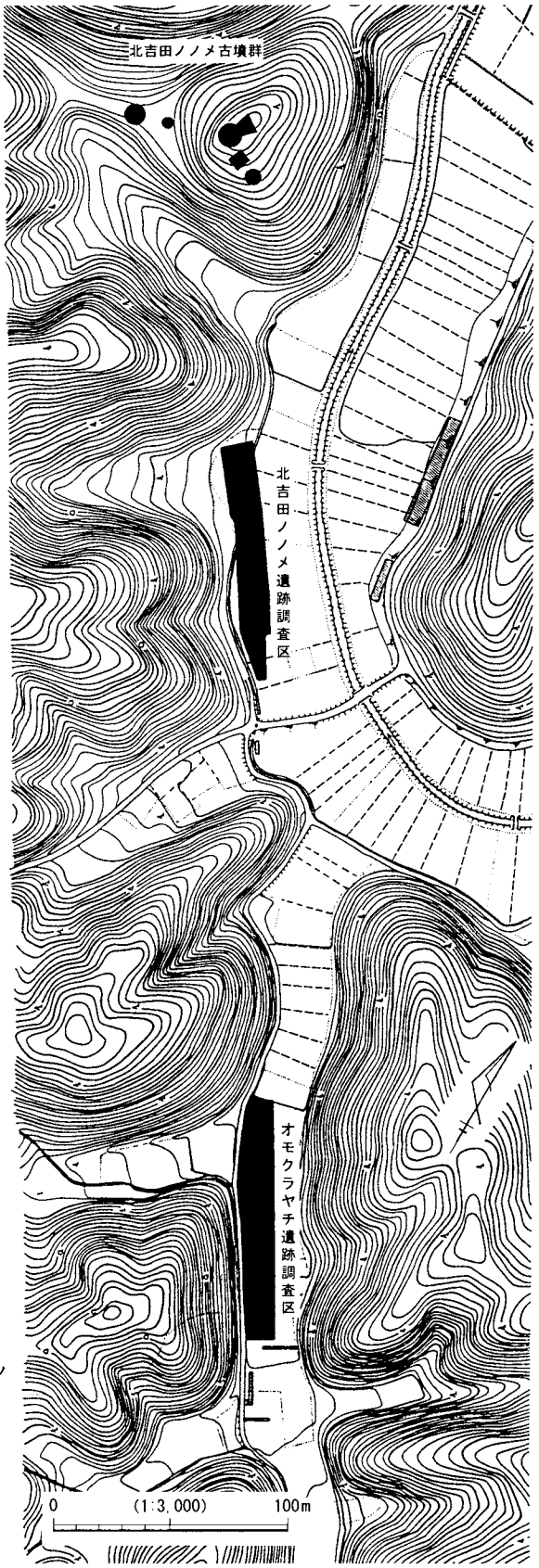
SB03と1.5m南にある2間×2間の建物で4.7m×5.4mの規模があり、東桁の側柱がSE08(SK08) 掘形と重複しているものの、柱穴を確認していない。SE01がSB04の軒先にあたることから、これらが一体的に機能する建物の可能性が考えられる。SK07よりも古い建物である。

SB05

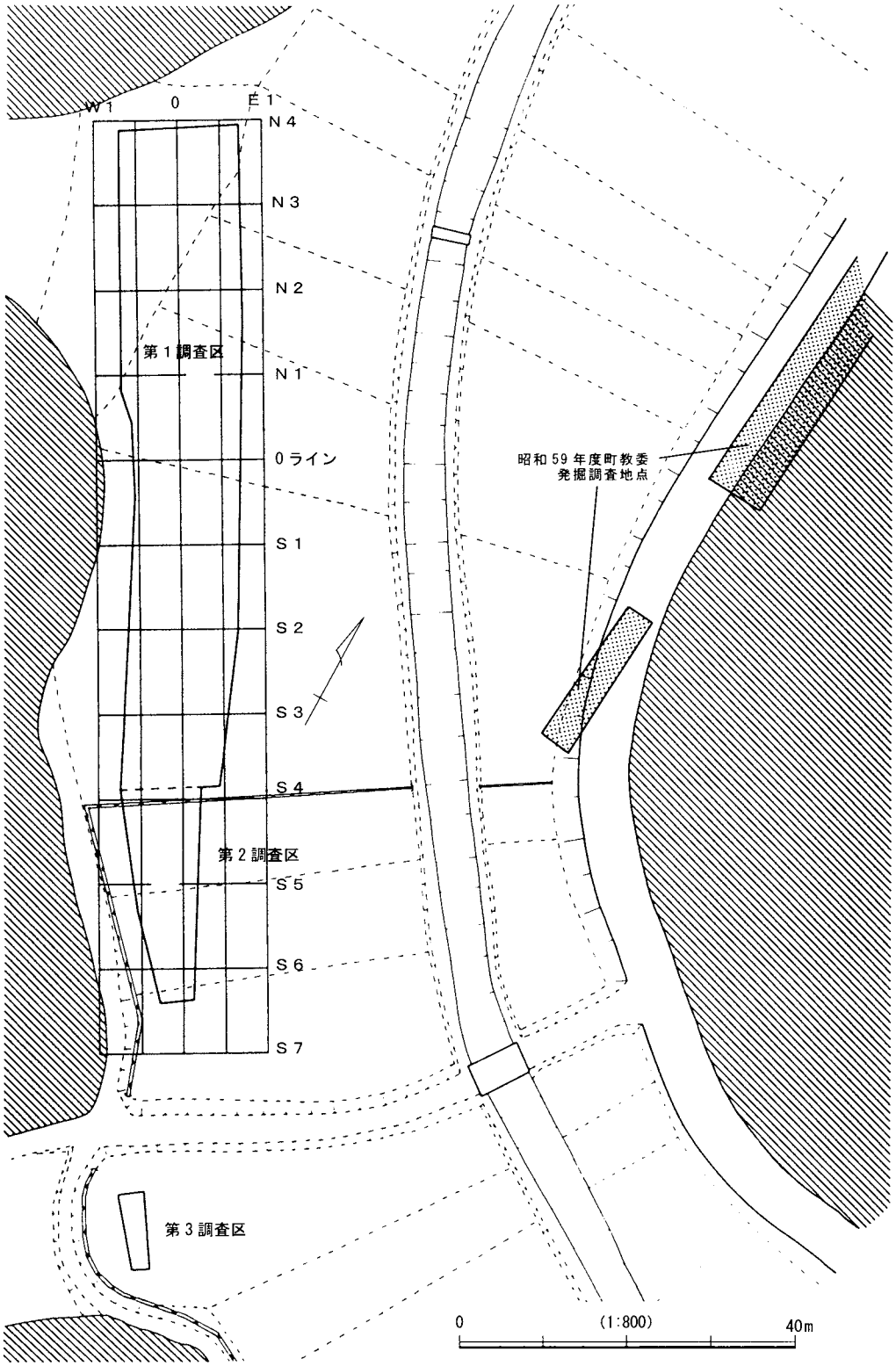
調査区北端で建物のコーナーのみ検出した。建物の軸はSB01～04と大きく異なり、焼土遺構に伴う遮蔽施設とおなじである。北の隅柱はSK05として取り扱ったが、柱穴である。長軸80cmの楕円形で25cmの柱根である。比較的多くの遺物が出土した。出土遺物から12世紀頃の建物と思われる。

焼土1～4

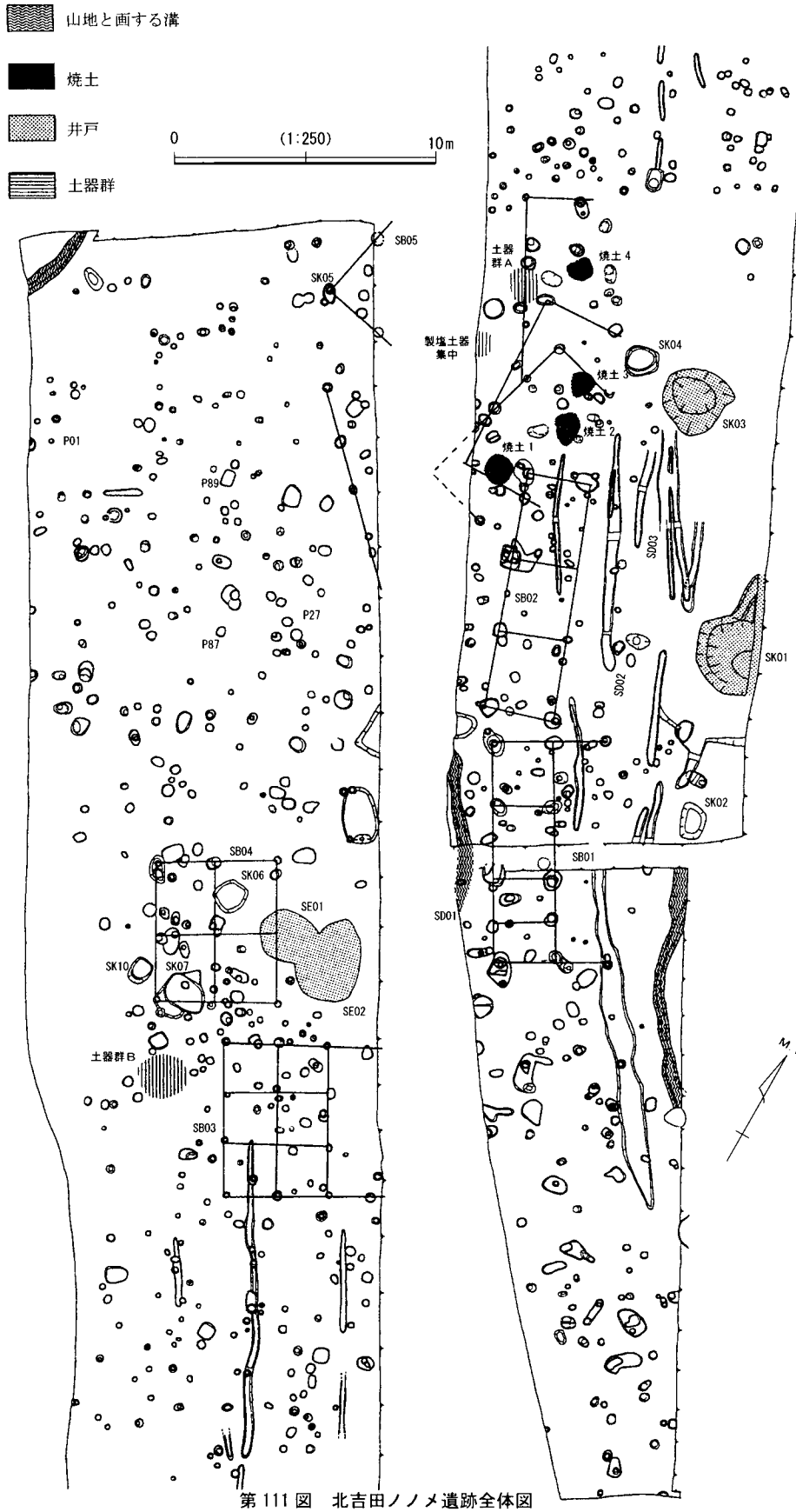
4ヶ所の焼土面とそれに付属する上屋を検出した。焼土は南から1、2‥とｓした。この遺構は、赤く焼きただれたような状態でなく、焼けて赤く変色した砂や、灰層のような粘質土または炭粒等を含む土である。これらを残しながら周囲の包含層を除去すると、番号を付した箇所が小さな高まりとなっていった。焼土1が最も大きく、1.1×1.6mの大きさで、焼土を含む暗赤褐色砂質土からなる。焼土2は1×1.3mで焼土や炭を含む。焼土3は1×1mで焼土2と連続するが、焼土3形成の後焼土2が作られている。焼土4は0.8×1mで上面が焼土の塊が存在した。このほかにも、空洞となって検出されたピット64上面にも焼土が及んでいる。これらの状況から、明確な炉の施設を持たない簡易で作り替えのできる火処であったと考えられ、度重なる炉の設営が行われ、焼土1～4



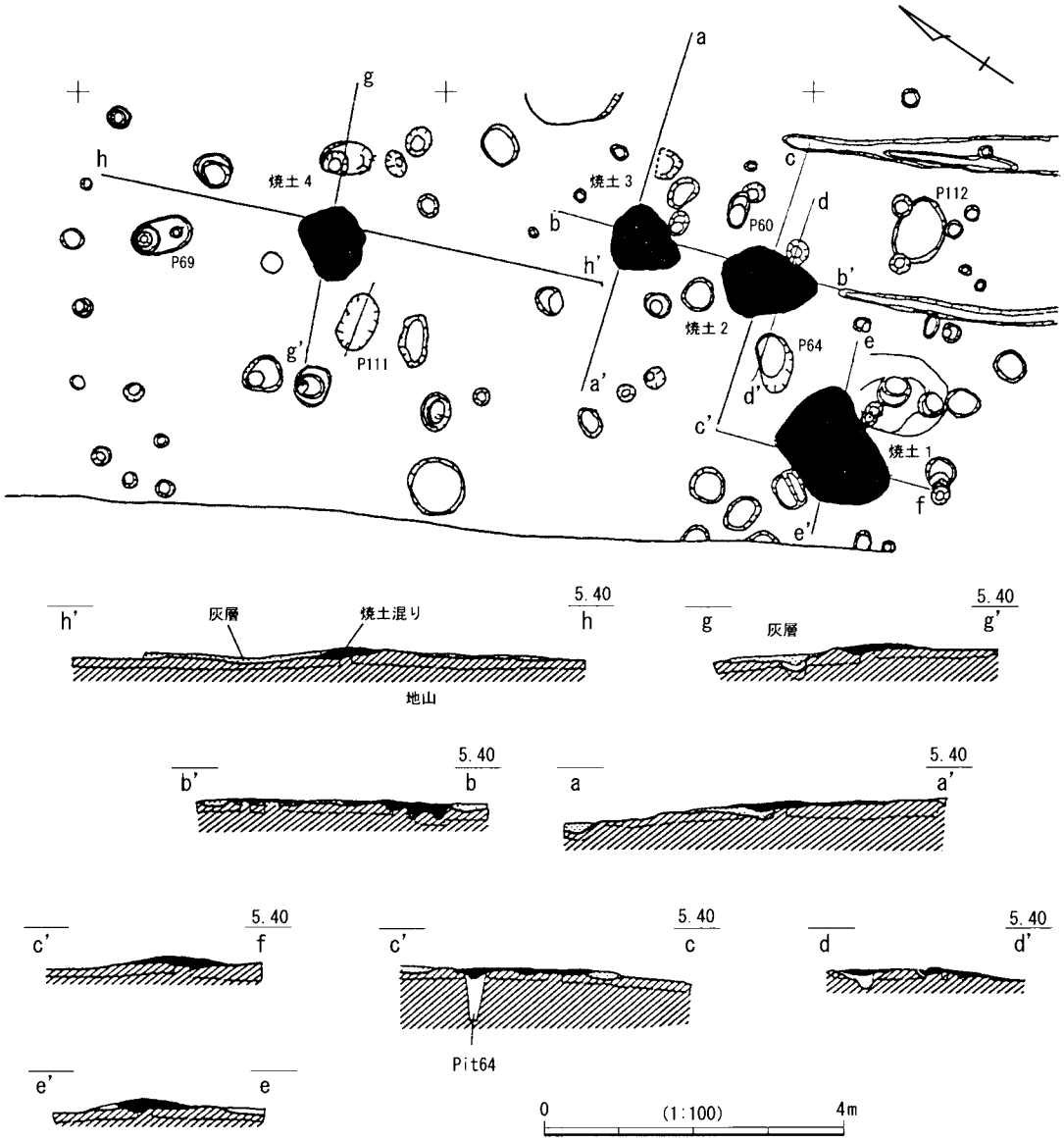
第109図　遺跡群全体図



第110図　調査区位置図



第111図　北吉田ノノメ遺跡全体図



第112図　焼土と土層図

で頻度の高い焼成行為が行われたものである。製塩土器がこれら焼土の西側に比較的多く出土する傾向にあり、「製塩土器集中」箇所として認識した。この点から、焼土は製塩活動にかかわるものと理解される。ただし、箭ごう炉にすると焼成規模が限定的なので、それ以外の工程、例えば焼き塩炉も想定できよう。また、山側には「コ」字状の遮蔽施設を3か所確認した。1×3間程度で柱の間隔がばらばらであるので、雨よけ程度の構造であろう。具体的には、一遍上人絵伝の「福岡市」や「信濃国佐久郡伴野市」の描画にあるような簡易な小屋掛けの上屋構造と思われる。

SE01(SK08)、SE02(SK09)

SE01は船材のような半円形のくりぬき材を2枚合わせた井戸枠で、上部1.5mが欠損している。井戸底には、人頭大の石が敷き詰められたような状態であった。最終的に重機によって半裁したが、湧水量が激しく、十分な記録をとることができなかった。SE02より1m以上深い。土層からすると、SE02堆積土を切り込んで掘り込まれている。井戸枠上部には淡灰色粘質土が厚く堆積し、井戸枠内が暗い灰色粘質土である。SE02は隅柱縦板組の井戸枠である。検出した井戸枠上部付近からSE01が掘り込まれていることは前述の通りで、その上層には鉄分の沈着層がSE01～02にわたって10cm程度の厚みで堆積しており、二つの井戸が一時期共存していた可能性が高い。つまり、豊富な水が必要で、井戸枠を地表まで延ばさず、わざと途中までとして掘り形全体に水をためる機能が想定される。鉄分沈着層より上部は山側から灰色砂質土や粘質土が流入し、その中に炭を多く混入させていることから、周囲に火を扱う施設があったものと思われる。最終的に淡暗灰色砂質土で埋没するが、SE01上部に再度掘り込まれ、炭や人頭大の焼石を含む土が南から堆積し、一気に埋まったような状況を示すので、意識的な埋め戻しである。

SK01

S3-0グリッドで検出された1m近くの深さで、すり鉢状の土坑である。堆積は自然堆積の状態で、周囲からの土の流入で埋没した。下50cm近く青灰色粘土がみられ、灰色系の粘土・粘質土があるが、炭粒などは確認できない。枠材はないが、おそらく井戸の可能性が高い。

SK02

SK01南の約6mにある1×1.3mの方形の土坑で、40cmの深さである。上層は遺物包含層と同質の暗灰褐色砂質土が厚くみられ、開放された土坑である。

SK03

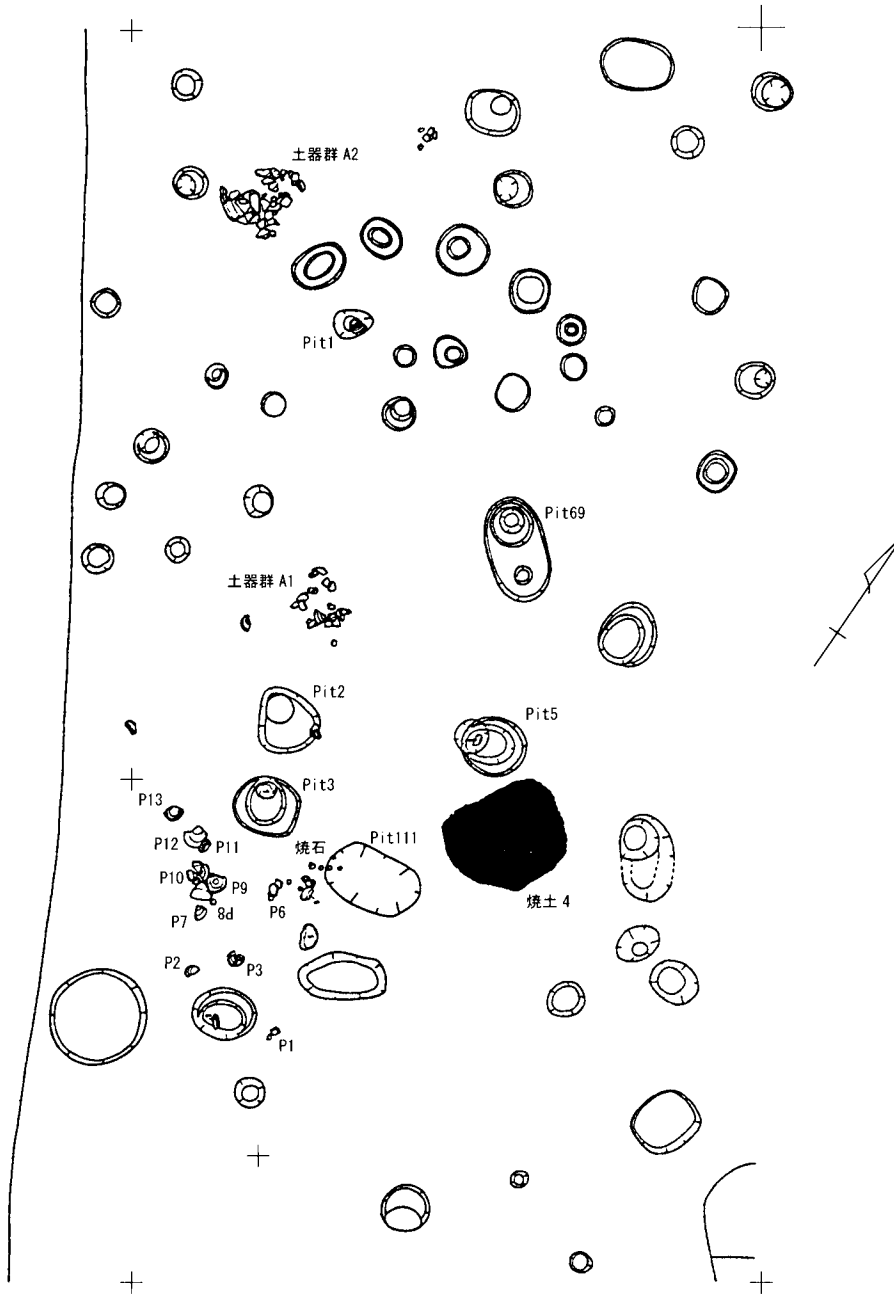
SK04西に隣接する直径2.6m前後のいびつな円形を呈し、底面の広いすり鉢状を呈する。深さ40cm程度と直径のわりに浅い。水の堆積は認められない。

SK04

焼土3付近にある1.2m方のいびつな方形土坑である。深さ40cm程度と深い。水の堆積は認められない。

SK06

SE08の西約1mにある一辺1.2mのいびつな方形を呈する土坑である。深さ10cm前後と浅い。SB04内部に位置するが、建物軸と土坑の方向が合わないことから、これらの関連性は薄いと考え



第 113 図　中央土器群　0　(1:100)　4m

られる。

SK07

SB04と重複する土坑で、2.2m×1.8mの五角形を呈する土坑であるが、二つの土坑の切り合いのようである。最も新しい掘り込みは、1.8m×1.2mの長円形を呈し、20cm程度の深さがある。なお、SK07の古い方の土坑とSB04 南西隅柱が重複しているが、柱穴の方が古い遺構である。

なお、その他多数の柱穴や小土坑が存在するが、性格はよくわからない。本調査区は傾斜地に位置し、常に山からの土の堆積が見られた結果、厚い包含層を形成されたわけだが、実際の生活の場では傾斜地を水平にするために整地され、複数の遺構面があったはずである。残念ながら、この遺構面を細かく認識し、それぞれの遺構検出ができなかった。

第２節　出土遺物

土器は、遺物箱にして48箱出土した。その多くが包含層から出土したものである。遺物観察表を補足する形で、記述を進める

第114図1～11はSK01出土である。2は長頸壷体部で肩部の凹線は不明確。4は生焼製品。6はロクロ長胴甕で、外面平行叩き、内面平行当て具。9の土師器椀底部は糸切り。12はSK02出土。製塩土器尖底の底部と思われる。13-15、第115図1はSK0314須恵器坏身底部は糸切り。15の図は坏身だが、蓋の可能性が高い。第115図2～10はSK04出土。4は須恵器坏身で底面に墨痕がある。5はロクロ長胴甕、4・8は手づくね土師器皿。12～15はSK05出土。12は椀状の鉢ないしは甕で、内面が黒く変色している。15の土師器皿は、底部糸切り。16から18はSK07出土。16・17は手づくね土師器皿、17は一見へそ皿のように底部が盛り上がる。18は須恵器甕体部。19～23はSE01(SK08) 出土。19～21が手づくね土師器皿だが22は回転糸切りの土師器皿。23～25、第116図2～9はSE02(SK09) 出土。116図2の頸が非常に補足、水瓶的か。7は生焼け須恵器坏身。5は回転糸切りの土師器椀。8は摩滅による不明確だが回転糸切りか。9外面に指頭圧痕が認められる。

第116図12～118図15、第120図5は土器群A出土品。第116図12は土師器高坏脚部。13・14は須恵器坏蓋で、鈕を欠損する。15は土師器壷？で、管状である。図は天地逆の可能性がある。17は焼きが悪く赤みを帯びた須恵器坏身。19は高台内面に板目圧痕が見られる。20・21は生焼けの須恵器坏身。22～第117図2はロクロ長胴甕で、23の上半にロクロナデ、過半に叩き痕を残す。1・2の内面は波状の当て具痕。3は土師器小壷で、外面が被熱で赤～黒に変色する。4は内黒高台椀で、高台内が回転糸切りの底部。5は壷体部で、強い指ナデの調整。第118図7～9・11が生焼け須恵器坏身。12が耳皿のように口縁が大きくゆがんでいるが、遺存率30%程度なので明確にいえない。14は土師器甕で内面ハケ調整が見られ、被熱のためか外面がボロボロと剥離してあばた状になっている。第120図5は縄文土器晩期の甕。口唇上部には指による小さな刻み目状となっており、1.5cm下に幅1～1.5cmの浅い凹線が施される。内外面に縦位の条痕が見られる。

第118図16から第120図4は中央土器群出土。16・17・19は頸の短い壷で、19は肩が張る。外面は、

ケズリが見られる。18はロクロ長胴甕。第119図1・5は双耳瓶。1外面にカキメ。9の底部が丸くなるような器形と思われ、椀に近い形態か。10は土師器鍋で、逆U字の把手を1対付けている。口縁は小さな段を有し、しっかりした底部を持つ。内外面磨きが施されている。第119図11～120図1はロクロ長胴甕。12もロクロ成形で、鍋だろうか、幅広い凸帯状の口縁。3・4は土師器椀で、底部回転糸切り。

第121図は焼土1～4出土。1は小型の広口壷。2・3は生焼け須恵器坏身。4は器形が須恵器にもかかわらず土師器焼成。6の口縁は水平になるまで外反し、粘土紐接合痕をのこす。製塩土器の可能性もある。8は鉢・甕底部で外面被熱してもろくなり、炭状となった部分もある。9は大型甕ないしは鉢底部で、内外面ハケメが見られる。3は土師器の支柱である。

第122図以降は包含層出土品である。第122図1～18は須恵器坏蓋である。おおむね鈕がつくタイプであろう。19～第123図12は須恵器高台坏である。21外面には工具で小さな段を作るようになっており、椀かもしれない。第123図1の器壁が厚く瓶類の底部の可能性が高い。3の高台としたが高台の径の割に体部が広いことから、環状鈕のある須恵器蓋の可能性がある。12外底面にヘラ記号「－」がある。10～32は須恵器坏身である。21内面には灯明による油煙がついている。22・23は生焼けで、24は器形が須恵器だが焼成は土師器。30底面にヘラ記号「×」。31・32は底面回転糸切りの須恵器皿。33から36は須恵器盤である。36は生焼け。第124図1～6は口縁が波状を呈するもので、4・6は広口壷口縁であろうか。9・12・13は平底長胴の小壷。第125図8の高台は小さく三角形状で坏身では異質なので、壷底部であろう。

第127図1の土師器椀外面に煤のようなものが付着。4底部は回転糸切り。10見込みには、放射状のヘラミガキ。拓本はないが、14・26底部は回転糸切り。第128図は土師器甕類で、多くがロクロ長胴甕である。15口縁があたかも有段状となっているが、製作時のエラーである。第129図1は大きく開く口縁と斜めに下がる体部から、鍋であろう。11は非ロクロ長胴甕底部で、底面が強く被熱して劣化している。第130図8から11は鍋の把手で、三角形粘土をしたから折り曲げている。8は環状となってしまったものである。13は鍋の支脚であろうか。第131図15は土師器内黒椀、17は生焼け須恵器坏身。21・22は外面に縄文があり、26外面には直線文と簾状文を描く。

第132図9～第134図は製塩土器やその可能性のあるもの、それに関連するものである。11・12は平底タイプで、13～17はおそらく平底タイプになるのであろう。第133図5のような円盤状の平底もあれば、11のようなバケツのようなもの、1のようなその中間のものなど、定型的な姿を求めるのは難しい。8～22は尖底タイプで、筒状の体部で口縁がラッパ状に開く。16は図上復元で、直径10cm強の大きさである。尖底としての棒状部は18や19など三角形状にとがるものや20～22のように3cm程度の短い棒状の二種認められる。第134図は3～11は支脚と考えられるものがあり、筒状を呈するものと、円柱状の二種がある。底部となる下端の処理は、様々で、一定のルールで作られたとは思えない。1・2は小さな椀状で、口径に比べて厚い器壁となっている。特に2の内側の深さが10cm未満であり、どのような用途か想像できない。

第135図1～7は施釉陶磁器、8以降は中世陶器。1・2・4・5は青磁碗で、龍泉窯系の製品である。

15外面に鎬葉蓮弁。6は黄味の強い青磁皿。3は見込みに幅広く釉を掻き取っており、小さな高台である。近世陶磁器か。

なお、第134図12は土偶状でその下肢にあたると考える。12は内側にくぼみがあり、鋳型かと思われ、14はフイゴ羽口である。

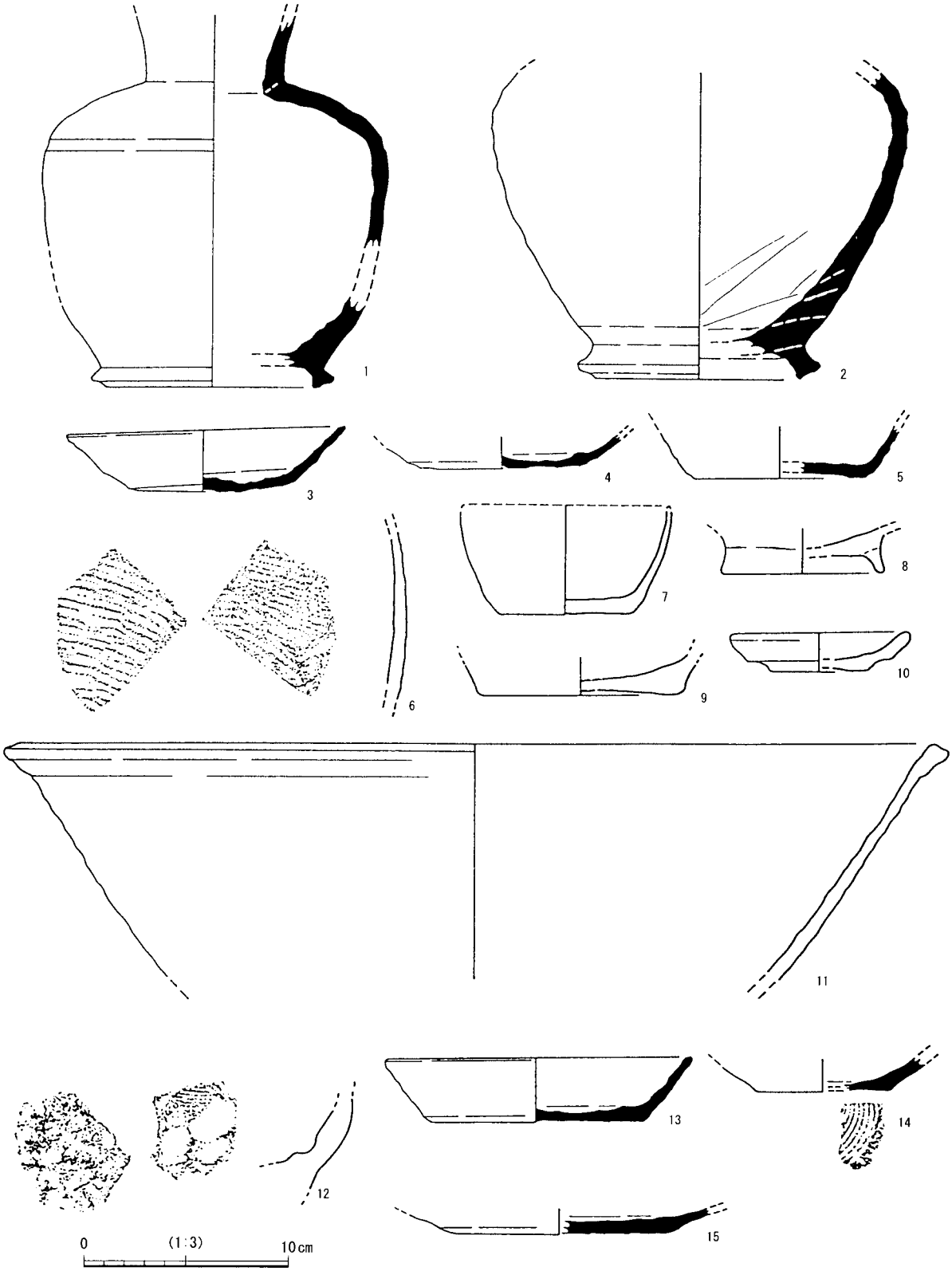
第3節　まとめ

北吉田ノノメ遺跡は、平地に続く狭隘な谷にあり、山裾に貼り付くようにして営まれた集落遺跡である。建物背後に丘陵が迫り、緩やかな傾斜地に集落が営まれている。掘立柱建物の検出数が少ないことや、遺跡の立地状況から、農業を主たる生業とする集落とは考えられず、山に依存した生活であったと思われる。また、緩やかな下がり地形に平坦面を作るために何度も整地作業を行っていると思われるが、発掘調査でそれを十分に確認できなかった。そのため、掘立柱建物も全形を知るものが少なく、低い地形側の柱穴検出ができていないのはそのためである。

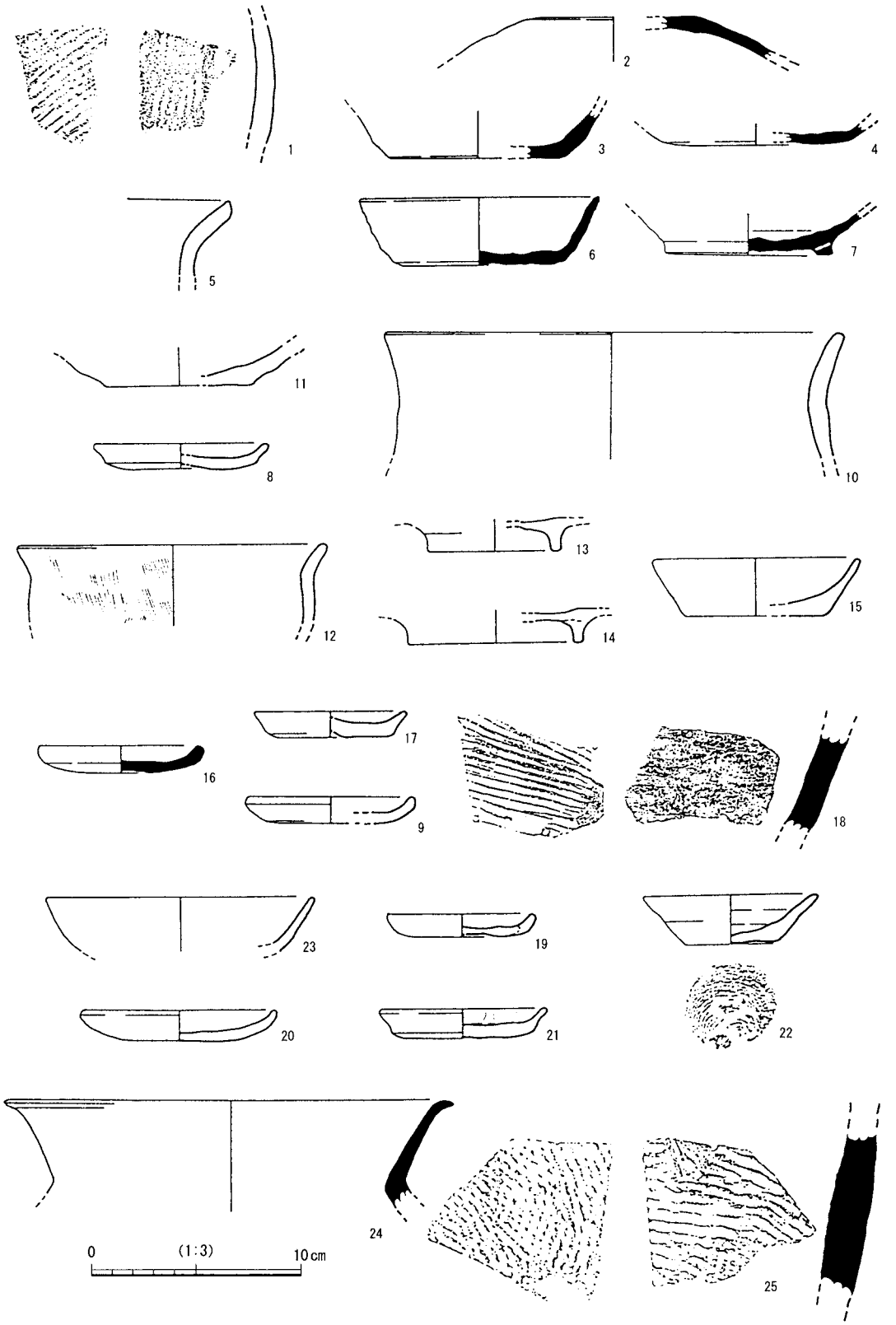
遺跡からは散発的に縄文時代や弥生・古墳時代の遺物が出土するが、ほとんどが平安時代の遺物である。土器が総量で45箱であるのに対し、青磁などの施釉陶器は数えることができる程度の出土しかなく、優品の少ない貧弱な遺物組成といえる。その一方で、製塩土器は3箱程度も出土しており、一般的な集落とは異なる様相である。これは、海と強いつながりのある生活形態であることを示し、その一方で立地のよく似た旧福野潟に面する米浜遺跡でみられるような製塩土器とともに漁網の錘である土錘も多数出土する、ということは北吉田ノノメ遺跡で見られず、1点の漁具に関わる遺物の出土がないのである。

さらに、製塩作業のための炉と思われる焼土群が確認できた。砂地の地山に直接炉が設定され、何度も使われたため、赤い焼土・灰が厚みを持ち、そして一定の範囲に検出された。河口から直線で約3kmも内陸にあたる本遺跡でおこなわれた製塩は、鹹水を煮詰める作業なのであろうか。出土した製塩土器には平底及び棒状脚の両タイプが併存し、海岸に位置する製塩遺跡出土品と大きく異ならないものの、製塩土器の出土量が圧倒的に少なく、破損した製塩土器廃棄層がないのも特徴である。しかしながら、土師器を中心に被熱したと思われるものが相当数の個体に上ることに注意すれば、これらの土器については、製塩作業との関連も想定すべきかもしれない。

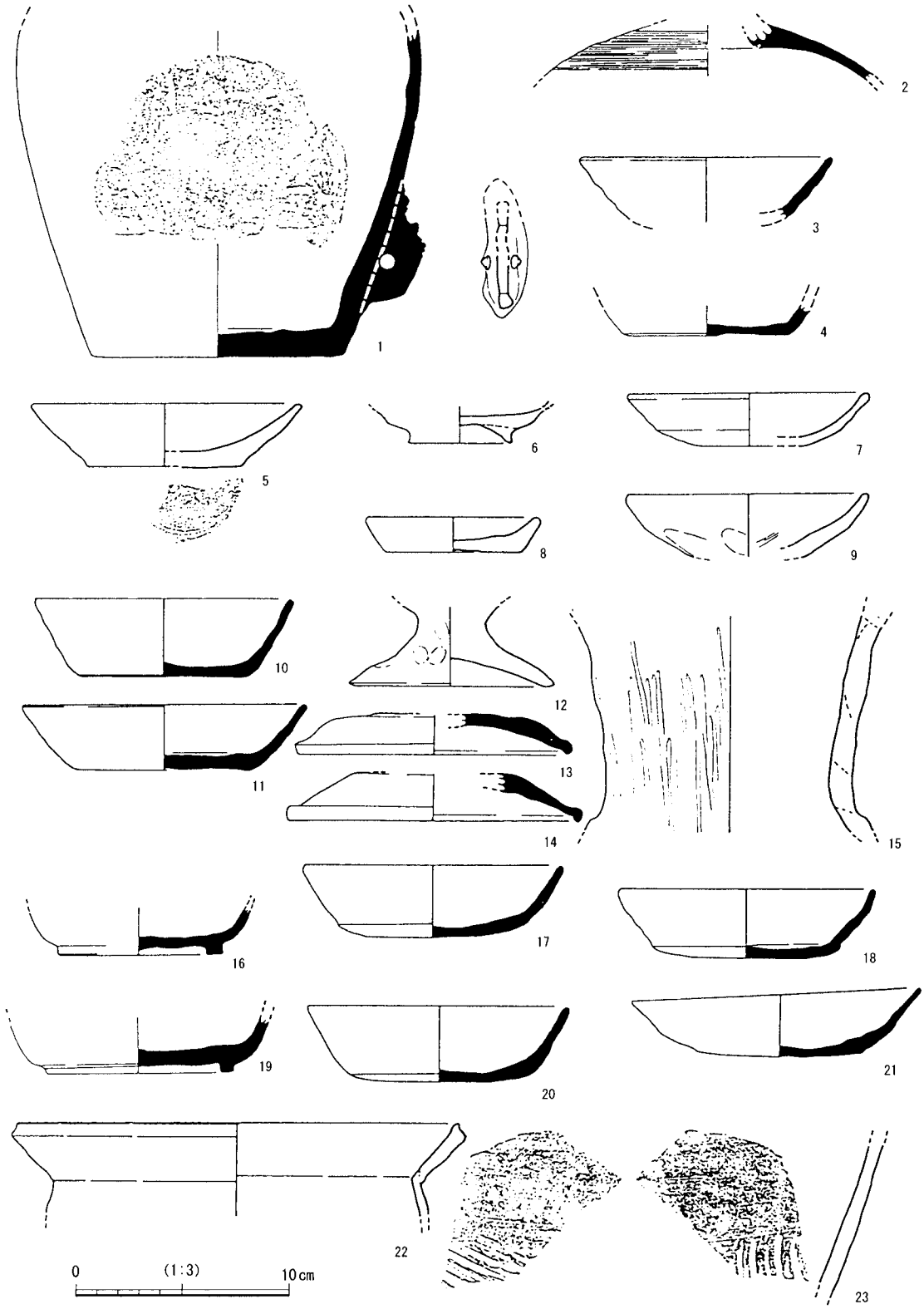
このように考えれば、燃料材が豊富にある丘陵を背負った位置にある遺跡の意味が見えてこよう。つまり、他所で作った鹹水を煮詰めたりあるいは作られた塩を焼塩に加工するなどの作業が想定できるかもしれない。焼塩とすれば、その目的が実際の食に関わるものであり、このような人の少ない辺鄙な地方にも需要があったと理解すべきであろう。製塩作業の時期が、概ね10世紀から11世紀かかる時期と考えられ、付近では富来町給分小袋窯や倉垣コマクラベ窯の須恵器生産が行なわれ、当該時期に多様な人間活動が旧福野潟周辺に及んでいるのであり、本遺跡の消長や人間活動もこのような社会的背景を持っていたと考えられる。



第 114 図　出土遺物実測図 (1)

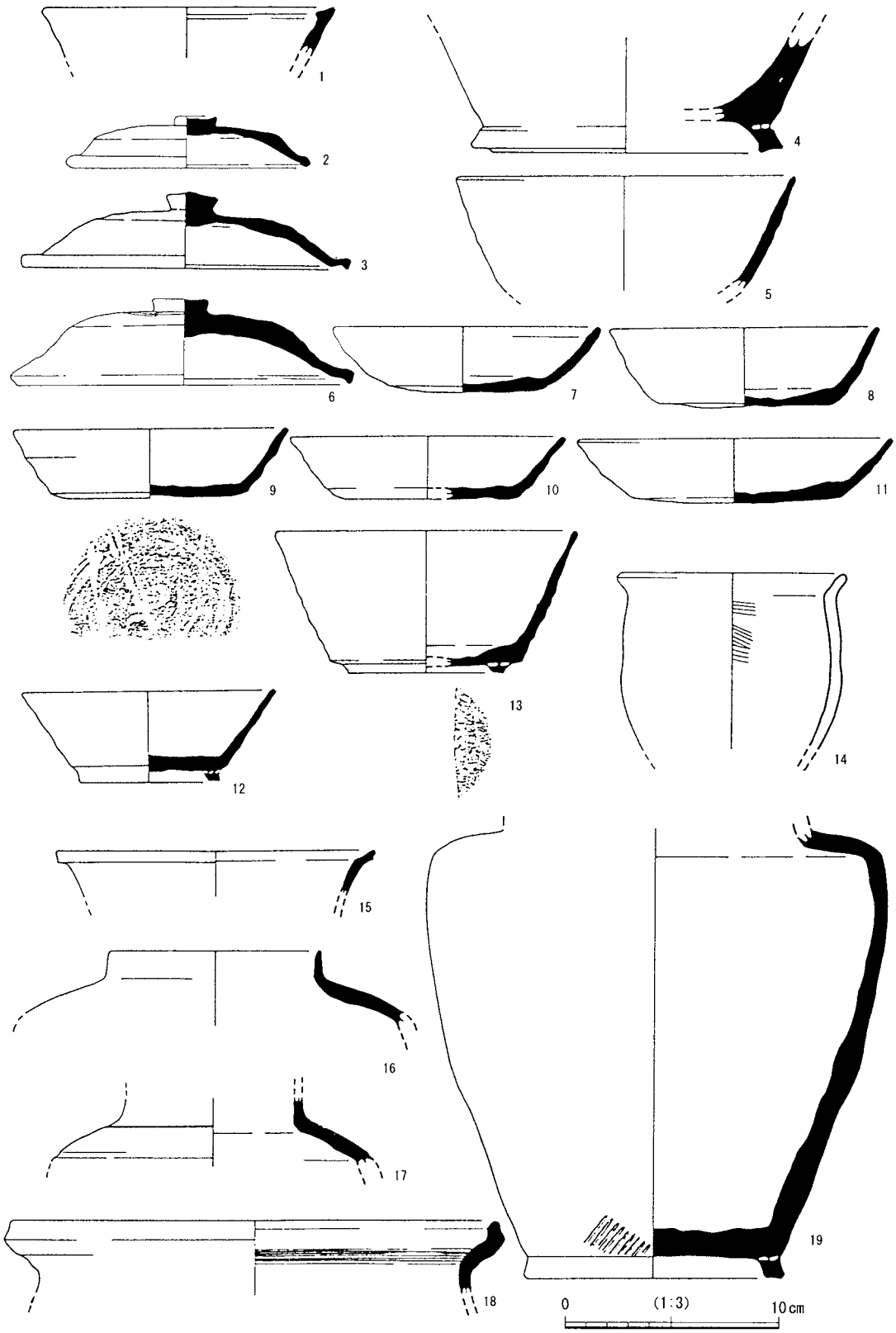


第 115 図　出土遺物実測図 (2)

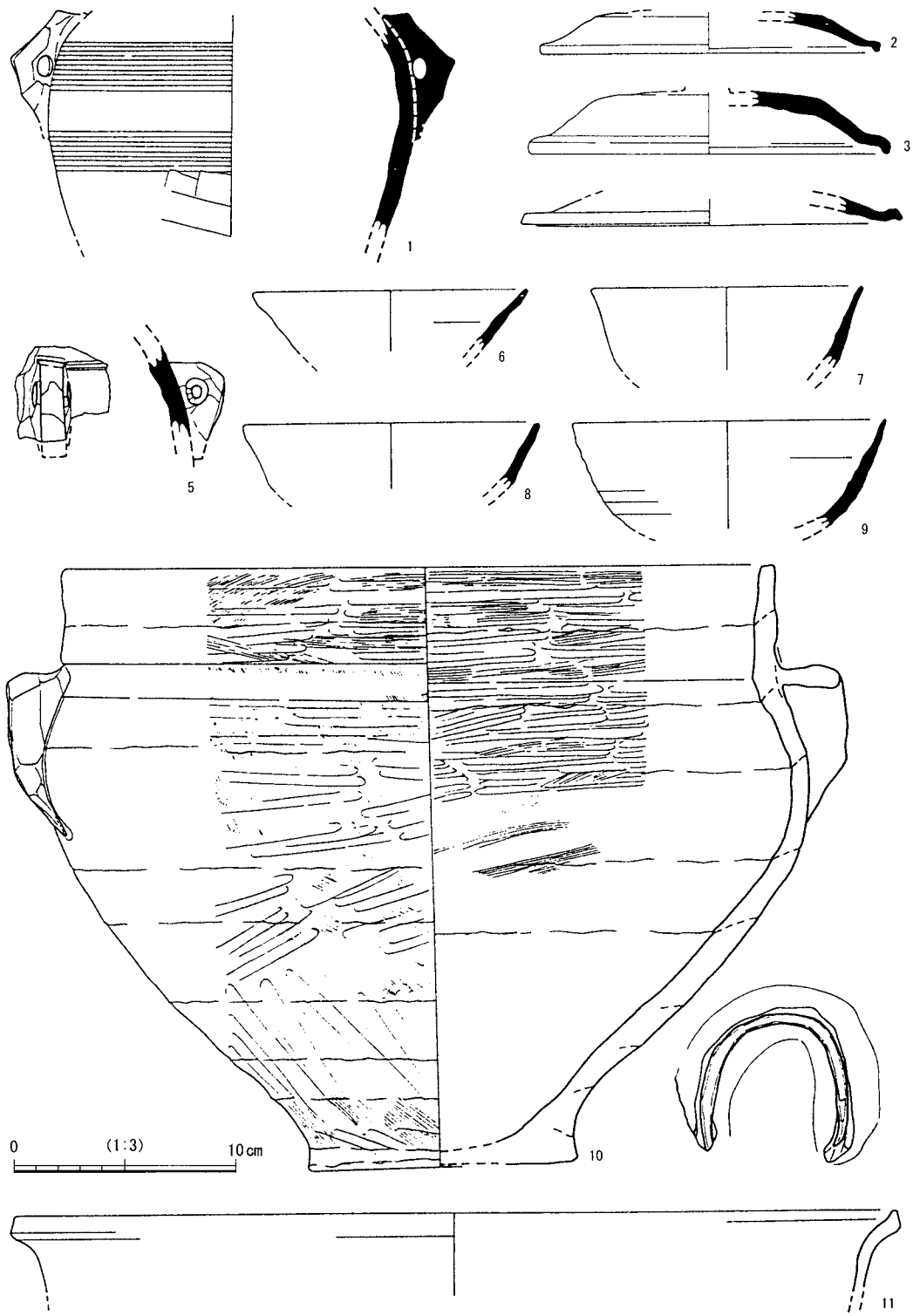


第 116 図　出土遺物実測図 (3)

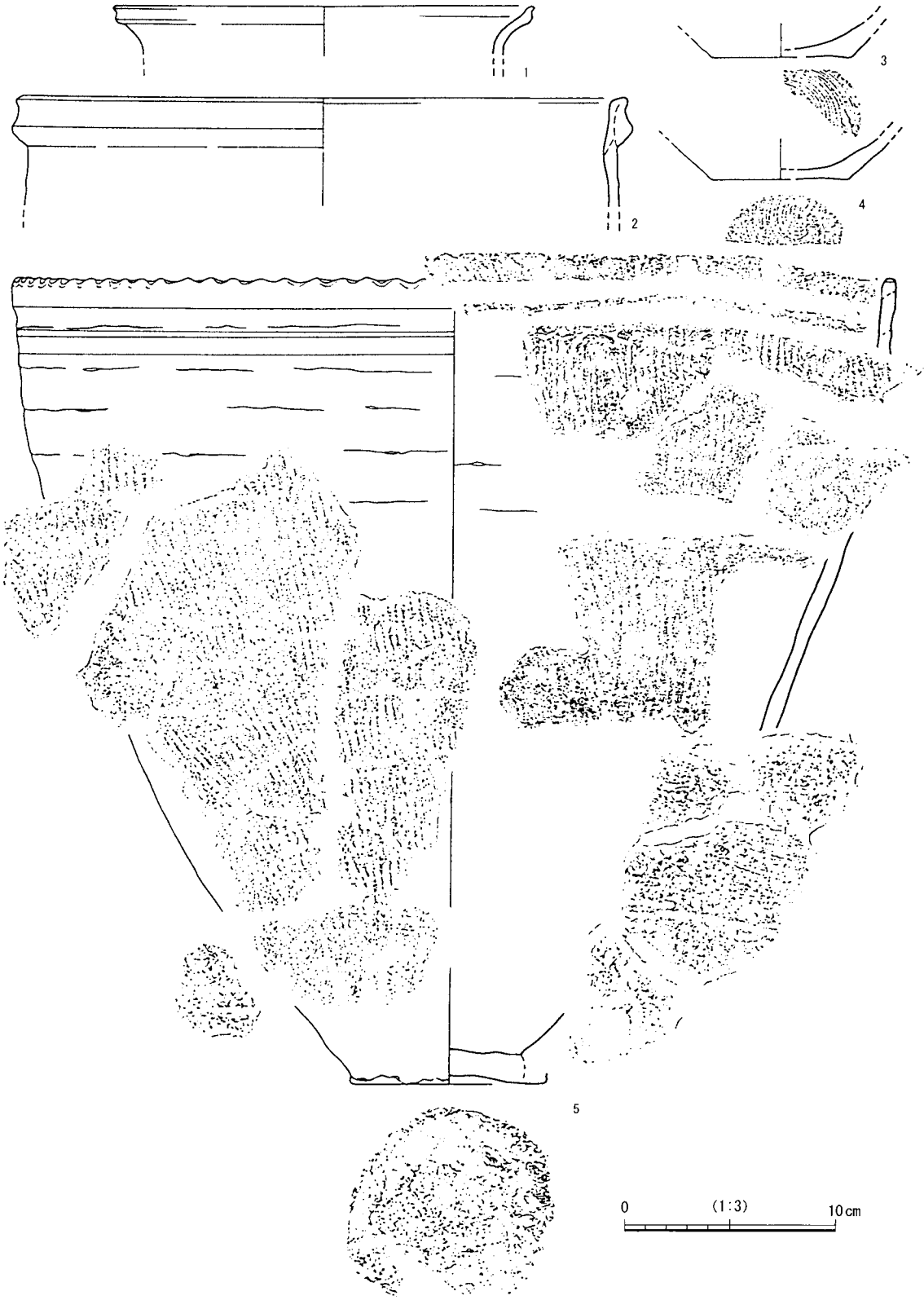
第 117 図　出土遺物実測図 (4)



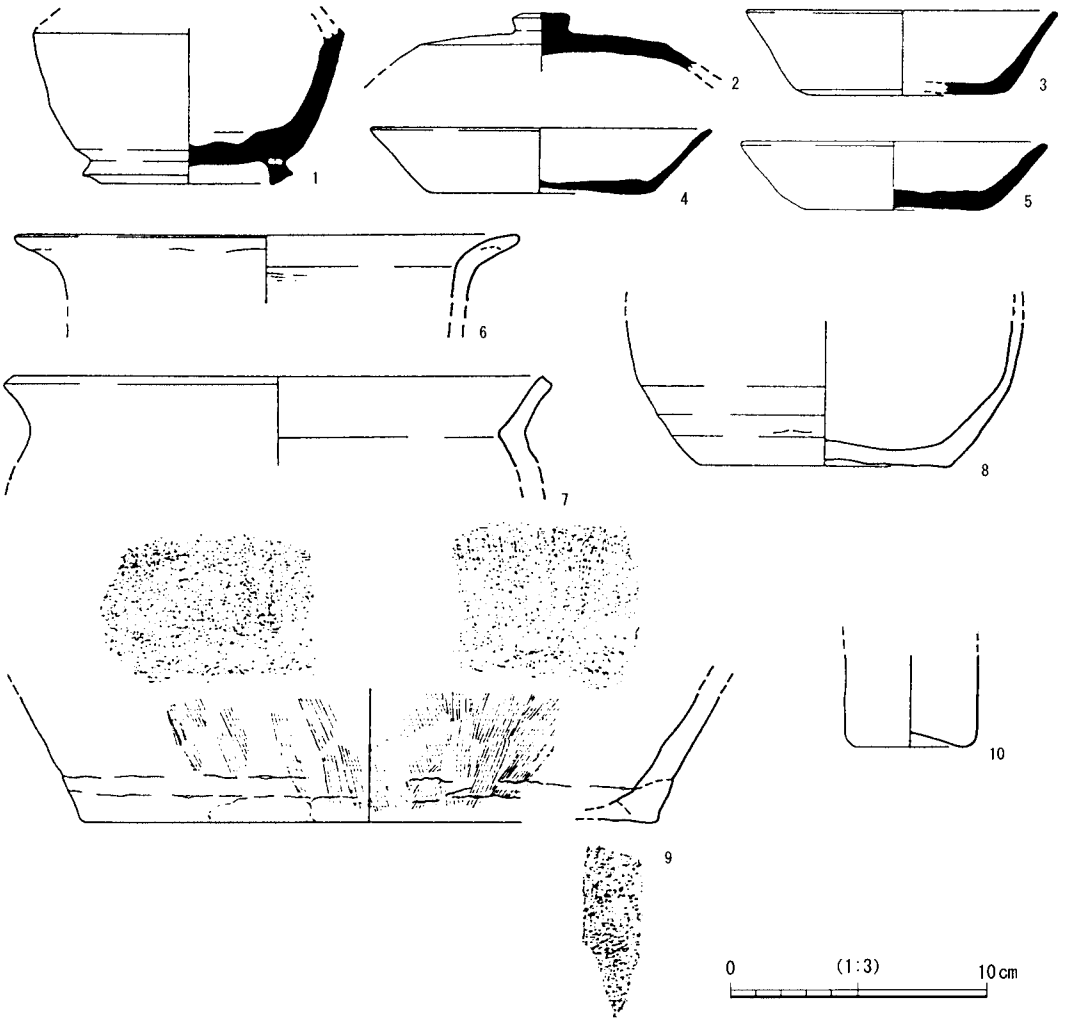
第 118 図　出土遺物実測図 (5)



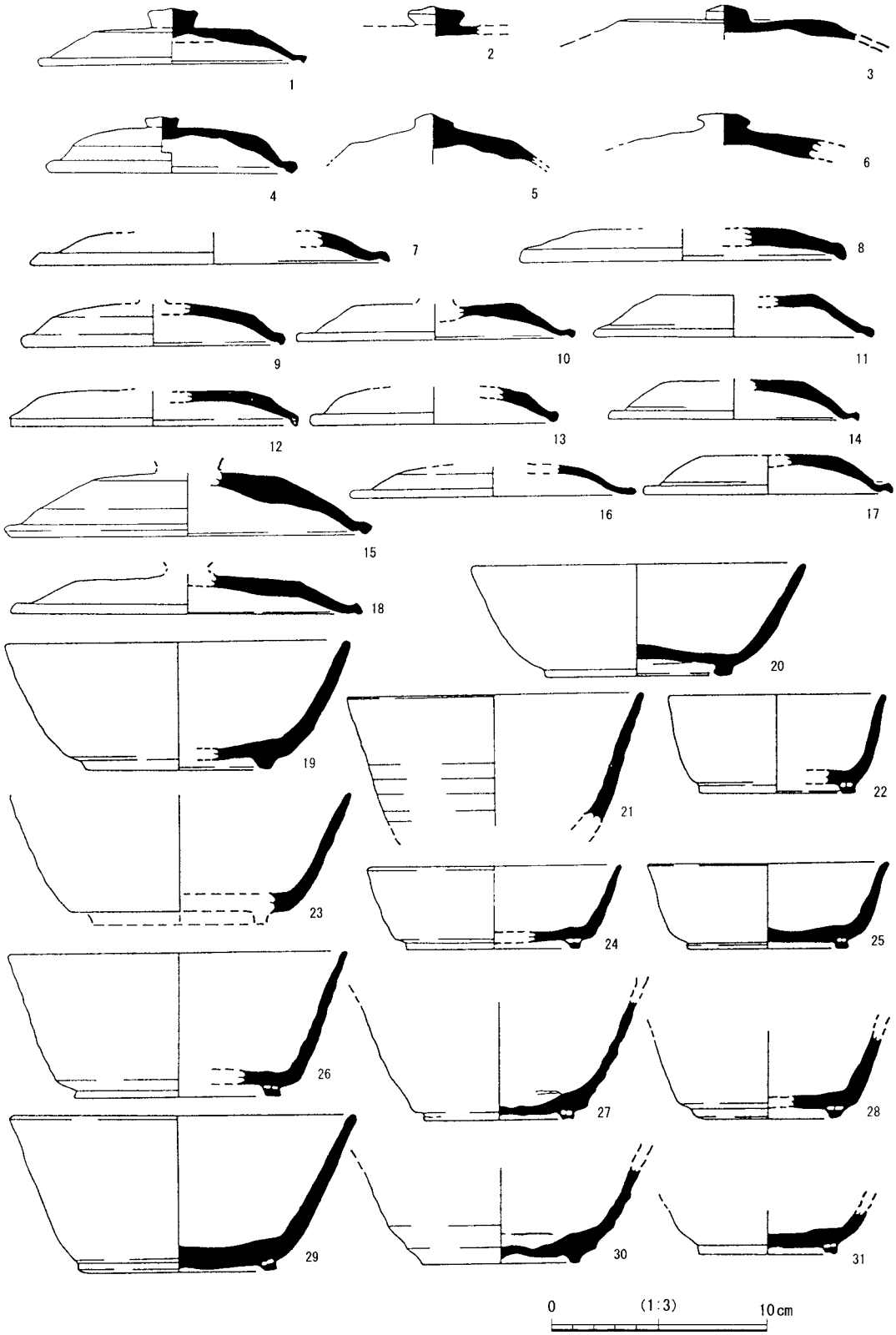
第 119 図　出土遺物実測図 (6)



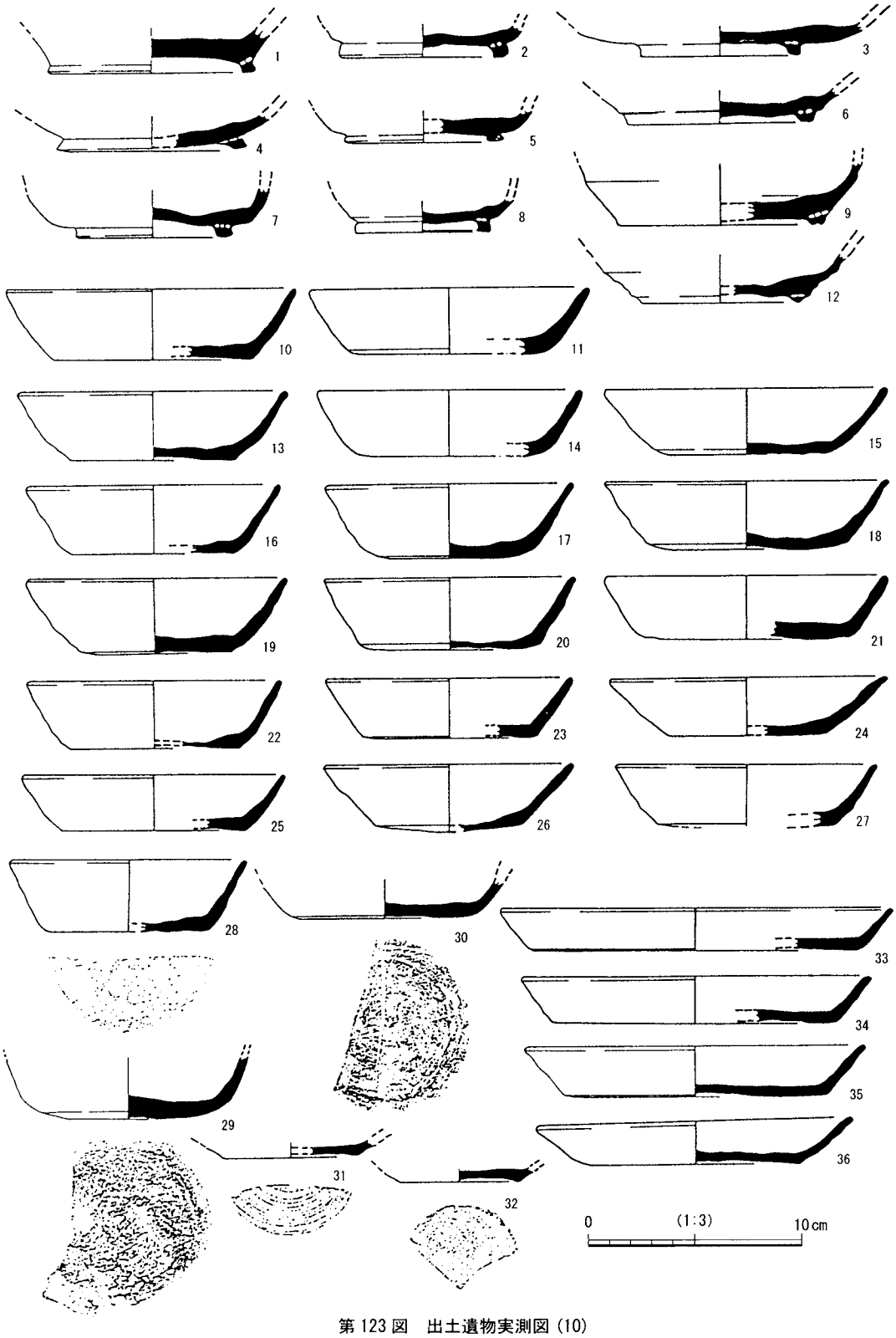
第 120 図　出土遺物実測図 (7)



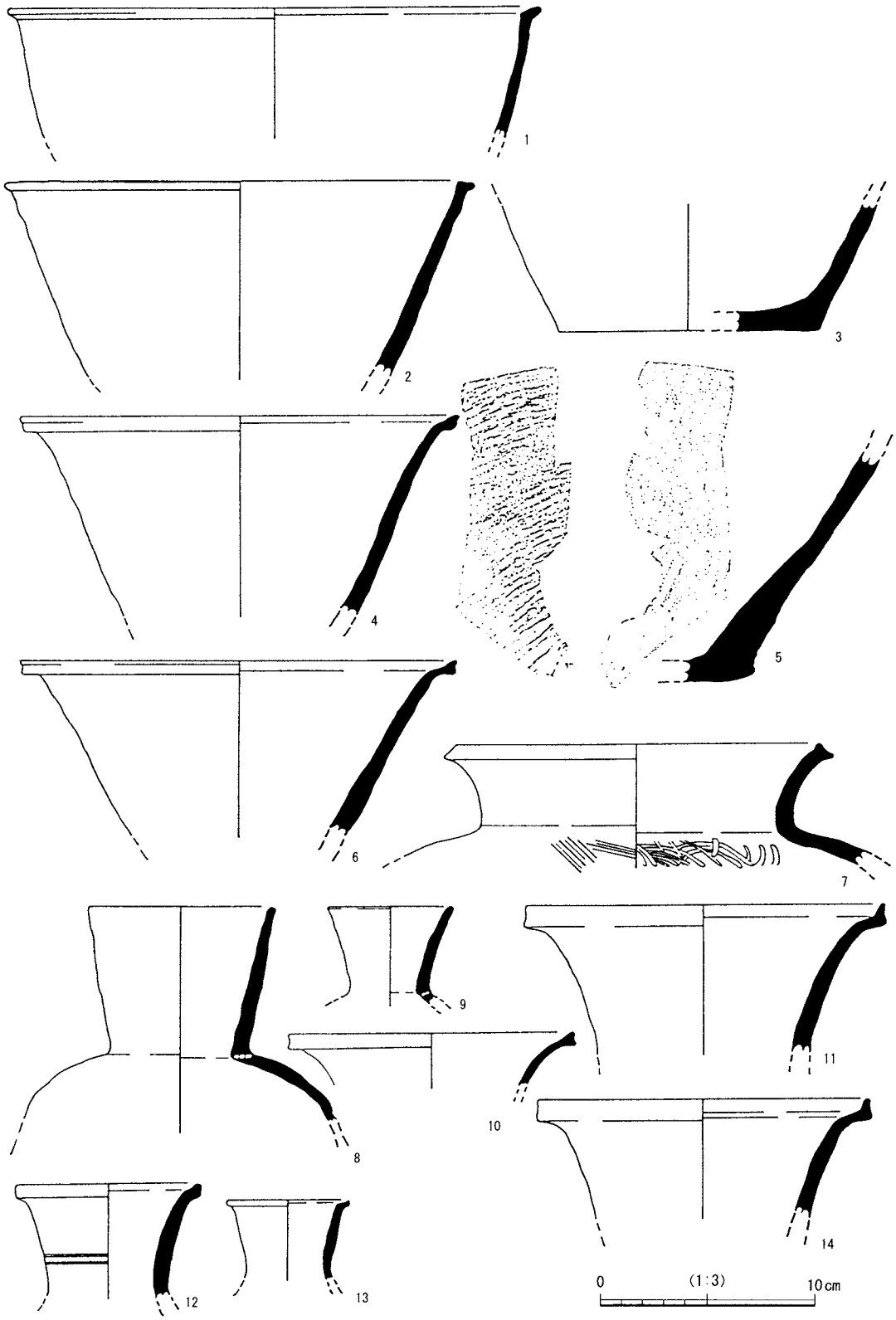
第 121 図　出土遺物実測図 (8)



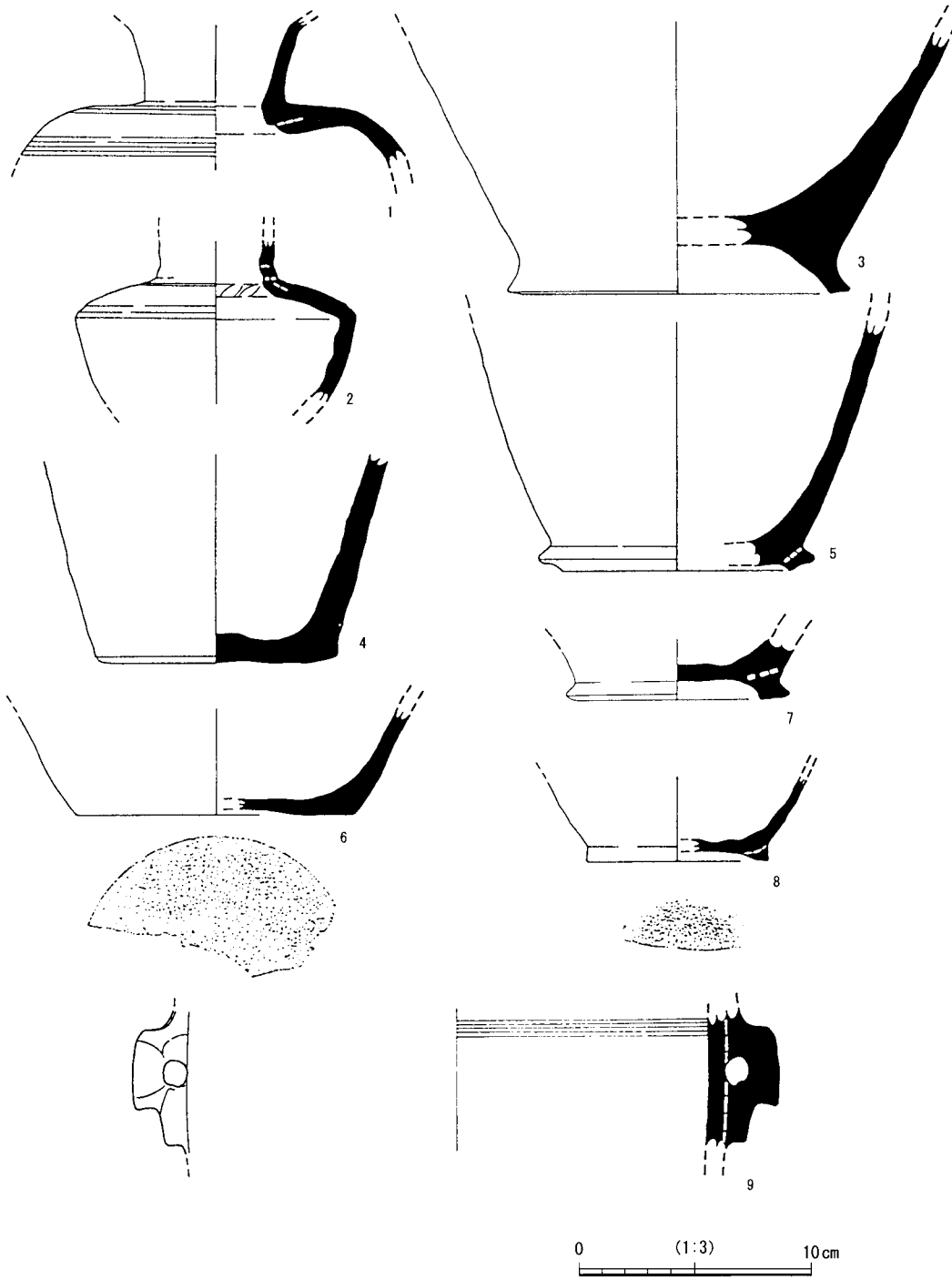
第 122 図　出土遺物実測図 (9)



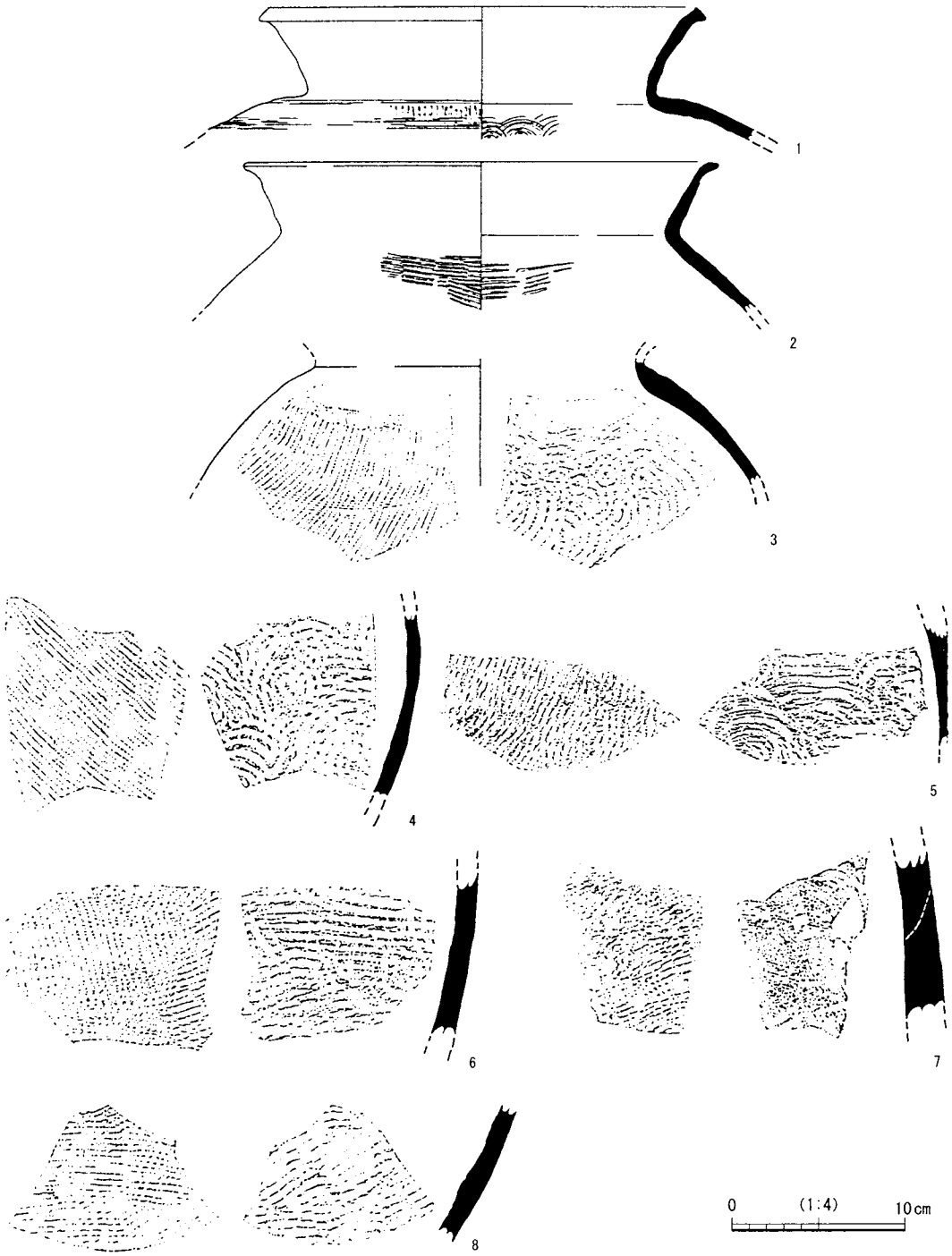
第 123 図　出土遺物実測図 (10)



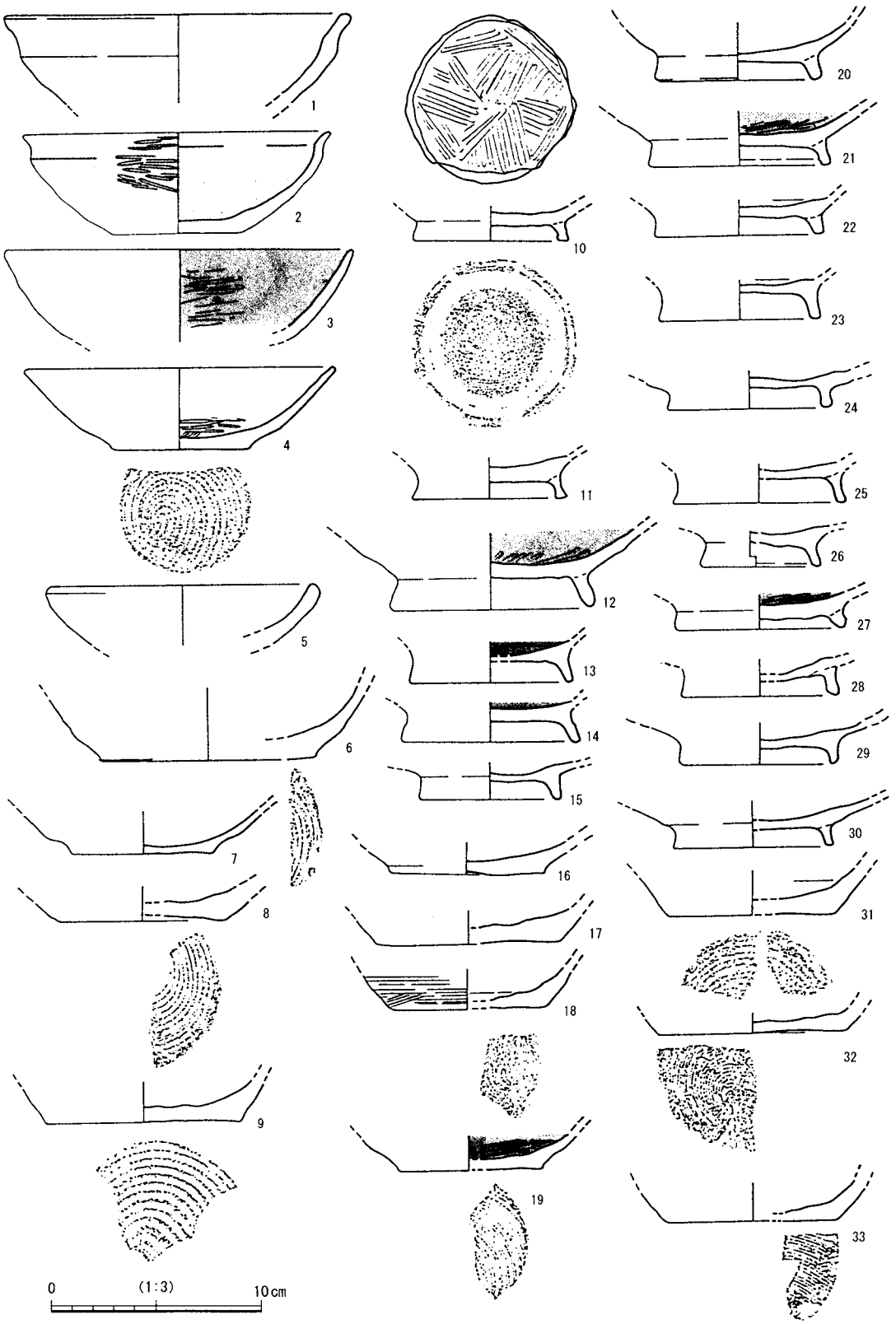
第 124 図　出土遺物実測図 (11)



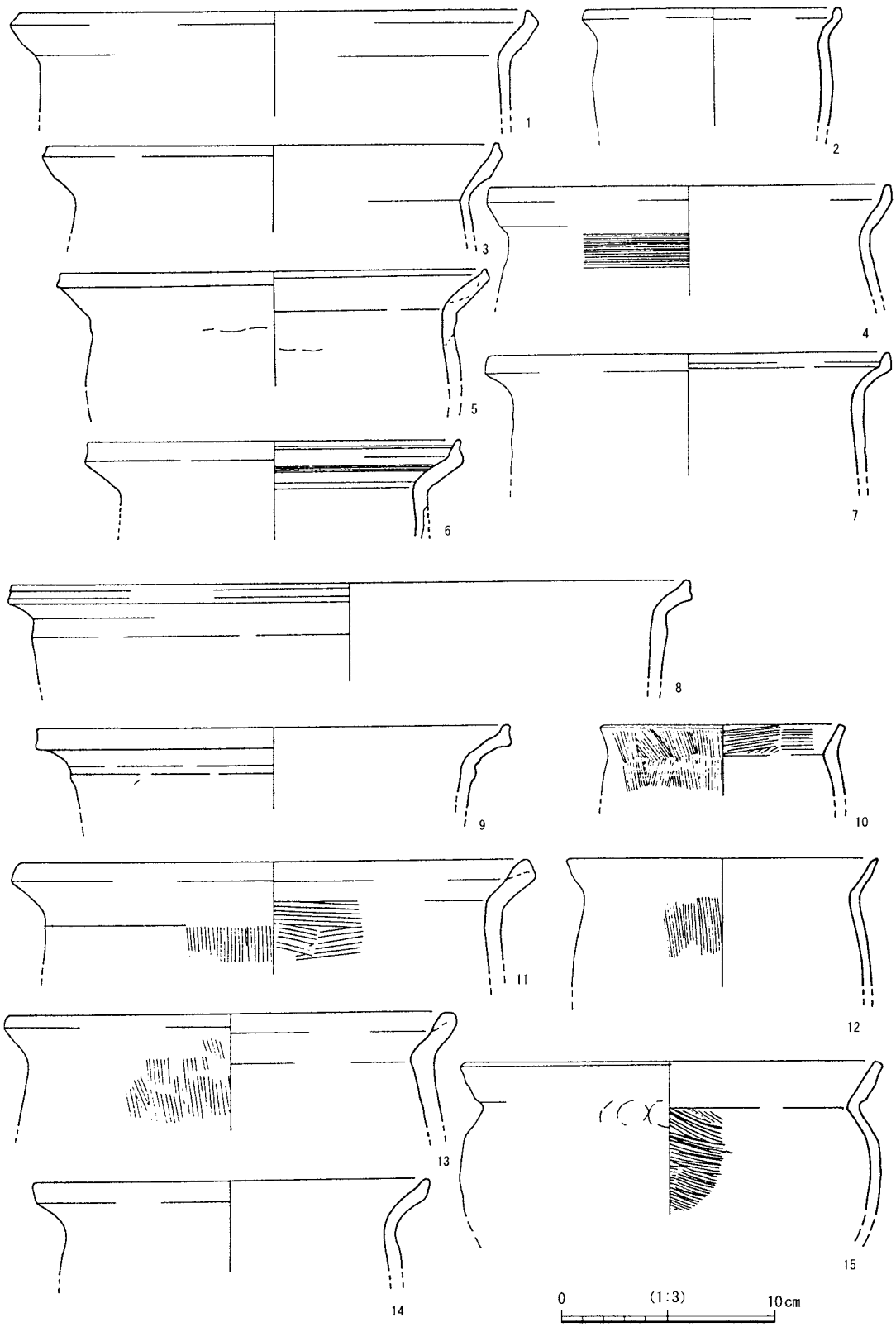
第 125 図　出土遺物実測図 (12)



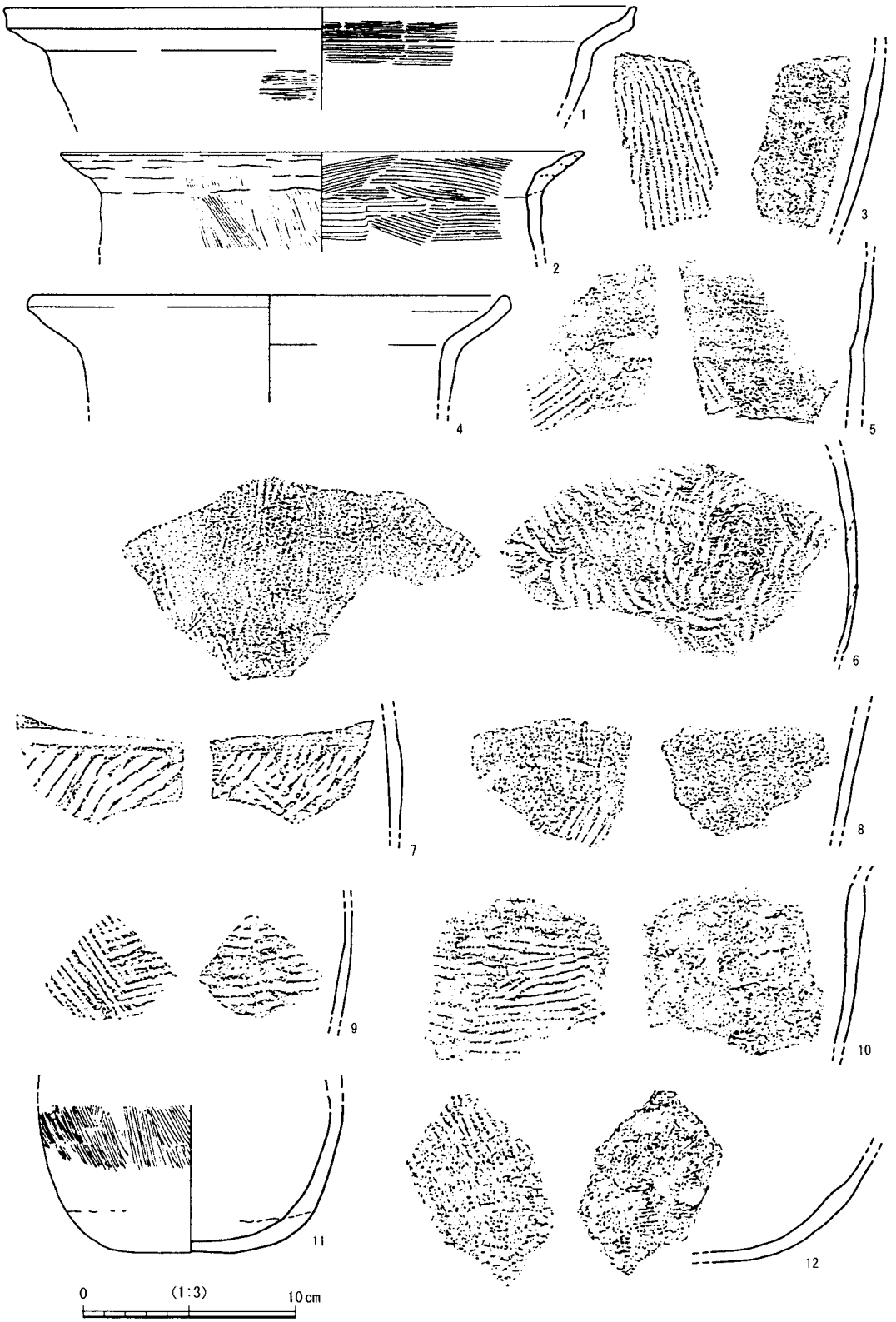
第 126 図　出土遺物実測図 (13)



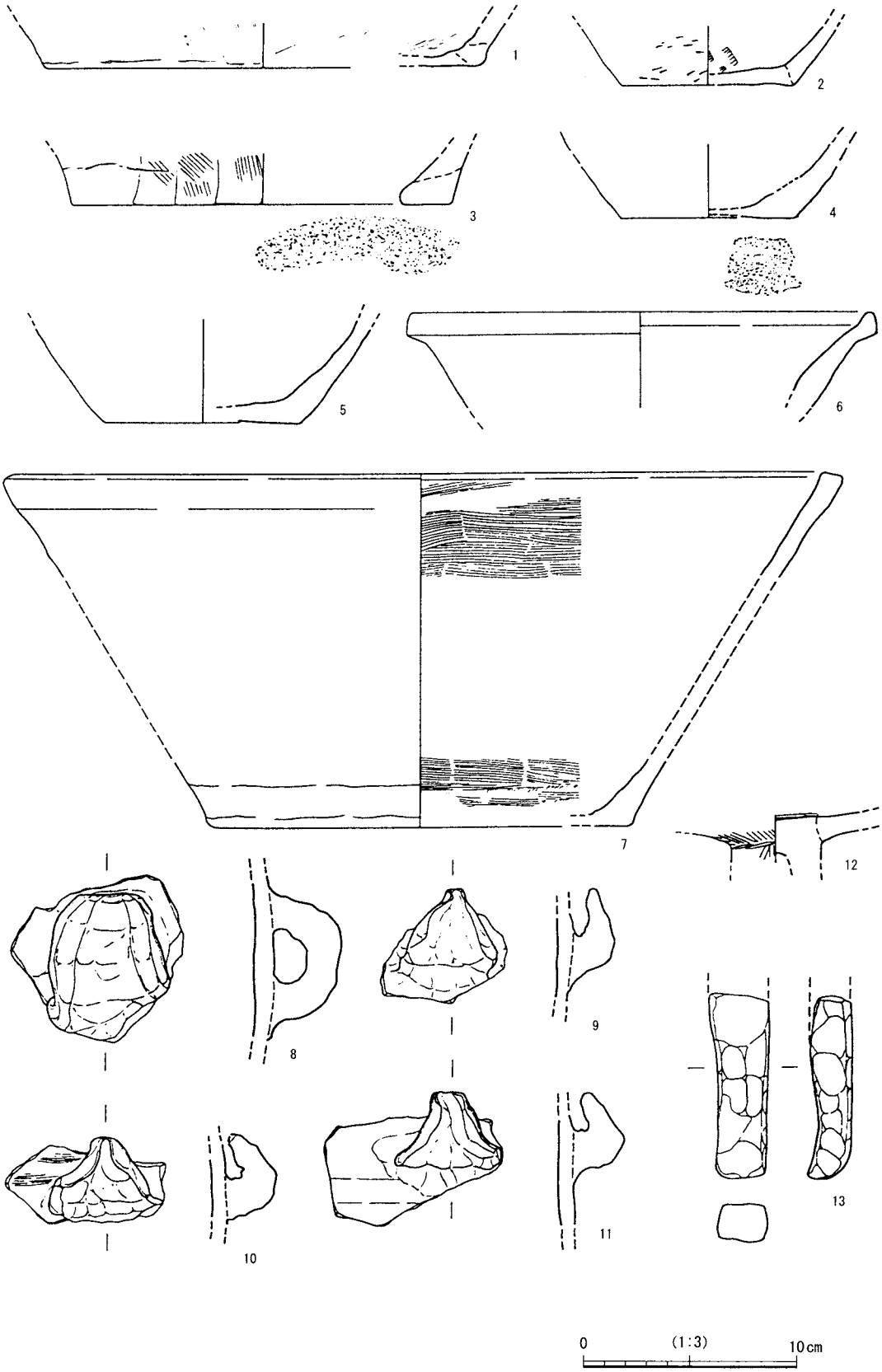
第 127 図　出土遺物実測図 (14)



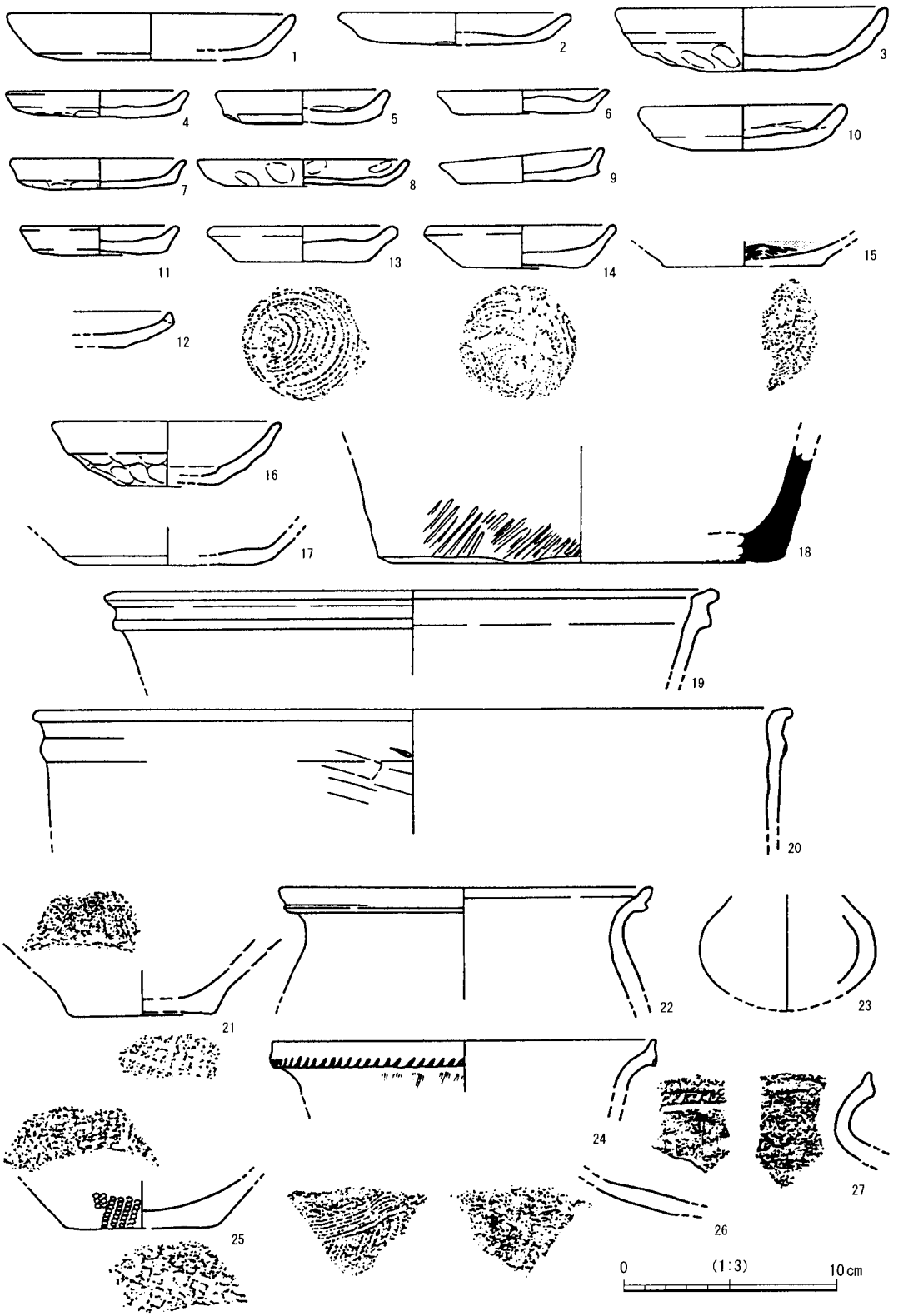
第 128 図　出土遺物実測図 (15)



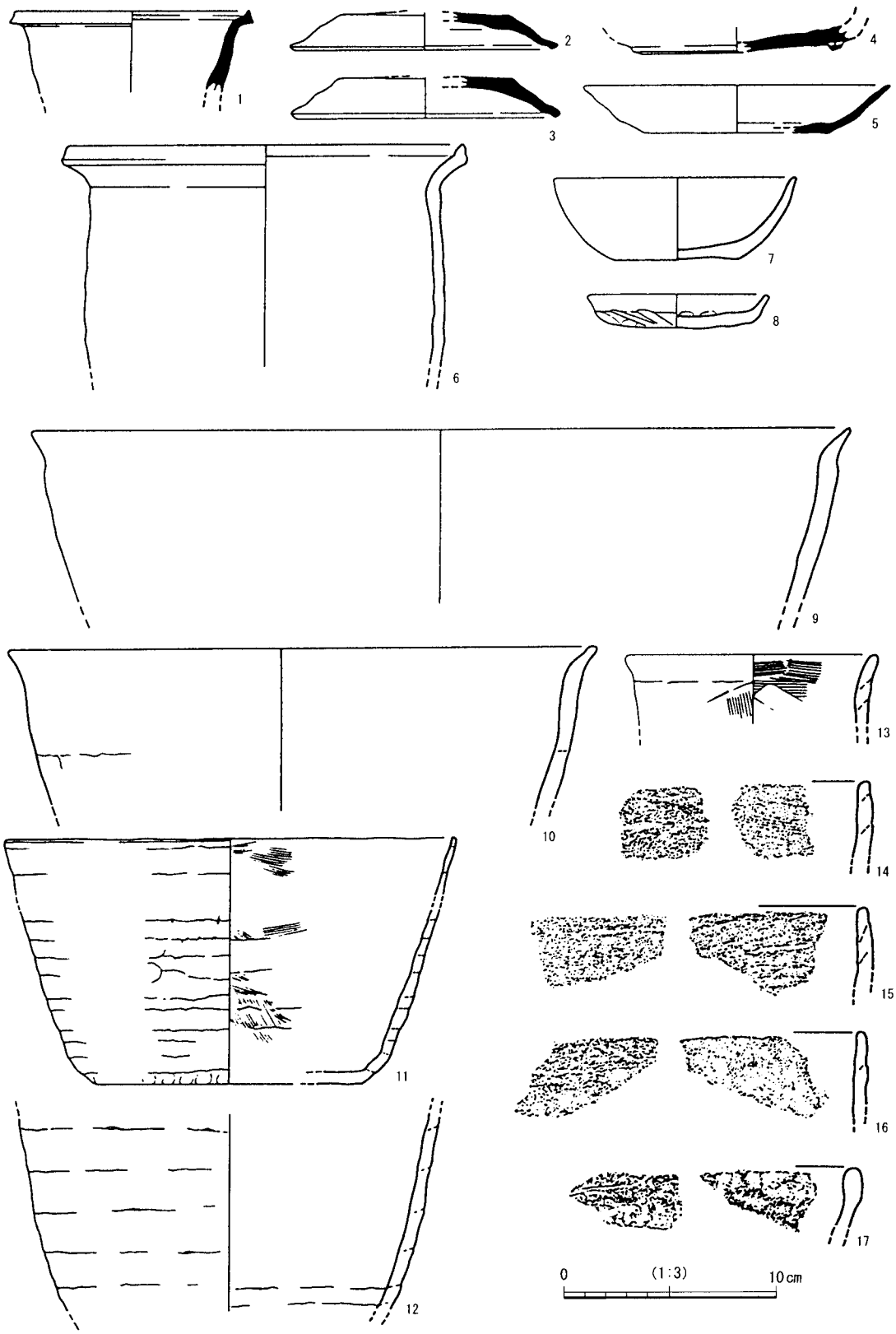
第 129 図　出土遺物実測図 (16)



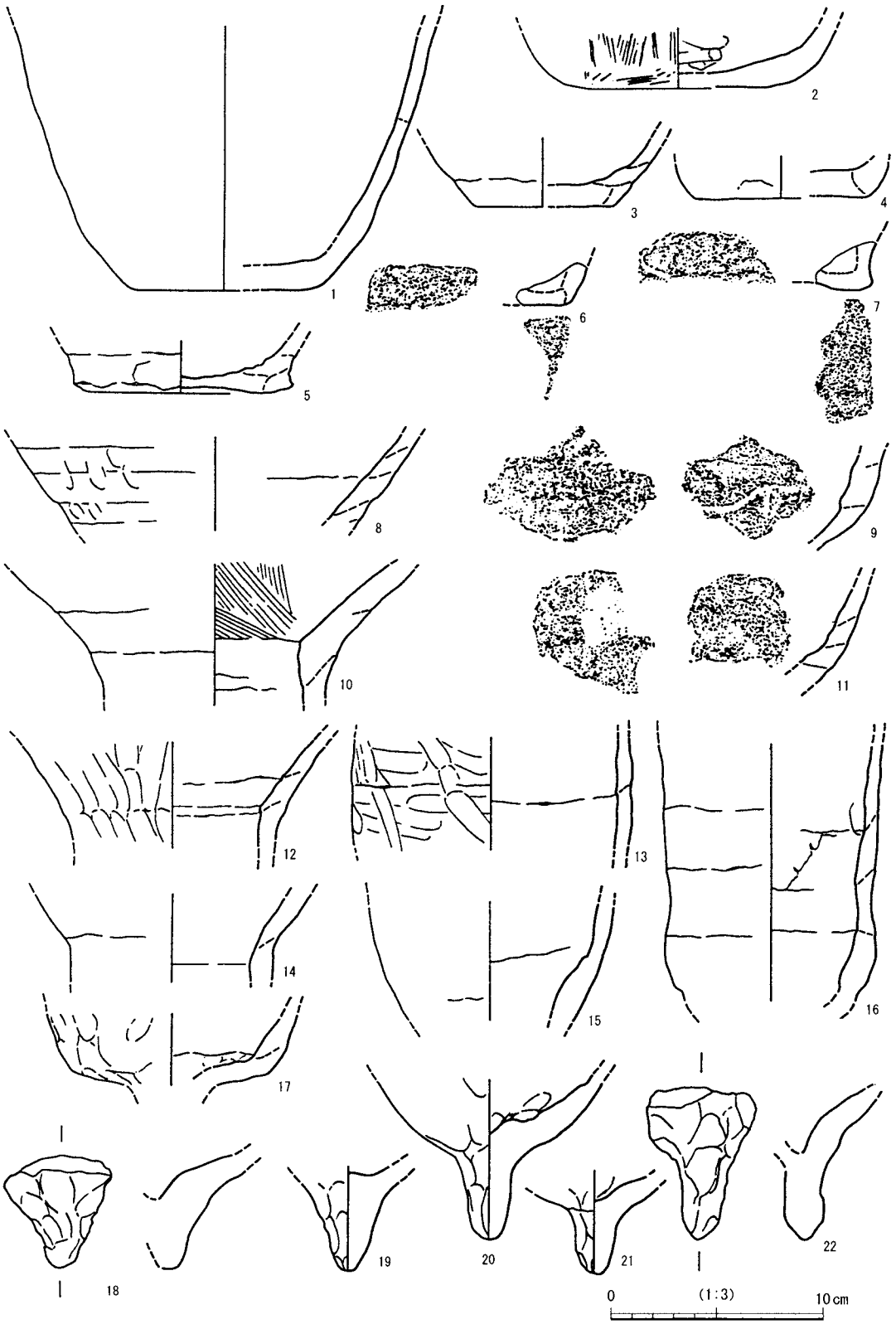
第 130 図　出土遺物実測図 (17)



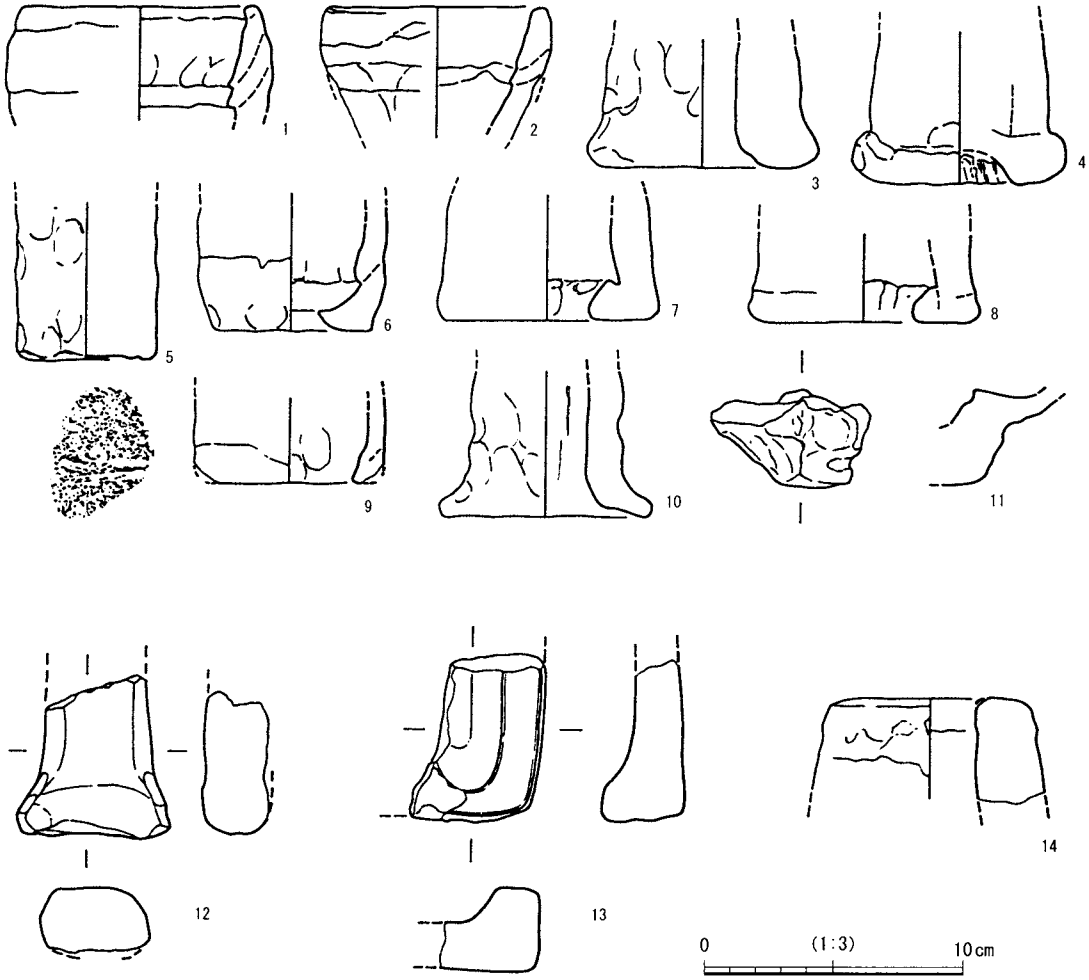
第 131 図　出土遺物実測図 (18)



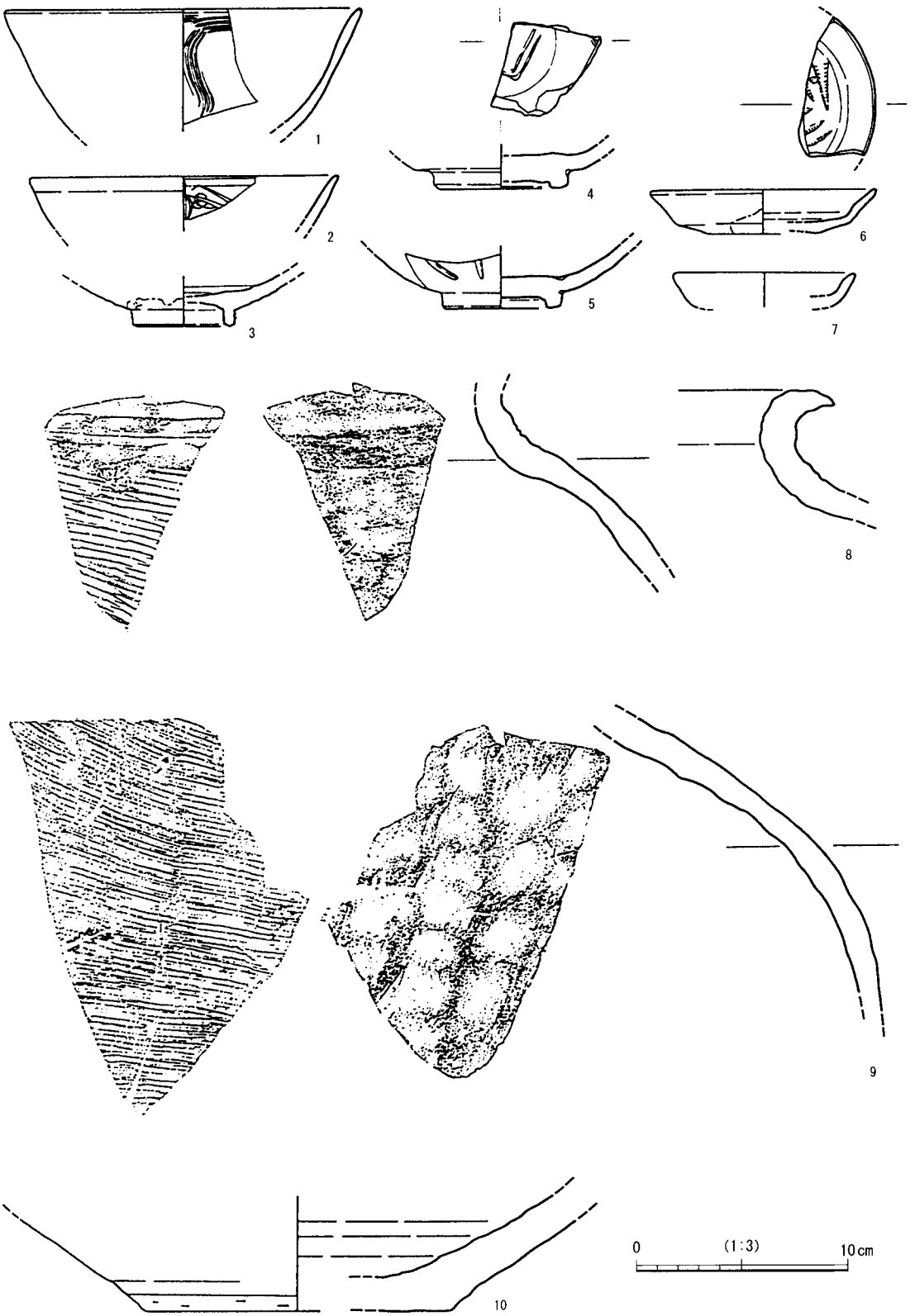
第 132 図　出土遺物実測図 (19)



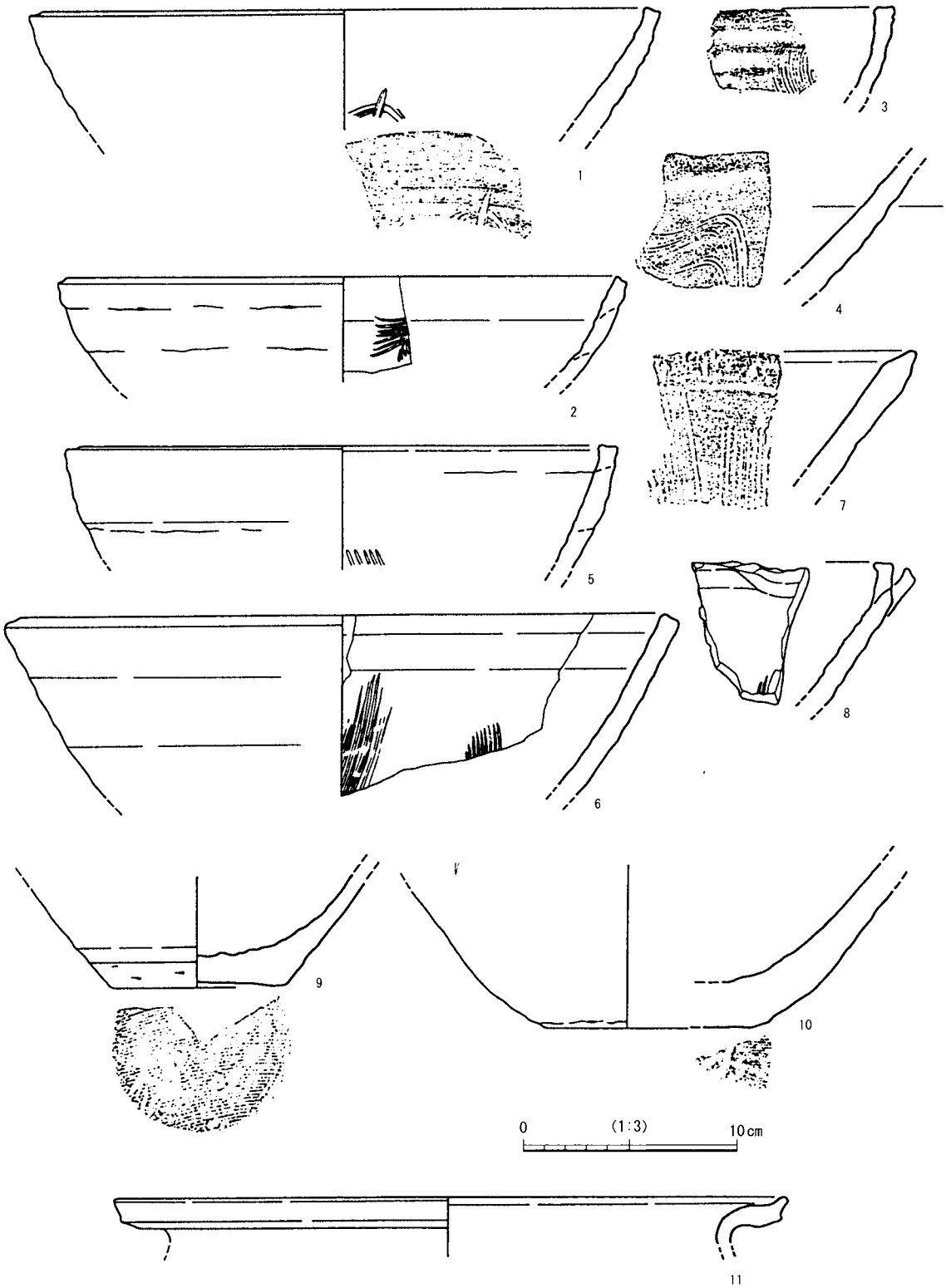
第 133 図　出土遺物実測図 (20)



第 134 図　出土遺物実測図 (21)



第 135 図　包含層出土中世土器実測図 (1)



第 136 図　包含層出土中世土器実測図 (2)

第７章　北吉田オモクラヤチ遺跡

第１節　検出遺構

本遺跡は北吉田ノノメ遺跡の南側に入り込む幅20mの細長い谷に位置し、両側の尾根の伸びによって平野部から隠されてしまい、北吉田ノノメ遺跡からも隔絶された観がある。調査区は、試掘調査で遺物が出土した付近に設定した第１トレンチと、第１トレンチで確認できた遺構の伸びを確認のための第２～４トレンチからなっている。

南北方向にある第１トレンチでは、おおむね丘陵地形に平行する南北方向の溝を確認した。しかも、その途中では、約７ｍの間隔で２本の溝が並行する状況を確認できた。これらは、丘陵斜面とそれと画する溝であり、それとともに耕作溝を確認し、なおかつ調査区中央付近で畑地を区画する溝も確認した。これらの遺構はいずれもトレンチでも確認できたので、畑作が谷全面に及んでいたことがわかる。

調査区西側には幅約80cm深さ15cm程度の区画溝(SD01) が丘陵の地形に平行して検出された。SD01から約1～2m谷側に耕作痕と思われる幅30～50cm、深さ10cm程度の畝溝が区画溝にほぼ直交するように検出した。畝溝の間隔は一様でないが、間隔に粗密があるもののおびただしい切りあいは認められないので、短期的な耕作の営みである。

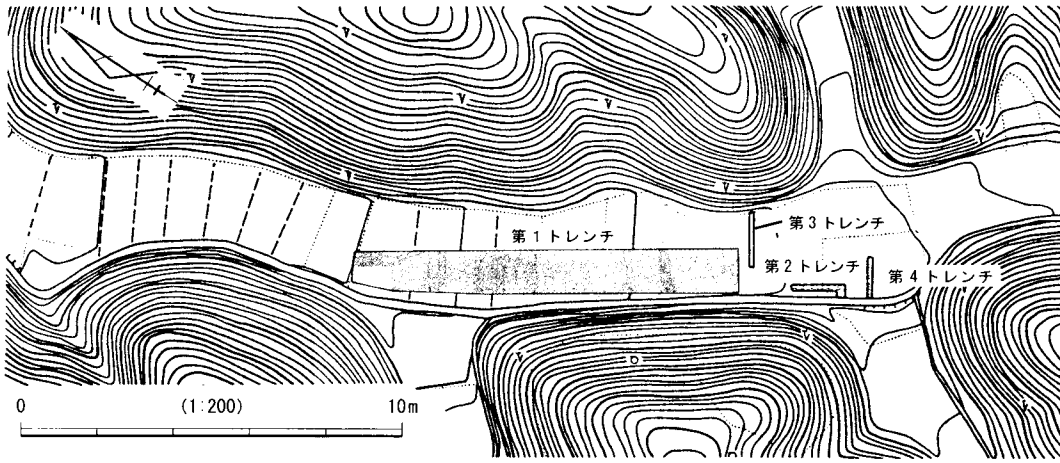
SD01から約７ｍはなれて同じような形状の溝(SD03) がほぼ並行して検出できたが、SD01よりも蛇行する度合いが強い。SD03に切られた畝溝もあることや畝溝の方向が全く異なる畝溝もあるので、畑地を区画する溝であろう。また、SD01に直交する区画溝(SD02) があり、これを中心として畝溝の分布が散漫となる。SD01より西側は丘陵尾根となっており、調査前でも農道に接することからも知れるように、山地と畑地を区画する機能がSD01に求められよう。それに対して、SD03の区画はSD01よりも後出で土地の所有関係を表示する機能が考えられる。

これら遺構群の年代は、出土遺物から明確にできないが、北吉田ノノメ遺跡と同時代の遺物が出土することからすれば、古代以降の遺跡であり、古代集落を成り立たせる生産基盤の一つであった可能性を考えたい。

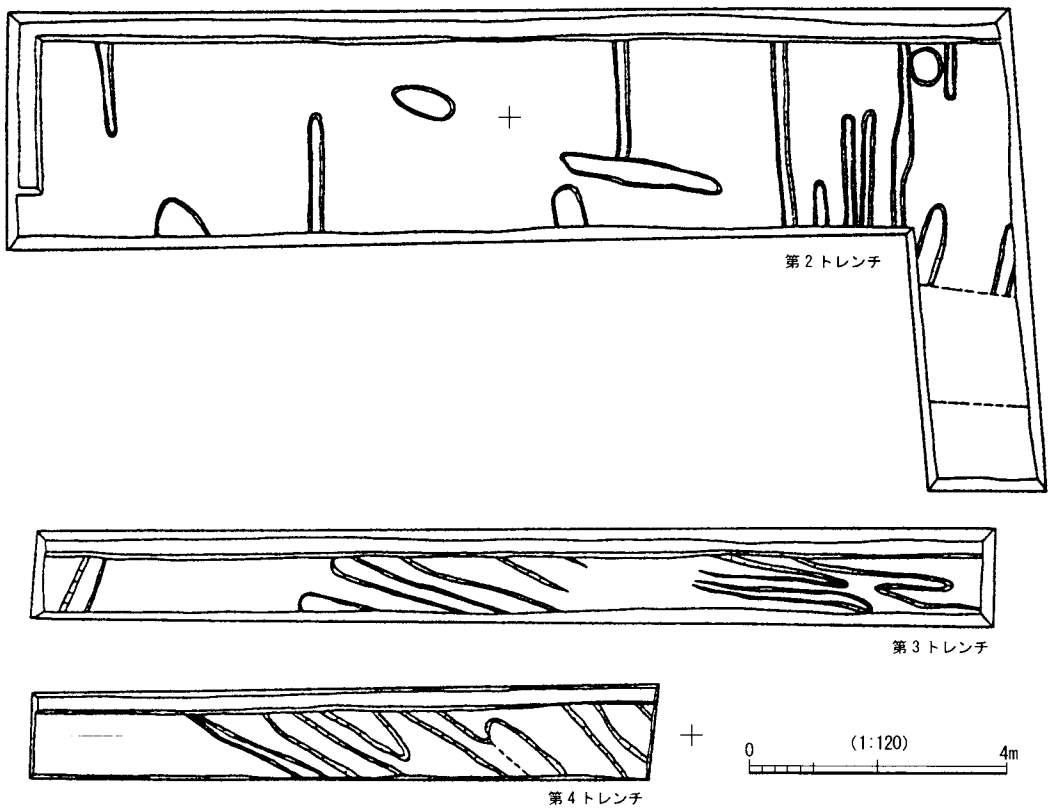
第２節　出土遺物

図示した遺物は側溝及び旧耕土中からの出土である。1～3は須恵器である。1が坏身で生焼け気味の軟質である。2は坏身で堅緻に焼き締まる。3は杯蓋で口縁端部は小さく屈曲する。いずれも、10世紀前半であるので、北吉田ノノメ遺跡からの混入品と考えられ、畝溝群の年代を示すものではない。4～6は土師器甕である。4・5非ロクロ技法により作られ、ともに緩やかに口縁が外方を向く。6はロクロ甕の口縁端部である。

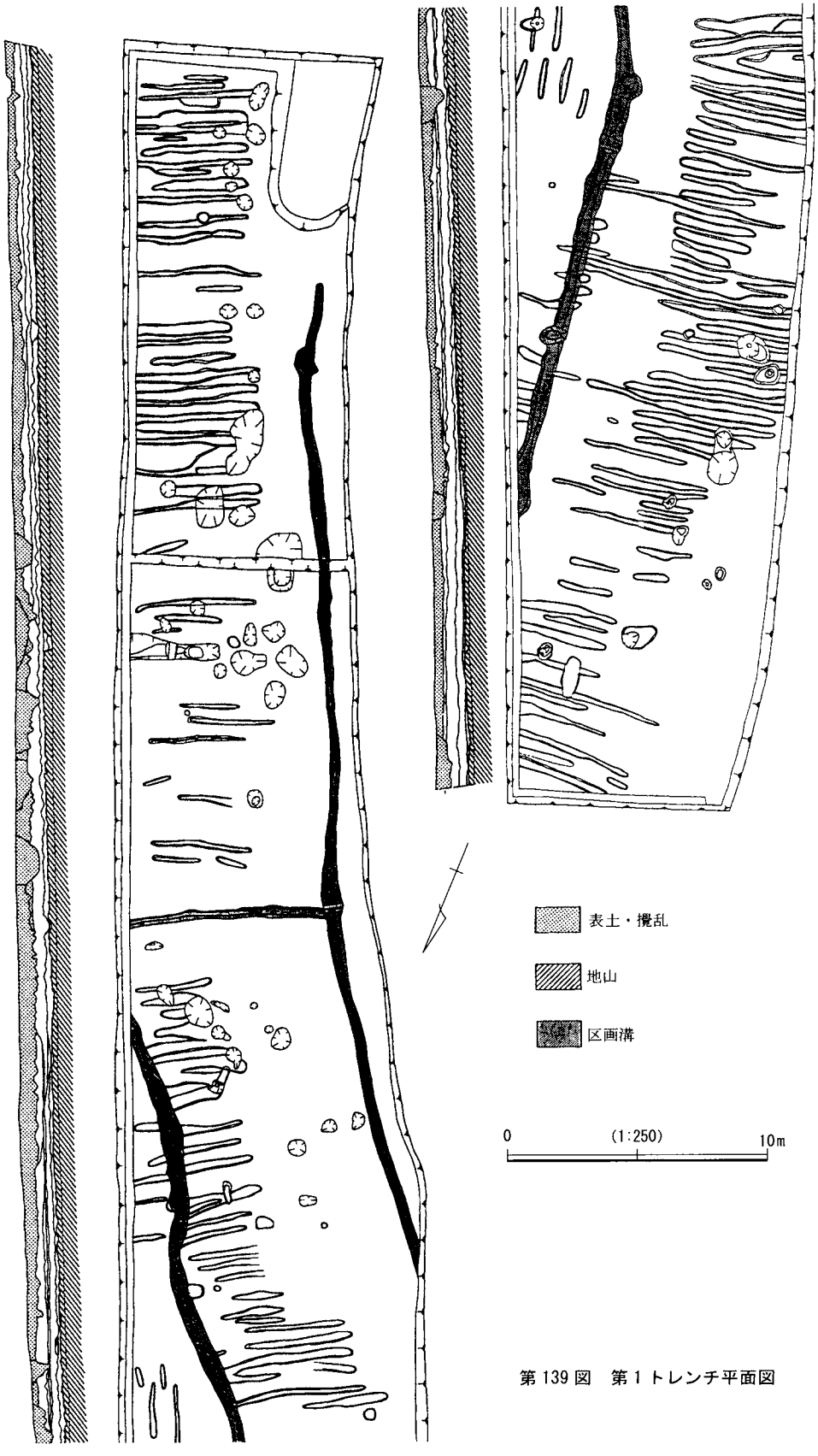
石器については、1が安山岩製の石鏃で、平基式である。図化していないが、石鏃がもう1点出土



第137図　トレンチ位置図



第138図　トレンチ平面図

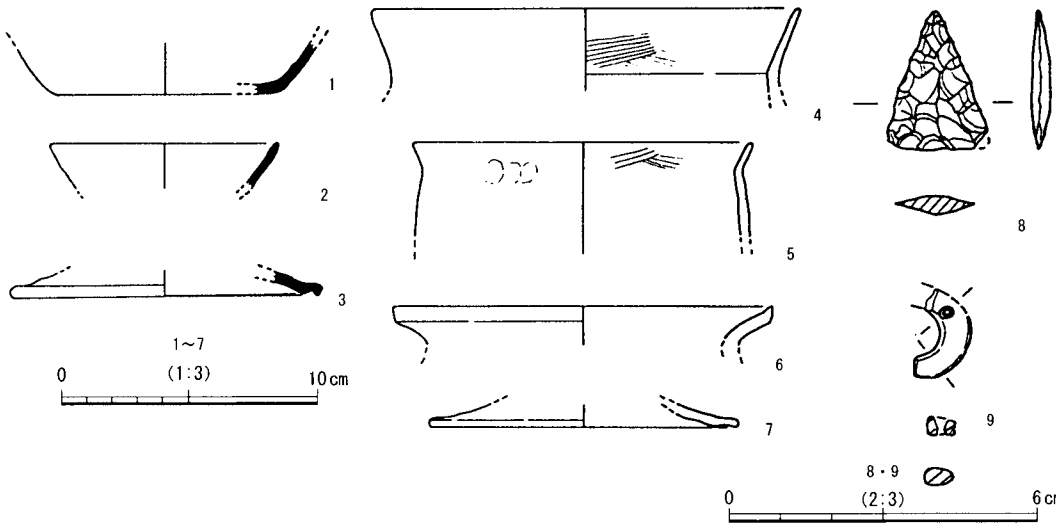


第 139 図　第 1 トレンチ平面図

している。9は透明感のある濁灰黄色の滑石製玦状耳飾である。玦の部分は角を持って仕上げられ、おなじ厚みと幅で円環形を呈する。途中で折れたようで、補修孔を開けている。縄文時代の集落が付近に存在する可能性も考えられ、そこからの混入品と理解されよう。

第3節　まとめ

本遺跡では、畑にかかる遺構群とそれを区画する溝を検出した。営まれた時期を明確にできないが、出土遺物に古代の土器を含みながら中世以降のものがないことから、北吉田ノノメ遺跡との関連性を強く示唆するものといえよう。



第140図　出土遺物

第3表　清水今江ニシャグチ遺跡出土遺物観察表

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	口径	底径	高さ	色調	実測番号
					(cm)				
第24図	1	第1号掘立柱建物	土師器	皿	9.4	5.0	2.4	淡橙色	256
	2	第1号掘立柱建物	内黒土師器	埦	-	6.6	-	浅黄橙色	257
	3	第1号掘立柱建物	内黒土師器	埦	12.4	-	-	浅黄橙色	255
	4	第1号掘立柱建物	土師器	皿	8.8	5.0	2.0	淡橙色	258
	5	第1号掘立柱建物	土師器	皿	-	4.8	2.8	褐灰色	259
	6	第1号掘立柱建物	土師器	皿	8.8	4.1	2.35	にぶい橙色	262
	7	第1号掘立柱建物	土師器	埦	14.3	6.9	4.75	にぶい橙色	261
	8	第1号掘立柱建物	内黒土師器	埦	14.3	-	-	橙色	260
	9	第1号掘立柱建物	土師器	皿	8.6	4.4	2.3	浅黄橙色	263
	10	第1号掘立柱建物	土師器	埦	-	5.0	-	にぶい橙色	264
	11	第1号掘立柱建物	土師器	埦	14.2	-	-	浅黄橙色	265
	12	第1号掘立柱建物	須恵器	蓋	16.9	-	-	灰色	268
	13	第1号掘立柱建物	土師器	皿	8.5	4.55	2.2	浅黄橙色	267
	14	第1号掘立柱建物	土師器	皿	8.0	3.8	2.0	淡橙色	269
	15	第1号掘立柱建物	内黒土師器	埦	15.2	7.7	5.7	浅黄橙色	266
	16	第1号掘立柱建物	土師器	埦	14.0	6.2	3.55	淡橙色	270
	17	第1号掘立柱建物	土師器	埦	12.5	4.5	3.9	浅黄橙色	271
	18	第1号掘立柱建物	陶質土器	鉢	-	-	-	灰白色	272
	19	第1号掘立柱建物	土師器	皿	9.2	-	-	にぶい橙色	275
	20	第1号掘立柱建物	土師器	埦	-	6.1	-	にぶい橙色	274
	21	第1号掘立柱建物	土師器	埦	-	4.0	-	浅黄橙色	276
	22	第1号掘立柱建物	白磁	埦	-	-	-	白色	278
	23	第1号掘立柱建物	白磁	皿	11.8	-	-	灰白色	277
	24	第1号掘立柱建物	土師器	埦	-	7.7	-	にぶい黄褐色	280
	25	第1号掘立柱建物	陶質土器	鉢	-	10.0	-	灰白色	273
第25図	26	第1号掘立柱建物	須恵器	瓶	-	-	-	内)灰色　外)青灰色	279
	27	第1号掘立柱建物	土師器	皿	9.4	4.0	2.05	浅黄橙色	286
	28	第1号掘立柱建物	土師器	皿	9.0	5.4	2.15	橙色	284
	29	第1号掘立柱建物	土師器	埦	12.8	6.3	3.8	内）淡橙色、外）浅黄橙色	285
	30	第1号掘立柱建物	内黒土師器	埦	10.0	-	-	黒色	282
	31	第1号掘立柱建物	内黒土師器	埦	-	5.75	-	にぶい橙色	283
	32	第1号掘立柱建物	土師器	甕	12.0	-	-	内）灰褐色、外）赤褐色	281
	33	第1号掘立柱建物	須恵器	蓋	12.1	-	-	灰白色	287
	34	第1号掘立柱建物	土師器	埦	9.3	4.4	2.7	浅黄橙色	288
	35	第1号掘立柱建物	土師器	皿	8.9	5.3	2.0	橙色	291
	36	第1号掘立柱建物	土師器	埦	-	4.9	-	橙色	292
	37	第1号掘立柱建物	内黒土師器	埦	-	5.6	-	浅黄橙色	293
	38	第1号掘立柱建物	土師器	埦	11.4	5.8	4.8	橙色	289
	39	第1号掘立柱建物	土師器	埦	12.9	6.0	4.1	明褐灰色	290
	40	第1号掘立柱建物	鉄釘		-	-	-		5
	41	第1号掘立柱建物	砥石		-	-	-	厚さ1.6cm	4
	42	第1号掘立柱建物	鞴羽口		-	-	-	内）灰赤色、外）赤灰色	294
	43	第1号掘立柱建物	鞴羽口		-	-	-	内）浅黄橙色、外）灰色	295
	44	第1号掘立柱建物	土師器	埦	-	6.4	-	浅黄橙色	296
	45	第1号掘立柱建物	土師器	埦	-	4.6	-	褐灰色	297
	46	第1号掘立柱建物	内黒土師器	埦	-	-	-	灰褐色	298
	47	第1号掘立柱建物	土師器	埦	15.4	-	-	灰黄褐色	299
第26図	1	第2号掘立柱建物	土師器	埦	-	7.3	-	浅黄橙色	300
	2	第2号掘立柱建物	土師器	埦	-	5.2	-	浅黄橙色	301
	3	第2号掘立柱建物	土師器	皿	9.9	4.9	2.7	浅黄橙色	302
	4	第2号掘立柱建物	土師器	皿	9.2	4.6	3.9	浅黄橙色	304
	5	第2号掘立柱建物	土師器	埦	17.2	-	-	褐灰色	303
	6	第2号掘立柱建物	土師器	皿	8.9	4.4	2.7	淡橙色	305
	7	第2号掘立柱建物	内黒土師器	埦	-	6.8	-	褐灰色	306
	8	第2号掘立柱建物	土師器	皿	-	4.6	-	浅黄橙色	307
	9	第2号掘立柱建物	土師器	皿	9.6	4.8	2.4	淡橙色	308
	10	第2号掘立柱建物	土師器	埦	-	4.3	-	浅黄橙色	309
	11	第2号掘立柱建物	土師器	埦	-	5.9	-	にぶい橙色	310
	12	第2号掘立柱建物	土師器	埦	-	5.4	-	浅黄橙色	311
	13	第2号掘立柱建物	土師器	皿	8.6	4.5	2.25	淡橙色	312
	14	第2号掘立柱建物	土師器	皿	8.4	4.7	2.0	浅黄橙色	314
	15	第2号掘立柱建物	土師器	皿	9.2	4.4	1.85	淡橙色	316
	16	第2号掘立柱建物	土師器	埦	12.3	5.8	4.0	橙色	313
	17	第2号掘立柱建物	土師器	埦	14.9	-	-	浅黄橙色	317
	18	第2号掘立柱建物	内黒土師器	埦	16.7	-	-	浅黄橙色	315
	19	第2号掘立柱建物	内黒土師器	埦	13.7	-	-	浅黄橙色	318
	20	第2号掘立柱建物	土師器	埦	-	5.6	-	浅黄橙色	319
	21	第2号掘立柱建物	打欠石錘		-	-	-	重さ791ｇ	6

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	口径	底径	高さ	色調	実測番号
					(cm)				
	22	第2号掘立柱建物	土師器	皿	9.0	4.6	1.9	橙色	338
	23	第2号掘立柱建物	土師器	皿	9.1	4.0	2.1	にぶい黄橙色	327
	24	第2号掘立柱建物	土師器	皿	9.3	6.9	1.9	淡橙色	336
	25	第2号掘立柱建物	土師器	皿	9.8	5.4	2.65	淡橙色	325
	26	第2号掘立柱建物	土師器	皿	10.5	5.1	2.75	浅黄橙色	337
	27	第2号掘立柱建物	土師器	椀	7.8	3.6	1.7	浅黄橙色	332
	28	第2号掘立柱建物	土師器	椀	9.8	-	-	浅黄橙色	549
第27図	29	第2号掘立柱建物	土師器	皿	9.0	5.4	3.6	浅黄橙色	320
	30	第2号掘立柱建物	土師器	椀	-	4.7	-	橙色	333
	31	第2号掘立柱建物	土師器	椀	-	5.6	-	浅黄橙色	331
	32	第2号掘立柱建物	土師器	皿	9.0	5.2	3.1	橙色	334
	33	第2号掘立柱建物	土師器	椀	-	6.7	-	橙色	335
	34	第2号掘立柱建物	土師器	椀	16.7	7.8	4.65	浅黄橙色	324
	35	第2号掘立柱建物	土師器	椀	16.7	-	-	浅黄橙色	329
	36	第2号掘立柱建物	土師器	椀	-	6.8	-	淡橙色	323
	37	第2号掘立柱建物	土師器	椀	-	7.6	-	灰黄色	326
	38	第2号掘立柱建物	土師器	椀	-	6.5	-	淡橙色	322
	39	第2号掘立柱建物	内黒土師器	椀	9.3	-	-	褐灰色	330
	40	第2号掘立柱建物	内黒土師器	椀	-	4.6	-	黒色	328
	41	第2号掘立柱建物	石皿		-	-	-	重さ2448g	7
	42	第2号掘立柱建物	土師器	皿	8.8	5.4	2.2	浅黄橙色	341
	43	第2号掘立柱建物	土師器	椀	-	4.0	-	にぶい橙色	340
	44	第2号掘立柱建物	土師器	椀	-	6.7	-	浅黄橙色	342
	45	第2号掘立柱建物	内黒土師器	椀	-	6.85	-	浅黄橙色	339
	46	第2号掘立柱建物	土師器	皿	8.8	5.8	2.0	浅黄橙色	344
	47	第2号掘立柱建物	土師器	椀	-	4.3	-	にぶい橙色	345
	48	第2号掘立柱建物	土師器	皿	10.0	6.0	3.2	橙色	343
	49	第2号掘立柱建物	土師器	椀	10.8	5.2	3.4	淡橙色	349
	50	第2号掘立柱建物	土師器	椀	13.0	-	-	橙色	346
	51	第2号掘立柱建物	内黒土師器	椀	-	4.6	-	黒色	348
	52	第2号掘立柱建物	内黒土師器	椀	12.8	-	-	浅黄橙色	347
	53	第2号掘立柱建物	土師器	椀	11.6	4.0	4.0	橙色	350
	54	第2号掘立柱建物	土師器	椀	11.3	4.6	3.6	浅黄橙色	351
	55	第2号掘立柱建物	土師器	椀	14.3	-	-	橙色	352
第28図	56	第2号掘立柱建物	土師器	皿	9.8	4.6	2.9	浅黄橙色	358
	57	第2号掘立柱建物	土師器	椀	-	3.5	-	浅黄橙色	354
	58	第2号掘立柱建物	土師器	椀	-	4.1	-	浅黄橙色	355
	59	第2号掘立柱建物	土師器	椀	-	3.5	-	浅黄橙色	356
	60	第2号掘立柱建物	内黒土師器	椀	14.7	-	-	浅黄橙色	357
	61	第2号掘立柱建物	内黒土師器	椀	13.0	-	-	橙色	353
	62	第2号掘立柱建物	須恵器	円盤	-	-	-	灰色	359
	63	第2号掘立柱建物	土師器	椀	-	7.0	-	淡橙色	360
	64	第2号掘立柱建物	土師器	椀	13.1	5.7	3.9	浅黄橙色	361
	65	第2号掘立柱建物	土師器	椀	13.6	-	-	橙色	362
	66	第2号掘立柱建物	土師器	椀	12.1	6.0	-	橙色	363
	67	第2号掘立柱建物	内黒土師器	椀	-	6.9	-	橙色	364
	68	第2号掘立柱建物	土師器	皿	-	5.5	-	橙色	367
	69	第2号掘立柱建物	砥石		-	-	-	重さ394g	8
	70	第2号掘立柱建物	土師器	椀	-	-	-	橙色	365
	71	第2号掘立柱建物	土師器	甕	-	8.2	-	にぶい橙色	366
	72	第2号掘立柱建物	内黒土師器	椀	-	6.0	-	浅黄橙色	368
第29図	1	第3号掘立柱建物	土師器	皿	10.7	4.8	2.1	浅黄橙色	375
	2	第3号掘立柱建物	土師器	椀	10.5	4.6	3.2	橙色	370
	3	第3号掘立柱建物	土師器	椀	-	5.2	-	浅黄橙色	373
	4	第3号掘立柱建物	土師器	皿	9.7	6.0	2.2	浅黄橙色	371
	5	第3号掘立柱建物	土師器	椀	10.1	5.6	3.25	浅黄橙色	372
	6	第3号掘立柱建物	土師器	椀	10.5	6.0	3.45	橙色	374
	7	第3号掘立柱建物	土師器	椀	10.7	5.8	4.05	淡橙色	376
	8	第3号掘立柱建物	砥石		-	-	-	重さ69.6g	10
	9	第3号掘立柱建物	土錘		-	-	-	重さ98g	377
	10	第3号掘立柱建物	敲石		-	-	-	重さ402g	9
	11	第3号掘立柱建物	須恵器	椀	17.5	-	-		551
	12	第3号掘立柱建物	須恵器	甕	-	-	-	青灰色	369
	13	第4号掘立柱建物	土師質土器	皿	8.3	7.2	1.3	浅黄橙色	378
	14	第4号掘立柱建物	土師質土器	皿	9.6	-	-	浅黄橙色	379
第30図	1	第1号土坑	土師器	皿	9.0	3.6	1.8	浅黄橙色	134
	2	第1号土坑	土師器	皿		3.7	1.6	橙色	135
	3-1	第1号土坑	土師器	皿	9.7	4.8	2.35	浅黄橙色	136

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	口径	底径	高さ	色調	実測番号
					(cm)				
	3 - 2	第1号土坑	土師器	皿	9.8	5.6	2.5	にぶい黄橙色	137
	4	第1号土坑	土師器	埦	15.0	5.0	4.35	浅黄橙色	138
	5	第1号土坑	土師器	皿	7.6	4.3	2.2	橙色	140
	6	第1号土坑	土師器	皿	9.5	5.5	2.7	浅黄橙色	141
	7	第1号土坑	土師器	皿	9.0	5.0	2.2	橙色	142
	8 - 1	第1号土坑	土師器	皿	9.4	5.4	2.5	橙色	143
	8 - 2	第1号土坑	土師器	皿	9.3	5.0	2.5	浅黄橙色	144
	8 - 3	第1号土坑	土師器	皿	9.5	5.0	2.65	浅黄橙色	139
	9	第1号土坑	土師器	埦	14.5	4.8	4.15	淡橙色	145
	10	第1号土坑	土師器	皿	9.5	5.4	3.5	浅黄橙色	146
	11	第1号土坑	土師器	皿	9.5	5.2	2.65	浅黄橙色	147
	12	第1号土坑	土師器	皿	9.6	3.7	2.0	橙色	148
	13	第1号土坑	土師器	皿	9.1	3.8	1.85	浅黄橙色	149
	14	第1号土坑	土師器	皿	9.2	5.3	2.6	浅黄橙色	150
	15	第1号土坑	土師器	皿	9.4	5.6	2.4	浅黄橙色	151
	16	第1号土坑	土師器	埦	13.7	6.45	4.05	浅黄橙色	152
	17	第1号土坑	土師器	皿	9.2	3.8	2.1	橙色	153
	19	第1号土坑	土師器	皿	9.3	5.7	2.8	浅黄橙色	154
	20	第1号土坑	土師器	皿	9.8	5.3	2.6	浅黄橙色	155
	21 - 1	第1号土坑	土師器	埦	14.4	5.5	4.6	浅黄橙色	156
第31図	21 - 2	第1号土坑	土師器	皿	8.8	5.4	2.4	浅黄橙色	157
	23 - 1	第1号土坑	土師器	皿	10.0	5.5	3.0	浅黄橙色	159
	23 - 2	第1号土坑	土師器	埦	15.3	5.4	4.6	橙色	158
	24	第1号土坑	土師器	皿	9.3	5.5	2.65	浅黄橙色	160
	25	第1号土坑	土師器	皿	9.5	5.0	2.6	浅黄橙色	161
	26 - 1	第1号土坑	土師器	皿	9.8	6.1	2.4	褐灰色	162
	26 - 2	第1号土坑	土師器	皿	9.0	5.2	2.3	浅黄橙色	163
	27 - 1	第1号土坑	土師器	埦	14.3	5.85	4.7	浅黄橙色	164
	27 - 2	第1号土坑	土師器	皿	9.7	5.3	2.4	浅黄橙色	165
	28	第1号土坑	土師器	皿	10.1	5.2	2.7	浅黄橙色	166
	29 - 1	第1号土坑	土師器	埦	14.0	5.2	4.5	浅黄橙色	167
	29 - 2	第1号土坑	土師器	皿	9.2	4.1	1.85	浅黄橙色	168
	30 - 1	第1号土坑	土師器	皿	9.5	5.2	2.75	浅黄橙色	169
	30 - 2	第1号土坑	土師器	皿	9.3	5.5	2.1	浅黄橙色	170
	30 - 3	第1号土坑	土師器	皿	9.7	5.6	2.5	浅黄橙色	171
	31	第1号土坑	土師器	皿	9.4	5.7	2.2	淡橙色	172
	33 - 1	第1号土坑	土師器	埦	14.3	4.6	4.1	浅黄橙色	173
	33 - 2	第1号土坑	土師器	皿	9.0	5.0	2.5	浅黄橙色	174
	33 - 3	第1号土坑	土師器	皿	9.8	4.6	2.2	橙色	175
	35 - 1	第1号土坑	土師器	埦	14.5	5.5	4.6	浅黄橙色	176
	35 - 2	第1号土坑	土師器	埦	13.8	6.7	3.7	浅黄橙色	177
	36 - 1	第1号土坑	土師器	皿	9.8	4.2	2.1	橙色	178
	36 - 2	第1号土坑	土師器	埦	14.0	6.9	4.4	浅黄橙色	179
	36 - 3	第1号土坑	土師器	皿	9.4	3.4	2.1	浅黄橙色	180
	38 - 1	第1号土坑	土師器	埦	13.75	6.5	3.9	浅黄橙色	181
第32図	38 - 2	第1号土坑	土師器	皿	9.2	5.5	2.7	浅黄橙色	182
	39	第1号土坑	土師器	皿	9.0	4.0	2.0	浅黄橙色	183
	40	第1号土坑	土師器	皿	9.1	5.4	2.15	浅黄橙色	184
	41 - 1	第1号土坑	土師器	皿	9.2	3.8	2.0	浅黄橙色	185
	41 - 2	第1号土坑	土師器	皿	8.8	4.0	2.0	橙色	186
	42	第1号土坑	土師器	埦	-	5.3	-	浅黄橙色	187
	43 - 1	第1号土坑	土師器	埦	14.3	4.8	4.2	浅黄橙色	188
	43 - 2	第1号土坑	土師器	皿	9.6	4.3	2.2	橙色	189
	44	第1号土坑	土師器	埦	13.75	5.6	4.5	浅黄橙色	190
	46 - 1	第1号土坑	土師器	皿	9.7	3.7	2.35	浅黄橙色	191
	46 - 2	第1号土坑	土師器	皿	9.8	3.8	2.35	橙色	192
	49 - 1	第1号土坑	土師器	皿	10.5	6.8	2.2	浅黄橙色	193
	49 - 2	第1号土坑	土師器	皿	9.6	4.3	2.2	浅黄橙色	207
	50	第1号土坑	土師器	皿	9.8	5.7	2.3	浅黄橙色	194
	51	第1号土坑	土師器	埦	13.8	6.7	4.1	内）にぶい橙色、外）淡橙色	195
	52	第1号土坑	土師器	埦	13.9	-	-	浅黄橙色	196
	53 - 1	第1号土坑	土師器	皿	9.6	4.6	2.05	浅黄橙色	197
	53 - 2	第1号土坑	土師器	皿	9.4	3.7	1.85	橙色	198
	54	第1号土坑	土師器	皿	9.5	5.4	2.4	浅黄橙色	199
	55	第1号土坑	土師器	皿	9.5	5.6	2.2	浅黄橙色	200
	56	第1号土坑	土師器	皿	9.3	4.3	2.4	浅黄橙色	201
	57 - 1	第1号土坑	土師器	皿	9.6	5.2	2.6	浅黄橙色	202
	57 - 2	第1号土坑	土師器	皿	9.6	5.5	2.1	浅黄橙色	133

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	口径	底径	高さ	色調	実測番号
						(cm)			
	57 - 3	第1号土坑	土師器	皿	9.2	5.2	2.6	浅黄橙色	203
	57 - 4	第1号土坑	土師器	皿	9.8	4.2	2.2	橙色	204
	57 - 5	第1号土坑	土師器	皿	9.8	5.4	2.75	にぶい橙色	205
	58	第1号土坑	土師器	埦	14.4	5.3	4.25	浅黄橙色	206
第33図	1	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.3	5.5	2.4	橙色	01
	2	第1号土器埋納穴	土師器	皿	8.9	3.7	2.8	橙色	02
	3	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.7	4.0	2.6	橙色	03
	4	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.4	4.2	2.5	橙色	04
	5	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.5	4.4	2.6	橙色	05
	6	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.2	5.0	2.9	橙色	06
	8	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.7	4.7	2.4	橙色	07
	9	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.8	4.4	2.7	橙色	08
	12	第1号土器埋納穴	土師器	皿	14.4	5.2	3.1	橙色	09
	13	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.6	4.4	2.6	橙色	10
	14	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.3	4.0	2.3	橙色	11
	15	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.5	4.8	3.1	橙色	12
	16	第1号土器埋納穴	土師器	皿	11.0	5.6	2.7	橙色	13
	17	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.0	4.0	2.7	浅黄橙色	14
	18 - 1	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.8	4.9	3.0	橙色	15
	18 - 2	第1号土器埋納穴	土師器	皿	14.8	6.9	5.3	浅黄橙色	16
	19	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.0	4.0	3.5	浅黄橙色	17
	20	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.0	4.4	3.0	橙色	18
	21	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.8	2.2	3.0	浅黄橙色	19
	22	第1号土器埋納穴	土師器	埦	14.6	6.4	4.0	浅黄橙色	20
	24	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.2	4.0	2.5	浅黄橙色	21
	25 - 1	第1号土器埋納穴	土師器	皿	8.9	4.2	2.5	橙色	22
	25 - 2	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.4	4.5	3.0	橙色	23
	26	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.5	4.2	2.6	橙色	24
	27	第1号土器埋納穴	土師器	埦	14.4	6.8	4.9	橙色	25
	29	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.4	4.6	2.8	浅黄橙色	26
	30	第1号土器埋納穴	土師器	皿	14.6	7.9	4.7	橙色	27
	31 - 1	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.2	5.1	2.5	橙色	28
	31 - 2	第1号土器埋納穴	土師器	皿	14.8	6.8	4.7	淡黄色	29
	32	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.6	4.5	2.8	浅黄橙色	30
	33 - 1	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.2	4.2	2.9	浅黄橙色	31
第34図	33 - 2	第1号土器埋納穴	土師器	皿	11.0	5.0	2.7	橙色	32
	34 - 1	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.8	5.0	3.0	浅黄橙色	33
	34 - 2	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.0	4.1	2.4	浅黄橙色	34
	36	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.6	5.4	2.9	橙色	35
	38	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.8	4.0	2.5	橙色	36
	39	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.7	5.0	3.1	橙色	37
	40	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.4	5.2	3.0	橙色	38
	41 - 1	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.0			橙色	39
	41 - 2	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.0	3.8	2.6	浅黄橙色	40
	42	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.0	4.8	2.7	橙色	41
	44	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.6	3.8	2.6	浅黄橙色	42
	46 - 1	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.5	4.0	2.7	浅黄橙色	43
	46 - 2	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.5	4.2	3.0	浅黄橙色	44
	47	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.9	3.9	2.8	浅黄橙色	45
	48	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.7	3.7	3.2	浅黄橙色	46
	49	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.4	5.2	2.4	橙色	47
	50	第1号土器埋納穴	土師器	埦	12.9	6.3	4.1	内）橙色、外）浅黄橙色	48
	51	第1号土器埋納穴	土師器	埦	11.2	4.9	3.3	橙色	49
	52	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.6	5.3	2.05	橙色	50
	53	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.4	4.5	2.9	橙色	51
	54	第1号土器埋納穴	土師器	埦	12.4	4.8	3.8	橙色	52
	55	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.7	5.2	2.7	橙色	53
	56	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.6	5.0	3.1	橙色	54
	57	第1号土器埋納穴	土師器	皿	9.7	4.6	2.9	橙色	55
	58	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.6	5.1	2.6	橙色	56
	60	第1号土器埋納穴	土師器	皿	11.6	5.0	2.5	橙色	57
	61	第1号土器埋納穴	土師器	埦	12.6	5.3	3.5	浅黄橙色	58
	62	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.8	4.9	3.0	橙色	59
	64	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.6	4.7	2.8	橙色	60
	65	第1号土器埋納穴	土師器	皿	11.3	4.1	3.0	橙色	61
	66	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.6	4.6	2.5	橙色	62
	67	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.8	5.2	3.0	橙色	63
	69	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.0	4.8	2.8	橙色	64

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	口径	底径	高さ	色調	実測番号
					(cm)				
第35図	70	第1号土器埋納穴	土師器	埦	12.2	5.3	3.9	橙色	65
	71	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.4	5.0	2.9	橙色	66
	72	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.8	5.1	3.0	橙色	67
	74	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.5	5.1	3.2	橙色	68
	75	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.4	4.9	3.1	橙色	69
	76	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.4	4.6	3.0	橙色	70
	77	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.7	4.9	3.2	橙色	71
	78 - 1	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.7	4.5	2.8	橙色	72
	78 - 2	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.8	4.8	2.9	橙色	73
	78 - 3	第1号土器埋納穴	土師器	皿	10.5	5.2	3.0	橙色	74
第36図	1	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.2	4.4	2.7	浅黄橙色	75
	2 - 1	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.7	4.7	2.9	浅黄橙色	76
	2 - 2	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.7	4.8	2.2	浅黄橙色	77
	2 - 3	第2号土器埋納穴	土師器	皿	11.2	5.2	2.6	にぶい黄橙色	78
	2 - 4	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.7	5.7	2.55	浅黄橙色	79
	2 - 5	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.5	5.6	2.3	にぶい黄橙色	80
	3	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.5	5.2	3.1	浅黄橙色	81
	4	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.8	4.6	2.45	橙色	82
	5	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.7	4.4	3.0	浅黄橙色	83
	6	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.8	5.0	3.2	淡黄色	84
	7	第2号土器埋納穴	土師器	皿	9.8	4.7	2.95	橙色	85
	8	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.6	5.5	3.1	橙色	86
	9	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.4	4.9	2.9	橙色	87
	10	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.9	5.0	3.2	橙色	88
	11	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.6	4.5	3.25	黄橙色	89
	13	第2号土器埋納穴	土師器	皿	11.6	6.0	2.25	浅黄橙色	90
	14	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.2	5.2	2.7	浅黄橙色	91
	15	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.1	4.2	3.2	橙色	92
	16	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.2	4.6	3.15	橙色	93
	17	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.5	4.7	2.8	黄橙色	94
	19	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.7	5.5	2.6	浅黄橙色	101
	20	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.8	5.6	2.2	浅黄橙色	95
	23	第2号土器埋納穴	土師器	皿	11.0	4.6	2.4	黄橙色	96
	24	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.7	5.2	2.8	橙色	97
	27	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.6	5.4	2.8	にぶい黄橙色	98
	28	第2号土器埋納穴	土師器	皿	11.4	5.6	2.2	浅黄橙色	99
	29	第2号土器埋納穴	土師器	皿	10.7	5.6	2.8	にぶい橙色	100
第37図	1	第3号土器埋納穴	土師器	埦	10.4	5.6	2.9	浅黄橙色	102
	2	第3号土器埋納穴	土師器	埦	11.0	5.0	3.6	浅黄橙色	103
	3	第3号土器埋納穴	土師器	埦	11.5	4.2	3.7	浅黄橙色	104
	4	第3号土器埋納穴	土師器	埦	10.9	5.3	2.7	にぶい橙色	105
	5	第3号土器埋納穴	土師器	埦	11.8	4.0	3.9	浅黄橙色	106
	6	第3号土器埋納穴	土師器	埦	11.8	4.4	3.5	橙色	107
	7	第3号土器埋納穴	土師器	埦	11.5	4.4	3.75	浅黄橙色	108
	8	第3号土器埋納穴	土師器	埦	10.7	4.8	3.5	浅黄橙色	111
	9	第3号土器埋納穴	土師器	埦	10.5	5.4	3.45	浅黄橙色	112
	10	第3号土器埋納穴	土師器	埦	11.0	5.4	3.4	浅黄橙色	109
	11	第3号土器埋納穴	土師器	埦	10.8	5.0	3.6	浅黄橙色	110
	12	第3号土器埋納穴	土師器	埦	10.6	4.8	3.45	浅黄橙色	113
	13	第3号土器埋納穴	土師器	埦	11.1	5.0	3.2	浅黄橙色	114
	14	第3号土器埋納穴	土師器	埦	10.9	5.1	3.5	橙色	115
	15	第3号土器埋納穴	土師器	埦	10.9	5.0	3.1	浅黄橙色	116
	16	第3号土器埋納穴	土師器	埦	11.0	5.6	3.6	橙色	117
	17	第3号土器埋納穴	土師器	埦	10.8	5.1	3.5	浅黄橙色	118
	18	第3号土器埋納穴	土師器	埦	11.1	3.8	4.1	浅黄橙色	119
	19	第3号土器埋納穴	土師器	埦	11.9	3.9	3.9	浅黄橙色	120
	20	第3号土器埋納穴	土師器	埦	10.1	4.6	3.1	橙色	121
	21	第3号土器埋納穴	土師器	埦	11.8	4.8	4.2	浅黄橙色	122
	22	第3号土器埋納穴	土師器	埦	10.5	5.2	3.35	浅黄橙色	123
	23	第3号土器埋納穴	土師器	埦	11.1	5.2	2.9	浅黄橙色	124
	24	第3号土器埋納穴	土師器	埦	10.9	5.4	3.85	内）橙色、外）浅黄橙色	125
	25	第3号土器埋納穴	土師器	埦	10.6	5.0	3.3	浅黄橙色	126
第38図	1	第4号土器埋納穴	土師器	皿	9.2	5.4	2.4	浅黄橙色	129
	2	第4号土器埋納穴	土師器	皿	10.5	4.8	3.0	浅黄橙色	132
	3	第4号土器埋納穴	土師器	皿	8.8	5.4	2.0	浅黄橙色	130
	4	第4号土器埋納穴	土師器	皿	9.8	5.3	3.1	橙色	128
	5	第4号土器埋納穴	土師器	埦	9.0	4.5	3.6	浅黄橙色	131
	6	第4号土器埋納穴	内黒土師器	埦	11.3	5.5	5.1	浅黄橙色	127

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	口径	底径	高さ	色調	実測番号
					(cm)				
第39図	1	第1号土器群	土師器	埦	9.3	4.0	3.3	橙色	456
	2	第1号土器群	土師器	埦	10.3	5.4	3.3	橙色	457
	3	第1号土器群	土師器	埦	9.6	5.6	4.2	橙色	458
	4	第1号土器群	土師器	皿	10.4	6.4	2.4	橙色	459
	5	第1号土器群	土師器	皿	10.3	6.5	2.4	橙色	460
	6	第1号土器群	土師器	皿	8.8	3.9	2.5	橙色	461
	7	第1号土器群	内黒土師器	埦	9.7	5.7	4.1	黒色	462
	8	第1号土器群	土師器	埦	-	5.4	-	にぶい橙色	463
	9	第1号土器群	土師器	皿	9.2	-	-	橙色	464
	10	第1号土器群	土師器	埦	10.8	6.0	4.5	橙色	465
	11	第1号土器群	土師器	埦	9.8	5.3	3.9	橙色	466
	12	第1号土器群	土師器	埦	-	5.2	-	橙色	467
	13	第1号土器群	土師器	皿	9.8	6.0	2.0	橙色	473
	14	第1号土器群	土師器	皿	8.9	4.2	2.0	橙色	471
	15	第1号土器群	土師器	埦	10.0	4.4	2.9	橙色	472
	16	第1号土器群	土師器	皿	10.4	5.0	2.5	橙色	470
	17	第1号土器群	土師器	埦	-	4.9	-	橙色	469
	18	第1号土器群	土師器	埦	-	8.0	-	橙色	474
	19	第1号土器群	内黒土師器	埦	13.8	-	-	橙色	468
	20	第1号土器群	須恵器	壺	21.0	11.8	25.6	灰色	558
第40図	1	第2号土器群	土師器	皿	9.7	5.2	2.3	橙色	475
	2	第2号土器群	土師器	皿	9.9	5.3	2.6	橙色	476
	3	第2号土器群	土師器	皿	10.6	5.4	2.8	橙色	477
	4	第2号土器群	土師器	皿	9.6	5.7	2.8	橙色	478
	5	第2号土器群	土師器	皿	9.4	5.2	2.9	赤橙色	10
	6	第2号土器群	土師器	皿	9.2	5.4	2.6	橙色	479
	7	第2号土器群	土師器	皿	9.8	5.8	2.7	赤橙色	12
	8	第2号土器群	土師器	皿	10.2	5.7	3.0	赤橙色	13
	9	第2号土器群	土師器	皿	9.6	5.7	2.8	赤橙色	14
	10	第2号土器群	土師器	皿	9.4	4.1	2.5	赤橙色	15
	11	第2号土器群	土師器	皿	9.5	4.9	2.8	灰白色	16
	12	第2号土器群	土師器	皿	9.1	5.0	2.4	黄橙色	18
	13	第2号土器群	土師器	皿	9.4	5.5	2.7	赤橙色	19
	14	第2号土器群	土師器	皿	9.4	4.9	2.35	赤橙色	20
	15	第2号土器群	土師器	皿	9.4	5.5	2.95	黄橙色	21
	16	第2号土器群	土師器	皿	10.1	5.5	2.5	黄橙色	22
	17	第2号土器群	土師器	皿	9.1	5.7	3.2	赤橙色	23
	18	第2号土器群	土師器	皿	9.4	5.0	2.0	淡灰色	24
	19	第2号土器群	土師器	皿	8.8	5.2	2.6	黄橙色	25
	20	第2号土器群	土師器	皿	9.0	5.0	2.4	赤橙色	26
	21	第2号土器群	土師器	皿	9.6	5.2	2.7	赤橙色	27
	22	第2号土器群	土師器	皿	10.4	5.2	2.7	橙色	480
	23	第2号土器群	土師器	皿	9.0	4.9	2.9	赤橙色	29
	24	第2号土器群	土師器	皿	9.2	5.5	2.8	橙色	482
	25	第2号土器群	土師器	皿	9.2	5.2	2.7	橙色	483
	26	第2号土器群	土師器	皿	10.2	5.0	3.0	橙色	481
	27	第2号土器群	土師器	皿	10.0	5.5	2.6	赤橙色	30
	28	第2号土器群	土師器	皿	9.2	5.4	2.65	赤橙色	31
	29	第2号土器群	土師器	皿	9.8	5.8	3.0	淡灰色	32
	30	第2号土器群	土師器	皿	9.2	5.4	2.1	黄橙色	33
	31	第2号土器群	土師器	皿	9.4	5.6	2.2	橙色	484
	32	第2号土器群	土師器	皿	8.6	5.4	2.2	橙色	485
	33	第2号土器群	土師器	埦	13.4	-	-	浅黄橙色	489
	34	第2号土器群	土師器	埦	15.6	-	-	浅黄橙色	486
	35	第2号土器群	土師器	埦	-	5.6	-	浅黄橙色	487
	36	第2号土器群	内黒土師器	埦	-	8.2	-	橙色	488
第41図	1	第3号土器群	土師器	皿	8.4	4.8	1.8	橙色	496
	2	第3号土器群	土師器	皿	8.8	4.4	2.2	橙色	492
	3	第３号土器群	土師器	埦	14.8	6.4	4.9	橙色	494
	4	第3号土器群	土師器	埦	14.8	6.0	4.2	橙色	502
	5	第3号土器群	土師器	埦	14.4	-	-	橙色	491
	6	第3号土器群	土師器	埦	18.6	-	-	橙色	490
	7	第3号土器群	内黒土師器	埦	-	6.6	-	浅黄橙色	493
	8	第3号土器群	須恵器	瓶	-	12.4	-	灰色	495
	9	第4号土器群	土師器	皿	7.8	4.4	2.1	橙色	1
	10	第4号土器群	土師器	皿	8.8	4.0	2.1	橙色	3
	11	第4号土器群	土師器	皿	8.8	4.8	2.3	浅黄橙色	2
	12	第4号土器群	土師器	皿	9.6	5.0	2.2	浅黄橙色	6

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	口径	底径	高さ	色調	実測番号
					(cm)				
	13	第4号土器群	土師器	皿	9.1	-	2.7	橙色	8
	14	第4号土器群	土師器	埦	10.0	5.3	4.8	橙色	4
	15	第4号土器群	土師器	埦	12.6	6.6	4.0	黄橙色	5
	16	第4号土器群	土師器	埦	15.4	-	3.7	橙色	9
	17	第4号土器群	内黒土師器	埦	-	6.2	4.2	橙色	7
	18	第5号土器群	土師器	皿	9.4	5.0	2.4	橙色	500
	19	第5号土器群	土師器	皿	9.7	4.3	2.7	橙色	498
	20	第5号土器群	土師器	皿	9.8	4.5	2.8	橙色	499
	21	第5号土器群	土師器	皿	10.0	5.3	2.5	浅黄橙色	501
	22	第5号土器群	内黒土師器	埦	15.6	7.4	6.4	橙色	497
第42図	1	第6号土器群	土師器	皿	8.8	5.2	1.9	橙色	17
	2	第6号土器群	土師器	皿	9.0	5.6	1.75	橙色	18
	3	第7号土器群	土師器	皿	8.8	6.0	2.1	橙色	15
	4	第7号土器群	土師器	皿	9.4	5.8	2.0	橙色	14
	5	第7号土器群	土師器	皿	10.0	5.6	1.75	浅黄橙色	13
	6	第7号土器群	土師器	埦	11.0	5.5	3.8	橙色	12
	7	第7号土器群	土師器	埦	11.6	5.3	3.7	橙色	11
	8	第7号土器群	土師器	埦	11.8	5.0	3.7	浅黄橙色	10
	9	第8号土器群	土師器	皿	8.8	5.8	2.1	黄橙色	19
	10	第8号土器群	土師器	皿	8.8	5.6	2.4	黄橙色	20
	11	第8号土器群	土師器	皿	8.8	5.3	2.3	橙色	21
	12	第8号土器群	土師器	皿	10.0	4.1	2.2	黄橙色	23
	13	第8号土器群	土師器	皿	9.4	5.4	2.9	淡黄色	16
	14	第8号土器群	土師器	皿	9.4	4.2	2.3	橙色	22
第43図	1	第1号溝	土師器	皿	8.9	7.0	1.6	淡黄色	516
	2	第1号溝	土師器	皿	10.0	5.0	2.6	浅黄橙色	512
	3	第1号溝	土師器	皿	10.3	5.2	2.6	浅黄橙色	508
	4	第1号溝	土師器	皿	9.8	4.7	3.1	浅黄橙色	507
	5	第1号溝	土師器	皿	9.0	5.2	1.75	浅黄橙色	517
	6	第1号溝	土師器	皿	8.4	4.8	2.3	橙色	515
	7	第1号溝	土師器	皿	10.0	5.0	1.6	淡橙色	511
	8	第1号溝	土師器	埦	13.2	5.9	4.2	褐灰色	513
	9	第1号溝	内黒土師器	埦	14.7	-	-	黒色	532
	10	第1号溝	土師器	埦	-	5.1	-	橙色	506
	11	第1号溝	土師器	埦	-	4.7	-	橙色	505
	12	第1号溝	土師器	壺	11.6	-	-	橙色	510
	13	第1号溝	須恵器	壺	-	13.7	-		504
	14	第1号溝	珠洲焼	鉢	-	11.8	-	灰白色	514
	15	第1号溝	鞴羽口		6.7	-	-	灰色	503
第44図	1	第1号溝	土師質土器	皿	7.0	4.8	1.3	浅黄橙色	381
	2	第1号溝	土師質土器	皿	8.0	4.0	1.2	浅黄橙色	382
	3	第1号溝	珠洲焼	擂鉢	24.6	-	-	灰色	509
	4	第3号溝	須恵器	蓋	-	-	-		389
	5	第3号溝	須恵器	坏	-	10.5	-	橙色	384
	6	第3号溝	緑釉陶器	碗	-	6.2	-	黄緑色	385
	7	第3号溝	土師器	埦	-	6.4	-	橙色	388
	8	第4号溝	須恵器	坏	15.0	10.0	3.6	灰色	400
	9	第4号溝	土師器	碗	-	7.2	-	橙色	393
	10	第4号溝	土師器	碗	-	6.8	-	浅黄橙色	390
	11	第4号溝	土師器	皿	9.6	4.7	2.7	橙色	394
	12	第4号溝	土師器	皿	-	5.0	-	浅黄橙色	395
	13	第2号溝	須恵器	甕	-	-	-		504
	14	第3号溝	須恵器	鉢	23.8	-	-		386
	15	第3号溝	須恵器	甕	-	-	-		387
	16	第4号溝	内黒土師器	埦	-	5.8	-	浅黄橙色	397
	17	第4号溝	内黒土師器	埦	-	-	-	黒色	396
	18	第4号溝	珠洲焼	擂鉢	-	-	-		391
	19	第4号溝	鉄製片口		6.2	3.5	2.1		1
	20	第4号溝	銅板		-	-	-	重さ7.1g	2
	21	第4号溝	鉄釘		-	-	-	重さ16.2g	3
第45図	1	第5号溝	土師器	皿	8.7	5.0	1.9	橙色	424
	2	第5号溝	土師器	皿	8.8	5.2	2.3	淡橙色	404
	3	第5号溝	土師器	皿	10.0	5.9	2.1	橙色	405
	4	第5号溝	土師器	皿	9.1	4.9	2.1	橙色	413
	5	第5号溝	土師器	皿	10.8	5.7	3.1	浅黄橙色	409
	6	第5号溝	土師器	埦	11.9	6.6	3.1	橙色	423
	7	第5号溝	土師器	埦	11.7	4.0	3.8	内）浅黄橙色、外）淡橙色	421
	8	第5号溝	土師器	埦	12.6	5.8	4.5	内）赤灰色、外）淡黄橙色	403

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	口径	底径	高さ	色調	実測番号
					(cm)				
	9	第5号溝	土師器	埦	13.4	6.5	4.1	にぶい橙色	412
	10	第5号溝	土師器	皿	9.5	5.0	1.9	橙色	417
	11	第5号溝	土師器	皿	9.4	4.6	1.8	浅黄橙色	422
	12	第5号溝	土師器	皿	-	4.6	-	浅黄橙色	420
	13	第5号溝	土師器	埦	9.0	-	-	橙色	402
	14	第5号溝	土師器	皿	-	5.6	-	浅黄橙色	408
	15	第5号溝	土師器	埦	-	6.1	-	浅黄橙色	418
	16	第5号溝	土師器	埦	-	6.4	-	浅黄橙色	557
	17	第5号溝	土師器	埦	-	6.6	-	内）黄橙色、外）浅黄橙色	419
	18	第5号溝	土師器	埦	-	6.8	-	浅黄橙色	407
	19	第5号溝	土師器	皿	8.4	4.4	2.4	橙色	406
	20	第5号溝	土師器	埦	-	4.2	-	橙色	414
	21	第5号溝	土師器	埦	-	5.4	-	橙色	411
	22	第5号溝	土師器	埦	-	5.8	-	浅黄橙色	410
	23	第5号溝	土師器	埦	-	4.7	-	浅黄橙色	415
	24	第5号溝	土師器	埦	-	4.6	-	橙色	416
	25	第5号溝	内黒土師器	埦	-	5.4	-	黒色	427
	26	第5号溝	内黒土師器	埦	16.5	-	-	浅黄橙色	425
	27	第5号溝	内黒土師器	埦	-	5.2	-	にぶい橙色	426
	28	第5号溝	土師器	壺	15.5	-	-	内）褐灰色、外）橙色	428
第46図	29	第5号溝	須恵器	瓶	-	-	-	灰色	430
	30	第5号溝	須恵器	甕	-	-	-		
	31	第5号溝	須恵器	埦	9.9	5.1	3.35	灰色	550
	32	第5号溝	須恵器	皿	11.8	5.8	1.7	緑釉	547
	33	第5号溝	白磁	埦	15.4	-	-		548
第47図	1	第6号溝	土師器	皿	9.4	3.3	3.1	浅黄橙色	454
	2	第6号溝	土師器	皿	9.5	3.5	2.5	浅黄橙色	556
	3	第6号溝	土師器	皿	9.0	5.0	2.1	にぶい黄橙色	442
	4	第6号溝	土師器	皿	-	4.2	2.7	橙色	436
	5	第6号溝	土師器	皿	10.1	5.0	3.1	橙色	446
	6	第6号溝	土師器	皿	9.4	4.3	3.1	橙色	437
	7	第6号溝	土師器	皿	10.5	5.0	3.75	にぶい黄橙色	431
	8	第6号溝	土師器	埦	12.3	5.0	3.5	浅黄橙色	450
	9	第6号溝	土師器	埦	13.0	5.6	4.85	にぶい黄橙色	433
	10	第6号溝	土師器	皿	-	4.6	-	橙色	434
	11	第6号溝	土師器	皿	10.0	5.8	2.5	にぶい黄橙色	440
	12	第6号溝	土師器	皿	10.2	6.3	2.6	橙色	447
	13	第6号溝	土師器	皿	10.7	6.0	2.9	浅黄橙色	441
	14	第6号溝	土師器	埦	10.2	5.0	4.15	にぶい黄橙色	453
	15	第6号溝	土師器	埦	10.5	5.3	4.5	橙色	438
	16	第6号溝	土師器	埦	10.8	6.2	4.4	橙色	439
	17	第6号溝	土師器	埦	-	5.8	-	にぶい黄橙色	435
	18	第6号溝	土師器	皿	-	7.0	-	にぶい黄橙色	445
	19	第6号溝	土師器	皿	-	7.6	-	にぶい褐色	444
	20	第6号溝	土師器	皿	-	8.4	-	浅黄橙色	443
	21	第6号溝	内黒土師器	埦	13.7	-	-	淡黄色	449
	22	第6号溝	内黒土師器	埦	13.7	5.2	5.7	浅黄橙色	455
	23	第6号溝	内黒土師器	埦	14.4	6.7	5.95	にぶい黄橙色	432
	24	第6号溝	白磁	埦	17.0	-	-		555
	25	第6号溝	須恵器	瓶	-	-	-	暗灰色	448
第48図	26	第6号溝	須恵器	甕	24.6	-	-		451
	27	第6号溝	須恵器	甕	38.0	-	-	灰色	452
	28	第6号溝	漆器	皿	-	18.9	-		1
第49図	1	土器集中地点	須恵器	坏	13.6	-	-	灰白色	89
	2	土器集中地点	須恵器	坏	12.0	9.5	3.0	灰白色	3
	3	土器集中地点	須恵器	坏	12.7	6.2	3.9	青白色	523
	4	土器集中地点	須恵器	坏	13.0	10.2	4.0	灰白色	526
	5	土器集中地点	須恵器	坏	13.6	9.0	3.5	にぶい黄橙色	552
	6	土器集中地点	須恵器	坏	13.8	-	3.4	灰白色	85
	7	土器集中地点	須恵器	坏	-	-	-	灰白色	88
	8	土器集中地点	須恵器	坏	14.1	-	3.8	灰白色	80
	9	土器集中地点	須恵器	坏	14.6	10.4	3.2	灰白色	1
	10	土器集中地点	須恵器	坏	15.0	10.9	2.9	灰白色	2
	11	土器集中地点	須恵器	坏	10.6	6.6	3.4	灰色	519
	12	土器集中地点	須恵器	坏	13.6	10.2	4.2	明緑灰色	530
	13	土器集中地点	須恵器	坏	14.0	8.3	4.2	灰白色	525
	14	土器集中地点	須恵器	坏	14.9	9.6	3.7	青灰色	522
	15	土器集中地点	須恵器	坏	-	9.4	-	灰白色	4

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	口径	底径	高さ	色調	実測番号
					(cm)				
	16	土器集中地点	須恵器	坏	18.0	-	-	青灰色	535
	17	土器集中地点	須恵器	蓋	-	-	-	灰白色	5
	18	土器集中地点	須恵器	蓋	15.0	-	-	灰白色	87
	19	土器集中地点	須恵器	蓋	-	16.2	2.9	灰白色	533
	20	土器集中地点	須恵器	蓋	-	16.6	2.9	灰白色	531
第50図	21	土器集中地点	須恵器	瓶	30.0	16.8	-	灰色	529
	22	土器集中地点	須恵器	壺	15.0	14.5	25.2	灰色	537
	23	土器集中地点	須恵器	壺	20.0	-	-	灰白色	5
	24	土器集中地点	須恵器	壺	-	9.4	-	灰白色	521
	25	土器集中地点	須恵器	壺	-	-	-	灰白色	528
第51図	26	土器集中地点	須恵器	甕	-	-	-		
	27	土器集中地点	土師器	甕	19.6	8.2	25.0	浅黄橙色	527
	28	土器集中地点	土師器	甕	19.6	-	-	浅黄橙色	520
	29	土器集中地点	土師器	甕	-	8.0	-	内）褐灰色、外）橙色	534
	30	土器集中地点	製塩土器	平底型	26.7	-	-	内）灰黄色、外）浅黄橙色	524
第52図	31	土器集中地点	製塩土器	平底型	-	-	-	浅黄橙色	536
	32	土器集中地点	製塩土器	平底型	28.4	-	-	内）灰黄褐色、外）灰黄色	600
	33	土器集中地点	製塩土器	平底型	-	-	-	浅黄橙色	536
	34	土器集中地点	製塩土器	平底型	-	15.6	-	内）浅黄橙色、外）橙色	518
第53図	1	包含層	土師器	器台				乳灰色	42
	2	包含層	土錘						48
	3	包含層	土錘						77
	4	包含層	土錘						30
	5	包含層	須恵器	壺				暗青灰色	47
	6	包含層	須恵器	甕				青灰色	7
	7	包含層	須恵器	甕				暗青灰色	5
	8	包含層	須恵器	甕				青灰色	46
	9	包含層	須恵器	甕					
	10	包含層	土師質土器	皿				赤橙色	40
	11	包含層	珠洲焼	鉢				青灰色	2
第54図	12	包含層	緑釉陶器	皿				灰オリーブ色	9
	13	包含層	緑釉陶器	皿				暗オリーブ色	4
	14	包含層	緑釉陶器	皿				オリーブ灰色	7
	15	包含層	緑釉陶器	皿				暗オリーブ色	9
	16	包含層	鉄釉陶器	小壺				灰色	9
	17	包含層	灰釉陶器	瓶				灰白色	7
	18	包含層	白磁	碗				灰白色	3
	19	包含層	白磁	碗				灰白色	9
	20	包含層	白磁	碗				灰白色	3
	21	包含層	白磁	皿				灰白色	7
	22	包含層	白磁	皿				灰白色	8
	23	包含層	白磁	皿				灰白色	7
	24	包含層	白磁	碗				灰白色	9
	25	包含層	青白磁	碗				灰白色	7
	26	包含層	青磁	碗				オリーブ灰色	9
	27	包含層	青磁	碗				灰オリーブ色	1
	28	包含層	青磁	小鉢				灰白色	5
	29	包含層	白磁	皿				明緑灰色	2
第55図	30	包含層	珠洲焼	擂鉢				灰色	38
	31	包含層	珠洲焼	甕				青灰色	39
	32	包含層	珠洲焼	甕				灰青色	6
	33	包含層	珠洲焼	甕					554
	34	包含層	珠洲焼	甕				灰青色	8
	35	包含層	砥石					現存長8.3cm	106
	36	包含層	鉄製品					厚さ10.6mm	35

第4表　北吉田フルワ遺跡、フルワ古墳群出土遺物観察表

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	色調	調整 外面	調整 内面	実測番号
第59図	1	第1号竪穴住居	弥生土器	甕	黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ	B191
	2	第1号竪穴住居	弥生土器	高坏	黄橙色	ヨコナデ	ハケ	B002
	3	第1号竪穴住居	弥生土器	高坏	黄橙色	ミガキ	ヘラナデ、ヘラケズリ	B001
	4	第2号竪穴住居	弥生土器	甕	黄橙色	ヨコナデ、キザミ	ヨコナデ	B006
	5	第2号竪穴住居	弥生土器	甕	黄橙色		ヨコナデ	B005
	6	第2号竪穴住居	弥生土器	甕	橙色	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	B010
	7	第2号竪穴住居	弥生土器	甕	黄橙色	ヨコナデ、擬凹線	ヨコナデ	B004
	8	第2号竪穴住居	弥生土器	高坏	黄橙色	ミガキ	ナデ	B009
	9	第2号竪穴住居	弥生土器	高坏	黄橙色	ミガキ、ヨコナデ	ヨコナデ	B007
	10	第2号竪穴住居	弥生土器	器台	黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ、ハケ	B003
	11	第2号竪穴住居	弥生土器	器台	明黄褐色	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ	B008
	12	第2号竪穴住居	石器	磨石				S002
第61図	1	第3号竪穴住居	弥生土器	甕	黄橙色	ヨコナデ、キザミ	ヨコナデ	B013
	2	第3号竪穴住居	弥生土器	甕	橙色	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	B011
	3	第3号竪穴住居	弥生土器	壺	浅黄橙色	ミガキ、ナデ	ハケ、ケズリ	B012
	4	第3号竪穴住居	弥生土器	高坏	黄橙色			B014
	5	第4号竪穴住居	弥生土器	甕		ヨコナデ、キザミ、ハケ	ヨコナデ、指頭圧痕、ハケ	B019
	6	第4号竪穴住居	弥生土器	甕	外）褐色、内）黄橙色	ナデ、ハケ	ナデ	B016
	7	第4号竪穴住居	弥生土器	甕	外）黄橙色、内）灰色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ケズリ	B015
第63図	1	第5号竪穴住居	弥生土器	甕	浅黄橙色		ケズリ	B017
	2	第5号竪穴住居	弥生土器	甕	黄橙色			B018
	3	第6号竪穴住居	弥生土器	甕	黄橙色	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	B020
第65図	1	第7号竪穴住居	弥生土器	甕	外）黄橙色、内）褐灰色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ケズリ	B023
	2	第7号竪穴住居	弥生土器	甕	外）明黄褐色、内）灰黄色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ナデ	B021
	3	第7号竪穴住居	弥生土器	甕	黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	B022
	4	第7号竪穴住居	弥生土器	壺	橙色	ヨコナデ、キザミ、ハケ	ヨコナデ、ナデ	B026
	5	第7号竪穴住居	弥生土器	甕	浅黄橙色	擬凹線		B025
	6	第7号竪穴住居	石製品	砥石				S001
第67図	1	第8号竪穴住居	弥生土器	甕	外）黄橙色、内）灰褐色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	B047
	2	第8号竪穴住居	弥生土器	壺	黄橙色	ヨコナデ、ミガキ	ミガキ	B027
第68図	1	第9号竪穴住居	弥生土器	高坏	外）淡橙色、内）黄橙色			B028
第70図	1	第10号竪穴住居	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ	B037
	2	第10号竪穴住居	弥生土器	甕	浅黄橙色	キザミ、ヨコナデ	ヨコナデ	B029
	3	第10号竪穴住居	弥生土器	甕	浅黄橙色	擬凹線、ヨコナデ	ヨコナデ	B030
	4	第10号竪穴住居	弥生土器	壺	黄橙色	擬凹線、ヨコナデ	ヨコナデ	B039
	5	第10号竪穴住居	弥生土器	壺	淡橙色	ヨコナデ、ハケ		B034
	6	第10号竪穴住居	弥生土器	壺	橙色			B040
	7	第10号竪穴住居	弥生土器	壺	外）黄橙色、内）灰褐色	ハケ・ナデ	ハケ	B031
	8	第10号竪穴住居	弥生土器	高坏	淡赤橙色			B032
	9	第10号竪穴住居	弥生土器	高坏	黄橙色			B035
	10	第10号竪穴住居	弥生土器	壺	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	B038
	11	第10号竪穴住居	弥生土器	器台	橙色	ヘラミガキ	ナデ・ハケ	B033
	12	第10号竪穴住居	弥生土器	高坏	浅黄橙色	キザミ		B036
第72図	1	第12号竪穴住居	弥生土器	甕	黄橙色	擬凹線、ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	B045
	2	第12号竪穴住居	弥生土器	甕	橙色	ヨコナデ、キザミ	ヨコナデ	B041
	3	第12号竪穴住居	弥生土器	甕	浅黄橙色	ハケ		B044
	4	第12号竪穴住居	弥生土器	甕	外）灰色、内）浅黄橙色	ハケ		B046
	5	第12号竪穴住居	弥生土器	甕	外）黄橙色、内）灰色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ・ナデ	B043
	6	第12号竪穴住居	弥生土器	壺	橙色	ヘラミガキ	ヨコナデ、ハケ・ナデ	B042
第75図	1	南方溝	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ・キザミ	ヨコナデ、ハケ	B163
	2	南方溝	弥生土器	甕	浅黄橙色	ハケ・キザミ	ヨコナデ、ハケ・ナデ	B183
	3	南方溝	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヘラケズリ	B147
	4	南方溝	弥生土器	甕	外）黄橙色、内）灰色	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	B170
	5	南方溝	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、キザミ	ヨコナデ	B171
	6	南方溝	弥生土器	甕	外）浅黄橙色、内）橙色	ハケ・キザミ	ヨコナデ、ハケ	B148
	7	南方溝	弥生土器	甕	黄橙色	ヨコナデ		B196
	8	南方溝	弥生土器	甕	浅黄橙色			B159
	9	南方溝	弥生土器	甕	外）褐色、内黄橙色	キザミ	ヨコナデ、ハケ	B151
	10	南方溝	弥生土器	甕	黄橙色	ヨコナデ、ハケ・キザミ	ヨコナデ、ハケ・ナデ	B176
	11	南方溝	弥生土器	甕	黄橙色	ヨコナデ、ハケ・キザミ	ヨコナデ、ハケ	B154
	12	南方溝	弥生土器	甕	黄橙色	ナデ・ハケ、キザミ	ヨコナデ、ハケ	RS08
第76図	13	南方溝	弥生土器	甕		ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ヘラケズリ	B164
	14	南方溝	弥生土器	甕	灰黄色	ヨコナデ、ハケ		B157

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	色調	調整		実測番号
						外面	内面	
	15	南方溝	弥生土器	甕	黄橙色	ハケ・ナデ	ハケ	B156
	16	南方溝	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ヘラケズリ	B150
	17	南方溝	弥生土器	甕	外）淡橙色、内）橙色	ヨコナデ、擬凹線	ヨコナデ、ヘラケズリ	B152
	18	南方溝	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	B178
	19	南方溝	弥生土器	甕	明褐灰色	ヨコナデ、ハケ	ナデ、ヘラケズリ	RS05
	20	南方溝	弥生土器	甕	褐灰色	ヨコナデ、擬凹線	ヨコナデ、ナデ・ケズリ	B197
	21	南方溝	弥生土器	甕	黄橙色	ヨコナデ、擬凹線	ヨコナデ、ケズリ	B155
	22	南方溝	弥生土器	鉢	浅黄橙色	擬凹線		B182
第77図	23	南方溝	弥生土器	壺	浅黄橙色	ハケ・ミガキ	ハケ	B174
	24	南方溝	弥生土器	壺	黄橙色	ヨコナデ、ハケ		B173
	25	南方溝	弥生土器	壺	浅黄橙色	ハケ	ヨコナデ、ハケ	B186
	26	南方溝	弥生土器	壺	外）橙色、内）浅黄橙色			B168
	27	南方溝	弥生土器	壺	浅黄橙色	ハケ、擬凹線	ヘラミガキ、ケズリ	B161
	28	南方溝	弥生土器	壺	橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	B188
	29	南方溝	弥生土器	壺	外）橙色、内）淡橙色	ヨコナデ、ハケ	ハケ	B149
	30	南方溝	弥生土器	壺	浅黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	B175
	31	南方溝	弥生土器	壺	赤褐色			B167
	32	南方溝	弥生土器	壺	橙色	ヨコナデ	ハケ	B180
	33	南方溝	弥生土器	小壺	淡黄色	ミガキ・ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ、ナデ・ハケ	B179
	34	南方溝	弥生土器	壺	橙色	ヘラミガキ	ヨコナデ、ナデ・ハケ	B177
	35	南方溝	弥生土器	壺	赤褐色			B167
第78図	36	南方溝	弥生土器	高坏	橙色	ミガキ	ヨコナデ、ミガキ・ナデ	RS07
	37	南方溝	弥生土器	高坏	浅黄橙色		ミガキ	RS06
	38	南方溝	弥生土器	高坏	黄橙色	ミガキ	ミガキ	B181
	39	南方溝	弥生土器	高坏	浅黄橙色	ナデ	ナデ	B184
	40	南方溝	弥生土器	高坏	浅黄橙色			B160
	41	南方溝	弥生土器	高坏	橙色	ミガキ	ナデ、ヨコナデ	B189
	42	南方溝	弥生土器	高坏	浅黄橙色	ヘラミガキ	ヘラミガキ、ハケ	B158
第79図	43	南方溝	弥生土器	高坏	浅黄橙色		ケズリ	B166
	44	南方溝	弥生土器	高坏	黄橙色	ミガキ	ナデ	B165
	45	南方溝	弥生土器	高坏	浅黄橙色		ハケ・ナデ	B187
	46	南方溝	弥生土器	器台	浅黄橙色	ハケ・擬凹線	ヨコナデ、ケズリ	B153
	47	南方溝	弥生土器	器台	橙色	ミガキ	ナデ	B172
	48	南方溝	弥生土器	器台	浅黄橙色	ヘラミガキ	ケズリ、ヨコナデ	B169
	49	南方溝	弥生土器	器台	浅黄橙色	ヘラミガキ	ナデ、ヨコナデ	B185
	50	南方溝	弥生土器	器台	橙色	ミガキ、ヨコナデ	ナデ・ハケ、ヨコナデ	B198
	51	南方溝	弥生土器	注口土器	黄橙色	ヘラミガキ、沈線		B190
第83図	1	北方溝Ⅰ	弥生土器	甕	黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ナデ	B140
	2	北方溝Ⅰ	弥生土器	甕	浅黄色	ヨコナデ、キザミ	ヨコナデ	B145
	3	北方溝Ⅰ	弥生土器	甕	淡黄色	キザミ		B134
	4	北方溝Ⅰ	弥生土器	甕	浅黄橙色	キザミ	ヨコナデ、ケズリ	B141
	5	北方溝Ⅰ	弥生土器	壺	外）淡橙色、内）浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ヘラケズリ	B133
	6	北方溝Ⅰ	弥生土器	甕	黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	B142
	7	北方溝Ⅰ	弥生土器	甕	黄橙色	ハケ・ナデ	ハケ	B142
	8	北方溝Ⅰ	弥生土器	高坏	浅黄橙色	ミガキ	ミガキ	B139
	9	北方溝Ⅰ	弥生土器	鉢	浅黄橙色	ヨコナデ、ミガキ・ハケ	ヨコナデ	B144
	10	北方溝Ⅰ	弥生土器	壺	黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ナデ	B146
	11	北方溝Ⅰ	弥生土器	器台	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ・ナデ	B137
	12	北方溝Ⅰ	弥生土器	器台	浅黄橙色	ミガキ	ナデ、ヨコナデ、ハケ	B138
第84図	1	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	黄橙色	キザミ、ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	B062
	2	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	キザミ		B110
	3	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、キザミ・ハケ	ヨコナデ、ナデ	B066
	4	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、キザミ	ヨコナデ	B122
	5	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕		キザミ・ハケ		B051
	6	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ・ケズリ	B108
	7	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ	B195
	8	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	外）褐灰色、内）橙色	ヨコナデ、ハケ	ハケ、ナデ	B080
	9	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	B095
	10	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	B096
	11	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	B089
	12	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	B114
	13	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	黄橙色	ヨコナデ、ナデ・ハケ	ヨコナデ、ハケ	B113
第85図	14	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケ	B063
	15	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ・キザミ	ヨコナデ、ケズリ	B131
	16	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ・キザミ	ヨコナデ、ナデ	B079
	17	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ・キザミ	ヨコナデ、ナデ	B087

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	色調	調整		実測番号
						外面	内面	
	18	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	淡橙色	ヨコナデ、ハケ・キザミ	ヨコナデ、ハケ	B103
	19	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	黄橙色	ヨコナデ、キザミ	ヨコナデ、ハケ	B094
	20	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ・キザミ	ヨコナデ、ハケ・ナデ	B098
	21	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ・キザミ	ヨコナデ、ハケ	B067
	22	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ・キザミ	ヨコナデ、ケズリ	B065
	23	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	黄橙色	ヨコナデ、ハケ・キザミ	ヨコナデ、ハケ・ナデ	B125
	24	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	外）黄橙色、内）褐灰色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ナデ	B100
	25	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	B193
	26	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	褐灰色	ハケ、ヘラケズリ	ハケ	B193
第86図	27	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ・キザミ	ヨコナデ、ケズリ	B105
	28	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ナデ・ケズリ	B059
	29	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	外）橙色、内）黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ヘラケズリ	B048
	30	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	外）淡橙色、内）黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ヘラケズリ	B049
	31	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	黄橙色	ヨコナデ、擬凹線	ヨコナデ、ヘラケズリ	B083
	32	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	外）橙色、内）黄橙色	ヨコナデ、ハケ・擬凹線	ヨコナデ、ナデ	B136
	33	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ヨコナデ、擬凹線	ヨコナデ、ケズリ	B070
	34	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	外）浅黄橙色、内）黄橙色	ヨコナデ、擬凹線	ヨコナデ、ヘラケズリ	B119
	35	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	淡橙色	ハケ・ナデ	ナデ	B091
	36	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	淡黄色	ハケ	ケズリ	B084
	37	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	外）浅黄橙色、内）橙色	ハケ・ナデ	ハケ	B130
	38	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	浅黄橙色	ハケ・ナデ	ナデ	B054
	39	北方溝Ⅱ	弥生土器	甑か	黄橙色	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	B117
	40	北方溝Ⅱ	弥生土器	壺	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ナデ・ケズリ	B106
	41	北方溝Ⅱ	弥生土器	壺	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	B132
	42	北方溝Ⅱ	弥生土器	壺	黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ナデ・ハケ	B128
第87図	43	北方溝Ⅱ	弥生土器	壺	橙色	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	B194
	44	北方溝Ⅱ	弥生土器	壺	黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ケズリ	B123
	45	北方溝Ⅱ	弥生土器	壺	淡橙色	ヨコナデ、ハケ・ナデ	ヨコナデ、ハケ・ナデ	B104
	46	北方溝Ⅱ	弥生土器	壺	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ・ナデ	B090
	47	北方溝Ⅱ	弥生土器	壺	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、指オサエ、ナデ	B101
	48	北方溝Ⅱ	弥生土器	壺	橙色	ヨコナデ、ヘラミガキ	ヨコナデ	B129
	49	北方溝Ⅱ	弥生土器	壺	浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	B060
第88図	50	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	黄橙色			B068
	51	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	浅黄橙色	ミガキ	ハケ・ナデ	B109
	52	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	黄橙色	ミガキ	ミガキ	B127
	53	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	明黄褐色	ミガキ		B124
	54	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	浅黄橙色	ミガキ・ハケ		B116
	55	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	黄橙色	ミガキ	ハケ・ナデ、ケズリ	B120
	56	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	浅黄橙色	ハケ・ミガキ	ナデ・ハケ	B073
	57	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	淡黄色	ミガキ、ヨコナデ	ナデ・ハケ	B069
第89図	58	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	褐灰色	ミガキ	ミガキ	B052
	59	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	浅黄橙色	ヨコナデ、ミガキ	ミガキ	B053
	60	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	浅黄橙色	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ、ケズリ	B102
	61	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	黄橙色	ミガキ	ミガキ	B093
	62	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	橙色	ミガキ、ハケ	ミガキ	B111
	63	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	浅黄橙色	ミガキ	ミガキ	B092
	64	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	淡黄色	ミガキ、ハケ	ミガキ、ナデ	B064
	65	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	黄橙色	ミガキ、ヨコナデ	ナデ・ハケ、ヨコナデ	B082
	66	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	浅黄橙色	ミガキ	ナデ・ハケ、ヨコナデ	B056
	67	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	黄橙色	ミガキ	ミガキ、ナデ・ハケ	B061
	68	北方溝Ⅱ	弥生土器	器台	浅黄橙色	ミガキ・ハケ、ヨコナデ	ヨコナデ、ハケ	B086
	69	北方溝Ⅱ	弥生土器	器台	浅黄橙色	ミガキ	ヨコナデ、ナデ	B077
第90図	70	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	浅黄橙色	ミガキ		B097
	71	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	浅黄橙色	ミガキ、ハケ	ミガキ	B057
	72	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	浅黄橙色	ミガキ、ナデ	ヨコナデ	B058
	73	北方溝Ⅱ	弥生土器	器台	橙色	ミガキ、擬凹線	ミガキ	B115
	74	北方溝Ⅱ	弥生土器	器台	浅黄橙色	ヨコナデ、擬凹線	ヨコナデ	B050
	75	北方溝Ⅱ	弥生土器	器台	浅黄色	ミガキ、擬凹線	ミガキ・ハケ、ケズリ	B071
	76	北方溝Ⅱ	弥生土器	器台	淡橙色	ミガキ	ミガキ	B099
	77	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	黄橙色	ミガキ	ナデ	B112
	78	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	浅黄橙色	ハケ、ヨコナデ	ナデ	B078
	79	北方溝Ⅱ	弥生土器	高坏	黄橙色	ミガキ、ヨコナデ	ハケ、ヨコナデ	B126

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	色調	調整		実測番号
						外面	内面	
	80	北方溝Ⅱ	弥生土器	器台	浅黄橙色	ハケ、ヨコナデ	ハケ、ナデ	B076
	81	北方溝Ⅱ	弥生土器	器台	浅黄橙色	ハケ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	B088
第91図	82	北方溝Ⅱ	弥生土器	甕	黄橙色	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ、ケズリ	B121
	83	北方溝Ⅱ	弥生土器	鉢	橙色	ヨコナデ、ハケ・キザミ	ヨコナデ、ナデ	B107
	84	北方溝Ⅱ	弥生土器	鉢	外）明褐灰色、内）浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	B135
	85	北方溝Ⅱ	弥生土器	鉢	浅黄橙色	ヨコナデ、擬凹線	ヨコナデ、ナデ	B192
	86	北方溝Ⅱ	弥生土器	鉢	浅黄橙色	ハケ	ヨコナデ、ハケ・ナデ	B081
	87	北方溝Ⅱ	弥生土器	鉢	黄橙色	ミガキ、ハケ	ヨコナデ、ナデ	B085
	88	北方溝Ⅱ	弥生土器	鉢	褐灰色	ミガキ・ハケ	ハケ・ナデ	B075
	89	北方溝Ⅱ	弥生土器	鉢	外）灰白色、内）黒褐色	ミガキ	ハケ・ナデ、ヨコナデ	B055
	90	北方溝Ⅱ	弥生土器	小壺	浅黄橙色	タタキ、ナデ	ナデ、指オサエ	B072
	91	北方溝Ⅱ	弥生土器	小壺	橙色	ケズリ、ハケ・ナデ	ナデ、指オサエ	B118
	92	北方溝Ⅱ	弥生土器	蓋	黒褐色	ナデ	ナデ・ケズリ	B074
第95図	1	第1号墳	須恵器	蓋	青灰色	ヘラケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	C009
	2	第1号墳	鉄器	鏃				M001
	3	第1号墳	鉄器	剣				M002
	4	第1号墳	鉄器	剣				M003
	5	第1号墳	鉄器	剣				M004
第98図	1	第2号墳	須恵器	壺	灰色	ヨコナデ、ナデ・波状文		C010
	2	第3号墳	須恵器	蓋	灰色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	C021
	3	第3号墳	須恵器	蓋	灰色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	C022
	4	第3号墳	須恵器	坏	灰色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ヘラケズリ	C020
	5	第3号墳	須恵器	壺	灰色	ヨコナデ、カキメ、タタキ	ヨコナデ、指オサエ	C019
第102図	1	第4号墳	鉄器	農具				M005
	2	第4号墳	鉄器	刀子				M006
	3	第4号墳	須恵器	甕	灰色	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、ナデ・当具痕	C024
第105図	1	第5号墳	須恵器	坏	灰色	ヨコナデ	ヨコナデ	C003
	2	第5号墳	須恵器	坏	灰色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	C002
	3	第5号墳	鉄器	鏃				M007
	4	第5号墳	鉄器	鏃				M008
	5	第5号墳	鉄器	剣				M009
	6	第5号墳	鉄器	剣				M010
第107図	1	地下式横穴	土師器	皿	浅黄橙色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、指頭圧痕	C008
	2	地下式横穴	土師器	皿	浅黄橙色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指頭圧痕	C007
	3	地下式横穴	土師器	皿	橙色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	C006
	4	地下式横穴	鉄製品	金具				M011
	5	地下式横穴	須恵器	坏	青灰色	ヨコナデ	ヨコナデ	C031
	6	地下式横穴	須恵器	坏	灰色	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラ切り	C004
	7	地下式横穴	須恵器	坏	灰色	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラ切り	C005
	8	地下式横穴	土師器	埦	橙色	ヨコナデ	ヨコナデ	C001
	9	地下式横穴	石器	石鏃				S006
	10	地下式横穴	石器	石匙				S005
	11	地下式横穴	石器	石錘				S003
第108図	12	包含層	石器	凹石				S011
	13	包含層	石器	磨製石斧				S004
	14	包含層	縄文土器	浅鉢	橙色	ナデ・沈線	ナデ	C030
	15	包含層	土師器	甕	外）浅黄橙色、内）橙色	糸切り痕	ヨコナデ	C026
	16	包含層	須恵器	坏	外）灰色、内）浅黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラ切り	C025
	17	包含層	須恵器	坏	灰白色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	C027
	18	包含層	須恵器	坏	灰色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	C028
	19	包含層	土師器	高坏	褐色	ヘラミガキ	ナデ	C023
	20	包含層	土師器	埦	橙色	ヨコナデ	ヘラミガキ	C029

第5表　北吉田ノノメ遺跡、オモクラヤチ遺跡出土遺物観察表

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	胎土	実測番号
第114図	1	SK01 第1層	須恵器	壺	1mm程の砂粒	189
	2	SK01 灰含粘土	須恵器	壺	1mm程の砂粒少	65
	3	SK01 第2層	須恵器	坏身	1mm程の砂粒多	66
	4	SK01 第1層、第2層	須恵器	坏身	1mm程の砂粒少、生焼	67
	5	SK01	須恵器	坏身	2～3mmの砂粒少	69
	6	SK01 第2層	土師器	甕	砂粒混入少	73
	7	SK01 第3層	土師器	椀	1mm程の砂粒少	74
	8	SK01 第1層	土師器	椀	砂粒少	72
	9	SK01	土師器	椀	2～3mmの砂粒石英、糸切り	415
	10	SK01	土師器	皿	砂粒混入少、糸切り	70
	11	SK01	土師器	鍋	1mm以下の砂粒少、海綿骨片	68
	12	SK02	製塩土器	尖底	2～3mmの砂粒、海綿骨片	416
	13	SK03	須恵器	坏身	1mm程の砂粒少	75
	14	SK03	須恵器	坏身	1mm以下の砂粒少	76
	15	SK03	須恵器	坏蓋	1mm程の砂粒少	77
第115図	1	SK03	土師器	甕	1mm以下の砂粒少、海綿骨片	78
	2	SK04	須恵器	坏蓋	微砂粒	85
	3	SK04	須恵器	坏身	微砂粒、石英	86
	4	SK04	須恵器	坏身	微砂粒多、底部墨痕	84
	5	SK04	土師器	ロクロ甕	2mm以下の砂粒を多	81
	6	SK04	須恵器	坏身	1mm程の砂粒少	80
	7	SK04	須恵器	椀	1mm程の砂粒多	79
	8	SK04	土師器	皿	微砂粒や海綿骨針	83
	9	SK04	土師器	皿	微砂粒を多	104
	10	SK04	土師器	甕	微砂粒、海綿骨片	82
	11	SK05	土師器	皿	微砂粒、海綿骨針	91
	12	SK05	土師器	甕	3mm程の砂粒、海綿骨針	87
	13	SK05	土師器	高台椀	微砂粒多	89
	14	SK05	土師器	高台椀	やや粗、1mm程の石英	90
	15	SK05	土師器	皿	微砂粒、1mm程の石英	88
	16	SK07 上層	土師器	皿	石英	101
	17	SK07 上層	土師器	皿	微砂粒、石英、シャーモット	103
	18	SK07 上層	珠洲	甕	0.5mm以下の砂粒	102
	19	SK08 第8層	土師器	皿	微砂粒、石英	97
	20	SE01	土師器	皿	微砂粒、海綿骨針	112
	21	SE01	土師器	皿	気泡、微砂粒を多	113
	22	SK08	須恵器	皿	微砂粒、海綿骨針、回転糸切り	96
	23	SK09	須恵器	坏身	微砂粒、海綿骨針	98
	24	SK09	須恵器	壺	1mm程の砂粒、石英	106
	25	SE02 第2層	土師器	甕	1mm程の砂粒	114
第116図	1	包含層	須恵器	双耳瓶	微砂粒、1mm程の砂粒	188
	2	SK09	須恵器	長頸壺	微砂粒、2mm程の砂粒、石英	105
	3	SE02	須恵器	坏身	微砂粒	117
	4	SE02	須恵器	坏身	白色の砂粒	116
	5	SK09	土師器	椀	微砂粒、2mm程の砂粒、糸切り	108
	6	SK09	土師器	高台坏	砂粒、シャーモット	109
	7	SE02	土師器	皿	0.5mm程の砂粒、生焼け	115
	8	SK09	土師器	皿	微砂粒多	107
	9	SK09	土師器	皿	シャーモット	99
	10	SD03	須恵器	坏身	白色の砂粒、生焼け	110
	11	SD02	須恵器	坏身	白色の微砂粒、海綿骨針	111
	12	Pit69	土師器	脚台	2mm程の砂粒、海綿骨片	92
	13	Pit93	須恵器	坏蓋	やや粗い。微砂粒	143
	14	Pit27	須恵器	坏蓋	やや緻密。2mm程の砂粒	144
	15	Pit69	土師器	壺	1mm程の砂粒、海綿骨針	140
	16	Pit111	須恵器	高台坏	1～2.5mmの砂粒	95
	17	Pit89	須恵器	坏身	4mm程の石英	133
	18	Pit112	須恵器	坏身	0.3mmの石英を多	136
	19	Pit67 上面	須恵器	高台坏	2mm程の石英砂粒	138
	20	Pit89	須恵器	坏身	石英を多	135
	21	Pit50	須恵器	坏身	やや緻密。2mm程の砂粒	137
	22	Pit60	土師器	ロクロ甕	微砂粒、海綿骨針	141
	23	Pit63	土師器	ロクロ甕	微砂粒、海綿骨針	94
第117図	1	Pit60	土師器	ロクロ甕	砂粒、海綿骨針	129
	2	Pit60	土師器	ロクロ甕	2～3mmの砂粒	417
	3	Pit89	土師器	椀	2mm程の砂粒	142

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	胎土	実測番号
	4	Pit01	土師器	内黒高台椀	微砂粒	139
	5	Pit60	土師器	底部	砂粒、石英、海綿骨針	134
	6	Pit87	土師器	椀	石英、シャーモット	93
第118図	1	土器群A	須恵器	壺	微砂粒	45
	2	土器群A	須恵器	坏蓋	微砂粒、2mmの砂粒	36
	3	土器群A	須恵器	坏蓋	微砂粒、4mmの礫	39
	4	土器群A P14	須恵器	壺	1～3mmの砂粒	34
	5	土器群A	須恵器	坏身	微砂粒、砂粒、海綿骨針	40
	6	土器群A P9	須恵器	坏蓋	1mm程の砂粒	38
	7	土器群A P13	須恵器	坏身	1mm程の砂粒	41
	8	土器群A P2	須恵器	坏身	1mm程の砂粒	42
	9	土器群A P7	須恵器	坏身	1mm程の砂粒、海綿骨針、生焼け、底面ヘラ記号	35
	10	土器群A P11	須恵器	坏身	1mm程の砂粒、海綿骨針	32
	11	土器群A P12	須恵器	坏身	微砂粒	43
	12	土器群A P4	須恵器	坏身	1mm程の砂粒多	37
	13	土器群A P15	須恵器	坏身	0.5～2mmの砂粒	33
	14	土器群A P1 中央土器群	土師器	甕	1mm程の砂粒、微砂粒	44
	15	土器群A	須恵器	壺	1mm程の砂粒	55
	16	中央南土器群	須恵器	短頸壺	1mm程の砂粒	50
	17	中央南土器群	須恵器	長頸壺	微砂粒	52
	18	土器群A P8 中央南土器群	土師器	ロクロ甕	1mm程の砂粒	56
	19		須恵器	壺	1mm程の砂粒	384
第119図	1	中央南土器群	須恵器	双耳瓶	1mm程の砂粒、微砂粒	54
	2	中央南土器群	須恵器	坏蓋	1mm程の砂粒	61
	3	中央南土器群	須恵器	坏蓋	1mm程の砂粒	48
	4	中央南土器群	須恵器	坏蓋	微砂粒、4mm礫1個	60
	5	中央南土器群	須恵器	双耳瓶	微砂粒を多	51
	6	中央南土器群	須恵器	坏身	微砂粒、海綿骨針	53
	7	中央南土器群	須恵器	坏身	0.5～3mmの砂粒	63
	8	中央南土器群	須恵器	坏身	微砂粒、1mm程の砂粒	62
	9	中央南土器群	須恵器	坏身	1mm程の砂粒多	49
	10	土器群B 包含層	土師器	鍋	1mm程の砂粒、把手	431
	11	中央南土器群	土師器	ロクロ甕	1mm程の砂粒、海綿骨針	47
第120図	1	中央南土器群	土師器	ロクロ甕	微砂粒	58
	2	中央南土器群	土師器	甕	微砂粒、1mmの砂粒、4mm程の礫	46
	3	中央南土器群	土師器	椀	微砂粒少、回転糸切り	59
	4	中央南土器群	土師器	椀	微砂粒、回転糸切り	57
	5	土器群A P6 遺構面直上	土師器	深鉢	2～3mmの砂粒	432
第121図	1	焼土3　東の灰層	須恵器	壺	微砂粒	121
	2	焼土3　東の灰層	須恵器	坏蓋	白色の砂粒	122
	3	焼土2	須恵器	坏身	1mm程の白色の砂粒、生焼け	127
	4	焼土4	須恵器	坏身	微砂粒、海綿骨針、生焼け	120
	5	焼土1	須恵器	坏身	気泡、白色の砂粒	123
	6	焼土3	土師器	甕	1mm程の砂粒、海綿骨針	125
	7	焼土3　灰層	土師器	甕	1mm程の砂粒、海綿骨針	128
	8	焼土3、4間　灰混土層	土師器	甕	砂粒、焼土塊、海綿骨針、被熱	119
	9	焼土3　東の灰層	土師器	鉢	2～3mmの砂粒	418
	10	焼土3	土師器	支脚	1mm程の砂粒	124
第122図	1	包含層	須恵器	坏蓋	白色の微砂粒	227
	2	包含層	須恵器	坏蓋	砂粒、海綿骨針	247
	3	包含層	須恵器	坏蓋	白色の砂粒	240
	4	包含層　上面	須恵器	坏蓋	砂粒、石英	210
	5	包含層　上面	須恵器	坏蓋	2mmの砂粒	200
	6	包含層　上面	須恵器	坏蓋	2～3mmの砂粒	260
	7	包含層　上面	須恵器	坏蓋	微砂粒、石英	203
	8	包含層　上面	須恵器	坏蓋	微砂粒	258
	9	包含層	須恵器	坏蓋	堅緻、微砂粒	267
	10	包含層	須恵器	坏蓋	粗砂粒、石英	275
	11	包含層　上面	須恵器	坏蓋	2mm程の砂粒	263
	12	包含層　上面	須恵器	坏蓋	5mm程の砂粒	196
	13	包含層　上面	須恵器	坏蓋	2mm程の砂粒	204
	14	包含層　上面	須恵器	坏蓋	5mm程の砂粒、石英	259
	15	包含層	須恵器	坏蓋	白色の微砂粒	228
	16	包含層	須恵器	坏蓋	砂粒、海綿骨針	241
	17	包含層	須恵器	坏蓋		
	18	包含層	須恵器	坏蓋	3mm程の砂粒、石英	264
	19	包含層　上面	須恵器	高台坏	2mm程の砂粒	199

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	胎土	実測番号
	20	包含層　上面	須恵器	高台坏	砂粒	198
	21	包含層	須恵器	高台坏	白色の微砂粒、3mm程砂粒	272
	22	包含層　上面	須恵器	高台坏	微砂粒、石英	257
	23	包含層	須恵器	高台坏	白色の砂粒	234
	24	包含層	須恵器	高台坏	白色の砂粒	244
	25	包含層	須恵器	高台坏	3mm程の粗砂粒、微砂粒	212
	26	包含層	須恵器	高台坏	砂粒	221
	27	包含層	須恵器	高台坏	2mmまでの砂粒	192
	28	包含層	須恵器	高台坏	砂粒	277
	29	包含層　遺構面直上	須恵器	高台坏	白色の砂粒	205
	30	包含層　上面	須恵器	高台坏	砂粒	194
	31	包含層	須恵器	高台坏	微砂粒	276
第123図	1	包含層	須恵器	高台坏	堅緻。砂粒	242
	2	包含層	須恵器	高台坏		251
	3	包含層	須恵器	坏蓋	砂粒多、環状鈕	300
	4	包含層	須恵器	高台坏	白色の砂粒、海綿骨針	225
	5	包含層	須恵器	高台坏	砂粒	249
	6	包含層	須恵器	高台坏	砂粒	252
	7	包含層	須恵器	高台坏	砂粒、石英	250
	8	包含層	須恵器	高台坏	砂粒	214
	9	包含層　上面	須恵器	坏身	3mmの砂粒	202
	10	遺構	須恵器	坏身	微砂粒	262
	11	包含層　上面	須恵器	坏身	石英	201
	12	包含層	須恵器	高台坏	白色の微砂粒	237
	13	包含層	須恵器	坏身	微砂粒	224
	14	包含層	須恵器	坏	砂粒	100
	15	包含層	須恵器	坏身	2～3mmの石英	426
	16	包含層	須恵器	坏身	砂粒	231
	17	包含層	須恵器	坏身	砂粒	222
	18	包含層　遺構面直上	須恵器	坏身	砂粒、気泡	207
	19	包含層　遺構面直上	須恵器	坏身	微砂粒、石英、粗砂粒	208
	20	包含層	須恵器	坏身	砂粒	213
	21	包含層	須恵器	坏身	白色の砂粒、灯明痕	256
	22	包含層　上面	須恵器	坏身	微砂粒、海綿骨針	265
	23	包含層　遺構面直上	須恵器	坏身	微砂粒	261
	24	包含層	須恵器	坏身	砂粒、白色の粗砂粒	236
	25	包含層	須恵器	坏身	微砂粒	278
	26	包含層	須恵器	坏身	白色の砂粒	235
	27	包含層	須恵器	坏身	2～6mm粗砂粒、石英	268
	28	包含層　上面	須恵器	坏身	砂粒	209
	29	包含層　上面	須恵器	壺	5mmまでの砂粒	219
	30	包含層	須恵器	坏身	2～3mm砂粒、石英	420
	31	包含層	須恵器	坏身	白色の砂粒、海綿骨針	280
	32	包含層	須恵器	坏身	微砂粒、海綿骨針	281
	33	包含層	須恵器	盤	砂粒	248
	34	包含層	須恵器	盤	微砂粒	279
	35	包含層	須恵器	盤	石英、砂粒	226
	36	包含層	須恵器	盤	微砂粒、海綿骨針	206
第124図	1	包含層	須恵器	鉢	2～3mmの石英	419
	2	包含層	須恵器	鉢	白色の砂粒、海綿骨針	274
	3	包含層	須恵器	鉢	白色の砂粒	273
	4	包含層	須恵器	壺	白色の砂粒	246
	5	包含層	須恵器	甕	堅緻。白色の砂粒	270
	6	包含層	須恵器	壷	砂粒	197
	7	包含層　上面	須恵器	壺	微砂粒、2～3mmの石英	425
	8	包含層　上面	須恵器	壺	砂粒、気泡	195
	9	包含層	須恵器	壺	微砂粒	216
	10	包含層	須恵器	壺	2～3mmの砂粒	423
	11	包含層	須恵器	壺	砂粒	233
	12	遺構面直上(灰混土)	須恵器	壺	微砂粒	266
	13	包含層	須恵器	壺	白色の粗砂粒	211
	14	包含層	須恵器	壺	堅緻。白色微砂粒、5mm砂	217
第125図	1	包含層	須恵器	壺	白色の微砂粒、粗砂粒	220
	2	包含層	須恵器	壺	黒色の砂粒	229
	3	包含層上面　側溝	須恵器	壺	砂粒	383
	4	包含層	須恵器	壷	砂粒多	193
	5	包含層	須恵器	壺	2mm程の砂粒	424
	6	包含層	須恵器	壺	堅緻。白色の砂粒	243

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	胎土	実測番号
	7	包含層	須恵器	壺	白色の砂粒	255
	8	包含層	須恵器	壷	白色の砂粒	218
	9	包含層	須恵器	双耳瓶	微砂粒	232
第126図	1	包含層	須恵器	甕	黒色の微砂粒	230
	2	包含層	須恵器	甕	白色の砂粒	245
	3	包含層	須恵器	壷	白色の砂粒	238
	4	包含層	須恵器	甕	白色の微砂粒、2～9mm砂	239
	5	包含層	須恵器	甕	砂粒	422
	6	包含層	須恵器	甕	白色の微砂粒	253
	7	包含層	須恵器	甕	微砂粒多	421
	8	包含層	須恵器	甕	砂粒、粗砂粒	269
第127図	1	包含層	土師器	埦	砂粒	330
	2	包含層	土師器	椀	砂粒、海綿骨針	309
	3	包含層	土師器	椀	微砂粒、海綿骨針	320
	4	包含層	土師器	椀	微砂粒	302
	5	包含層	土師器	皿	微砂粒、海綿骨針	369
	6	包含層　上面	土師器	椀	微砂粒、海綿骨針	299
	7	包含層	土師器	椀	砂粒	12
	8	包含層　上面	土師器	椀	砂粒	328
	9	包含層　上面	土師器	椀	砂粒	339
	10	包含層	土師器	椀	砂粒、海綿骨片	382
	11	包含層	土師器	高台椀	微砂粒、海綿骨針	370
	12	包含層	土師器	高台椀	砂粒	308
	13	包含層　上面	土師器	高台椀	砂粒	331
	14	包含層	土師器	高台椀	微砂粒	322
	15	包含層	土師器	高台椀	2mm程の砂粒	321
	16	包含層	土師器	椀	微砂粒、海綿骨針	372
	17	包含層	土師器	甕	微砂粒	327
	18	包含層　上面	土師器	椀	砂粒	373
	19	包含層　上面	土師器	椀	砂粒	374
	20	包含層	土師器	高台椀	微砂粒	326
	21	包含層	土師器	高台椀	2mm程の砂粒	357
	22	包含層	土師器	高台坏	微砂粒	304
	23	包含層　上面	土師器	高台坏	砂粒、海綿骨針	338
	24	包含層　上面	土師器	高台坏	2～3mmの砂粒	409
	25	包含層	土師器	高台椀	2～3mmの砂粒、海綿骨針	371
	26	包含層	土師器	高台椀	微砂粒、海綿骨針	317
	27	包含層	土師器	高台椀	砂粒	359
	28	包含層　上面	土師器	高台椀	砂粒	410
	29	包含層	土師器	高台椀	2mm程の砂粒、石英	412
	30	包含層	土師器	高台椀	砂粒	287
	31	包含層	土師器	椀	砂粒、海綿骨針	344
	32	包含層	土師器	椀	2mmまでの砂粒	366
	33	包含層	土師器	椀	微砂粒、海綿骨針	406
第128図	1	包含層	土師器	甕	微砂粒、砂粒	353
	2	包含層	土師器	甕	粗砂粒、20mmの砂粒	354
	3	包含層	土師器	甕	微砂粒、砂粒	347
	4	包含層	土師器	甕	砂粒	348
	5	包含層	土師器	甕	砂粒、海綿骨針	254
	6	包含層	土師器	甕	微砂粒	319
	7	包含層	土師器	甕	砂粒	368
	8	包含層	土師器	甕	微砂粒、海綿骨針	364
	9	包含層	土師器	甕	砂粒を少	375
	10	包含層	土師器	甕	砂粒	367
	11	包含層	土師器	甕	微砂粒、砂粒	333
	12	包含層	土師器	甕	微砂粒、砂粒	305
	13	包含層	土師器	甕	砂粒、海綿骨針	307
	14	包含層	土師器	甕	微砂粒多	349
	15	遺構面直上	土師器	甕	砂粒	313
第129図	1	包含層	土師器	鍋	2～3mmの砂粒、細礫	358
	2	包含層	土師器	甕	砂粒	286
	3	包含層	土師器	甕	微砂粒、砂粒	361
	4	包含層　上面	土師器	甕	微砂粒、砂粒、海綿骨針	341
	5	包含層	土師器	甕	微砂粒	414
	6	包含層	土師器	甕	海綿骨針	408
	7	包含層　上面	土師器	甕	微砂粒	378
	8	包含層	土師器	甕	砂粒、海綿骨針	360
	9	包含層	土師器	甕	微砂粒	381

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	胎土	実測番号
	10	包含層	土師器	甕	微砂粒	413
	11	遺構面直上	土師器	甕	2mm程の砂粒、海綿骨針	291
	12	包含層	土師器	甕	砂粒、シャモット、海綿骨針	362
第130図	1	包含層	土師器	甕	砂粒	350
	2	包含層	土師器	椀	砂粒、海綿骨針	285
	3	包含層	土師器	鉢	微砂粒、砂粒、海綿骨針	334
	4	包含層	土師器	椀	砂粒	316
	5	包含層	土師器	椀	微砂粒、砂粒	363
	6	包含層	土師器	鉢	微砂粒、海綿骨針	318
	7	包含層	土師器	鉢		351
	8	包含層	土師器	把手	砂粒	310
	9	包含層	土師器	把手	砂粒少	356
	10	包含層	土師器	把手	砂粒を多	352
	11	包含層	土師器	把手	砂粒を少	355
	12	包含層	土師器	高坏	微砂粒、海綿骨針	303
	13	包含層	土師器	支脚	微砂粒	301
第131図	1	包含層	土師器	Ⅲ	微砂粒	335
	2	包含層 上面	土師器	Ⅲ	微砂粒、海綿骨針	332
	3	包含層 上面	土師器	Ⅲ	砂粒	294
	4	包含層 上面	土師器	Ⅲ	微砂粒、海綿骨針	296
	5	包含層 上面	土師器	Ⅲ	微砂粒、海綿骨針	342
	6	包含層	土師器	Ⅲ	砂粒	377
	7	包含層	土師器	Ⅲ	微砂粒	292
	8	包含層 上面	土師器	Ⅲ	砂粒	293
	9	包含層 上面	土師器	Ⅲ	1mm程度の砂粒	295
	10	包含層 上面	土師器	Ⅲ	微砂粒、海綿骨針	298
	11	遺構面直上	土師器	Ⅲ	微砂粒	314
	12	包含層	土師器	Ⅲ	砂粒、海綿骨針	343
	13	包含層 上面	土師器	Ⅲ	微砂粒、海綿骨針	380
	14	包含層	土師器	Ⅲ	微砂粒	306
	15	包含層	土師器	Ⅲ	微砂粒	365
	16	包含層 上面	土師器	Ⅲ	砂粒	329
	17	包含層	須恵器	坏身	微砂粒	407
	18	包含層	須恵器	壷	気泡、微砂粒	215
	19	包含層	土師器	鍋	砂粒、海綿骨針	311
	20	包含層	土師器	甕	微砂粒、海綿骨針	325
	21	遺構面直上	縄文土器	底部	砂粒	315
	22	包含層	弥生土器	壺	微砂粒、砂粒	345
	23	包含層	土師器	小型丸底壺	微砂粒、海綿骨針	297
	24	包含層	弥生土器	甕	砂粒、海綿骨針	323
	25	包含層 上面	縄文土器	椀	砂粒	340
	26	包含層	弥生土器	甕	2～3mmの石英、砂粒	405
	27	包含層 上面	弥生土器	壺	2～3mmの砂粒	411
第132図	1	第２調査区 包含層	須恵器	壺	微砂粒	151
	2	第２調査区 包含層	須恵器	坏蓋	微砂粒、2mm程の砂粒	152
	3	第２調査区 Pit205	須恵器	坏蓋	微砂粒	153
	4	第２調査区 Pit208	須恵器	高台坏	2mmまでの砂粒	149
	5	第２調査区 Pit208	須恵器	坏身	微砂粒	148
	6	第２調査区 表土～包含層	土師器	甕	微砂粒、2mmの砂粒	150
	7	第２調査区 Pit211	土師器	椀	微砂粒、焼土塊	146
	8	第２調査区 Pit211	土師器	Ⅲ	砂粒、海綿骨針	145
	9	包含層	土師器	甕	砂粒、海綿骨針	159
	10	包含層	土師器	甕	砂粒、海綿骨針	336
	11	土器群Ａ 製塩土器群	製塩土器	平底	砂粒	154
	12	SK01	製塩土器	平底		71
	13	包含層	製塩土器	口縁	砂粒、海綿骨針	346
	14	包含層 上面	製塩土器	口縁	2mm程の砂粒	402
	15	遺構面直上	製塩土器	口縁	2mm程の砂粒	392
	16	包含層 上面	製塩土器	口縁	1～3mm程の砂粒	401
	17	包含層	製塩土器	尖底	2mm程の砂粒	395
第133図	1	包含層	製塩土器	平底	砂粒、海綿骨針	337
	2	包含層	製塩土器	平底	砂粒	376
	3	包含層	製塩土器	平底	砂粒少量、海綿骨片	386
	4	包含層	製塩土器	平底	1mm程の砂粒	162
	5	包含層	製塩土器	平底	1～3mm程の砂粒	385
	6	包含層	製塩土器	平底	2mm程の砂粒	389
	7	包含層	製塩土器	平底	砂粒多	388
	8	遺構面直上	製塩土器	尖底	2mm程の砂粒、海綿骨片	165

挿図番号	報告番号	出土場所	種別	器種	胎土	実測番号
	9	包含層	製塩土器	尖底	砂粒、海綿骨針	160
	10	包含層	製塩土器	尖底	砂粒、海綿骨針	156
	11	包含層	製塩土器	尖底	砂粒、海綿骨針	393
	12	包含層	製塩土器	尖底	海綿骨針	404
	13	包含層	製塩土器	尖底	2mm程の砂粒、海綿骨針	400
	14	遺構面直上	製塩土器	尖底	砂粒、海綿骨針	163
	15	包含層 上面	製塩土器	尖底	砂粒、海綿骨針	387
	16	包含層	製塩土器	尖底	粘土質で砂粒、海綿骨針	394
	17	包含層	製塩土器	尖底	砂粒、海綿骨針	391
	18	包含層	製塩土器	尖底	砂粒	284
	19	包含層	製塩土器	尖底	1mm程の砂粒	390
	20	包含層	製塩土器	尖底	2mm砂粒、焼土塊、海綿骨針	282
	21	包含層	製塩土器	尖底	砂粒	283
	22	包含層	製塩土器	尖底	砂粒多	158
第134図	1	包含層 上面	製塩土器	口縁	砂粒、海綿骨針	161
	2	包含層	製塩土器	口縁	砂粒、海綿骨片	155
	3	包含層	土師器	支脚	砂粒、海綿骨針	398
	4	包含層	土師器	支脚	砂粒、海綿骨片	399
	5	包含層	土師器	支脚	砂粒	397
	6	第2調査区、包含層	土師器	支脚	砂粒	164
	7	包含層	土師器	支脚	3mmまでの粗砂粒	396
	8	遺構面直上	土師器	支脚	砂粒多、海綿骨片	157
	9	包含層	土師器	支脚	砂粒	290
	10	包含層	土師器	支脚	砂粒、海綿骨針	403
	11	焼土3区　灰層	製塩土器			126
	12	第3調査区 第5層	土偶？		砂粒多、海綿骨針	147
	13	包含層	鋳型		砂粒、海綿骨針	190
	14	包含層	鞴羽口		白色の砂粒	191
第135図	1	包含層	青磁	碗	龍泉窯	171
	2	包含層	青磁	碗	龍泉窯	173
	3	包含層	青磁	碗		167
	4	包含層	青磁	碗		168
	5	包含層	青磁	碗		170
	6	包含層	青磁	皿		169
	7	包含層	青磁	皿		172
	8	包含層	珠洲	甕		180・179
第136図	1	包含層	珠洲	鉢		429
	2	包含層	珠洲	鉢		186
	3	包含層	珠洲	鉢		428
	4	包含層	珠洲	鉢		184
	5	包含層	珠洲	鉢		427
	6	包含層	珠洲	片口鉢		178
	7	包含層	越前	鉢		174
	8	包含層	珠洲	片口鉢		187
	10	包含層	珠洲	鉢		430
	11	包含層	加賀	甕		166
第140図	1	オモクラヤチ、側溝	須恵器	坏身		27
	2	オモクラヤチ、2トレ	須恵器	坏身	口縁部	24
	3	オモクラヤチ、2トレ	須恵器	坏蓋	口縁部	26
	4	オモクラヤチ、2トレ旧耕土	土師器	甕		25
	5	オモクラヤチ、2トレ旧耕土	土師器	甕		28
	6	オモクラヤチ、2トレ旧耕土	土師器	甕		29

北吉田遺跡群と周辺地域

図版第2　清水今江ニシャグチ遺跡

(1) 遺跡遠景（南から）

(2) 遺跡近景（北から）

図版第3　清水今江ニシャグチ遺跡

(1) 上層遺構全景（南東から）

(2) 第1号～第4号溝（南東から）

図版第4　清水今江ニシャグチ遺跡

(1) 中層遺構全景（東から）

(2) 掘立柱建物群（東から）

(1) 第1号土坑（東から）

(2) 第1号土器埋納穴（北から）

(1) 第2号土器埋納穴（東から）

(2) 第3号土器埋納穴（南から）

垂直写真 1（全景）

垂直写真2（北半部）

垂直写真3（南半部）

図版第10　北吉田フルワ遺跡

(1) 第1号・第2号竪穴住居（東から）

(2) 第6号竪穴住居（西から）

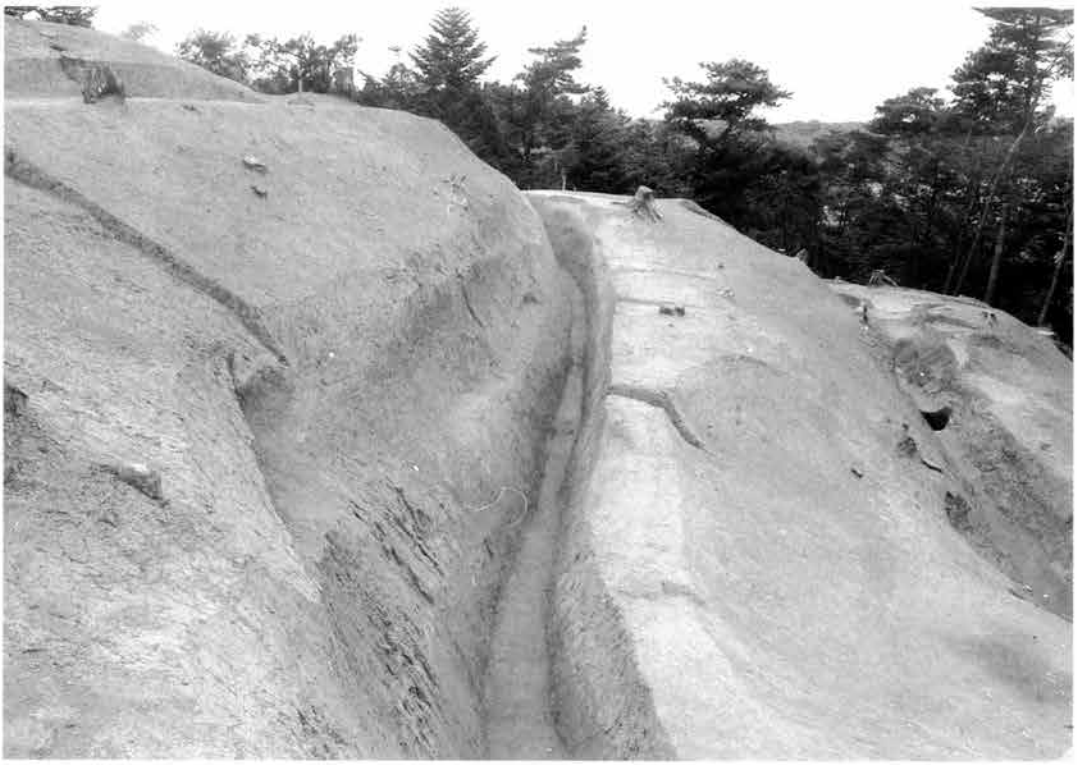
図版第11　北吉田フルワ遺跡

(1) 第 7 号竪穴住居（南から）

(2) 第 10 号竪穴住居（南から）

(1) 第 12 号竪穴住居（東から）

(2) 第 7 号竪穴住居調査風景

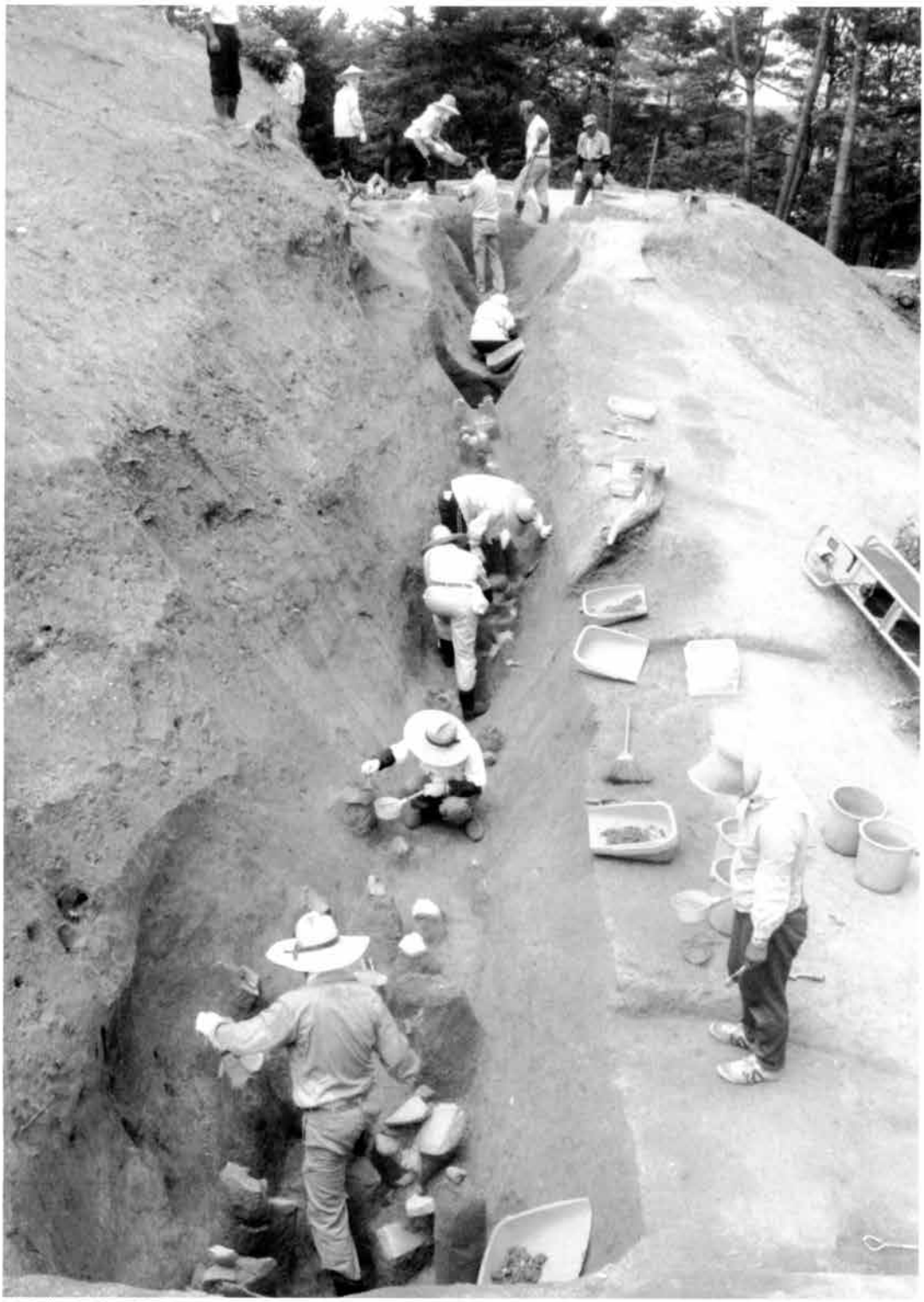


(1) 北方溝Ⅰ東半部（東から）

(2) 北方溝Ⅰ西半部（東から）

(1) 北方溝Ⅱ東半部（東から）

(2) 北方溝Ⅱ西半部（北東から）



北方溝Ⅱ調査風景（東から）

図版第16　北吉田フルワ遺跡

(1) 南方溝（西から）

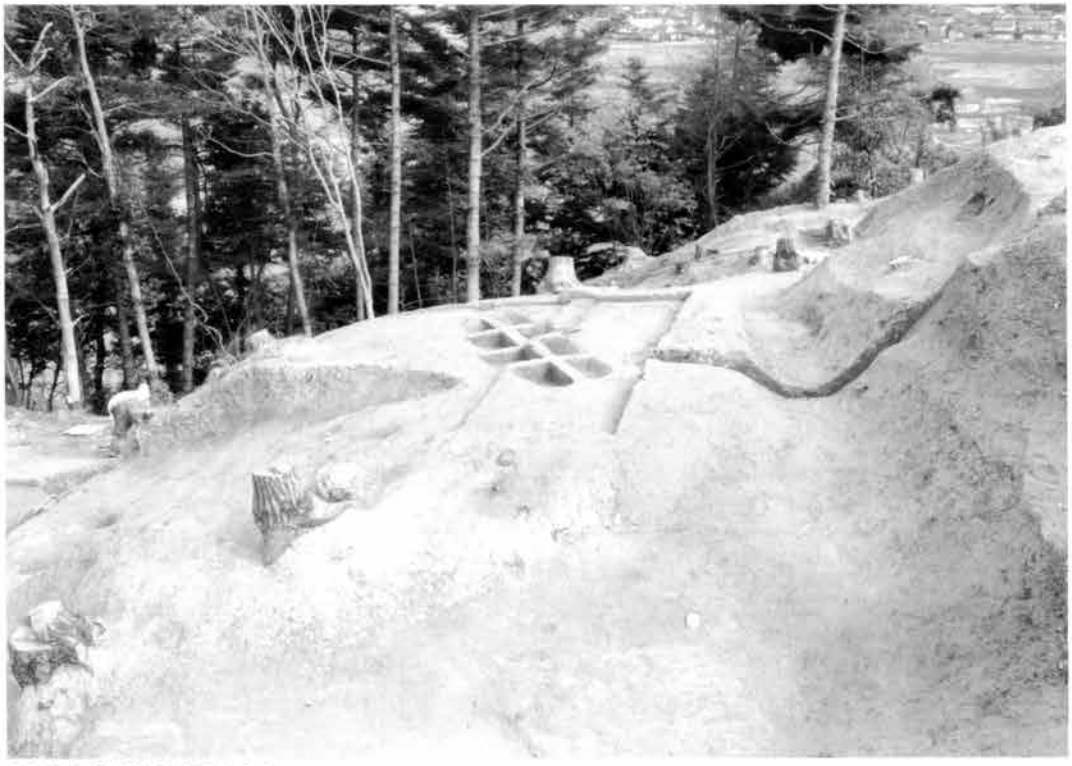
(2) 南方溝（東から）

図版第17　北吉田フルワ古墳群

(1) 第１号墳全景（東から）

(2) 第１号墳埋葬施設（南から）

図版第18　北吉田フルワ古墳群



(1) 第2号墳全景（西から）

(2) 第3号墳埋葬施設（南から）

(1) 第４号墳（西から）

(2) 第４号墳埋葬施設（南から）

(1) 第5号墳（西から）

(2) 第5号墳埋葬施設 鉄器出土状況（西から）

図版第21　北吉田　フルワ古墳群

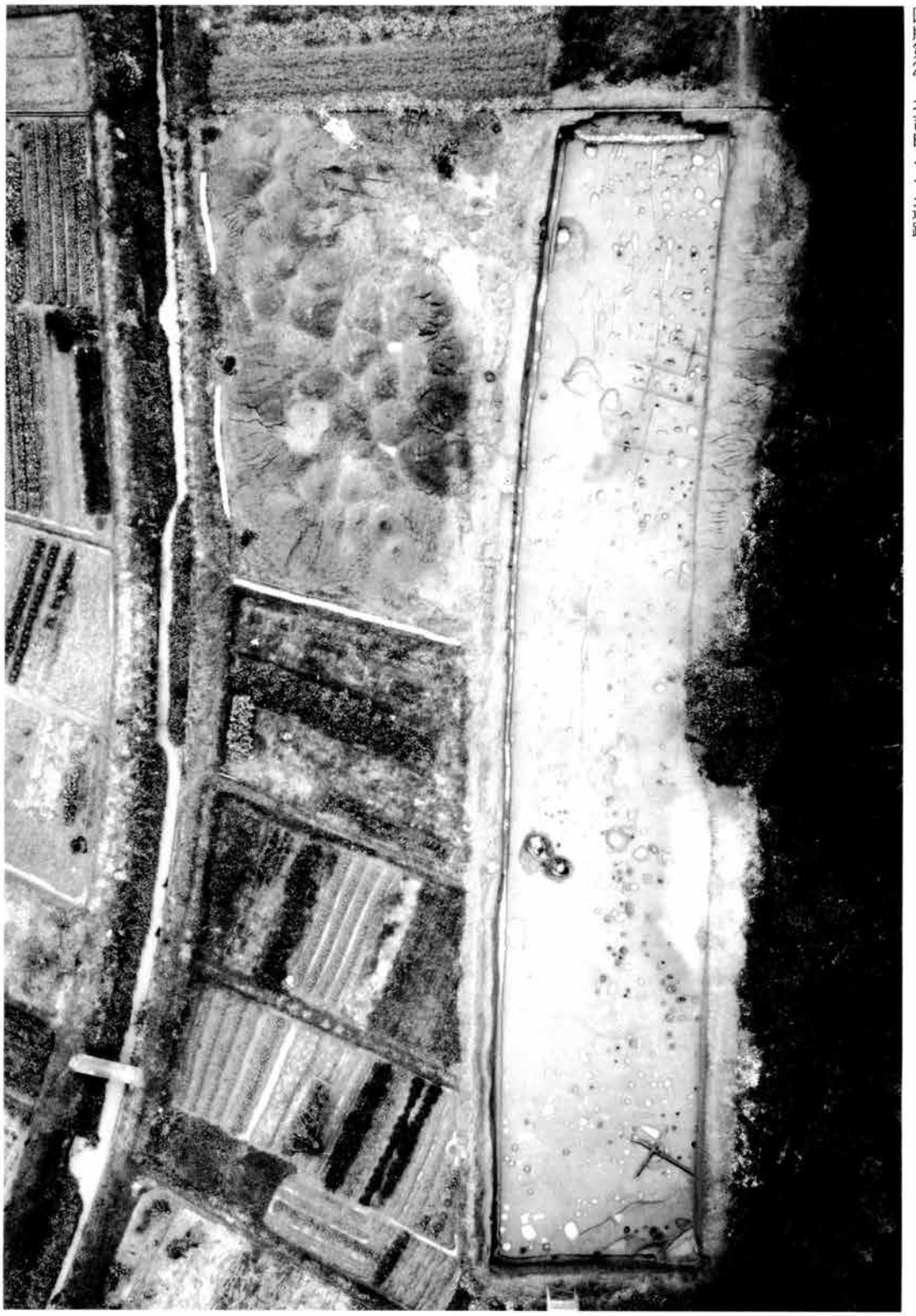
(1) 地下式横穴（南から）

(2) 地下式横穴出入口（北から）

(1) 調査区全景（南から）

(2) 調査区全景（北から）

図版第23　北吉田ノノメ遺跡



航空写真

(1) 調査区北側 SE01・02

(2) 焼土群と掘立柱建物

(1) 焼土１～４と上屋の柱穴

(2) 焼土１～４と井戸

(1) SE01・02 周辺

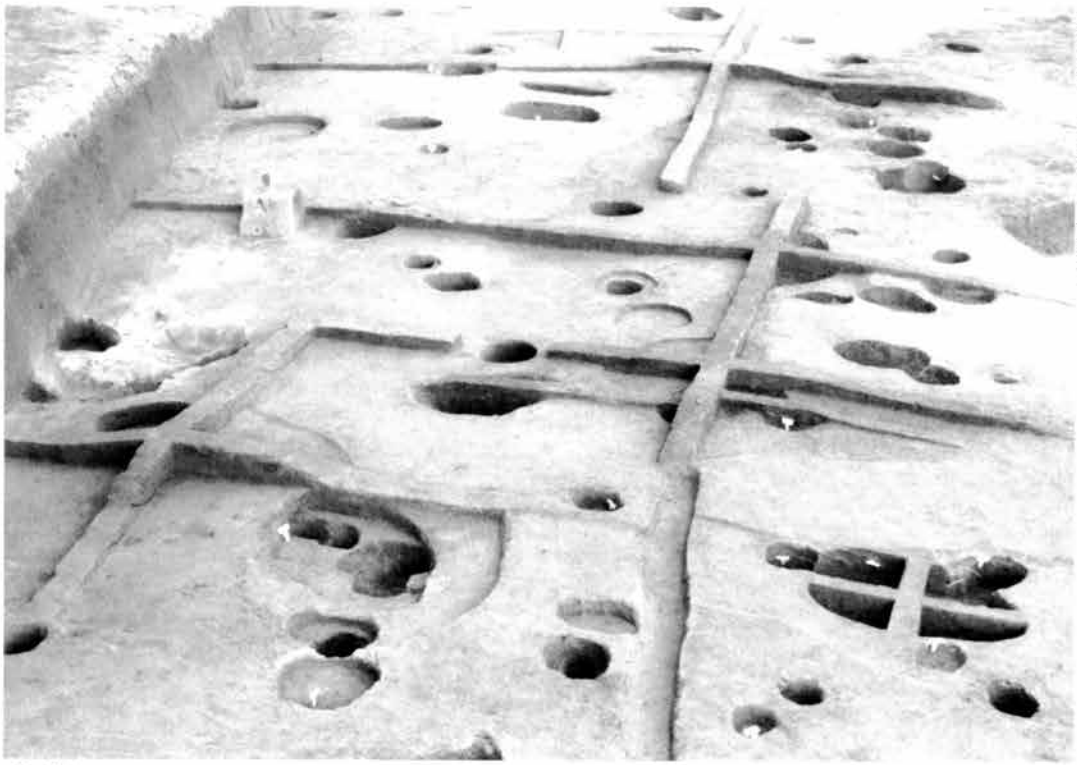
(2) 南側拡張部分

(1)SE01・02 断ち割り状況

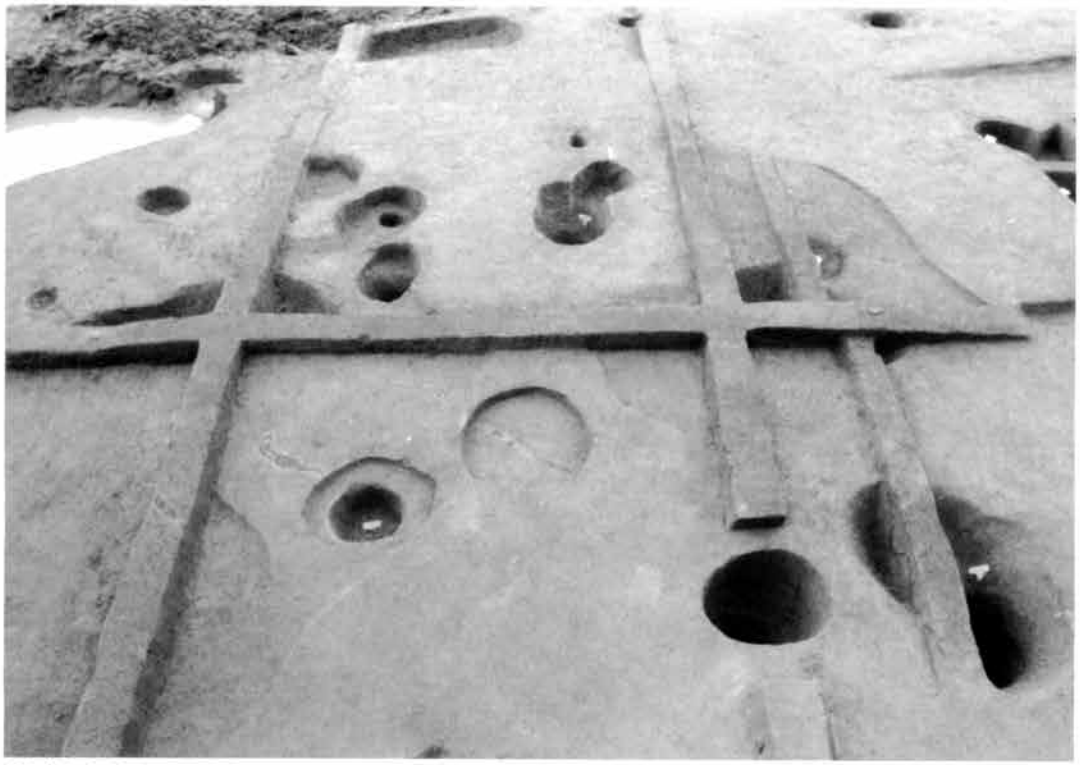
(2)SE01(左)・02(右)断ち割り状況

(1) SE01 細部

(2) SE01 細部

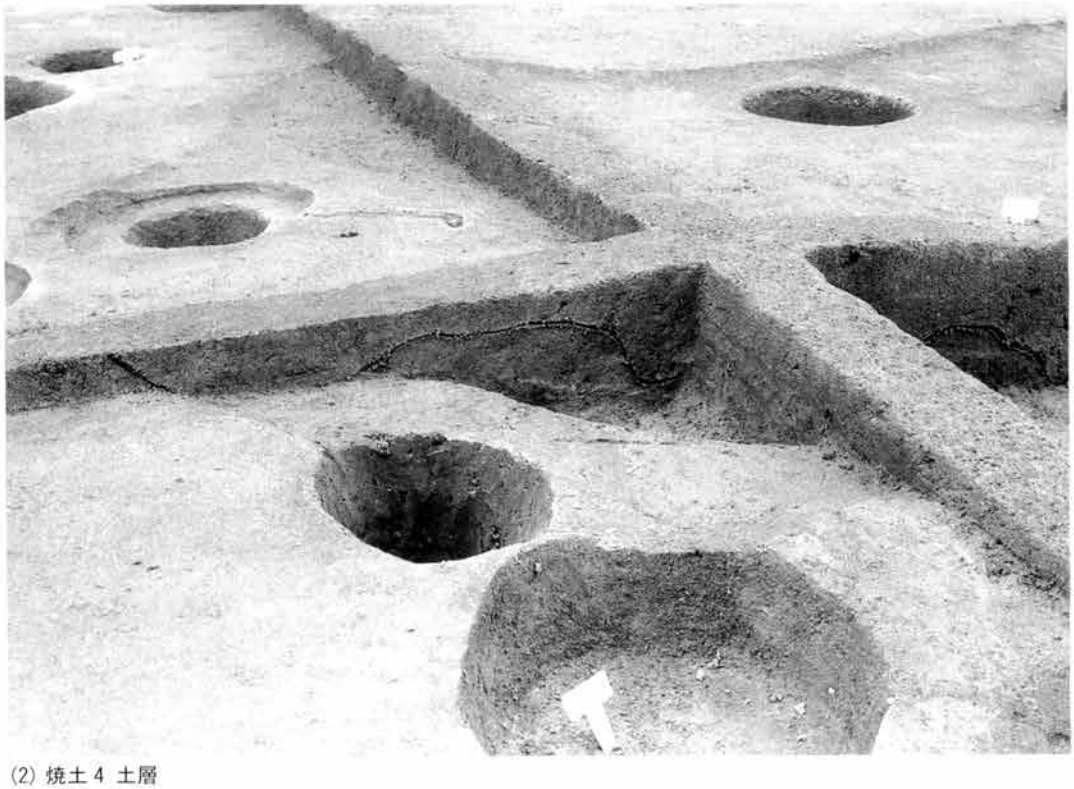


(1) 焼土1～4

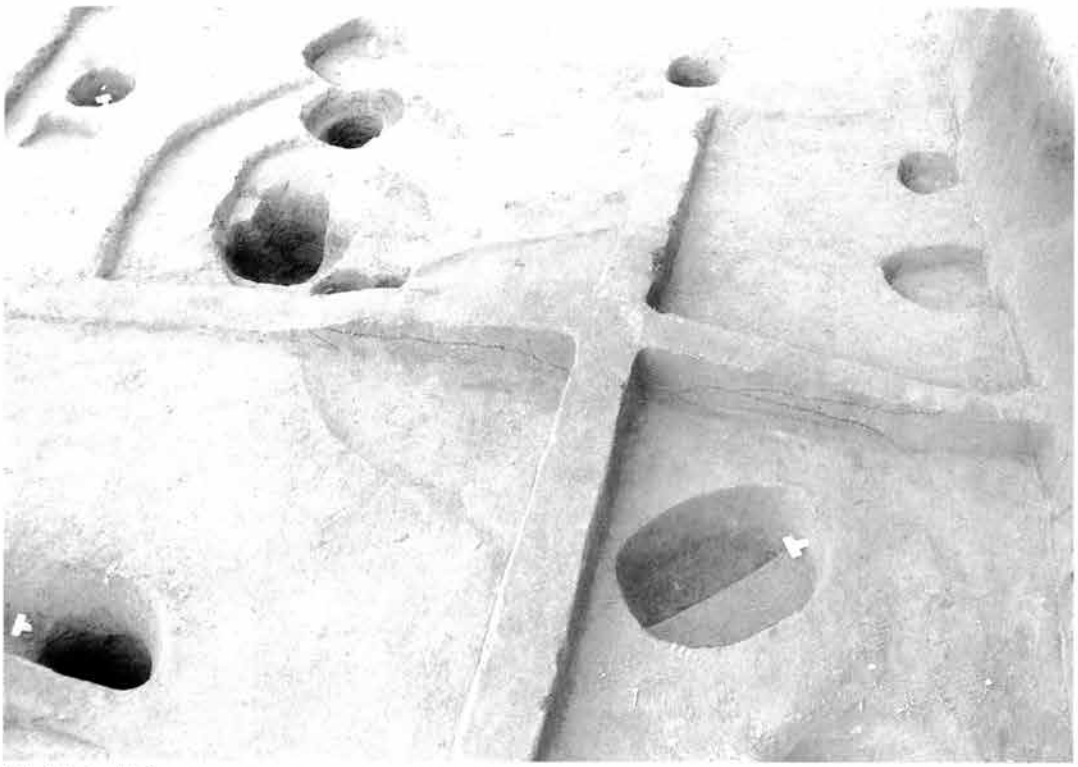


(2) 焼土2(右)・3(左)

(1) 焼土4(手前)と焼土3・2・1

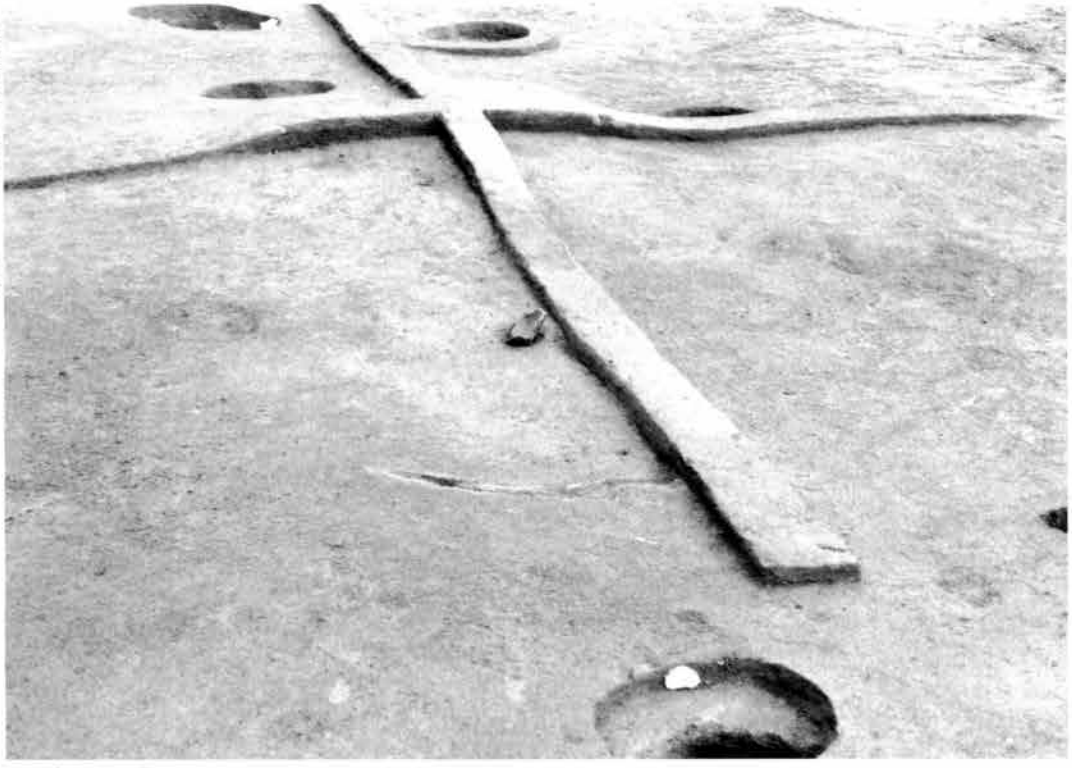


(2) 焼土4 土層



(1) 焼土 1 土層

(2) 焼土 2 土層

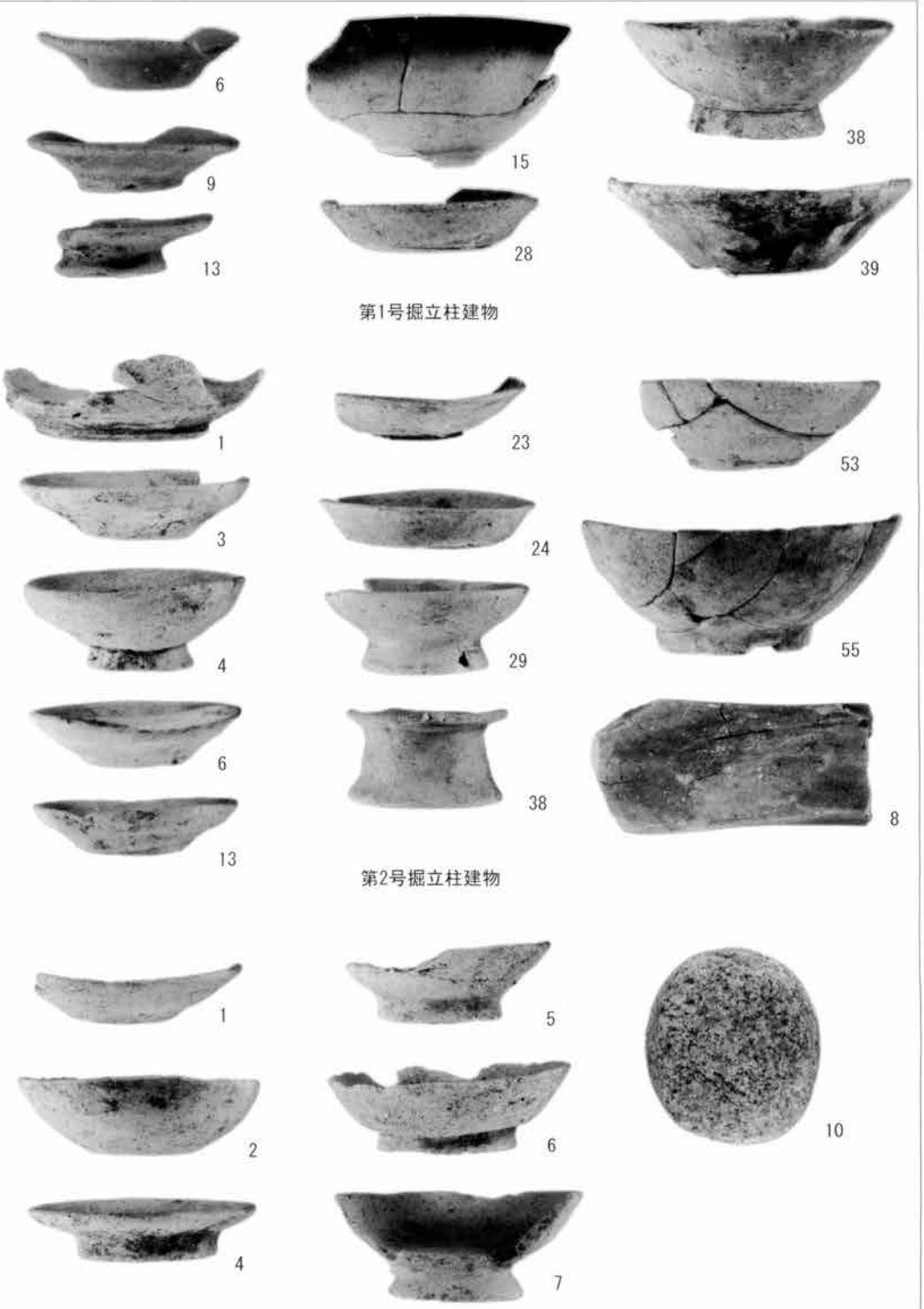


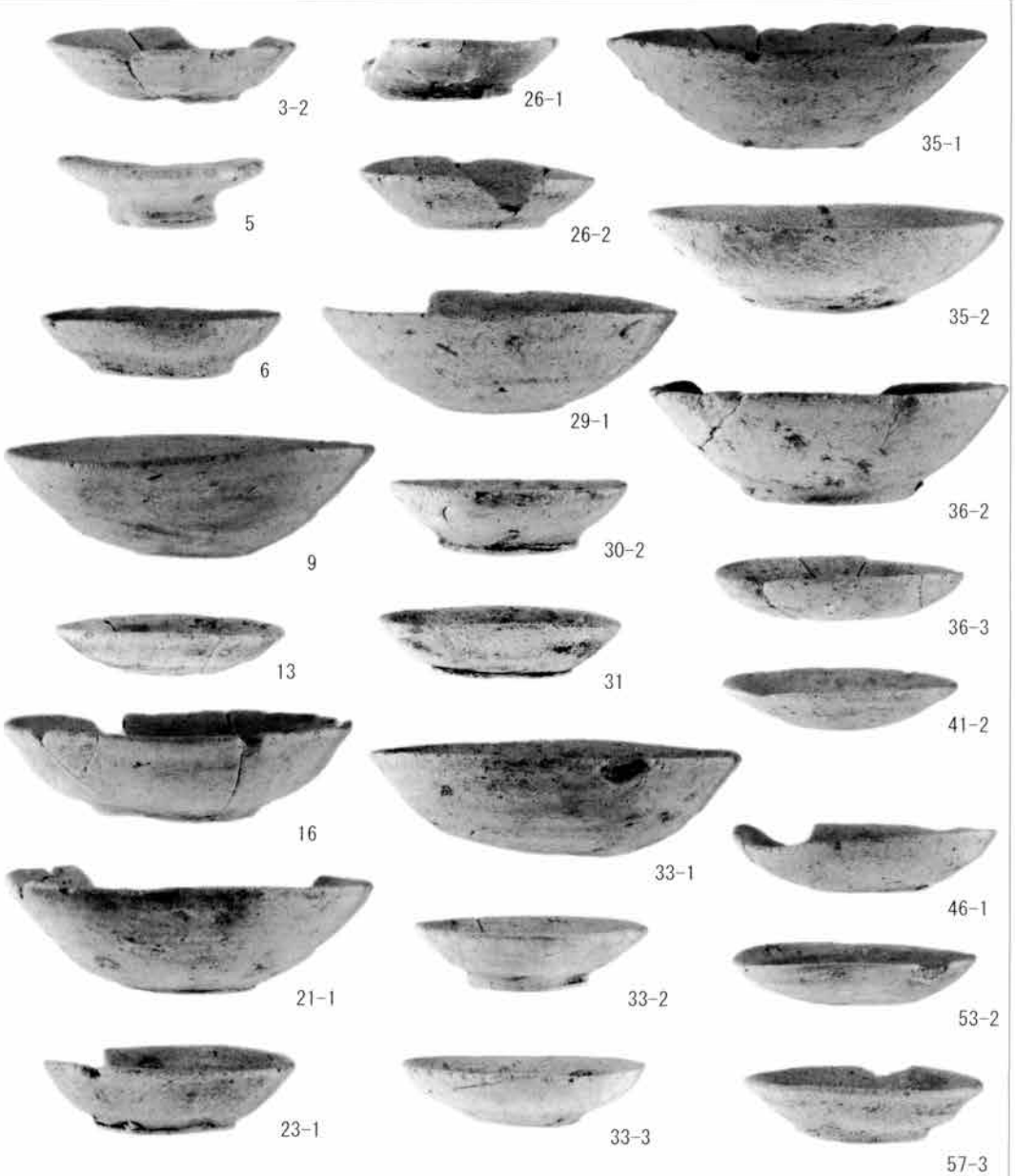
(1) 焼土 3 土層

(2) SK01 完掘状況

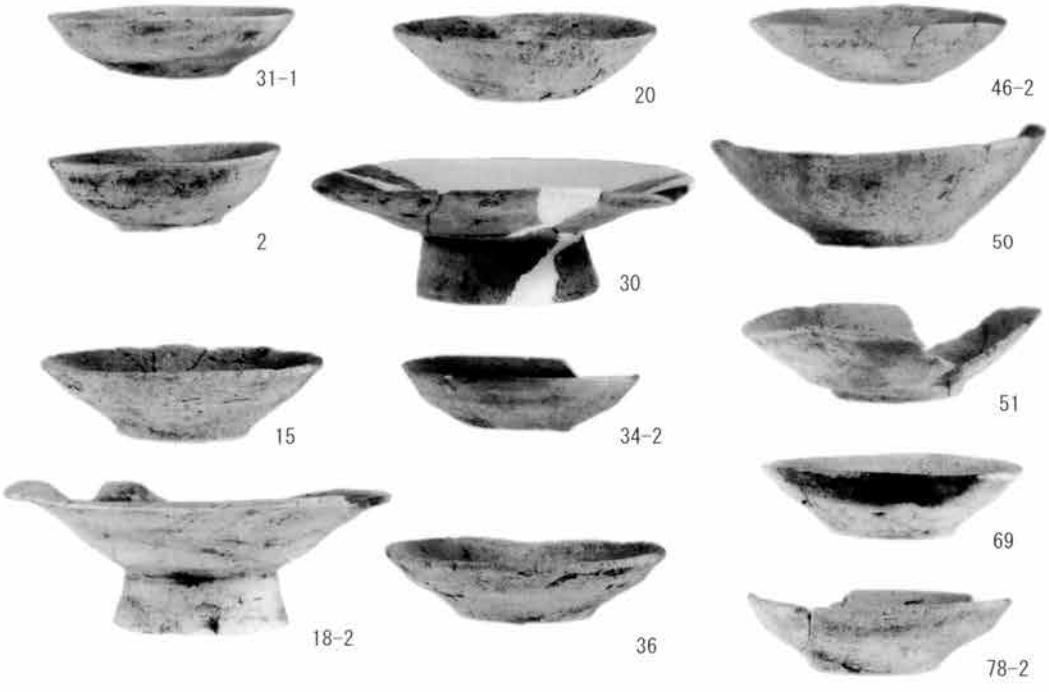
(1) 調査区全景

(2) SD01

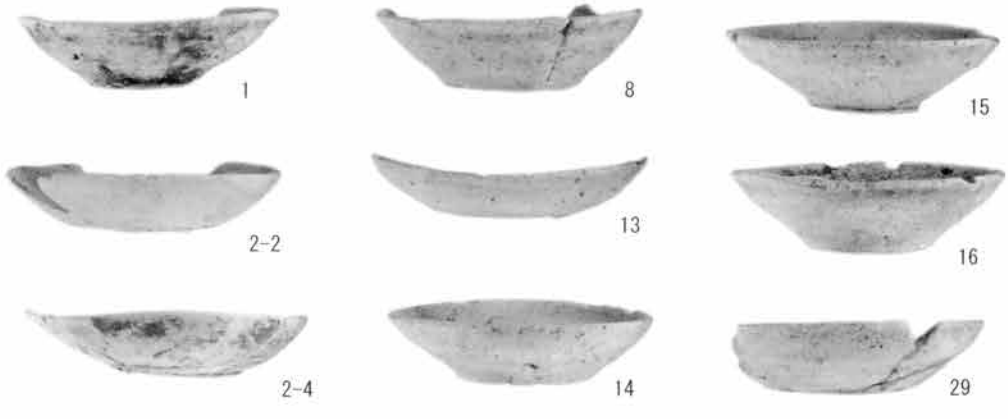

6
9
13
15
28
38
39
第1号掘立柱建物
1
3
4
6
13
23
24
29
38
53
55
8
第2号掘立柱建物
1
2
4
5
6
7
10
第3号掘立柱建物


3-2
26-1
35-1
5
26-2
35-2
6
29-1
36-2
9
30-2
36-3
13
31
41-2
16
33-1
46-1
21-1
33-2
53-2
23-1
33-3
57-3

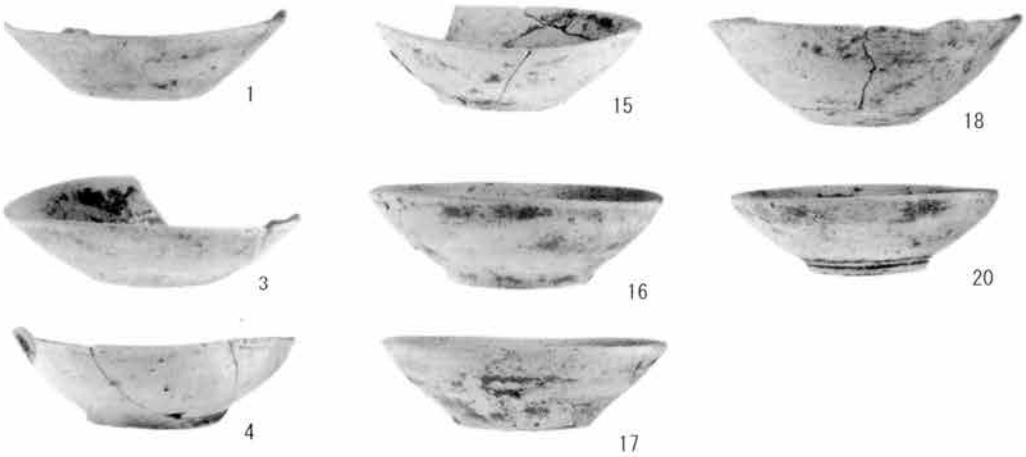
第1号土坑



第1号土器埋納穴

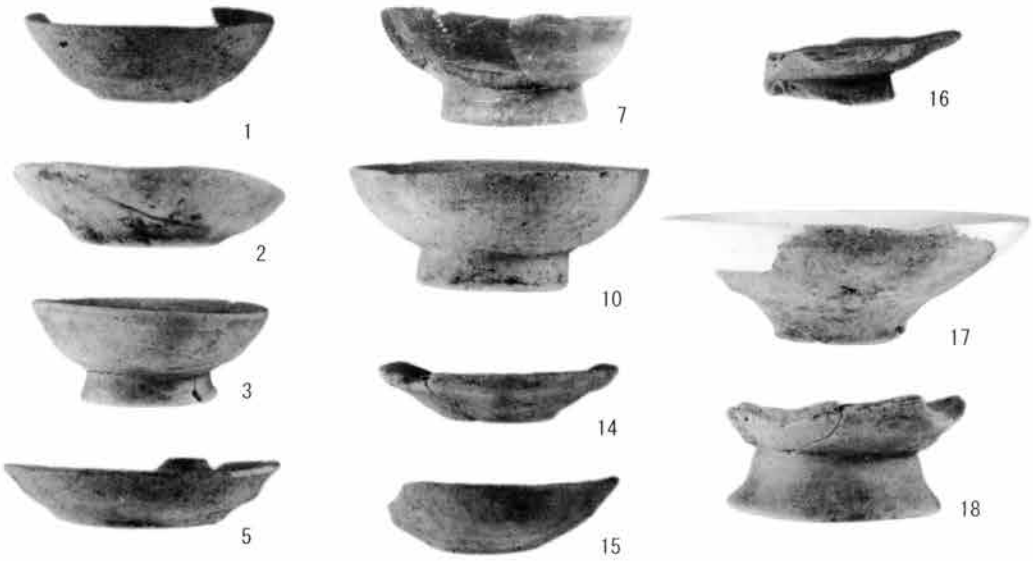


第2号土器埋納穴



第3号土器埋納穴

第4号土器埋納穴



第1号土器群

2

7

22

4

8

30

5

10

32

第2号土器群

2

3

8

第3号土器群

9

11

15

10

14

17

第4号土器群

19

21

20

22

第5号土器群

11

第1号溝

19

第4号溝

2

9

18

5

10

27

7

11

31

8

13

第5号溝

1

8

15

5

9

20

6

11

23

7

12

第6号溝

3

14

20

12

19

22

28

27

32

土器集中地点

1（1号）

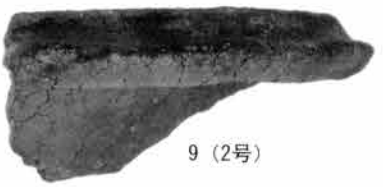
4（2号）

5（2号）

6（2号）

7（2号）

8（2号）


9（2号）

10（2号）

11（2号）

1（3号）

2（3号）

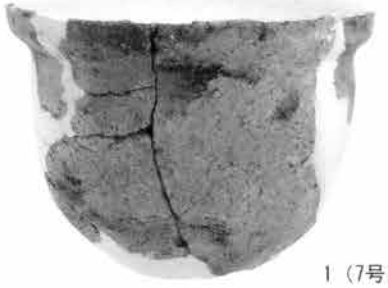
3（3号）

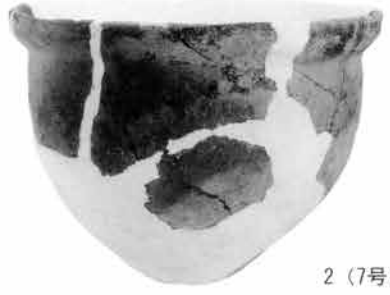
竪穴住居跡出土遺物1

5(4号)

1（5号）

6（4号）


1（7号）


2（7号）

3（7号）

4（7号）

1（8号）

2（8号）

竪穴住居跡出土遺物2

1（9号）

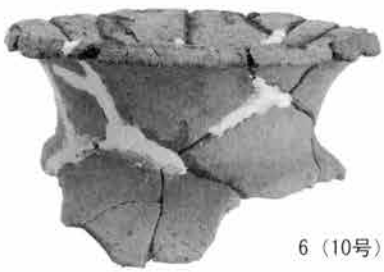
1（10号）

2（10号）

3（10号）

4（10号）

5（10号）


6（10号）

7（10号）

11（10号）

8（10号）

12（10号）

竪穴住居跡出土遺物3

1（12号）

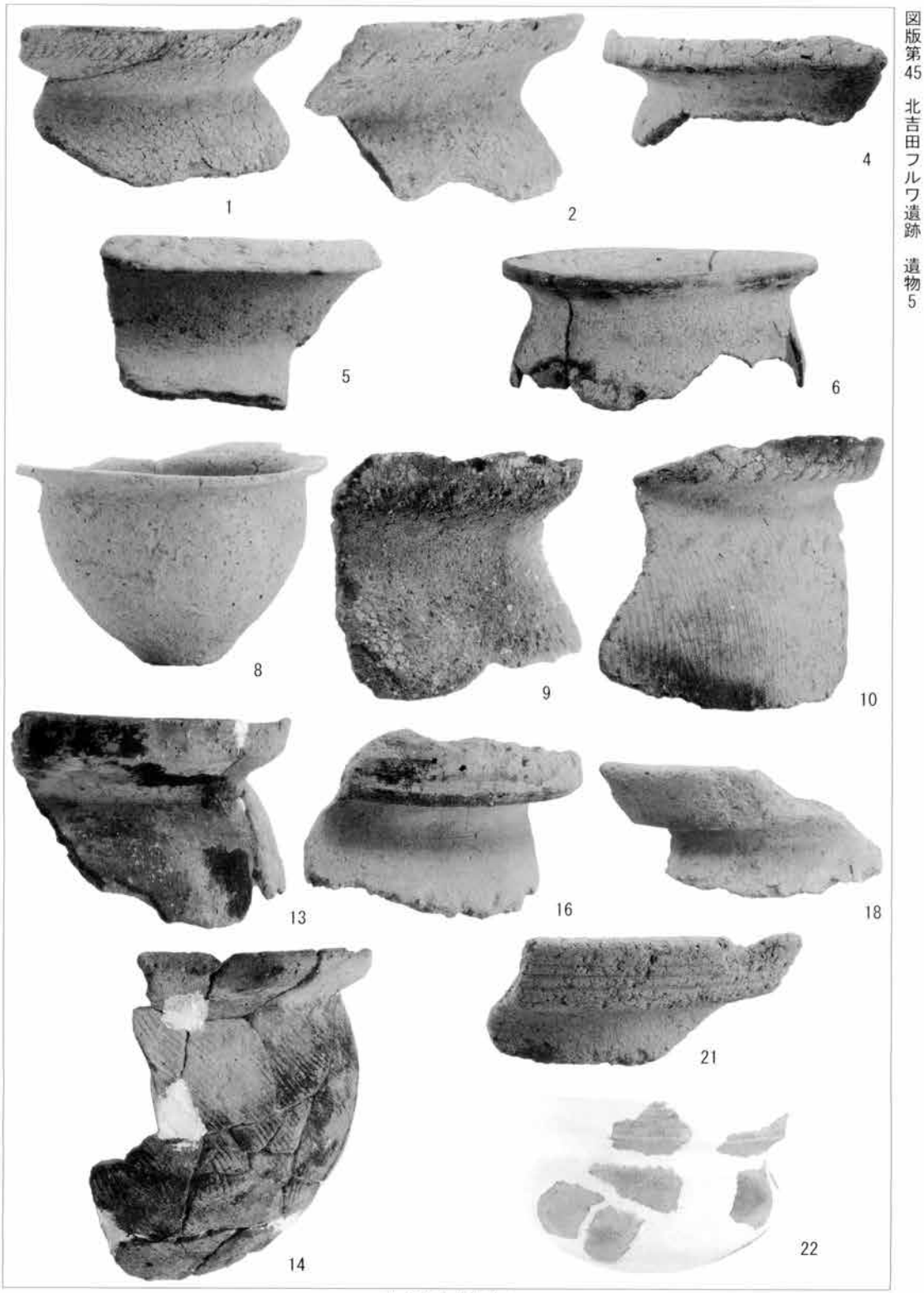
3（12号）

4（12号）

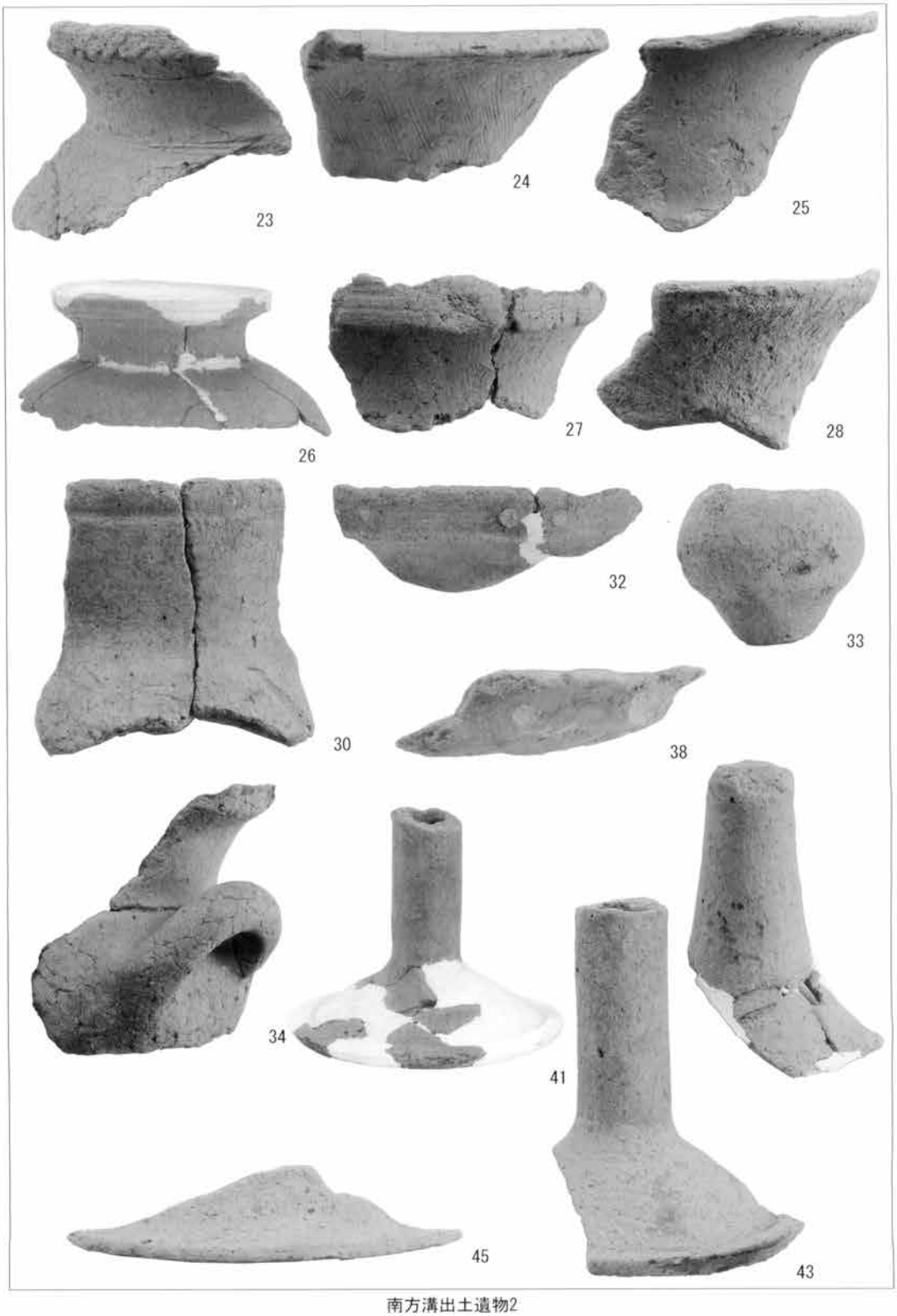
5（12号）

6（12号）

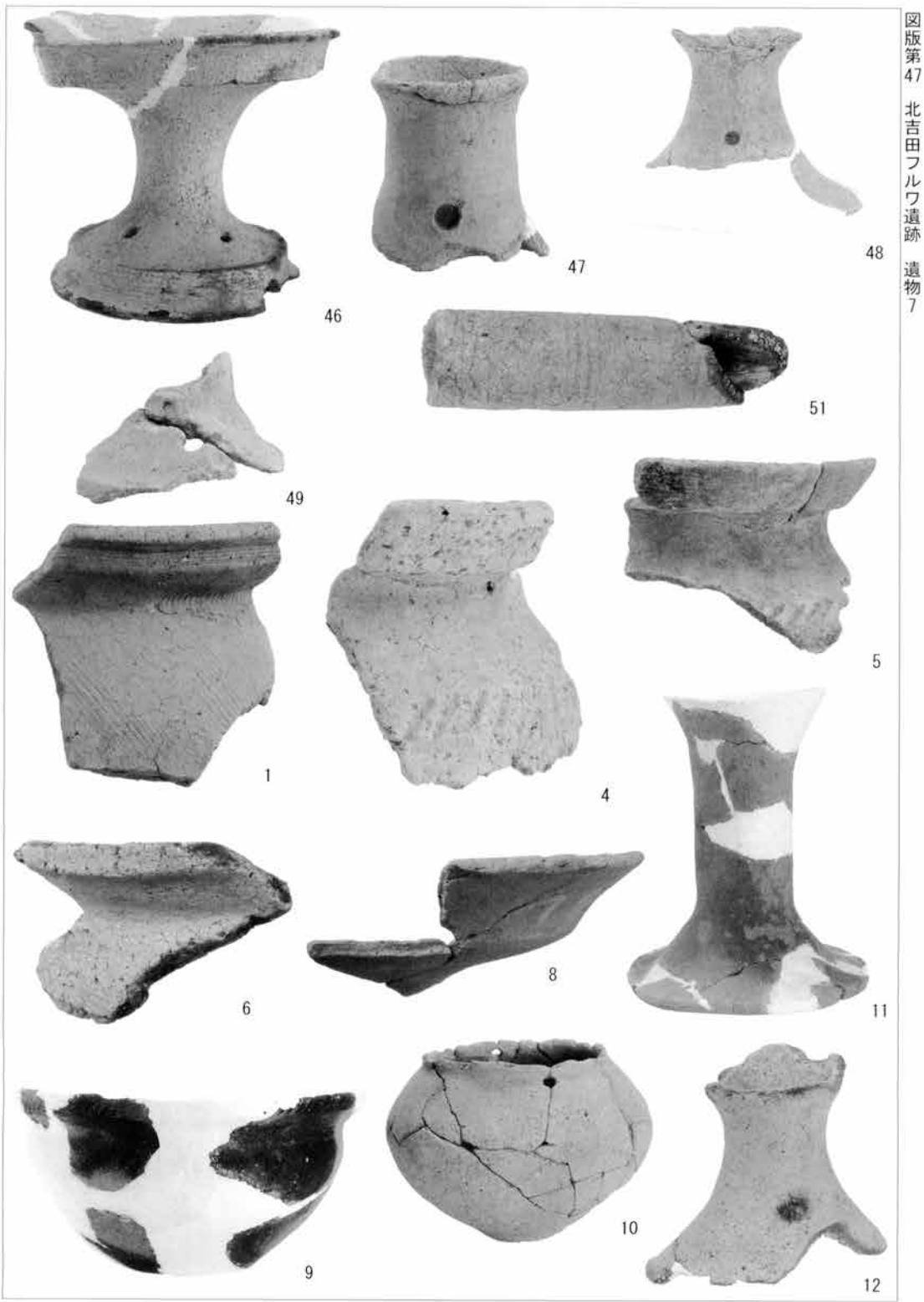
竪穴住居跡出土遺物4



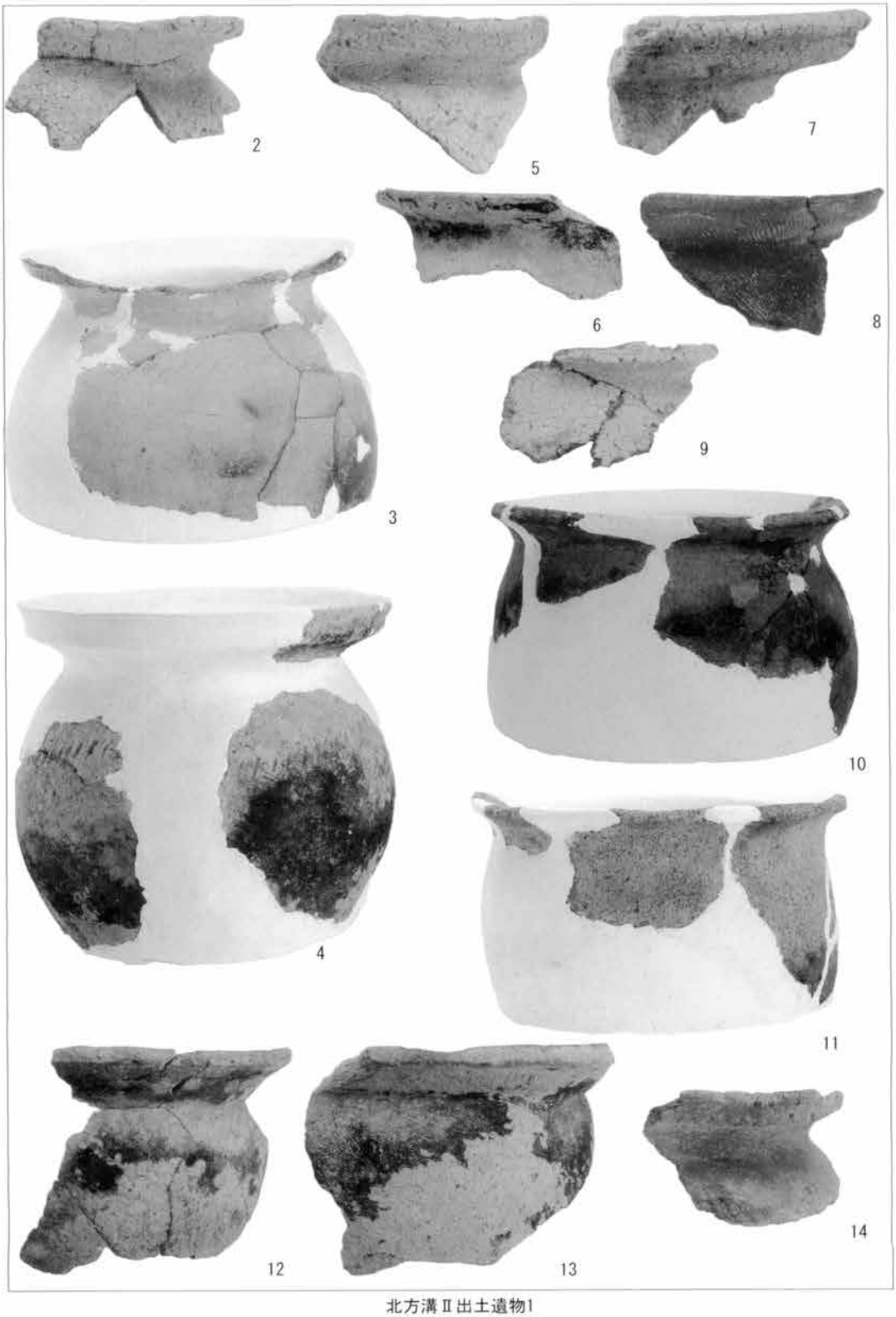
南方溝出土遺物1



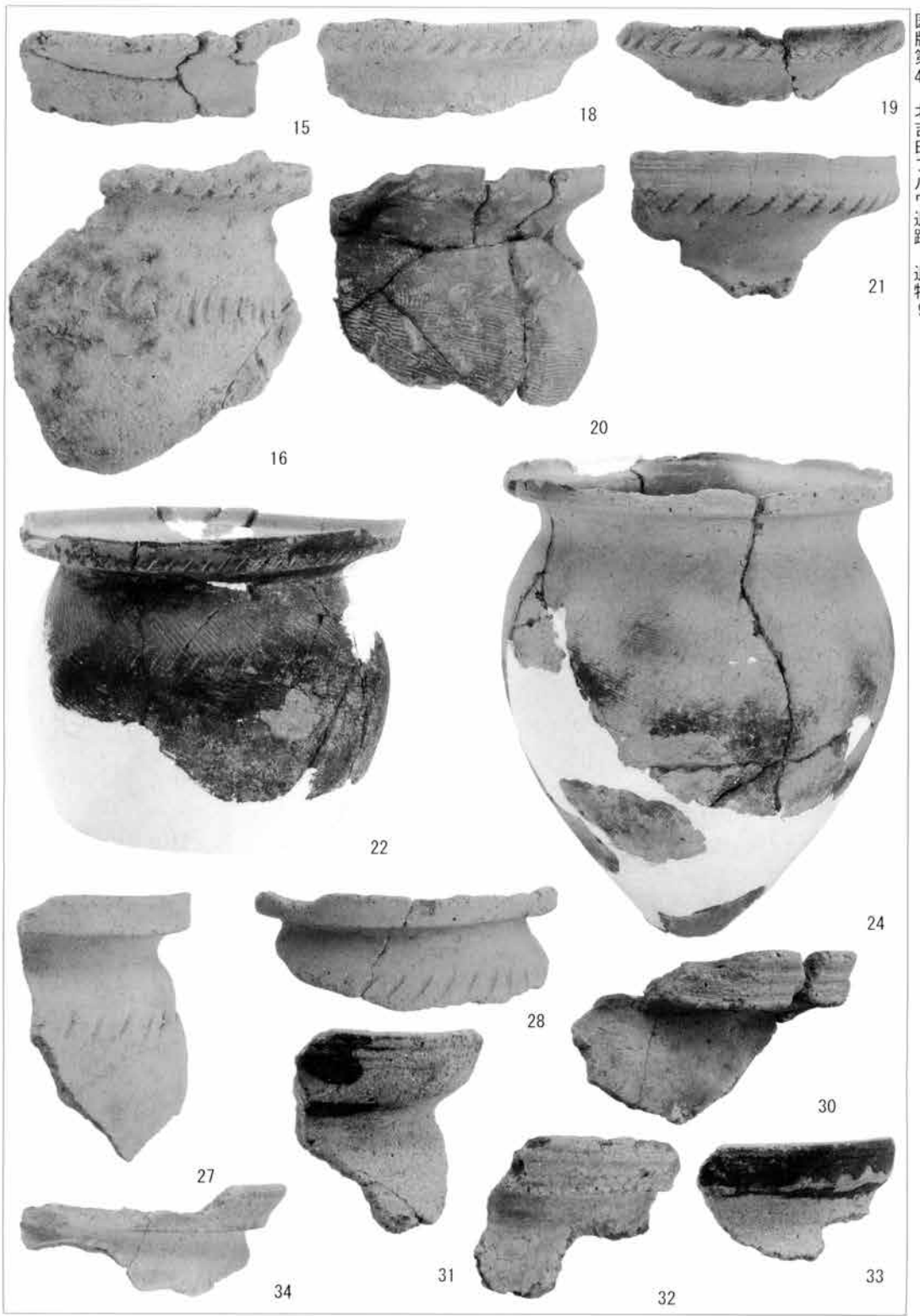
南方溝出土遺物2



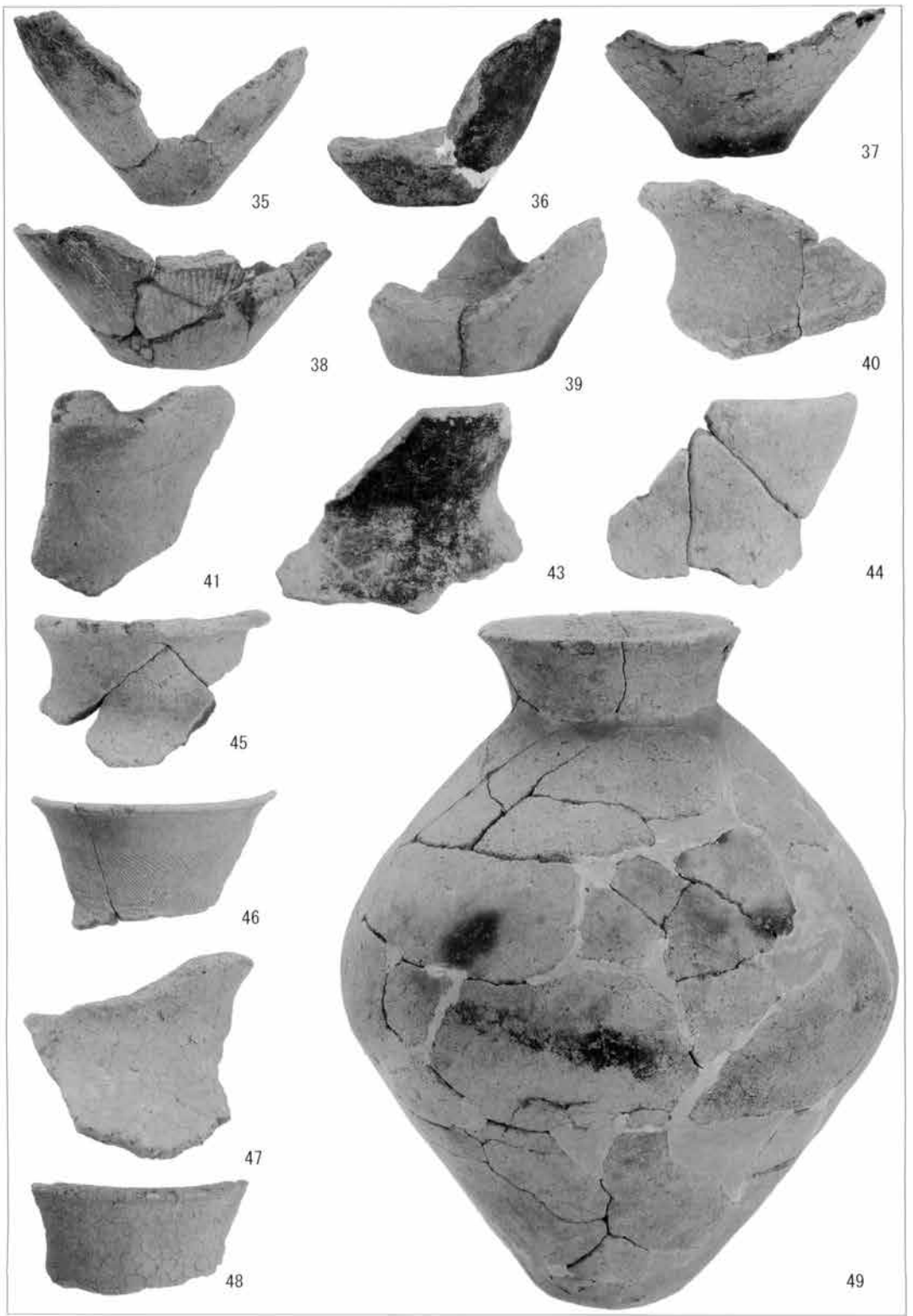
南方溝出土遺物3・北方溝出土遺物1



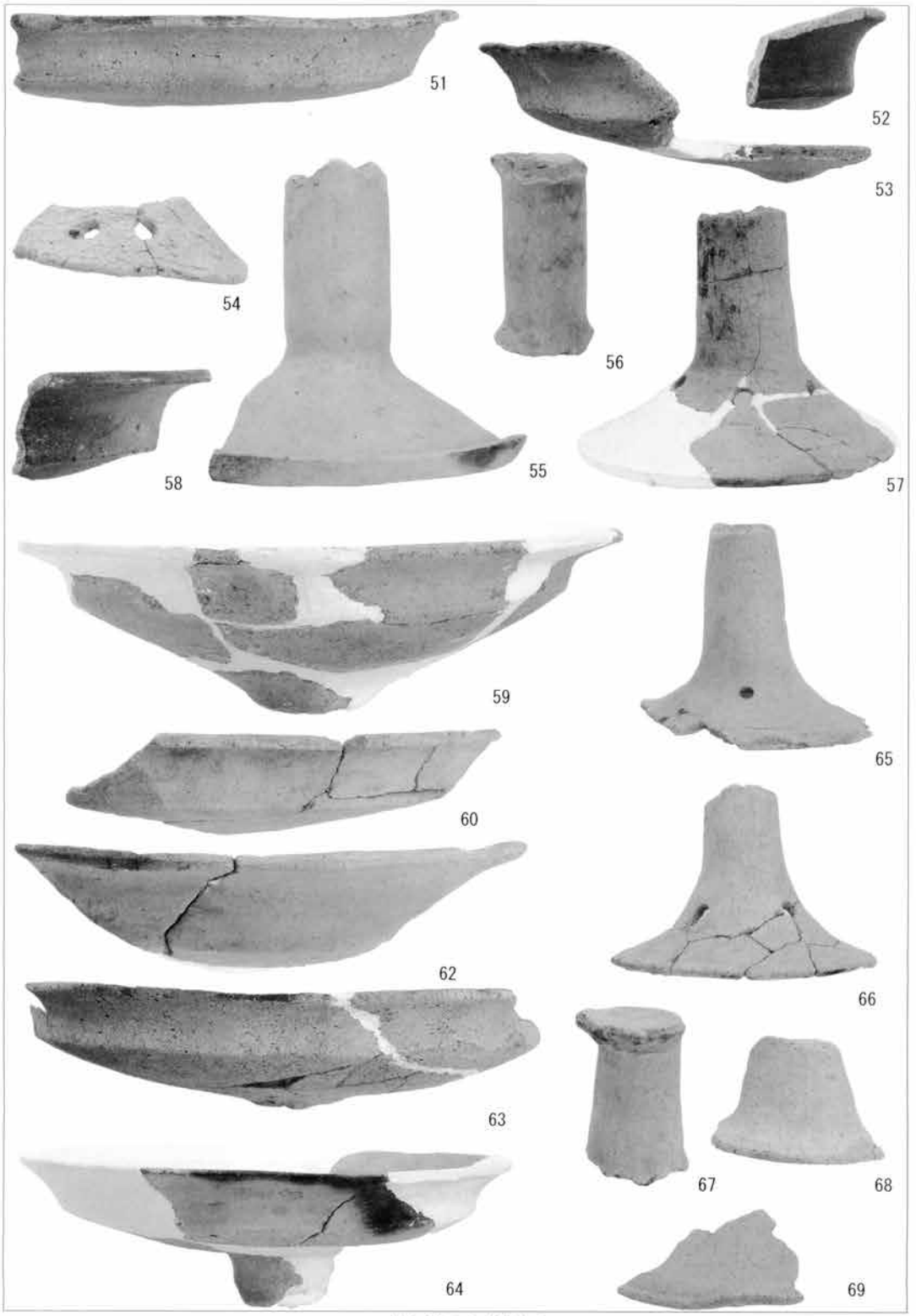
北方溝Ⅱ出土遺物1



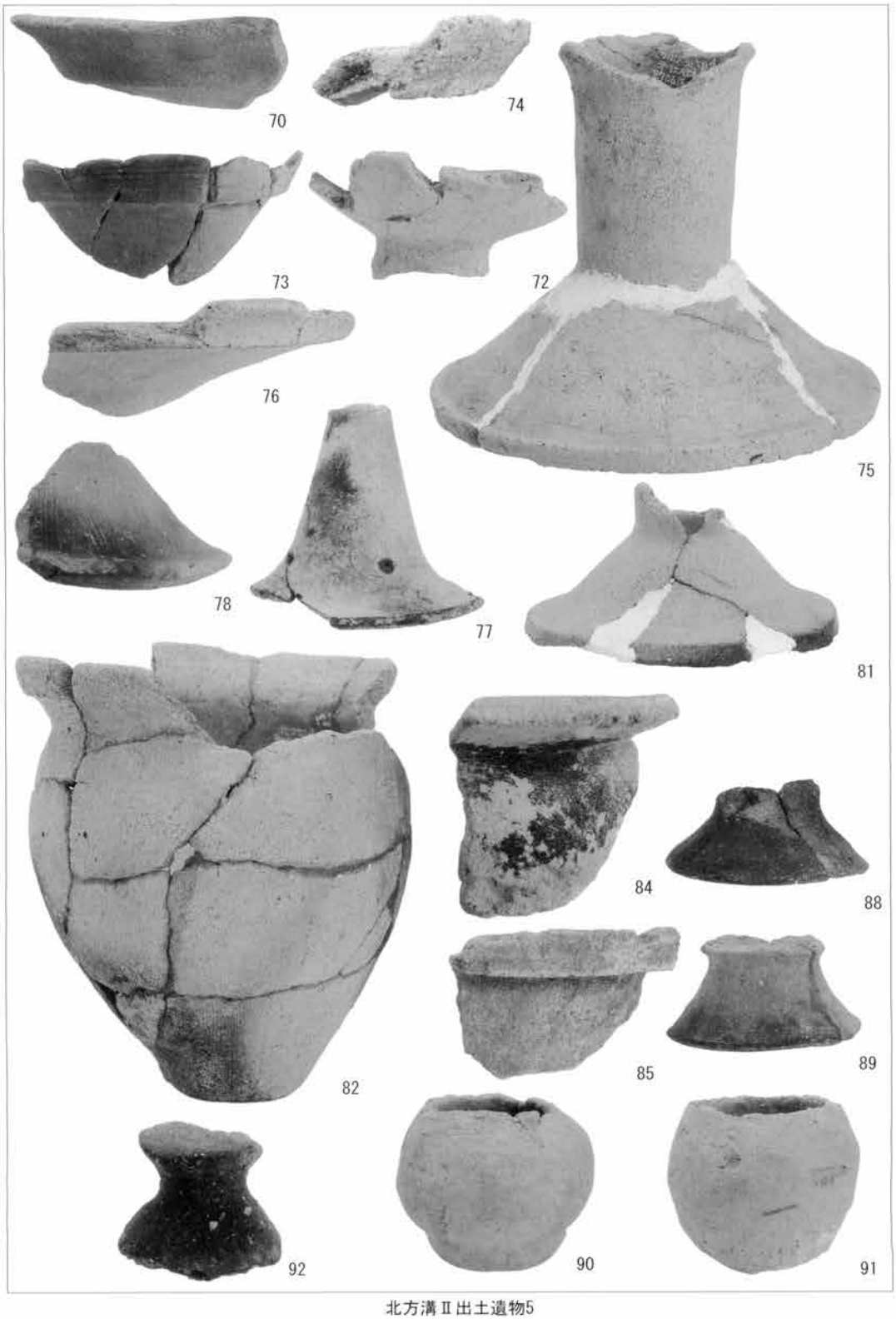
北方溝Ⅱ出土遺物2



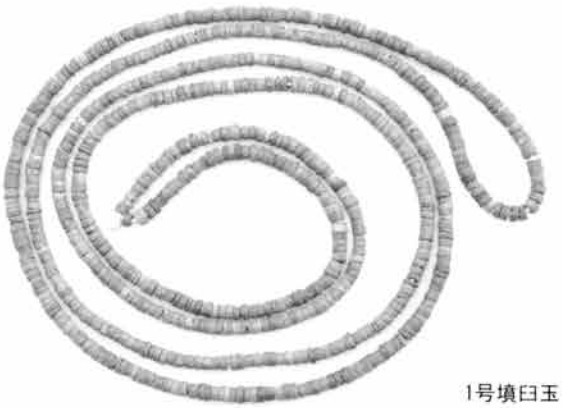
北方溝Ⅱ出土遺物3



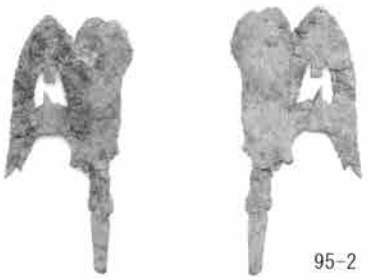
北方溝Ⅱ出土遺物4



北方溝Ⅱ出土遺物5



1号墳臼玉

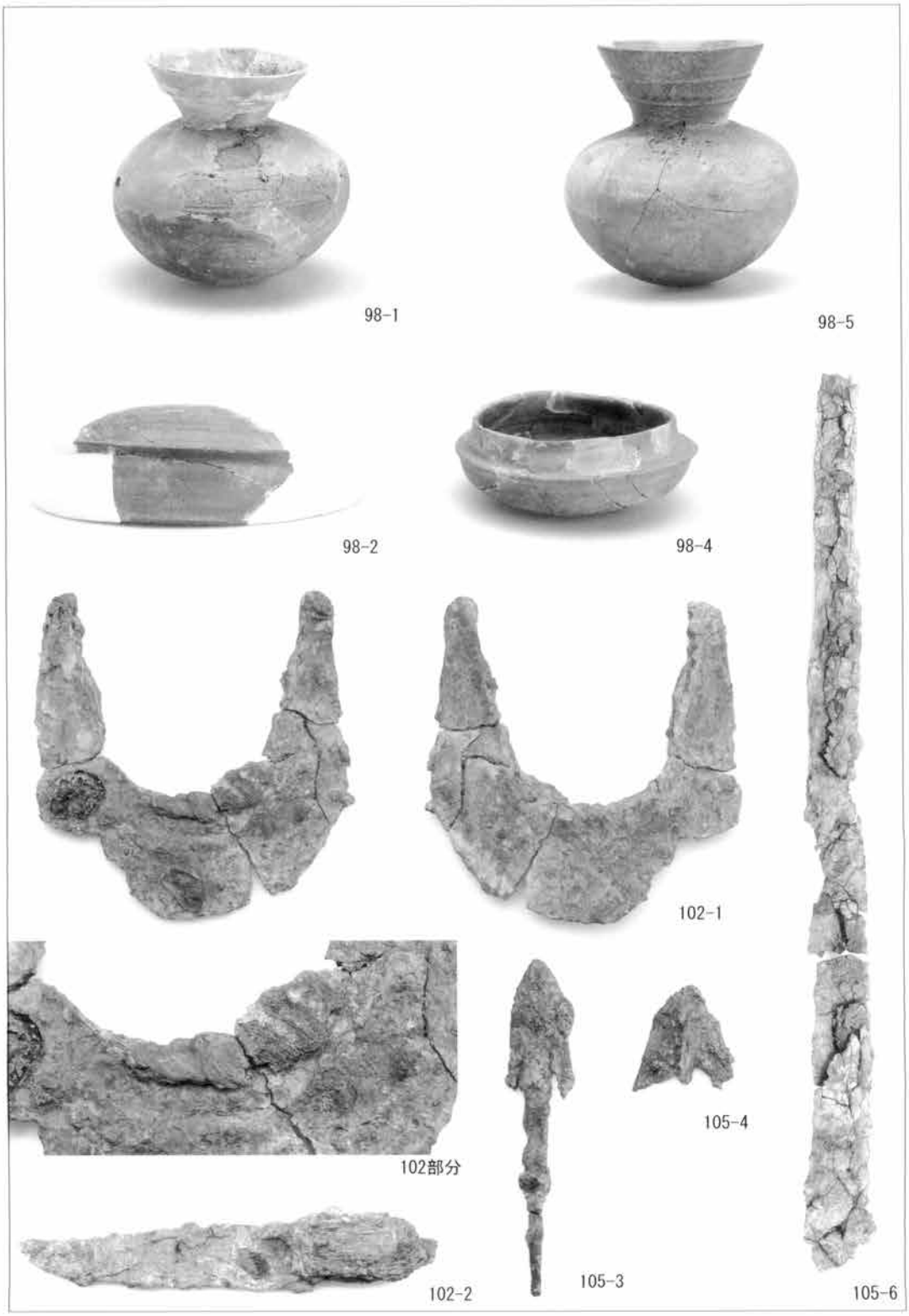


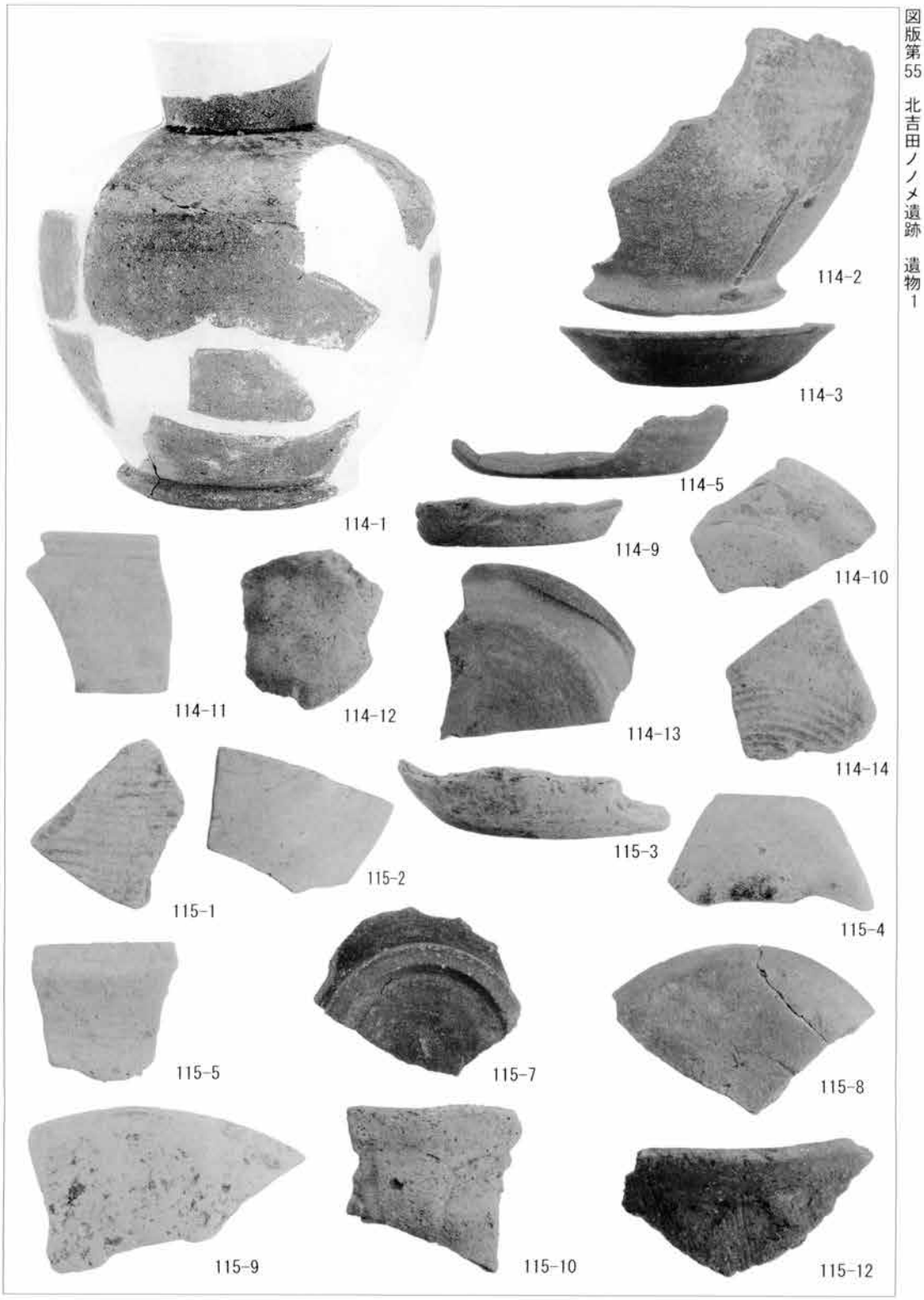
95-2

95-5拡大

95-5

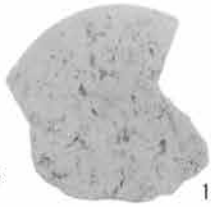
95-1


98-1
98-5
98-2
98-4
102-1
102部分
105-4
102-2
105-3
105-6


114-1
114-2
114-3
114-5
114-9
114-10
114-11
114-12
114-13
114-14
115-1
115-2
115-3
115-4
115-5
115-7
115-8
115-9
115-10
115-12

115-13

115-15


115-16

115-17

115-19

115-20

115-21

115-24

115-25

116-3

116-1

116-4

116-5

116-7

116-6

116-9

116-8

116-10

116-12

116-13

116-11

116-14

116-16

116-17

116-20

116-21

116-18

116-19

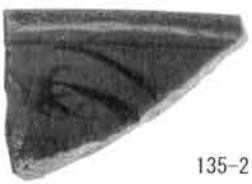
116-23

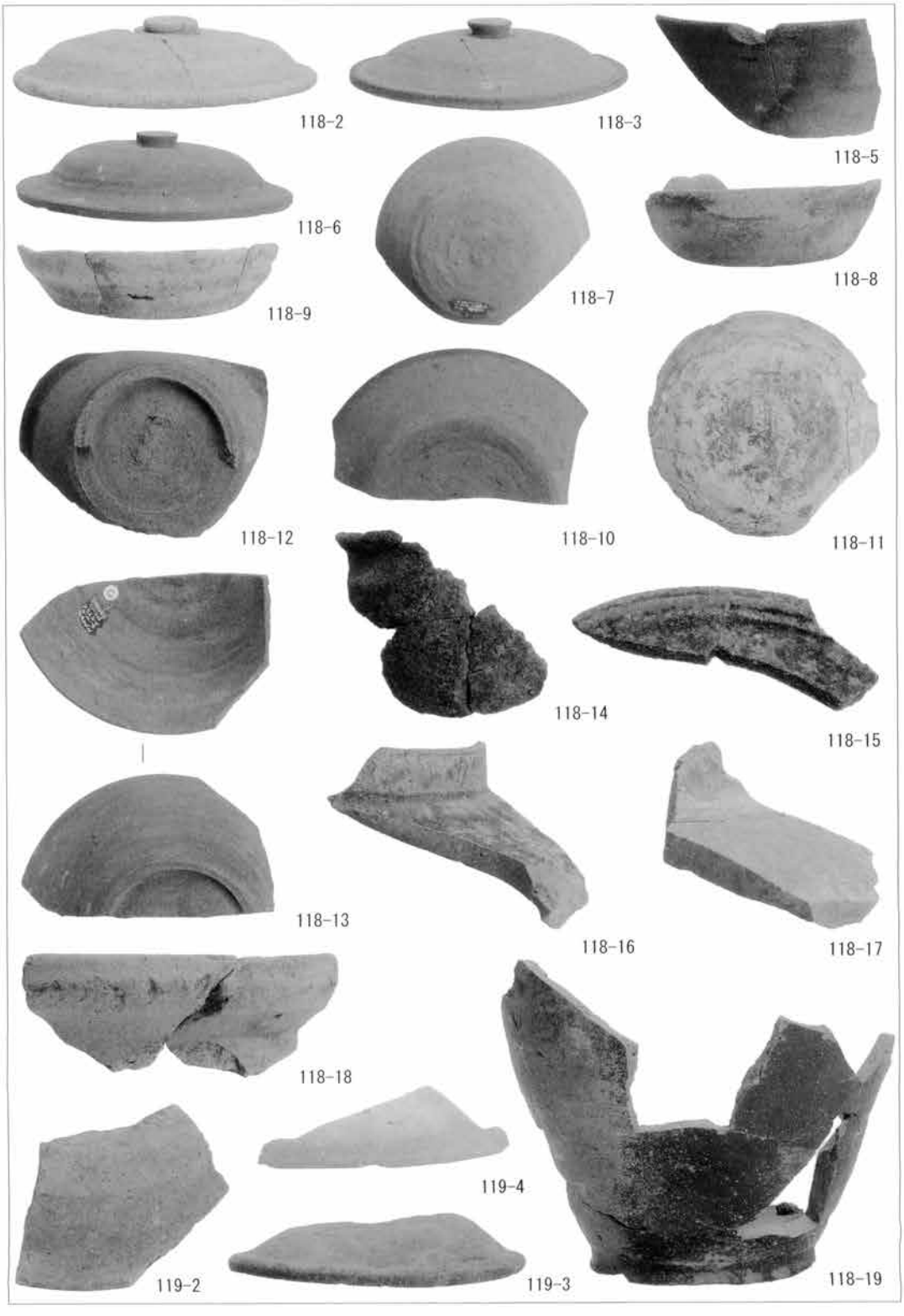
117-4

116-22

117-1

117-2


135-2


118-2
118-3
118-5
118-6
118-7
118-8
118-9
118-12
118-10
118-11
118-14
118-15
118-13
118-16
118-17
118-18
119-4
119-2
119-3
118-19

119-1

119-5

119-6

119-8

119-7

119-9

119-11

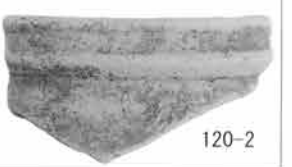
119-10

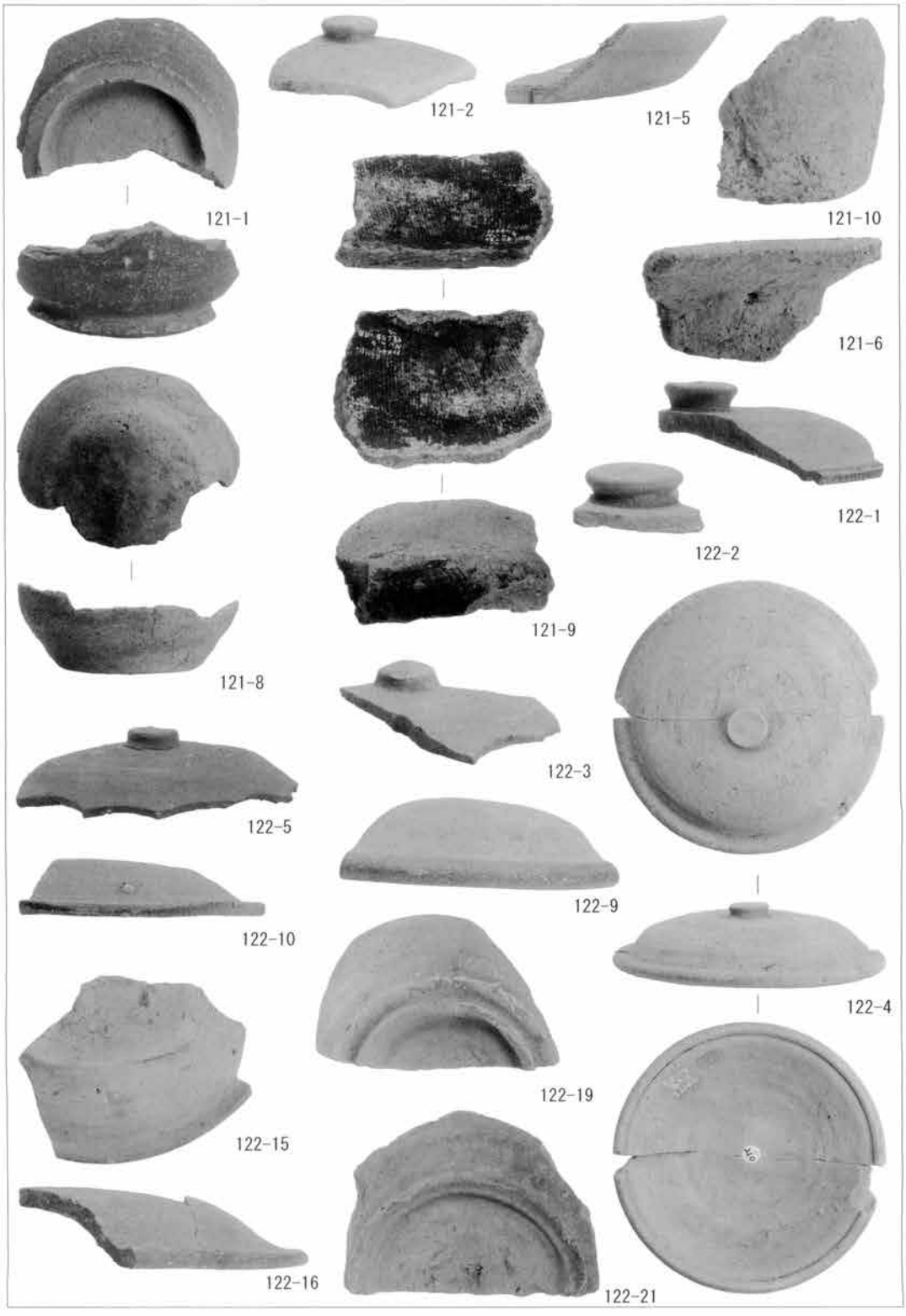
119-10 拡大

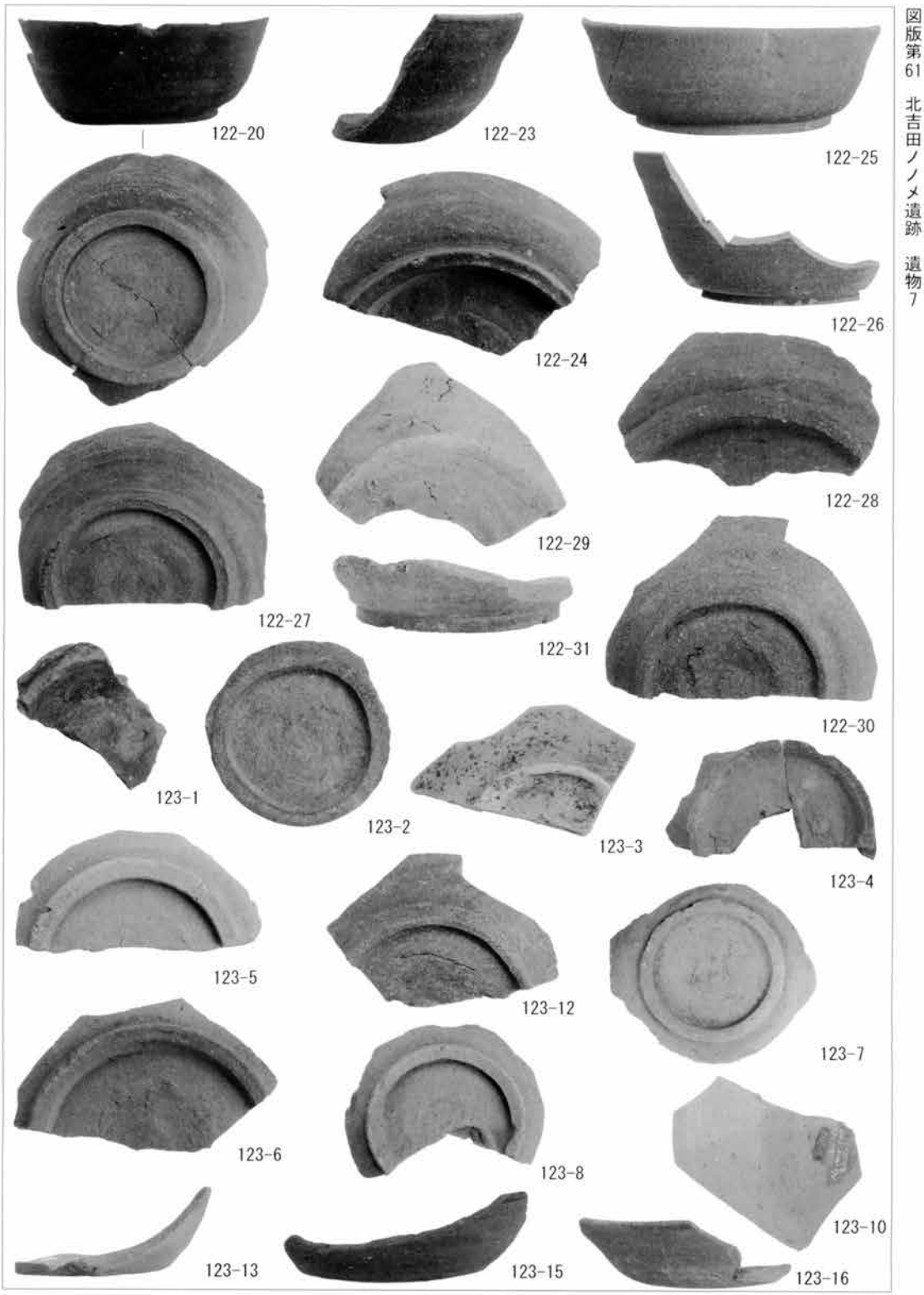
120-1

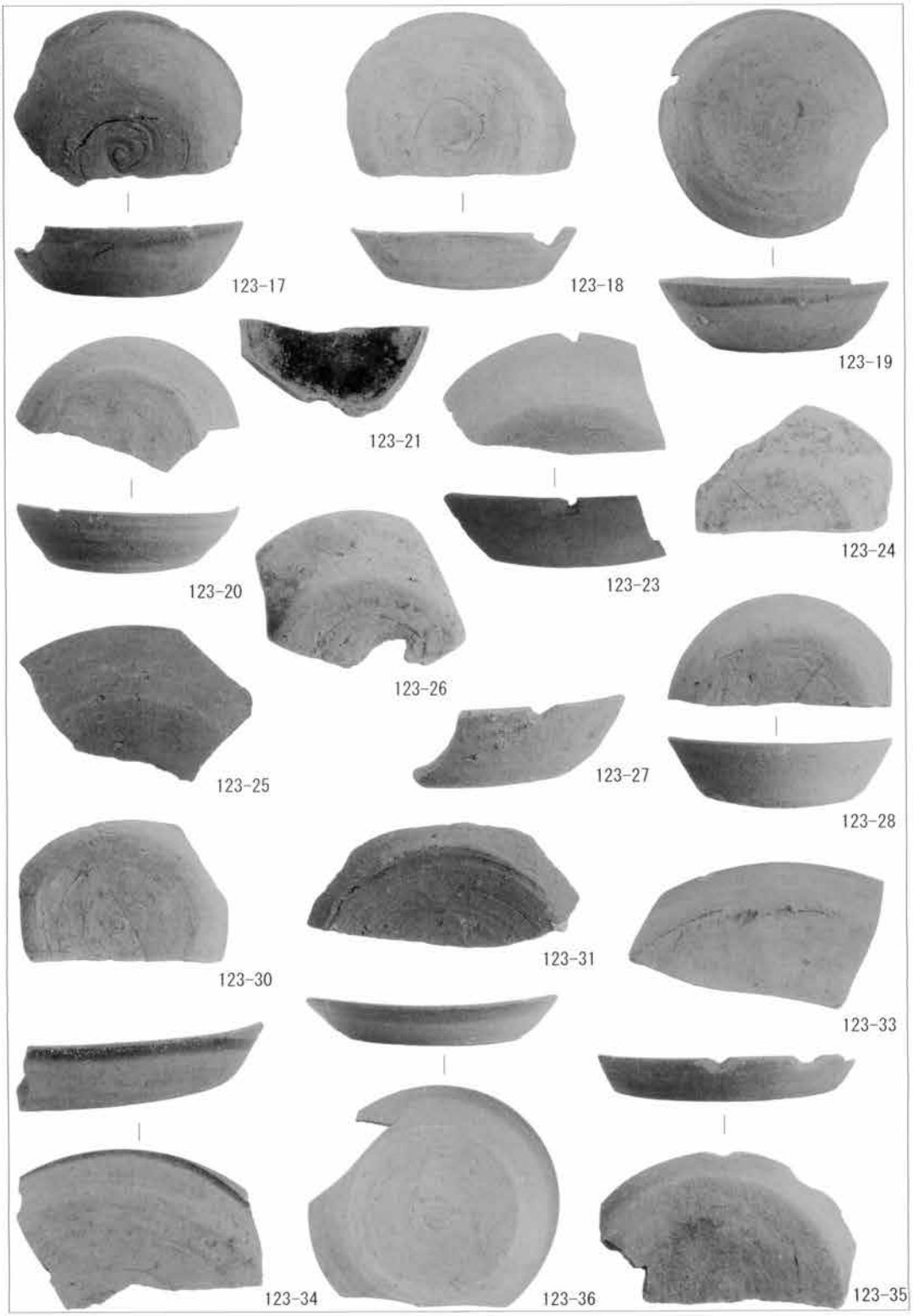
120-3

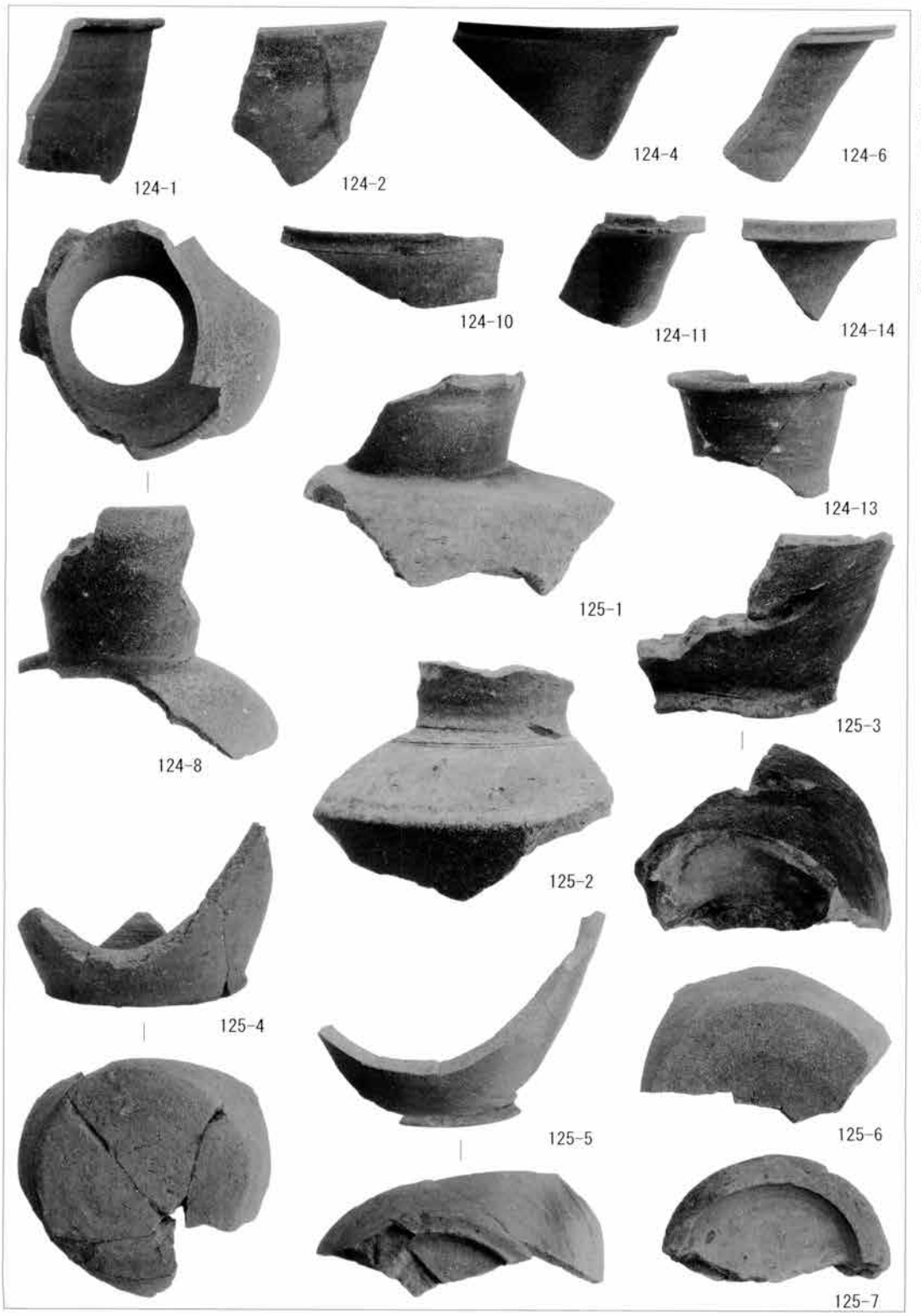
120-4

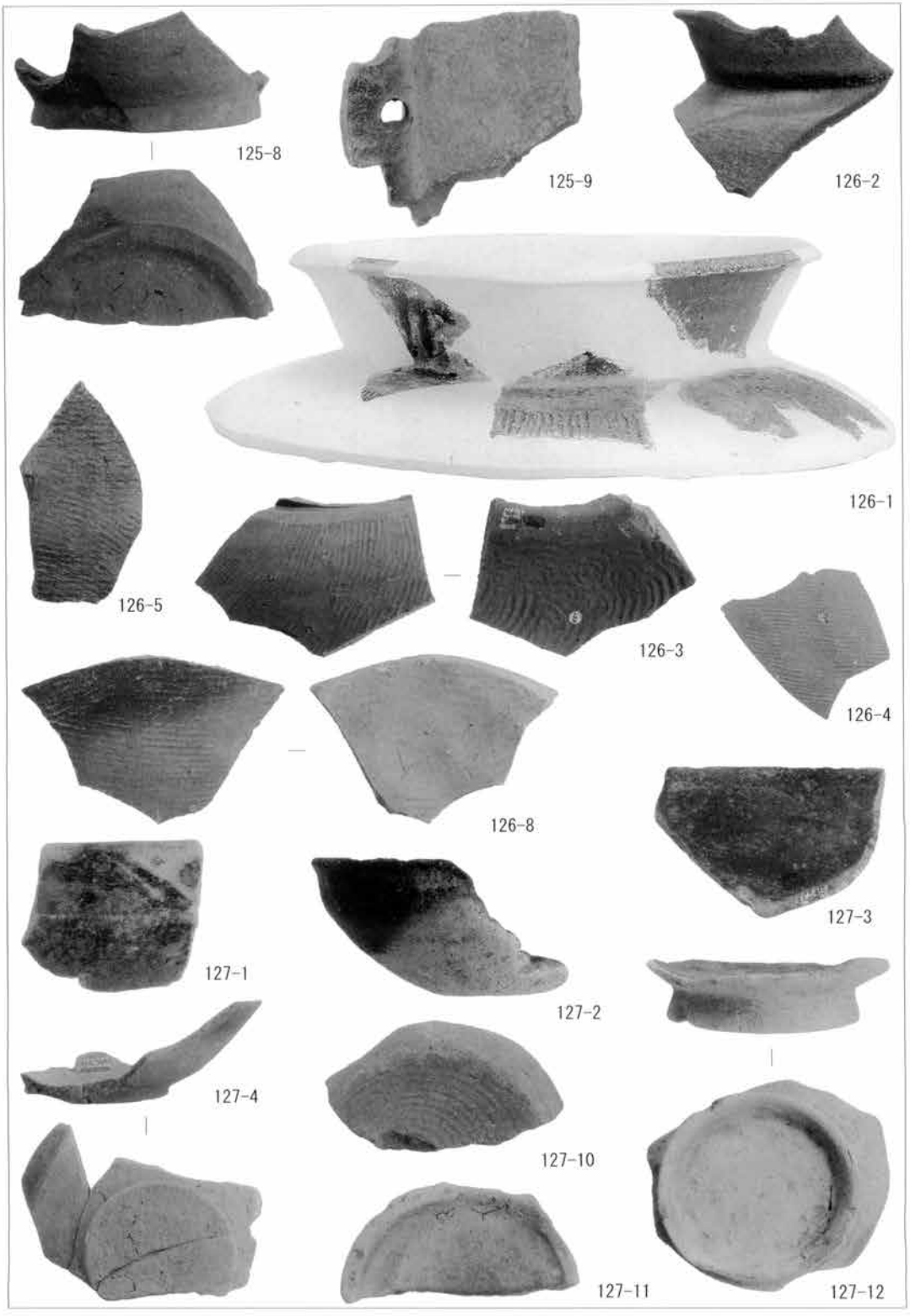

120-2

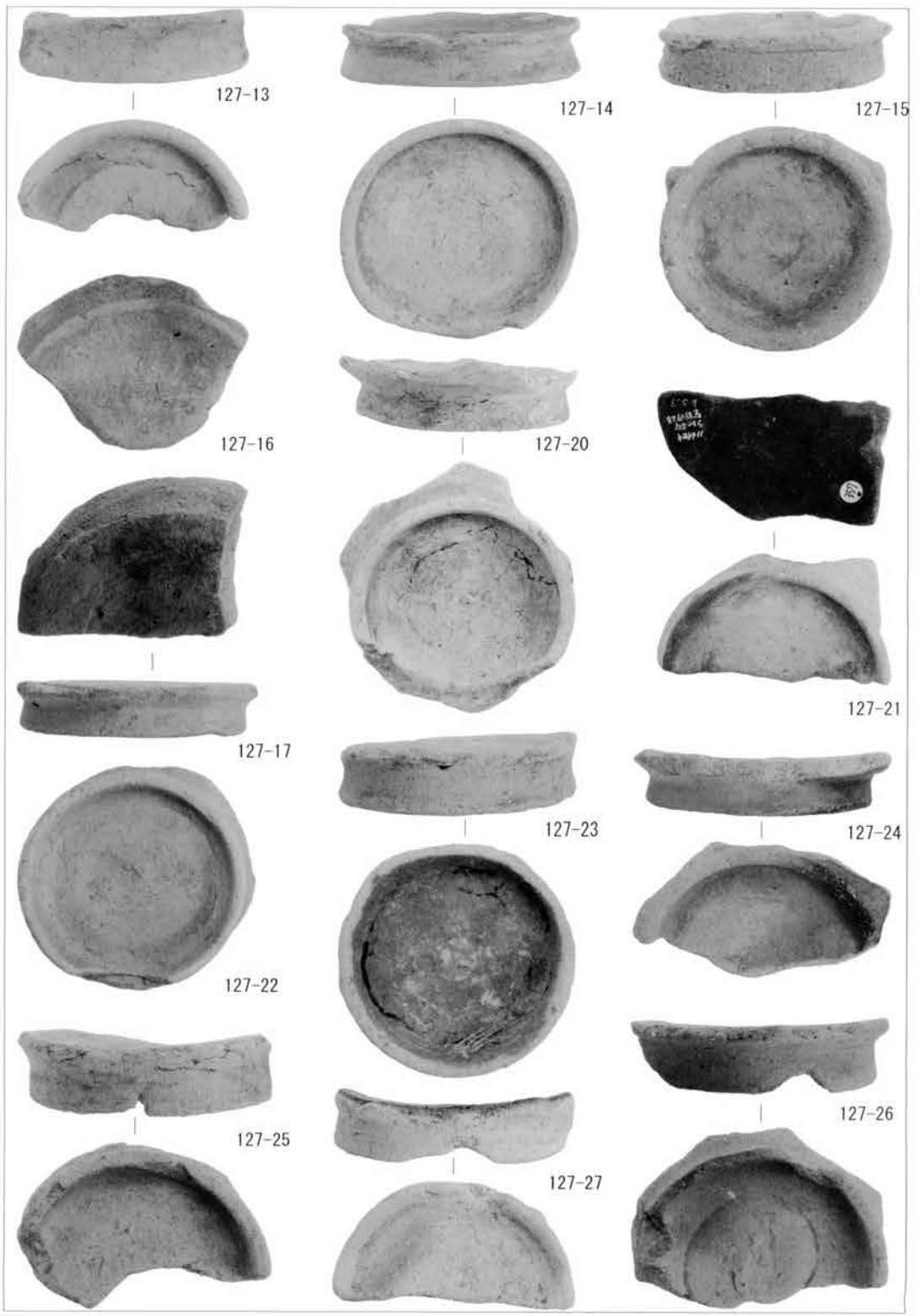

121-1
121-2
121-5
121-10
121-6
121-9
121-8
122-1
122-2
122-3
122-5
122-9
122-10
122-4
122-19
122-15
122-16
122-21

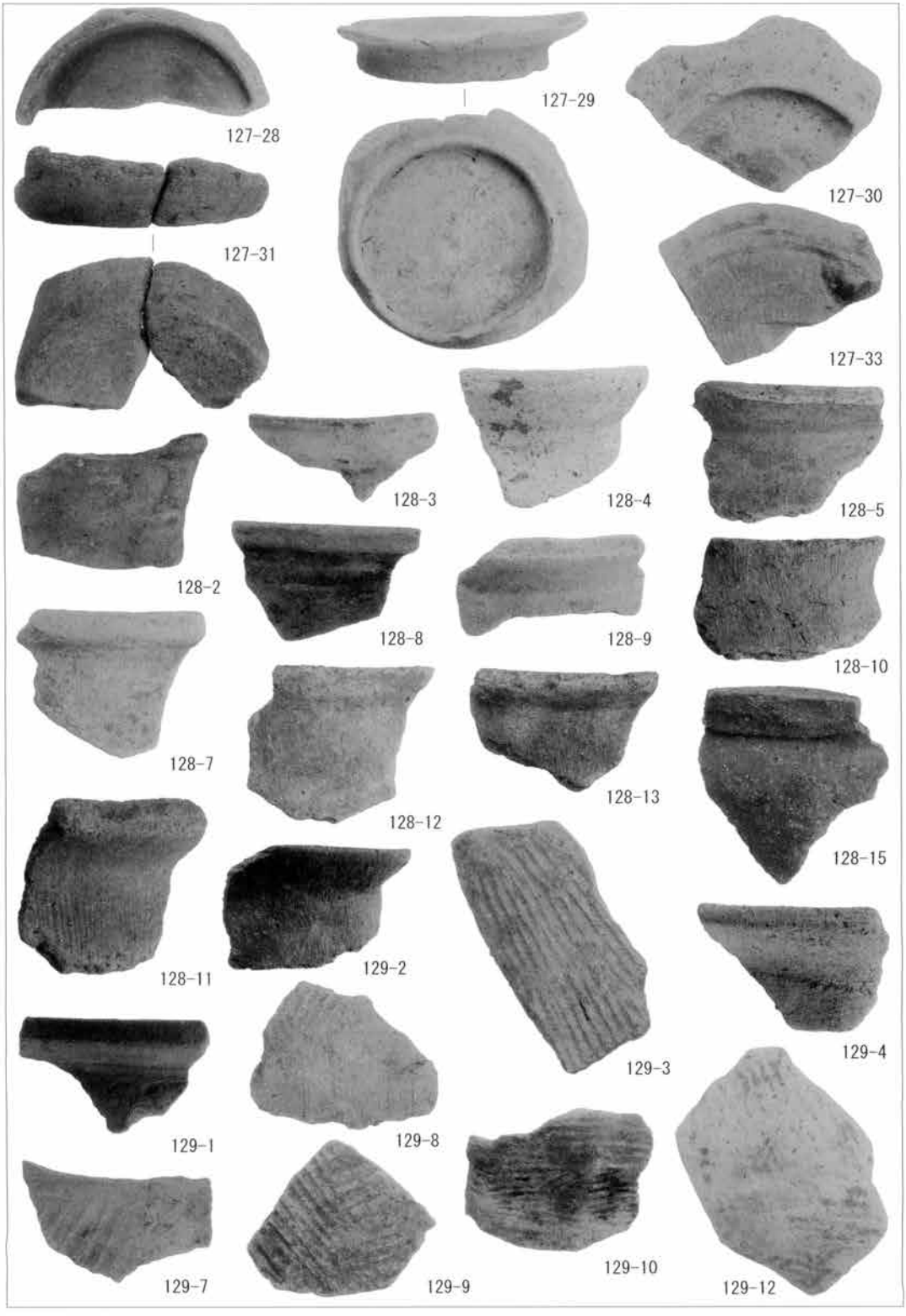

122-20
122-23
122-25
122-24
122-26
122-28
122-29
122-27
122-31
122-30
123-1
123-2
123-3
123-4
123-5
123-12
123-7
123-6
123-8
123-10
123-13
123-15
123-16

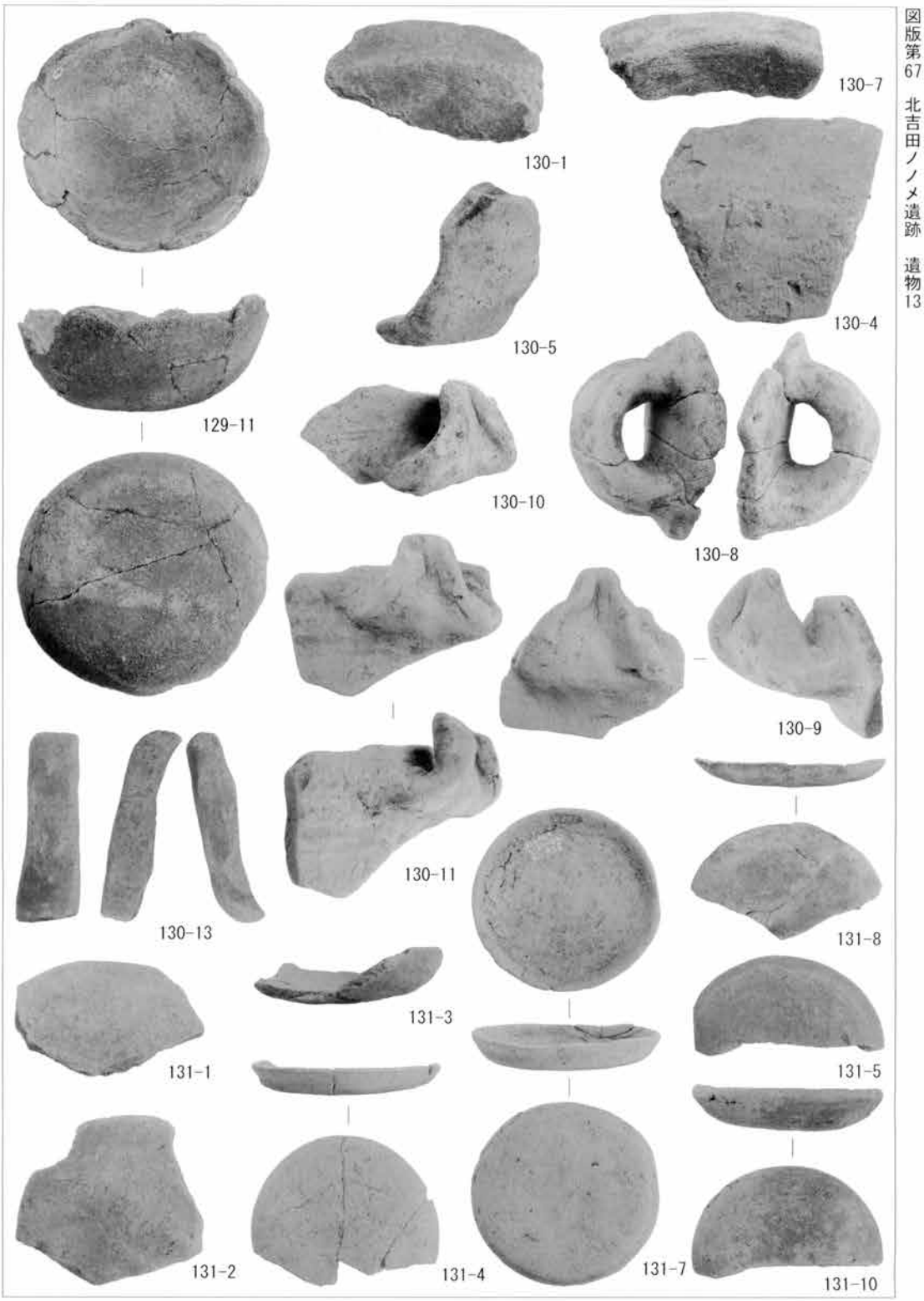

123-17
123-18
123-19
123-20
123-21
123-23
123-24
123-25
123-26
123-27
123-28
123-30
123-31
123-33
123-34
123-36
123-35

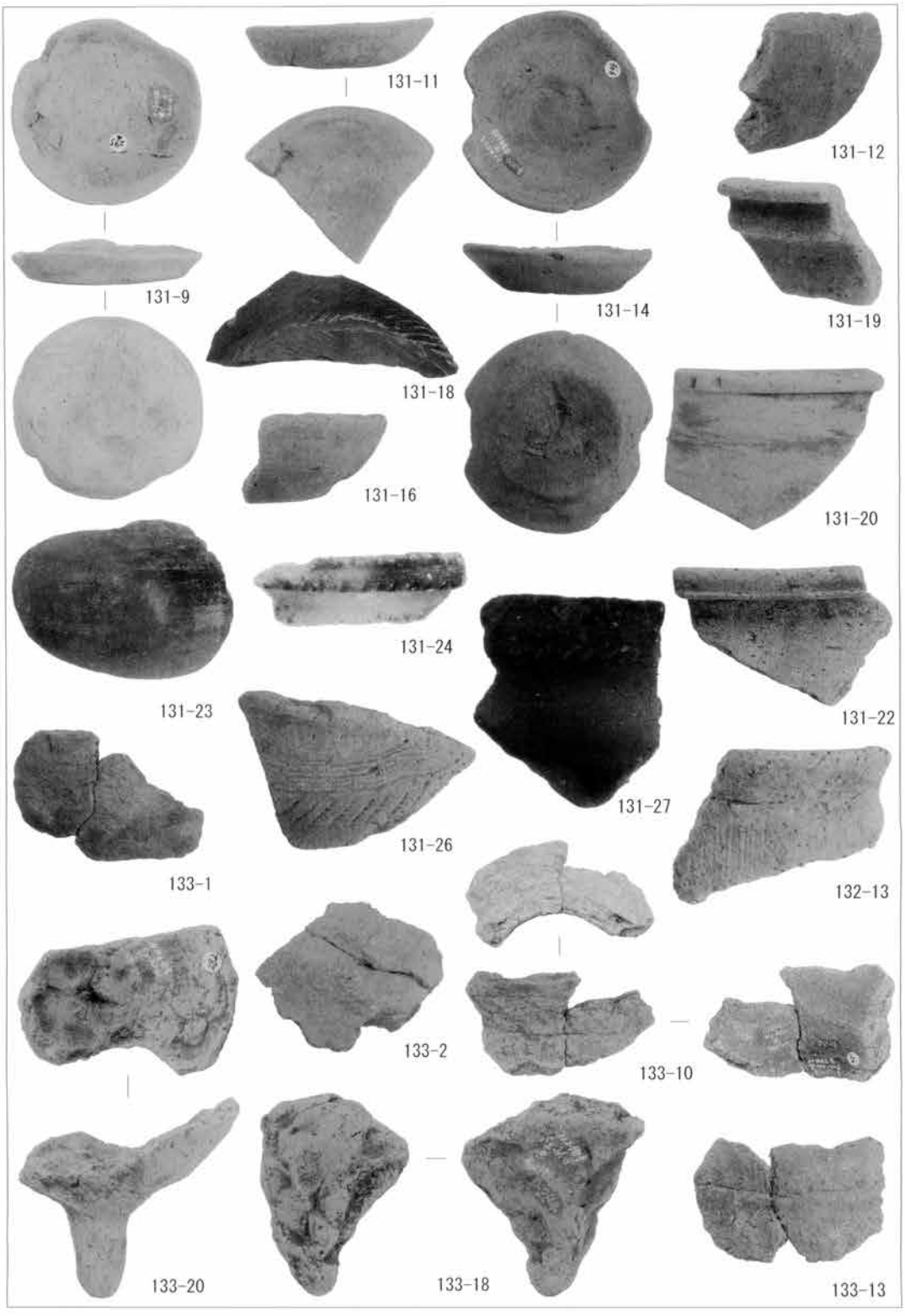

124-1
124-2
124-4
124-6
124-10
124-11
124-14
124-13
125-1
125-3
124-8
125-2
125-4
125-5
125-6
125-7

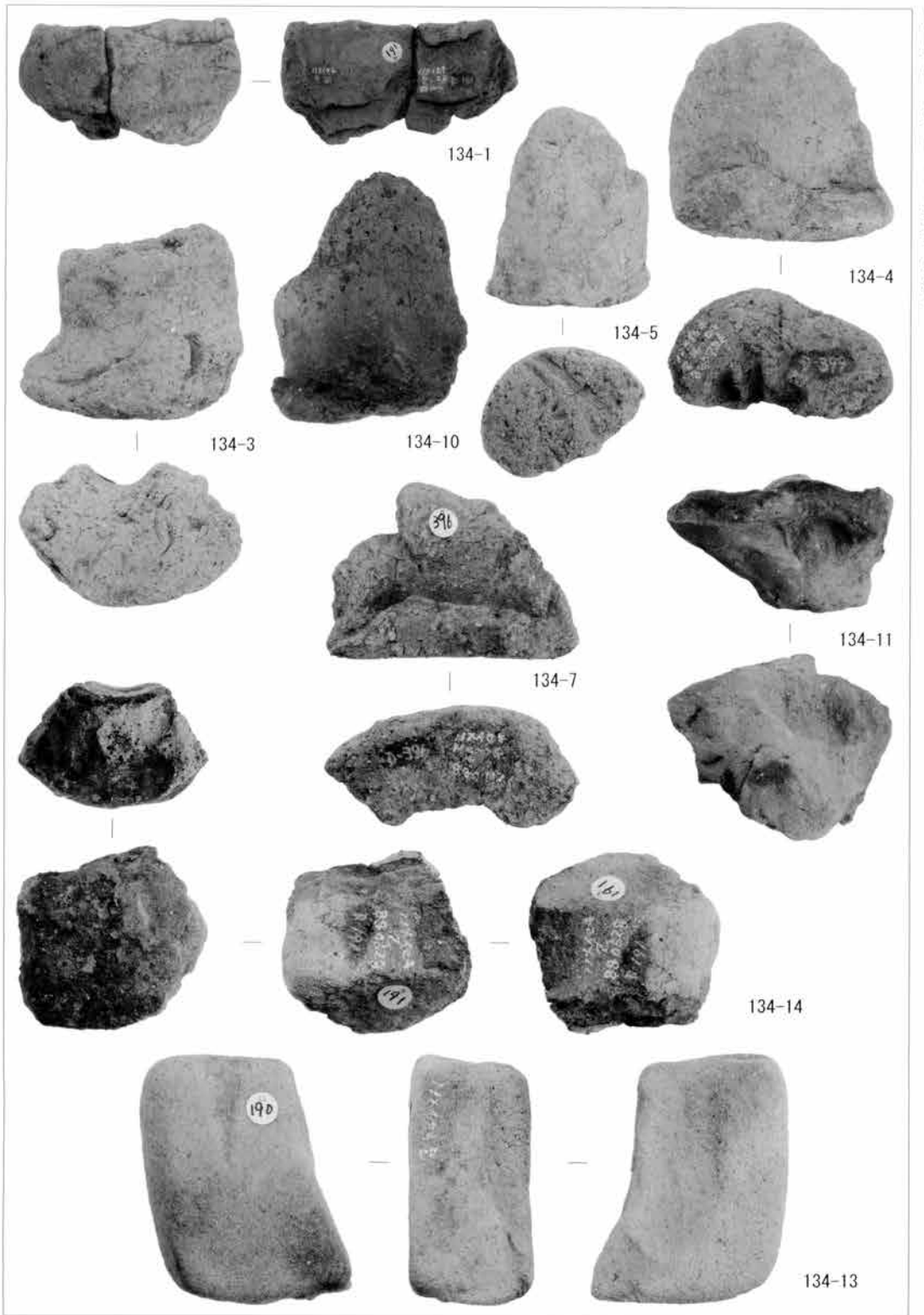

125-8
125-9
126-2
126-1
126-5
126-3
126-4
126-8
127-3
127-1
127-2
127-4
127-10
127-11
127-12


127-13
127-14
127-15
127-16
127-20
127-21
127-17
127-23
127-24
127-22
127-26
127-25
127-27

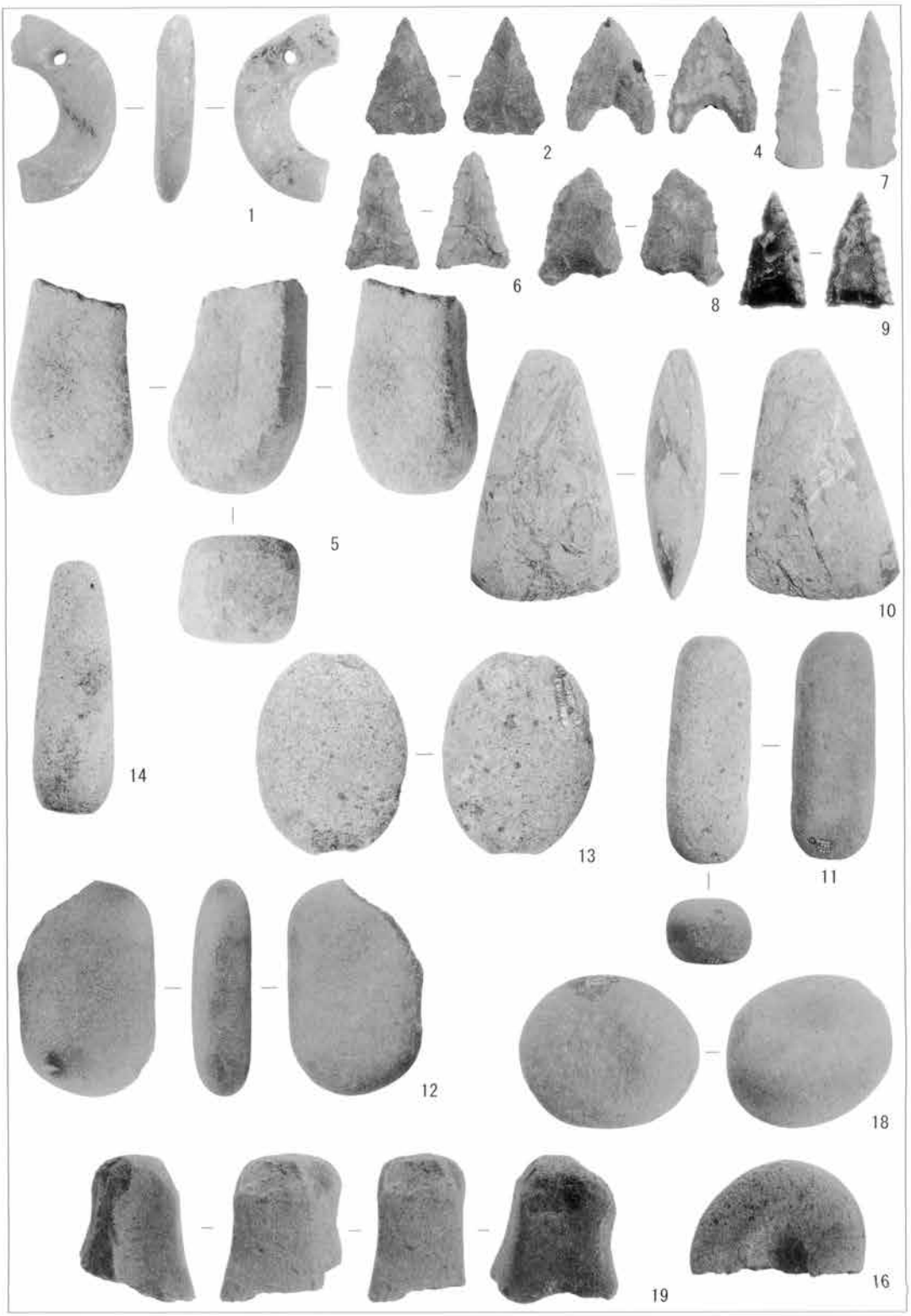

127-28
127-29
127-30
127-31
127-33
128-2
128-3
128-4
128-5
128-7
128-8
128-9
128-10
128-11
128-12
128-13
128-15
129-1
129-2
129-3
129-4
129-7
129-8
129-9
129-10
129-12


130-7
130-1
130-4
130-5
129-11
130-10
130-8
130-9
130-11
130-13
131-8
131-3
131-1
131-5
131-2
131-4
131-7
131-10


131-11
131-12
131-9
131-14
131-19
131-18
131-16
131-20
131-24
131-23
131-22
131-27
131-26
133-1
132-13
133-2
133-10
133-20
133-18
133-13


134-1
134-4
134-5
134-3
134-10
134-11
134-7
134-14
134-13

図版第70 北吉田ノノメ遺跡 遺物16



北吉田遺跡群

発 行 日　平成5年(1993)3月31日
発 行 者　石川県立埋蔵文化財センター